

7. 理学部

- I 理学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・7-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・7-15
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・7-15
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・7-102
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・7-114

I 理学部の教育目的と特徴

1 教育目的

信州大学の基本的な目標として、以下のことが示されている（資料理1）。

本学部の重要なミッションは、自然科学を学ぶことにより論理的な思考方法と深い洞察力を身につけた学生を社会に送り出すことである。本学部の教育目標およびディプロマ・ポリシー（以下、「DP」）、カリキュラム・ポリシー（以下、「CP」）、アドミッション・ポリシー（以下、「AP」）、は以下の通りである。（資料理2～3）

資料理1 信州大学中期目標（抜粋）

（前文）大学の基本的な目標

信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、優れた教育研究を行うことによって、大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。

この理念のもとに、全学の構成員が新たな可能性に挑戦するための将来構想「信州大学ビジョン2015」を策定した。

本学は、この将来構想に基づき、信州の歴史と立地条件を活かした個性豊かな学部が協働し、総合力と相乗効果を発揮させ、世界へ飛翔する「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」の構築を目指し、第二期中期目標期間中において、以下の事柄に重点を置いて取り組む。

（1）未来の社会を展望した有為な人材教育の実践

学生の視点に立ち、高度専門職業人としての専門的知力の修得を支援するとともに、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成する。

（出典：信州大学ホームページ「中期目標・中期計画、各評価結果」）

資料理2 信州大学理学部理念・教育目標（抜粋）

〔理念〕：理学部は知的好奇心探求の場です。理学部では、グリーンサイエンス、すなわち環境に負荷を掛けない持続的発展の可能な社会を支える基盤的な科学・技術の教育・研究とフィールドワークを中心に自然環境の保全についての教育・研究を実践しています。その基本理念は、自然界の多種多様な現象を詳細に検討し、その中に存在する法則性を探求することにあります。

信州大学理学部では、この理学の基本理念と信州大学の理念に基づいて、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成に役立っています。

世界の多様な自然、文化、思想を理解し、受け入れ、共に生きる若者を育てます。

個性を大切にすると共に、専門分野を越えた広い視野と、柔軟な適応性を養います。

研究の成果を人々の幸福に役立て、自然の尊厳を傷つけないように使うことのないよう責任を持ちます。

〔目標〕：信州大学理学部は、理学の基本理念と信州大学の理念に基づき、教育、研究、社会貢献、国際交流において、次の目標を掲げます。

〔教育〕：自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く人材を育てます。それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、幅広い知識と視野、適応性を兼ね備えた、社会に役立つ人材を育てます。信州の優れた自然を体験的に教材として利用し、自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる後継者の育成に努めます。

（以下省略）

（出典：信州大学理学部ホームページ「理念・目標」）

資料理3 DP, CP, AP

信州大学 DP

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

豊かな人間性

- ・みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

理学部 DP

信州大学理学部の理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（理学）」の学位を授与します。

自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く素養。[自然科学の基礎知識]

それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ知識と能力。[各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）]

自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる能力。[自然科学に関する知識の応用]

学科 DP

(数学科)

数学科の理念と目標に則り、以下の能力と見識を十分に培った学生に対して、「学士（理学）」の学位を授与します。

1. 数理科学的な問題ないし自然界の多種多様な現象に対して、常に変わらぬ知的好奇心と探求心を

抱き、理学を継続的に学習してゆかんとする意志力。

2. 数学および自然情報学の専門知識を修得し、かつ、それを応用駆使する修練を十分に積み重ねており、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、培ってきた自身の数理工学的知性に基づく総合的な判断・対処ができる、高度専門職業人としての能力と見識。

3. 数学の文化的基盤を支え、理学の普及に、また、自然との調和が取れた科学の発展に貢献し得る意志力と見識。

(理学科)

理学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「学士(理学)」の学位を授与します。

1. 自然科学を通して、自然を愛し理解するための幅広い知識と理解力。

2. 専門知識に基づく論理的な思考力とともに、分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応性と応用力。

3. 自然との調和を重んじ、科学の発展に貢献できる能力と見識。

理学部 CP

1. 共通教育においては、教養科目と基礎科目を通して幅広い人文・社会科学の教養ならびに国際的なコミュニケーション能力を身につける教育を行います。

2. 専門教育では、学科共通科目である基礎理学科目とグリーンサイエンス科目を通して自然科学の幅広い基礎知識を身につけるとともに、学生自ら選択した学位取得ルートに従い、それぞれの専門分野を中心に基本的な原理を理解し、多様な数理や自然現象についての知識とそれらを解析する実践的な能力と論理的な思考力を養います。

3. 最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行います。

学科 CP

(数学科)

数学科のカリキュラムは、当学科のディプロマ・ポリシーのもと、次の項目を意識して作成されています。

- ・学生の成長に効果的な授業課程
- ・個々の学生に行き届く指導体制
- ・基礎学力の養成
- ・社会人として不可欠な能力の養成

1年次・2年次前期では、豊かな教養を身につけるとともに、数学・自然情報学への入門をはたします。2年生後期以降では、次の2コースの一方を選択し、そのコースの授業課程にしたがって履修します。

数理科学コース：数学における代数系・幾何系・解析系の学習をする。

自然情報学コース：自然科学との有機的関連を意識しながら数理科学の学習をする。

それぞれのコースでは、「標準」「学際」「先進」の3つの教育プログラムが用意され、2年次後期以降に、学生が自らプログラムを選択しそれによって学習をすすめます。

標準プログラムでは、2年次後期・3年次に各コースの基礎的な知識・能力を修得します。4年次では卒業研究を選択し数理科学の専門分野をより深く学ぶこと、または数理科学および関連領域の分野をより広く有機的、総合的に学ぶことが可能です。

学際プログラムでは、4年次に卒業研究を行う代わりに、自ら定めた履修計画に従って複数のコースや理学科の開講科目を履修し、広い視野で数理科学を学びます。

先進プログラムでは、標準プログラムで用意されている授業に加え、専用に用意されているアドバンス科目を履修することにより高度な専門知識とスキルを習得します。本学大学院理工学系研究科進学予定者は、4年次には大学院の授業科目を先取り履修することも可能です。

(理学科)

理学科のカリキュラムは、当学科のディプロマ・ポリシーのもと、次の項目を意識して作成されて

います。

- ・個々の学生のニーズに応じた効果的な授業課程
- ・個々の学生に行き届く指導体制
- ・基礎学力の養成
- ・社会人として不可欠な能力の養成

1年次では主に、豊かな教養を身につけるとともに、自然科学の基礎とグリーンサイエンスの入門を学習します。

2年次以降は「物理学」、「化学」、「地球学」、「生物学」及び「物質循環学」のいずれかのコースに軸足を置きつつ、自ら選択したカリキュラムにしたがって学習します。これを通してそれぞれの専門分野を中心に基本的な原理を理解し、多様な数理や自然現象についての幅広い知識とそれらを解析する実践的な能力と論理的な思考力を養います。

最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行います。

信州大学 AP

(1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- 人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人
- 知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- 多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にする人
- 社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

(2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に合った適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

理学部 AP

信州大学理学部は、学部の基本理念・教育目標に基づき、次のような意欲を持った学生を求めています。

- 自らの目標を定め、積極的に学ぼうと努力する人
- 自然を愛し、自然との共生を実践しようとする人
- 自然界の多種多様な現象に対する知的好奇心や探究心が旺盛な人
- 専門分野を越えた広くかつ長期的な視野で、人類社会に貢献したいと考える人
- 大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民で学習したことを身に付けている人

学科 AP

(数学科)

数学科では、数学の好きな人、数学の得意な人、数理的な能力を伸ばしたい人、数学や関連分野に強い関心を持つ人、数理的な思考の方法を磨きたい人の入学を歓迎します。

(理学科)

理学科では、自然科学の好きな人、自然科学の得意な人、科学的な能力を伸ばしたい人、自然科学や関連分野に強い関心を持つ人、科学的な思考の方法を磨きたい人の入学を歓迎します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学アドミッション・ポリシー」
信州大学理学部ホームページ「理学部について」)

2 組織の特徴や特色

本学は、8学部で構成され県内5キャンパスに分散しており、本学部は、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）とともに松本キャンパスにあり、4年一貫教育を行っている。（資料理4～6）

本学部は他大学に比べて地理的条件からくる特質をいくつかもっており、信州の地の利を生かしたフィールドワーク関連の施設これらの施設を含めたフィールドを活用した実験、実習を展開している。（資料理7）

これらの特質を活かし、グリーンサイエンスの考え方にに基づき、教育、研究、社会貢献に取り組んでいる。

資料理4 キャンパス配置図



(出典：信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料理5 全学教育機構の概要

全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

（出典：信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」）

資料理6 信州大学全学教育機構規程

（目的）

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

（全学協力体制等）

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

（出典：信州大学規程集）

資料理7 フィールドワークの利点と関連施設

<利点>

- ・自然に近く接することによって真理を探究する姿勢と意欲を涵養できるため、数学、物理、化学などの基盤的科学の推進に適している。
- ・豊富な自然にめぐまれ山岳や陸水・雪氷、動植物の教育研究や宇宙線等の観測に最適である。

施設名称	所在地（市町村） ※すべて長野県
山岳科学研究所山地水環境教育研究センター	諏訪市
山岳科学研究所木崎湖観測所	大町市
山岳科学研究所上高地ステーション	松本市
山岳科学研究所菅平ステーション	上田市
山岳科学研究所乗鞍高原ステーション	松本市
宇宙線地下観測所	長野市、安曇野市

（出典：理学部事務部作成、「大学概要2015」）

3 カリキュラムの特徴・特色

3-1 カリキュラム改正と専門科目の特徴

本学部は平成27年度に改組を行い、6学科を2学科7コース制とした。各コースに3つのプログラムを置き、学生は希望にあわせて1つのプログラムを選ぶことができる。また、新カリキュラムでは、学生のニーズに応じてコースを越えて履修科目を自由にカスタマイズすることができる。カリキュラムの中心に学部共通科目としてグリーンサイエンス

科目（うち 12 単位必修）を設置しており、理学部生として不可欠な自然科学における幅広い基礎知識と応用力を養成する。（資料理 8）

資料理 8 改組前後の教育組織図・改組のポイント

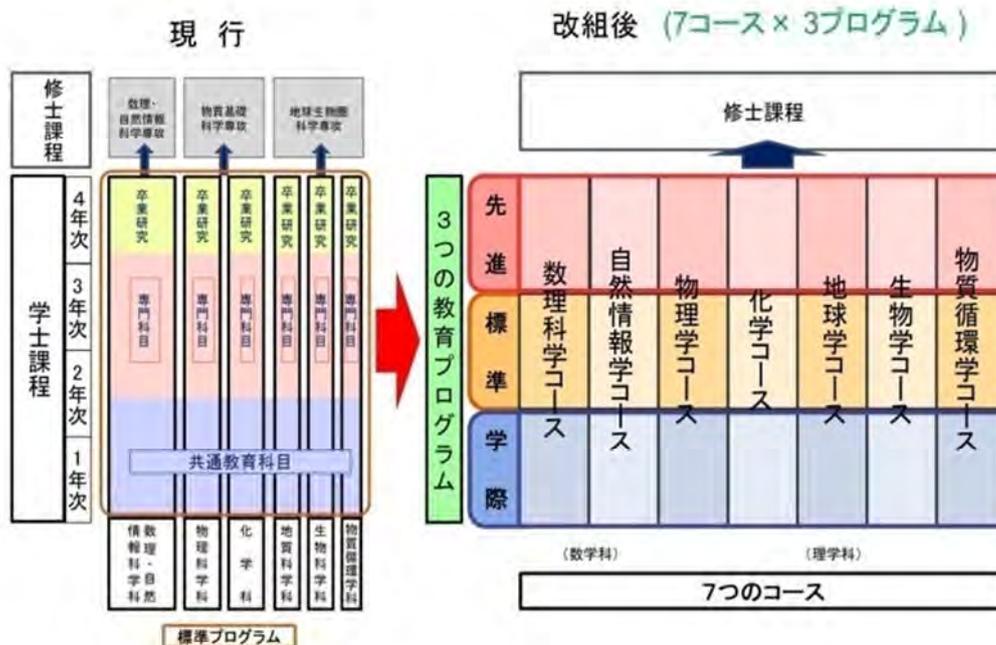
○授業科目を体系化した 7 つのコース〈専門性〉

- 〔数学科〕 ①数理科学コース
- ②自然情報学コース
- 〔理学科〕 ③物理学コース
- ④化学コース
- ⑤地球学コース
- ⑥生物学コース
- ⑦物質循環学コース

○学生のニーズに応じた 3 つのプログラム〈理学力の質〉

- ①標準プログラム…専門性の確保を主目的にした、標準的な教育プログラム
- ②先進プログラム…高度な専門知識とスキル修得と大学院修士課程までの 6 年一貫履修を目指す。より能動的学習意欲を持つ学生のためのプログラム。標準プログラムに加えて、アドバンス科目と大学院先取り科目を履修し、専門分野でのより深い知識に裏付けられた研究力と課題解決能力を身につける。
- ③学際プログラム…未知なる問題に対する解決能力をより醸成するために、自ら選んだ特定課題に対し分野を超えた幅広い知識とスキルを修得することを目指す学生のためのプログラム

信州大学理学部（教育課程移行図）



改組のポイント

授業科目を体系化した7つのコース

- ・従来の学科を廃止し、授業科目を体系化した7つのコースを設定する。学生は軸となるいずれかのコースを選択し、理学の専門性を身につける。
- ・学生の希望を考慮し、従来の転学科に相当する配属が容易になる。

学生のニーズに応じた3つの教育プログラム

- ・先進、標準および学際的の3つの教育プログラムを設定し、学生は学びたい対象や目指す進路に応じて履修方法を考えて選択する。

学生が主人公となり、21通りの基本ルートからカリキュラムをカスタマイズ

- ・学生は学位取得のための基本ルートとしての21通り(7コース×3プログラム)から組み合わせて個々のニーズに対応したカリキュラムをカスタマイズする。21通りの教育を通して理学力の質(深さと幅)を選択できるようにする。

能動的・意欲的な学生に様々な教育・研究ができる場を提供

- ・意欲的な学生に対して、より広く、深く学べるプログラムを準備する。
- ・4年次には、大学院修士課程の授業科目を先取り履修することも可能である。
- ・6年一貫教育による研究者、高度専門職業人、専修免許保持教員を育成する。
- ・先鋭領域融合研究群で実施されている最先端の科学に触れる機会も可能となり、教育・研究活動がより一層充実する。
- ・TOEICの全員受験を活用した英語教育によるグローバル教育を実施する。

学問分野を越えた対応能力を持つ人材の育成

- ・グリーンサイエンス科目を設け、理学分野の専門基礎を幅広く学修する。
- ・学術研究院が設置されたことにより、従来の理学部教員以外の教員も理学部教育に柔軟に関わることが可能となる。学生のニーズに応じた教育がより一層充実する。

(出典：理学部事務局作成、信州大学理学部の改組について(概要)より抜粋)

3-2 共通教育

本学は、主に1年次が受講する共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。

(資料理9～11)

資料理9 信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

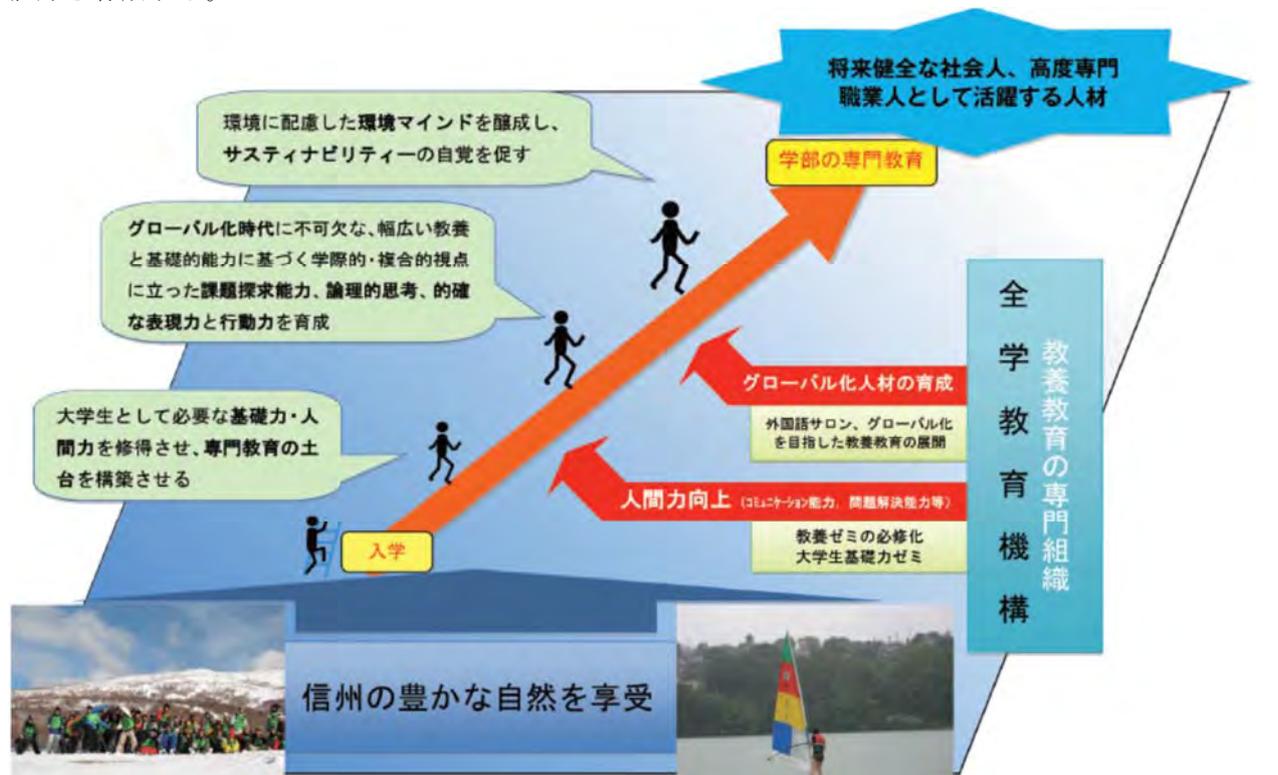
(出典：信州大学規程集)

資料理 10 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立った課題探求能力、論理的思考、的確な表現力と行動力を育成

大学生として必要な基礎力・人間力を修得させ、専門教育の土台を構築させる



(出典:冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料理 11 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

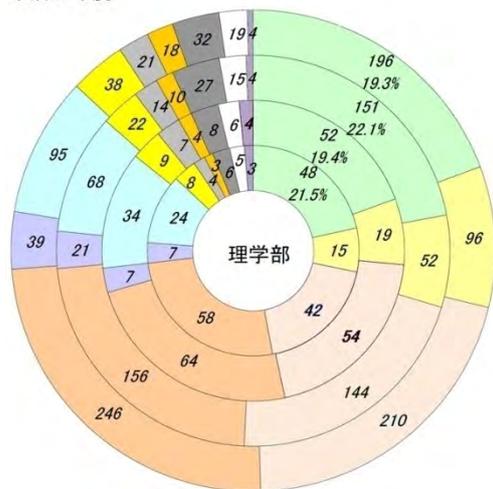
(出典：経営企画課作成)

4 入学者の状況

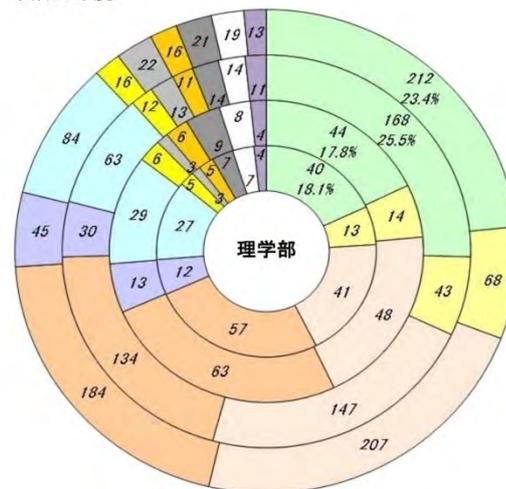
本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下の通りである。(資料理 12)

資料理 12 理学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

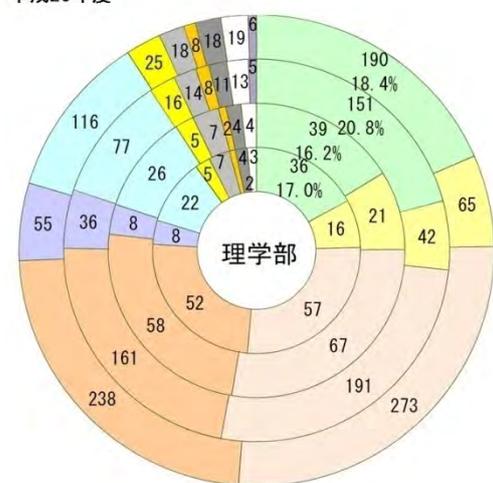
平成21年度



平成23年度



平成26年度



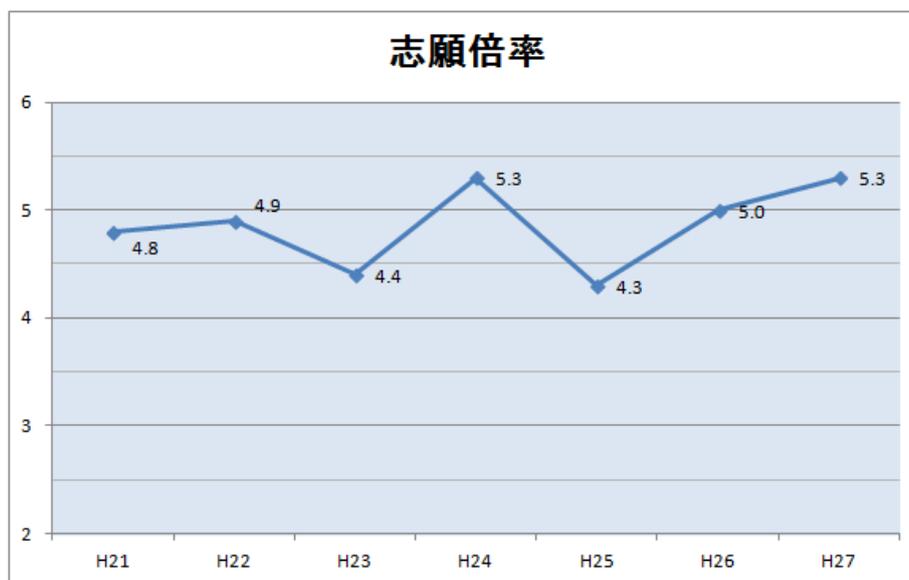
凡例

- 最外周：志願者
 - 第2周：受験者
 - 第3周：合格者
 - 最内周：入学者
- 長野
 - 甲越
 - 関東
 - 東海
 - 北陸
 - 近畿
 - 東北
 - 中国
 - 四国
 - 九州・沖縄
 - 北海道
 - その他

(出典：経営企画課作成)

本学部の志願倍率（一般入試）は以下の通りである。（資料理 13）

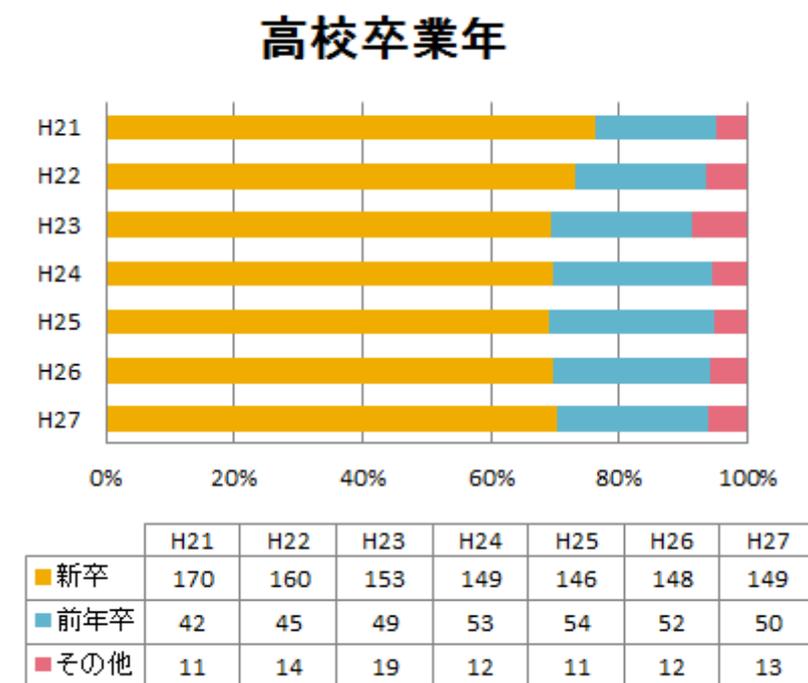
資料理 13 志願倍率



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合は以下の通りである。(資料理 14)

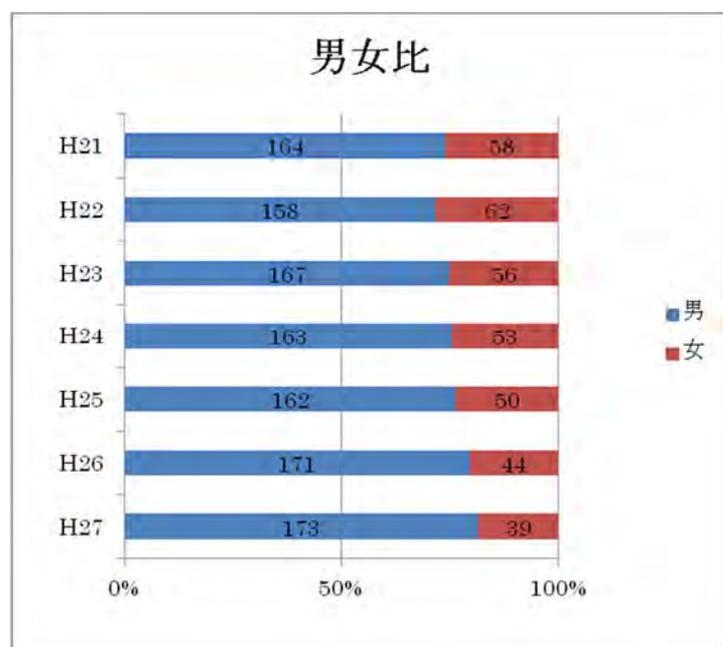
資料理 14 理学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める男女比の割合は以下の通りである。(資料理 15)

資料理 15 入学者に占める男女比の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部のアドミッションポリシー（前掲資料理 3、p3）に基づいた選抜方法によって学生を受け入れている。（資料理 16～17）

資料理 16 平成 27 年度選抜方法募集人員

学部	学 科	コ ー ス	入学定員	募 集 人 員						
				一般入試		AO入試	推薦Ⅰ センター 入試を 課さない	推薦Ⅱ センター 入試を 課す	帰国 子女	私費 外国人 留学生
				前期日程	後期日程					
理学部	数学科	数理科学コース	54	24	27	3	-	-	若干	若干
		自然情報学コース								
		小計		24	27	3	-	-		
	理学科	物理学コース	151	20	9	-	-	5	若干	若干
		化学コース		15	14	-	5	若干	若干	
		地球学コース		10	15	4	-	若干	若干	
		生物学コース		15	14	-	-	若干	若干	
		物質循環学コース		10	10	-	5	若干	若干	
		小計		70	62	4	10	5		
		計		205	94	89	7	10	5	

(出典：理学部事務部作成)

資料理 17 平成 27 年度入学試験科目一覧

入試区分	学科・コース	出題科目名等	センター試験	
一般入試(前期日程)	数学科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B)	課す	
	理学科	物理学コース		理科(物理基礎・物理)
		化学コース		理科(化学基礎・化学)
		地球学コース		面接(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物又は地学基礎・地学から1科目を選択し、選択した科目の範囲を含む口頭試験)
		生物学コース		面接(生物基礎・生物の範囲を含む口頭試験)
		物質循環学コース		小論文
一般入試(後期日程)	数学科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) 数学(数学Ⅲ) 理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、 「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」か ら一つ選択)	課す	
	理学科	物理学コース		個別学力検査等を行わない。
		化学コース		数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)
		地球学コース		数学(数学Ⅲ)、理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、 「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」) から二つ選択
		生物学コース		数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) 理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、

		物質循環学コース	「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」から二つ選択)	
AO入試	数学科		面接の基本的な資料とするための筆記課題 個別の面接	課さない
	理学科	地球学コース	面接の基本的な資料とするための実地試験 個別の面接	課す
推薦入試	理学科	物理学コース	面接(口頭試問を含む)	課す
		化学コース	面接の参考とするための基礎学力テスト 面接	課さない
		物質循環学コース	面接	課さない

(出典：平成27年度信州大学学生募集要項より抜粋)

[想定する関係者とその期待]

在学生・受験生・それらの保護者

在学生は、理学部の教育目的に照らし、広い学問的素養と理学の基礎を修得した上で各コースの専門性を培うことができることを期待している。

教育サポートとしては、クラス担任によるきめ細かい指導や、長期欠席時の本人・保護者への連絡・面談などに期待を寄せている。また授業の中味についても、教員による不断の改善努力を期待している。さらに、教職・学芸員資格取得のためのカリキュラムやキャリア教育、理数系教員養成などの充実したサポート体制についても期待を寄せている。

卒業生

卒業生からの期待として、「専門分野の理論を深く教育する」、「専門に拘らない、幅広い教養教育を実施する」、および「語学教育に力を入れる」などが挙げられる。また、「学生のカウンセリング、学生の学修支援、経済支援を充実すること」、「地域への貢献」、「社会での存在意義のアピール」も挙げられる。

卒業生の雇用者

企業や官庁等、卒業生の就職先は、職務遂行のための能力（問題を発見し仮説を立てて検証する能力、情報を収集し整理する能力、ものごとを分析する能力、わかりやすく話す／文章を作成する能力）を期待している。

進学先の大学院関係者、学生の研究関連学会や関係機関

論理的思考力と理学の基礎知識や専門的な技量を培った教育が行われていることを期待している。

地域社会・自治体

論理的思考力を身につけ、自然科学の基礎的な素養を着実に習得した人材及びこれらを習得した理数系教員の輩出を期待している。また、地域社会への生涯学習の提供や研究内容の開放を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教員組織および教育体制の刷新とその効果

① 学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料理 18) また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している。

資料理 18 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

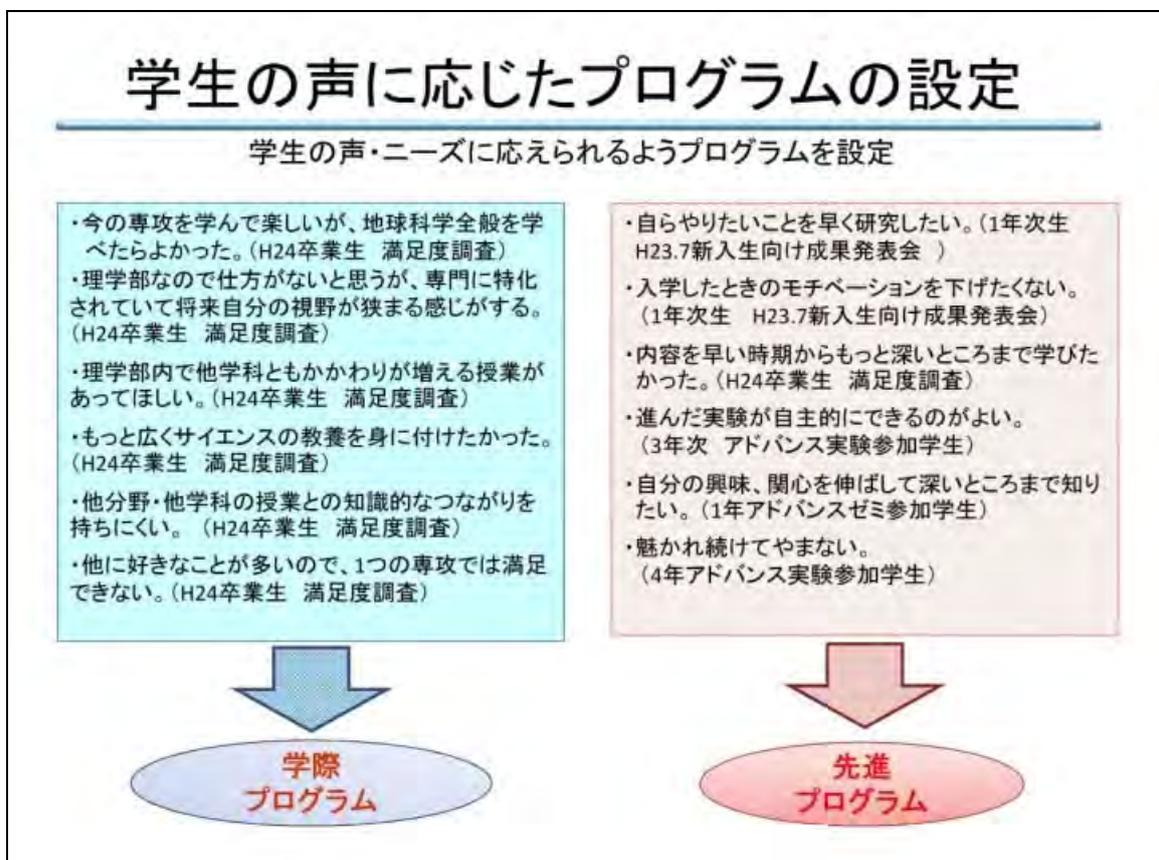
これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

②学部の構成

平成 27 年度の改組により、個別性の高い理学部の学問分野の専門性を確保しつつ、互いに関連の深い理学分野を広く学ぶこともできることとした。(前掲資料理 8、p 8、資料理 19)

資料理 19 学生の声に応じたプログラムの設定



(出典：信州大学理学部の改組について (概要) より抜粋)

本学部の教育体制は次のとおりである。(資料理 20～21)

資料理 20 担当教員配置表

(平成 27 年 4 月在籍 教授，准教授，講師，助教)

学科	コース	大学設置基準上の必要教員数	理学部の所属教員数 ()内は教授	教授		准教授		講師		助教		計		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計
数学科	数理科学	8名かつ教授 4名以上	15名 (6名)	6	0	1	0	1	0	3	0	11	0	11
	自然情報学			0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	4
理学科	物理学	8名かつ教授 4名以上	48名 (25名)	7	0	4	1	0	0	0	0	11	1	12
	化学			5	0	3	0	0	0	2	1	10	1	11

	地球学			5	0	2	1	0	0	1	0	8	1	9
	生物学			4	0	4	0	0	0	0	0	8	0	8
	物質循環学			4	0	2	1	0	0	1	0	7	1	8
	合計			31	0	20	3	1	0	7	1	59	4	63

(出典：理学部事務部作成)

資料理 21 研究分野一覧

(平成 27 年 4 月在籍 教授, 准教授, 講師, 助教)

学科等	職位	職位	氏名	研究分野, キーワード, テーマ
数学科	数理科学	教授	花木 章秀	代数学, アソシエーション・スキームの表現と指標
		講師	沼田 泰英	代数学, 数え上げ組合せ論
		助教	和田 堅太郎	代数学, 表現論, ヘッケ環, 量子群, 組み合わせ論
		教授	栗林 勝彦	幾何学, トポロジー, 空間の代数的模型
		教授	玉木 大	幾何学, ホモトピー, 高次ループ空間の構造とその応用
		准教授	五味 清紀	幾何学, Gerbe を使った場の理論の量子化
		助教	境 圭一	位相幾何学, 埋め込みの空間のトポロジー
		教授	一ノ瀬 弥	偏微分方程式論, 数理物理学, Feynman 経路積分の数学的定式化
	自然情報学	教授	高木 啓行	関数解析学, 関数空間上の荷重合成作用素の研究
		教授	谷内 靖	偏微分方程式, 流体方程式, 非圧縮性流体の解析
		助教	筒井 容平	実解析学と実解析視点からの偏微分方程式の研究
		准教授	中山 一昭	非線形物理学, 渦の可積分性
		准教授	乙部 厳己	解析学基礎, マリアヴァン解析, 無限次元空間上の発散定理
		准教授	謝 賓	数理系科学, 伊藤解析, 確率偏微分方程式
理学科	物理学	准教授	佐々木 格	解析学基礎, 数理物理と場の量子論
		教授	宗像 一起	宇宙線物理学, 宇宙天気, 「宇宙線風」の観測による宇宙空間の研究
		教授	竹下 徹	素粒子物理学実験, 宇宙開闢のなぞを加速器で解き明かす
		教授	小竹 悟	素粒子理論, 数理物理学, 対称性
		教授	川村 嘉春	素粒子, 場の量子論, 余剰次元と超弦理論に関する物理
		准教授	加藤 千尋	宇宙線の観測実験, 数値実験
		准教授	長谷川 庸司	ヒッグス粒子, 加速器を用いた高エネルギー物理学実験
		准教授	奥山 和美	超弦理論, 場の理論, 一般相対性理論と量子力学
		教授	武田 三男	強誘電体, 光物性, フラクタル, 物質による電磁波の制御
		教授	天児 寧	金属物性・材料, 磁性がからむ新機能材料(合金)についての基礎研究
		教授	樋口 雅彦	物性物理学, 量子力学, 第一原理計算手法の開発
		准教授	中島 美帆	超電導, 希土類およびウラン化合物の高圧下物性
	准教授	志水 久	エントロピー, 計算機シミュレーションによる相転移の解明	
	化学	教授	樋上 照男	電気分析学, レーザーを用いる電気化学測定法の研究
		教授	金 継業	超音波による新しい反応場の形成と分析化学への応用
		教授	大木 寛	無機化学, 固体の結晶構造と分子の運動
		准教授	石川 厚	無機物理化学(分子運動, イオン交換), 同位体科学, 原子核と化学
		助教	竹内 あかり	無機化学, 生体医工学・生体材料学, セラミックス
		教授	尾関 寿美男	物理化学, 磁場の中での物づくりと物の性質や生命への磁場の影響
		教授	小田 晃規	精密有機合成, π -電子系共役化合物の合成および機能性に関する研究
准教授		太田 哲	構造有機化学, 有機機能化学, 酸化還元応答性有機分子の開発	
助教	浜崎 亜富	コロイド・界面, 光化学, 強磁場中での物質の挙動と生態系への影響		

信州大学理学部 分析項目 I

		助教	庄子 卓	有機化学, 新規芳香族化合物の合成・反応と物理化学的性質に関する研究
		准教授	巽 広輔	電気分析化学, 液液界面, 電気化学測定法にもとづく生体関連反応の解析
	地球学	教授	保柳 康一	堆積地質学 (堆積相解析, シーケンス層序学, 古環境解析), 地球環境変遷
		准教授	吉田 孝紀	地層科学, 地質学 (層序学, 堆積学, 堆積岩岩石学)
		准教授	山田 桂	層位・古生物学, 古環境復元, 微化石
		助教	常盤 哲也	構造地質, 応用地質, 付加体
		教授	三宅 康幸	固体地球惑星物理学, 火山現象
		教授	原山 智	火成岩岩石学 (珪長質マグマ岩石学, 火成活動史, 造山論)
		教授	森清 壽郎	岩石・鉱物・鉱床学, 地球化学, ノジュール
		教授	牧野 州明	鉱物学, アルカリ長石の組織
		准教授	斎藤 武士	火山学, 磁気岩石学的手法による磁性鉱物の結晶化と火山噴火プロセスの研究
		生物学	教授	佐藤 利幸
	教授		市野 隆雄	生物間相互作用の進化生態学, 共進化
	教授		浅見 崇比呂	生態・環境, 進化生物学, 左右性, 種形成のメカニズム
	准教授		高橋 耕一	植物生態学, 森林生態系における多種共存機構, 外来植物の動態
	准教授		東城 幸治	進化生物学, 生物多様性・分類, 発生生物学
	教授		久保 浩義	植物分子生物学, 植物生理学, 植物の色素合成を調節しているしくみの解明
	准教授		高田 啓介	生物多様性・分類, 動物生態学, 淡水魚類の種分化と絶滅プロセスの解明
	物質循環学	准教授	柴田 直樹	発生学 (生殖生物学), メダカを用いた生殖生物学
		教授	戸田 任重	陸水学, 集水域における物質 (特に窒素) 循環に関する研究
		教授	朴 虎東	環境毒性学 (生態毒性学), アオコの発生機構, アオコ毒素
		准教授	島野 光司	生態, 環境保全, 自然地理学, 植生
		准教授	國頭 恭	植物栄養学・土壌学, 環境動態解析
		教授	公文 富士夫	地質学, 古気候学, 湖沼堆積学, 砂岩岩石学, 気候変動
		教授	鈴木 啓助	気象・海洋物理・陸水学, 環境動態解析, 山岳地域における環境変動, 雪
		准教授	村越 直美	堆積学, 堆積物, 堆積環境, 碎屑物循環
		助教	岩田 拓記	大気-地表面間のエネルギー・物質交換, 乱流輸送の観測技術
学術研究院理工学域理学系		助教	山本 雅道	陸水生物学, 魚類生態, 溪流魚, 外来魚, 水生昆虫
環境・エネルギー材料科学研究所		准教授	宮丸 文章	未踏破電磁波領域, フォトニック結晶による面白い光学特性に関する研究
		准教授	飯山 拓	ナノスペース, X線と吸着測定による微小空間中の分子集団構造の解明
		助教	高橋 史樹	微量薬物成分分析のための濃縮分離・検出技術の創出に関する基礎研究
山岳科学研究所		教授	花里 孝幸	陸水生態学 (プランクトン生態学), 生態毒性学, バイオマニピュレーション, ミジンコ
		准教授	宮原 裕一	環境影響評価, 環境政策・環境社会システム, 河川調査
		助教	朝日 克彦	地理学, 環境動態解析, 中部山岳の雪氷圏変動
全学教育機構		助教	高梨 功次郎	植物-微生物共生系の包括的解明, 植物二次代謝産物の代謝と輸送
		教授	大塚 勉	層位・古生物学, 山地の活断層の研究
		准教授	伊藤 靖夫	分子遺伝学, 遺伝的形質転換の分子機構
		准教授	今津 道夫	植物病理学, 菌学, 樹病学, さび菌類の分類と生態に関する研究
		講師	三澤 透	天文学, クェーサー吸収線, 活動銀河核, 宇宙の化学進化

(出典: 理学部事務部作成)

必修科目は専任教員が原則的に担当し、選択科目は必要に応じて非常勤講師が担当している (資料理 22~23)。

資料理 22：平成 27 年度科目開講状況（専任教員担当教科）

< 数学科 >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学 I	沼田 泰英	1	前期	月 3	2
線形代数学 II	玉木 大	1	後期	月 3	2
微分積分学 I	高木 啓行	1	前期	木 3	2
微分積分学 II	高木 啓行	1	後期	木 3	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論 I	宗像 一起	1, 2	前期	金 2	2
物理学概論 II	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論 I	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2
化学概論 II	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
生物学概論 I	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論 II	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論 I	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論 I	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論 II	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
化学実験	石川 厚 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	金 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
代数入門	花木 章秀	2	前期	月 1	2
代数入門演習	花木 章秀	2	前期	月 2	2
環論	和田 堅太郎	3	前期	月 3	2
線形代数学演習 I	沼田 泰英	1	前期	月 4	1
環論演習	和田 堅太郎	3, 4	前期	月 4	2
微分積分学特論 I	謝 賓	1	前期	火 1	2
熱・波動方程式論	佐々木 格	3, 4	前期	火 1	2
自然情報学基礎講義	謝 賓	3, 4	前期	火 2	2
自然情報科学特別講義Ⅲ（生保数理）	植田 和孝	3, 4	前期	火 3, 4	2
自然情報科学特別講義Ⅳ（年金数理）	鎌田 史男	3, 4	前期	火 3, 4	2
トポロジー	五味 清紀	3	前期	水 1	2
代数学特別講義Ⅲ	沼田 泰英	3, 4	前期	水 3	2
幾何学特別講義Ⅲ	五味 清紀	3, 4	前期	水 2	2
関数論 I	谷内 靖	2	前期	水 3, 4	4
幾何学特別講義Ⅳ	玉木 大	3, 4	前期	水 4	2
微分積分学詳論Ⅲ	乙部 巖己	2, 3, 4	前期	木 1	2
情報科学演習	佐々木 格 他	1	前期	木 2	2
線形代数学続論	五味 清紀	3, 4	前期	木 3	2
微分積分学演習 I	高木 啓行	1	前期	木 4	1
電磁気論	中山 一昭	3, 4	前期	木 4	2
実解析学演習	一ノ瀬 弥	3, 4	前期	金 1	2
情報処理 I	佐々木 格	2, 3, 4	前期	金 2	2

実解析学 I	一ノ瀬 弥	3	前期	金 2	2
数理モデル論	乙部 徹己	3, 4	前期	金 3	2
幾何入門	栗林 勝彦	2	前期	金 3, 4	4
解析学特別講義 II	一ノ瀬 弥	3, 4	前期	集中	2
自然情報科学特別講義 V (損保数理)	本多 正憲	3, 4	前期	集中	2
数理統計学	乙部 徹己	2, 3, 4	後期	金 2	2
解析学特別講義 I	一ノ瀬 弥	3, 4	後期	月 1	2
実解析学 II	一ノ瀬 弥	3	後期	月 2	2
線形代数学演習 II	玉木 大	1	後期	月 4	1
情報科学概論	乙部 徹己	3, 4	後期	水 1	2
群論	沼田 泰英	2	後期	火 2	2
群論演習	沼田 泰英	2	後期	火 2	2
微分積分学詳論 II	謝 賓	1	後期	火 3	2
変分法・解析力学	佐々木 格	3, 4	後期	火 3	2
集合論	玉木 大	1	後期	水 1	2
関数解析学	筒井 容平	3, 4	後期	水 2	2
代数学特別講義 IV	花木 章秀	3, 4	後期	水 3	2
代数学特別講義 VII	花木 章秀	3, 4	後期	水 4	2
関数論 II	谷内 靖	2	後期	水 3, 4	4
多様体論	五味 清紀	3	後期	木 1	2
微分方程式と力学	中山 一昭	2, 3, 4	後期	木 1	2
微分方程式と力学演習	中山 一昭	2, 3, 4	後期	木 2	2
幾何学特別講義 VI	境 圭一	3, 4	後期	木 2	2
微分積分学演習 II	高木 啓行	1	後期	木 4	1
体論	花木 章秀	3	後期	木 4	2
確率論	謝 賓	3, 4	後期	金 3	2
位相空間論	栗林 勝彦	2	後期	金 3	2
位相空間論演習	栗林 勝彦	2	後期	金 4	2
卒業研究	数理・自然情報 科学科全教員	4	通年	不定期	12
アドバンスゼミ	栗林 勝彦	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 I	栗林 勝彦	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 II	栗林 勝彦	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 III	栗林 勝彦	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 IV	栗林 勝彦	3	後期	不定期	1
数理実務体験実習	谷内 靖	3	通年	集中	1

<理学科：物理学コース>

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学 I	栗林 勝彦	1	前期	木 3	2
線形代数学 II	五味 清紀	1	後期	水 1	2
微分積分学 I	中山 一昭	1	前期	金 3	2
微分積分学 II	謝 賓	1	後期	金 4	2
化学概論 I	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2

化学概論Ⅱ	小田 晃規	1, 2	後期	火 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	水 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
量子物性Ⅱ	樋口 雅彦	3, 4	前期	月 1	2
物理学演習Ⅲ	加藤 千尋	2	前期	月 2	2
物理学演習Ⅰ	宗像 一起 他	1	前期	月 3	2
量子力学Ⅲ	川村 嘉春	3	前期	月 3	2
量子力学Ⅰ	川村 嘉春	2	前期	月 4	2
宇宙物理学	宗像 一起 他	3, 4	前期	月 4	2
電磁気学Ⅲ	武田 三男	3	前期	火 1	2
物理学演習Ⅳ	奥山 和美	2	前期	火 2	2
物性序論Ⅰ	樋口 雅彦	3	前期	火 2	2
物理学演習Ⅶ	中田 陽介	3	前期	火 3	2
物理数学Ⅱ	小竹 悟	2	前期	水 1	2
物理学実験Ⅱ	宮丸 文章 他	2	前期	水 3, 4	2
物理学実験Ⅲ a	中島 美帆 他	3	前期	水 3, 4 金 3, 4	4
物理学実験Ⅲ b	加藤 千尋 他	3	前期	水 3, 4 金 3, 4	4
力学Ⅲ	小竹 悟	2	前期	木 1	2
物理実験学	竹下 徹	1	前期	木 2	2
物理学演習Ⅷ	志水 久	3	前期	木 2	2
力学Ⅰ	宗像 一起	1	前期	木 4	2
応用電磁気学Ⅱ	長谷川 庸司	2, 3, 4	前期	木 4	2
情報科学演習	竹下 徹	1	前期	金 1	2
統計力学Ⅰ	志水 久	3	前期	金 1	2
電磁気学Ⅰ	天児 寧	2	前期	金 2	2
相対性理論Ⅰ	奥山 和美	1	前期	金 4	2
物理学演習Ⅳ	志水 久	2	後期	月 1	2
熱力学	志水 久	2	後期	月 2	2
物理学演習Ⅱ	宗像 一起 他	1	後期	月 3	2
応用電磁気学Ⅰ	竹下 徹	2, 3, 4	後期	月 4	2
物性序論Ⅱ	樋口 雅彦	3	後期	火 1	2
物理学演習Ⅸ	志水 久	3	後期	火 3	2
物理数学Ⅲ	小竹 悟	2	後期	水 1	2
物理学実験Ⅰ	宮丸 文章 他	1	後期	水 3, 4	2
物理学実験Ⅲ a	中島 美帆 他	3	後期	水 3, 4 金 3, 4	4
物理学実験Ⅲ b	加藤 千尋 他	3	後期	水 3, 4 金 3, 4	4

量子力学Ⅱ	川村 嘉春	2	後期	木 1	2
相対性理論Ⅱ	奥山 和美	3, 4	後期	木 1	2
力学Ⅱ	宗像 一起	1	後期	木 2	2
個体物性Ⅰ	天児 寧	3, 4	後期	木 2	2
物理学演習Ⅴ	長谷川 庸司	2	後期	木 3	2
素粒子物理学	川村 嘉春	3, 4	後期	木 3	2
計算物理学	竹下 徹	2	後期	木 4	2
物理学最前線	物理科学科全教員	3	後期	木 4	2
物理数学Ⅰ	小竹 悟	1	後期	金 1	2
統計力学Ⅱ	樋口 雅彦	3	後期	金 1	2
電磁気学Ⅱ	天児 寧	2	後期	金 2	2
卒業研究	物理科学科全教員	4	通年	不定期	12
物理学特別セミナー	物理科学科全教員	4	通年	不定期	4
物理学特別研究	物理科学科全教員	4	通年	不定期	8
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	小竹 悟	1	後期	火 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	奥山 和美	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	奥山 和美	3	後期	不定期	1
社会体験実習	志水 久	3	通年	集中	2

<理学科：化学コース>

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学Ⅰ	栗林 勝彦	1	前期	木 3	2
線形代数学Ⅱ	五味 清紀	1	後期	水 1	2
微分積分学Ⅰ	中山 一昭	1	前期	金 3	2
微分積分学Ⅱ	謝 賓	1	後期	金 4	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	月 4	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	市野 隆雄	1, 2	後期	金 3	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅱ	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論Ⅲ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	金 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	前期	火 3, 4	2
物理化学Ⅰ	尾関 寿美男	2	前期	月 1	2
物理化学特論Ⅰ	尾関 寿美男	3	前期	月 2	2

基礎分析化学	金 継業	1	前期	月 3	2
基礎有機化学	小田 晃規	1	前期	火 1	2
分析化学演習Ⅱ	巽 広輔	3	前期	火 1	1
化学分析学	巽 広輔	2	前期	火 2	2
無機化学Ⅰ	竹内 あかり	2	前期	水 1	2
有機化学特論Ⅱ	太田 哲	3	前期	水 1	2
固体化学	大木 寛	3	前期	水 2	2
物理化学Ⅲ	飯山 拓	3	前期	水 3	2
情報科学演習	大木 寛 他	1	前期	水 5	2
無機化学特論	石川 厚	3	前期	木 1	2
有機化学Ⅰ	小田 晃規	2	前期	木 2	2
基礎化学実験	石川 厚	1	前期	木 4, 5	2
分析化学実験	巽 広輔 他	2	前期	木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
有機化学実験	庄子 卓 他	3	前期	木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
有機化学Ⅲ	太田 哲	3	前期	金 2	2
工業化学	小田 晃規	3, 4	前期	集中	1
計測化学	金 継業	3	前期	集中	2
物理化学Ⅱ	飯山 拓	2	後期	月 1	2
核化学	大木 寛	3	後期	月 2	2
分析化学演習Ⅰ	樋上 照雄 他	2	後期	月 4	1
分子設計学	太田 哲	2	後期	火 1	2
基礎物理化学	尾関 寿美男	1		火 2	2
生物化学	巽 広輔	3, 4		火 2	2
計測化学特論Ⅰ	金 継業	3		水 1	2
無機化学Ⅱ	大木 寛	2		水 2	2
有機化学特論Ⅰ	庄子 卓	3		水 2	2
化学数学	石川 厚 他	1		水 3	2
有機反応学	庄子 卓	3		水 3	2
分析化学	樋上 照雄	2		木 2	2
有機化学Ⅳ	小田 晃規	3		木 2	2
無機化学実験	石川 厚 他	2		木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
物理化学実験	濱崎 亜富 他	3		木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
物理化学演習	濱崎 亜富	2		金 1	1
計測化学特論Ⅱ	樋上 照雄	3		金 1	2

基礎無機化学	石川 厚	1		金 2	2
有機化学Ⅱ	小田 晃規	2		金 2	2
無機化学演習	竹内 あかり	3		金 2	1
コロキウム	化学科全教員	4	通年	不定期	2
卒業研究	化学科全教員	4	通年	不定期	10
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	樋上 照雄	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅰ	巽 広輔 他	2	前期	水 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅱ	石川 厚 他	2	後期	水 4	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	小田 晃規 他	3	前期	水 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	飯山 拓 他	3	後期	水 5	1
化学実務体験	樋上 照雄	2, 3	通年	集中	1

< 理学科：地球学コース >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論Ⅰ	樋上 照雄	1, 2	前期	金 3	2
化学概論Ⅱ	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	市野 隆雄	1, 2	後期	金 3	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
情報科学演習	牧野 州明	1	前期	月 2	2
地球・惑星物理学	齋藤 武士	3	前期	月 4	2
地層学	保柳 康一	2	前期	火 2	2
構造地質学	常盤 哲也	3	前期	火 2	2
資源地質学Ⅰ	森清 壽郎	3	前期	水 2	1
地質学入門実習	原山 智	1	前期	水 4	1
古生物学	山田 桂	2	前期	水 4	2
地球科学実験	森清 壽郎	3	前期	水 3, 4	2
鉱物学	牧野 州明	2	前期	木 1	2
地球史学	吉田 孝紀	2	前期	木 2	2
堆積学	保柳 康一	3	前期	木 2	2
鉱物・岩石学実験Ⅰ	齋藤 武士 他	2	前期	木 3, 4	2
堆積・古生物学実験Ⅰ	吉田 孝紀 他	3	前期	木 3, 4	2
岩石学Ⅱ	森清 壽郎	3	前期	金 1	2
コロキウムⅠ	三宅 康幸	3	前期	金 2	2
地質調査法実習Ⅰ	吉田 孝紀 他	2	前期	金 2, 3, 4, 5	2

岩石学実験	原山 智 他	3	前期	金 3, 4	2
科学英語Ⅱ	保柳 康一	2	後期	月 2	2
情報地質学	齋藤 武士 他	3	後期	月 4	2
第四紀学	三宅 康幸 他	2	後期	火 2	2
テクトニクス論	大塚 勉 他	3	後期	火 2	2
日本地質	大塚 勉 他	2	後期	水 1	2
資源地質学Ⅱ	保柳 康一	3	後期	水 2	1
地質学序説	保柳 康一 他	1	後期	水 3	2
地質学序説実習	保柳 康一 他	1	後期	水 4	1
コロキウムⅡ (基礎)	吉田 孝紀	3	後期	木 1	2
岩石学Ⅰ	原山 智	2	後期	木 2	2
火山学	三宅 康幸 他	3	後期	木 2	2
鉱物・岩石学実験Ⅱ	原山 智	2	後期	木 3, 4	2
堆積・古生物学実験Ⅱ	保柳 康一 他	3	後期	木 3, 4	2
地球化学	森清 壽郎	3	後期	きん 1	2
コロキウムⅡ (応用)	三宅 康幸	3	後期	金 2	2
岩石学実験	原山 智 他	3	後期	金 3, 4	2
地質調査法実習Ⅱ	吉田 孝紀 他	2	後期	金 2, 3, 4, 5	2
野外巡検Ⅰ	原山 智	2	通年	集中	2
野外巡検Ⅱ	森清 壽郎 他	3	通年	集中	2
地質調査演習	吉田 孝紀 他	3	通年	集中	4
地質科学演習	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	2
卒業研究Ⅰ	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	3
卒業研究Ⅱ	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	7
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	牧野 州明	1	後期	不定期	1
地質実務体験実習	三宅 康幸 他	3	通年	集中	1

< 理学科：生物学コース >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	金 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論Ⅰ	樋上 照雄	1, 2	前期	金 3	2
化学概論Ⅱ	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	後期	火 2	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2

化学実験	石川 厚 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	前期	月 3, 4	2
コロキウム	浅見 崇比呂 他	3	前期	月 1, 2, 3	4
系統分類学	東城 幸治	1	前期	月 4	2
動物発生学	柴田 直樹	2	前期	火 1	2
情報科学演習	佐藤 利幸 他	1	前期	火 2	2
生体生化学	久保 浩義	2	前期	火 2	2
系統進化学	市野 隆雄	3, 4	前期	火 2	2
基礎生物学実験	東城 幸治 他	1	前期	火 3, 4	2
生態学	高橋 耕一	2	前期	水 1	2
発生遺伝学	柴田 直樹	3, 4	前期	水 1	2
生物学特論Ⅳ	今津 道夫	2, 3, 4	前期	水 2	2
系統分類学実験	東城 幸治 他	2	前期	水 3, 4, 5	2
生物統計学演習	浅見 崇比呂	3	前期	水 3, 4 木 3, 4 金 3, 4	2
細胞生理学	伊藤 靖夫	3, 4	前期	木 1	2
生理生態学	佐藤 利幸 他	3	前期	木 2	2
動物発生学実験	高田 啓介 他	3	前期	木 3, 4, 5	2
遺伝学	高田 啓介	2	前期	金 1	2
形態組織学実験	久保 浩義 他	2	前期	金 3, 4, 5	2
多様性生物学実習	佐藤 利幸	3	前期	金 3, 4	1
生体生物学セミナーⅠ	高田 啓介 他	4	前期	不定期	2
進化生物学セミナーⅠ	佐藤 利幸 他	4	前期	不定期	2
陸水生態学セミナーⅠ	花里 孝幸	4	前期	不定期	2
臨湖実習	花里 孝幸	2, 3, 4	前期	集中	1
自然史実習	佐藤 利幸 他	2, 3, 4	前期	集中	1
生体生物学特論Ⅰ	高田 啓介 他	3	後期	月 5	2
進化生物学特論Ⅰ	佐藤 利幸 他	3	後期	月 5	2
細胞生物学	高田 啓介	1	後期	火 2	2
生体生物学特論Ⅱ	高田 啓介 他	3	後期	火 1	2
進化生物学特論Ⅱ	佐藤 利幸 他	3	後期	火 1	2
分子生物学	高梨 功次郎	2, 3, 4	後期	火 2	2
生態遺伝学	浅見 崇比呂	3, 4	後期	水 1	2
機能形態学	柴田 直樹 他	2, 3, 4	後期	水 2	2
進化生物学実習	佐藤 利幸 他	3	後期	水 3, 4	1
生体生物学実習	高田 啓介 他	3	後期	木 3, 4	1
代謝生化学	久保 浩義	2, 3, 4	後期	金 1	2
進化多様性生物学	市野 隆雄	2	後期	金 2	2
生態学実験	市野 隆雄 他	2, 3	後期	金 3, 4, 5	2
生体生物学セミナーⅡ	高田 啓介 他	4	後期	不定期	2

進化生物学セミナーⅡ	佐藤 利幸 他	4	後期	不定期	2
陸水生態学セミナーⅡ	花里 孝幸	4	後期	不定期	2
卒要研究	生物科学科全教員	4	通年	不定期	10
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	高田 啓介	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅰ	高田 啓介	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅱ	高田 啓介	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	高田 啓介	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	高田 啓介	3	後期	不定期	1
生物インターンシップ	佐藤 利幸	3, 4	通年	集中	1

<理学科：物質循環学コース>

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	月 4	2
化学概論Ⅰ	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2
化学概論Ⅱ	小田 晃規	1, 2	後期	火 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅱ	三宅 康幸	1, 2	後期	火 2	2
地学概論Ⅲ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	水 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
環境計測学入門	宮原 裕一	2	前期	月 2	2
水文循環学	鈴木 啓助	3	前期	月 2	1
物質循環基礎実習Ⅰ (A)	村越 直美 他	2	前期	月 3, 4	2
地球環境史学	公文 富士夫	2	前期	火 1	2
大気環境学	鈴木 啓助	2	前期	火 2	2
コロキウムⅠ	村越 直美	3	前期	火 2	1
生態システム学Ⅰ	花里 孝幸	2	前期	火 3	2
微生物代謝論	國頭 恭	2	前期	水 1	2
生物地球化学Ⅰ	戸田 任重	3	前期	水 1	2
堆積環境学	村越 直美	2, 3, 4	前期	水 2	2
システム解析学実習Ⅰ	村越 直美 他	3	前期	水 3, 4 木 3, 4	2
地球システム学	岩田 拓記	2	前期	木 1	2
環境基礎理論	島野 光司	2	前期	木 2	2
群集生態学	山本 雅道	3	前期	木 2	2

情報科学演習	戸田 任重 他	1	前期	木 3	2
物質循環学序説 I	村越 直美 他	1	前期	金 1	2
陸水学	朴 虎東	2	前期	金 1	2
科学英語 I	公文 富士夫	2	前期	金 2	1
生態遷移論	島野 光司	3	前期	金 2	2
物質循環基礎実習 I (B)	村越 直美 他	2	前期	金 3, 4	1
野外調査実習 I	島野 光司	1	前期	集中	1
野外調査実習 II	鈴木 啓助	2	前期	集中	1
地球環境論	宮原 裕一	2	後期	月 2	2
システム解析学実習 II	村越 直美 他	3	後期	月 4, 5 金 4, 5	2
コロキウム II	國頭 恭	3	後期	火 2	1
生態システム学 II	戸田 任重	2	後期	火 1	2
生物地球化学 II	國頭 恭	3	後期	火 1	2
雪氷学	鈴木 啓助	2	後期	火 2	2
システム解析学	柳町 晴美	2, 3, 4	後期	水 1	2
堆積岩岩石学	公文 富士夫	3	後期	水 1	2
物質循環基礎実習 II (A)	村越 直美 他	2	後期	水 3, 4	1
化学生態学序論	朴 虎東	2	後期	木 2	2
地球システム学 II	村越 直美	2	後期	木 3	2
物質循環学序説 II	村越 直美 他	1	後期	金 1	2
科学英語 II	島野 光司	2	後期	金 2	1
物質循環基礎実習 II (B)	村越 直美 他	2	後期	金 3, 4	1
環境保全論	(非) 福島 和夫	2	後期	集中	2
野外調査実習 III	物質循環学科全 教員	3	後期	集中	1
システム解析学セミナー	物質循環学科全 教員	4	通年	月 3, 4	2
物質循環学セミナー	物質循環学科全 教員	4	通年	火 3, 4	1
卒業研究	物質循環学科全 教員	4	通年	不定期	12
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	島野 光司 他	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 I	公文 富士夫	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 II	公文 富士夫	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 III	公文 富士夫	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 IV	公文 富士夫	3	後期	不定期	1
社会実務研修	村越 直美	3, 4	通年	集中	1

<教員免許取得のための科目>

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
数学科指導法 I	西牧 守	2	前期	木 2	2
数学科指導法 II	西牧 守	2	後期	木 3	2
数学指導法特論	西牧 守	3	前期	月 2	2

数学指導法演習 I	西牧 守	3	後期 (前半)	月 3	1
数学指導法演習 II	西牧 守	3	後期 (後半)	月 3	1
理科指導法 (物理)	武田 三男	2	前期 (前半)	水 2	1
理科指導法 (化学)	石川 厚	2	前期 (後半)	水 2	1
理科指導法 (地学)	山田 桂	2	後期 (前半)	火 5	1
理科指導法特論	宗像 一起 他	2	通年	集中	2
理科指導法演習 I	公文 富士夫 他	2, 3	前期	集中	1
理科指導法演習 II	公文 富士夫 他	2, 3	後期	集中	1
教職実践演習 (中・高)	森清 壽郎	4	後期	集中	2
介護等体験の意義と実際	庄司 和史	2	通年	集中	2
中学校教育実習		4	通年	集中	4
高等学校教育実習		4	通年	集中	2
教育実習事前・事後指導		4	通年	集中	1

< 博物館学芸員資格取得に関する科目 >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
博物館概論	大塚 勉	1, 2, 3	後期	水 5	2
博物館経営論	金井 直 他	2, 3	前期 (集中) 後期	月 3	
博物館情報・メディア論	小山 茂喜 他	2, 3	通年	集中	2
博物館実習 I	大塚 勉 他	3	前期 前期 (集中)	火 5	1
博物館実習 II	大塚 勉	4	通年	1	1
博物館実習 III	大塚 勉	4	通年	1	1

(出典：理学部事務部作成)

資料理 23：科目開講状況 (非常勤講師担当教科)

< 数学科 >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：物理学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
核物理学	(非) 矢部 雅之	4	前期	木 3	2
光学Ⅱ	(非) 保科 宏道 (非) 山下 将嗣	3	前期	集中	2
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：化学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：地球学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 角野 由夫	1	前期	金 4	2
線形代数学Ⅱ	(非) 角野 由夫	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 角野 由夫	1	前期	火 2	2
微分積分学Ⅱ	(非) 角野 由夫	1	後期	金 4	2
科学英語Ⅰ	(非) 角野 由夫	2	前期	月 4	2
地震学	(非) 角野 由夫	3	後期	火 4	2
資源地質学特論	(非) 稲葉 士誌 典	3, 4	後期	集中	1
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：生物学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 阿部 孝順	1	前期	木 2	2
線形代数学Ⅱ	(非) 阿部 孝順	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 井上 和行	1	前期	金 4	2
微分積分学Ⅱ	(非) 井上 和行	1	後期	金 4	2
生物学特論Ⅲ	(非) 森 宙史	2, 3, 4	前期	集中	2
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：物質循環学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 阿部 孝順	1	前期	木 2	2
線形代数学Ⅱ	(非) 阿部 孝順	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 井上 和行	1	前期	金 4	2
微分積分学Ⅱ	(非) 井上 和行	1	後期	金 4	2
生態毒性学	(非) 坂本 正樹	3	前期	集中	2
元素循環論	(非) 福島 和夫	3	前期	集中	2
生物圏循環論Ⅳ	(非) 佐瀬 裕之	3	前期	集中	1

環境論特論 I	(非)北澤 大輔	3	前期	集中	1
水圏・地圏循環論 II	(非)苅谷 愛彦	3	前期	集中	1
環境保全論	(非)福島 和夫	2	後期	集中	2
水圏・地圏循環論 III	(非)片岡 香子	3	後期	集中	1
自然科学史	(非)稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 教員免許取得のための科目 >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
理科指導法 (生物)	(非)藤山 静雄	2	後期 (後半)	火 5	1

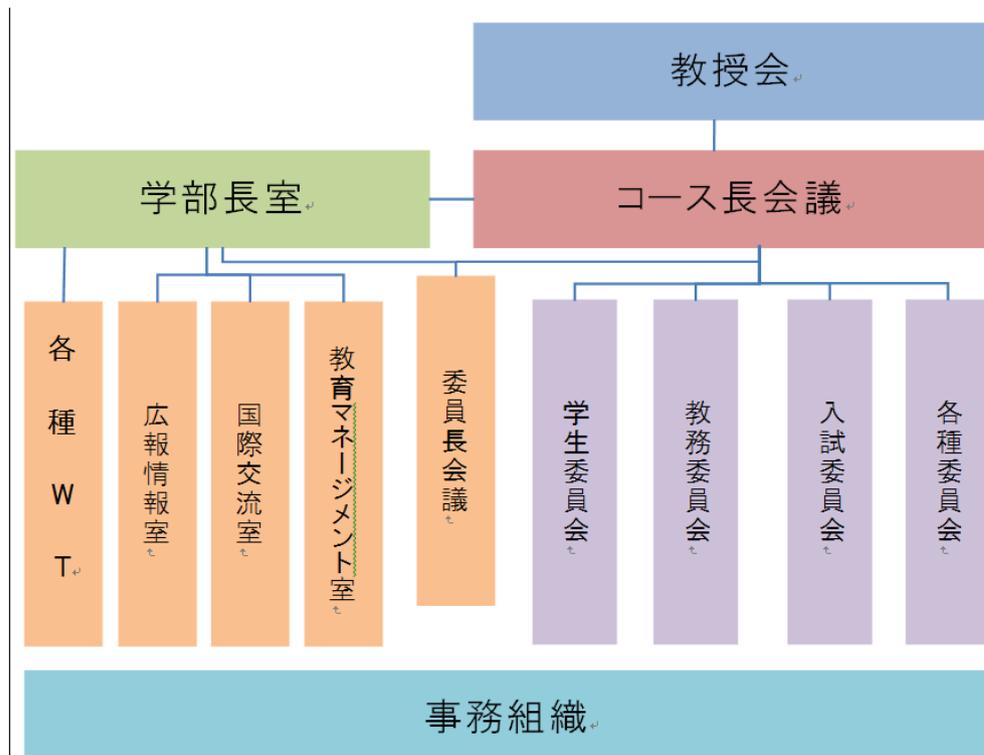
< 博物館学芸員資格取得に関する科目 >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
生涯学習概論	(非)小岩井 彰	1, 2, 3	前期	集中	2
博物館資料論	(非)福島 正樹	2, 3	前期	月 1	2
博物館資料保存論	(非)福島 正樹 他	2, 3	前期	月 2	2
博物館展示論	(非)福島 正樹	2, 3	後期	月 4	2
博物館教育論	(非)福島 正樹	1, 2, 3	後期	月 5	2

(出典：理学部事務部作成)

改組および委員会等の整理統合により、人的資源を有効に活用して教育・研究活動を機能的に展開できる体制となった。(資料理 24)

資料理 24：理学部組織図



(出典：理学部事務部作成)

③ 共通教育

共通教育は機構を中心に全学協力体制のもと実施している。学術研究院理学系に所属する教員は、理系の基礎科学科目を主に担当している。(資料理 25～27)

資料理25 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長（修学支援担当）をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会（以下「教授会」という。）を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項
- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針（採用人事方針を含む。）に関する事項

四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

資料理26 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

(1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関すること

(2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関すること

(3) 共通教育の実施における全学的な支援に関すること

(4) 全学教育機構の運営に関すること

(5) その他共通教育の実施に関すること

(組織)

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 教務担当の理事

(3) 全学教育機構長

(4) 高等教育研究センター長

(5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名

(6) その他学長が必要と認める者

(議長)

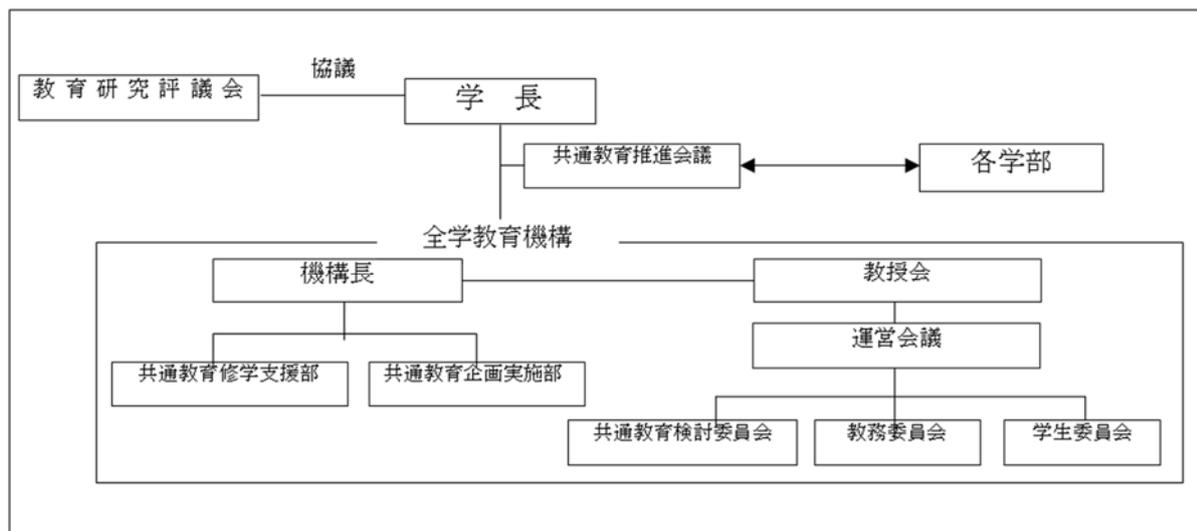
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

(出典：信州大学規程集)

資料理27 共通教育科目の教育体制



(出典：経営企画課作成)

2. 教育サポート体制の充実

① 学生支援の体制

本学部は、学年学科ごとに担任を配置している。(資料理 28) さらに、1 年次生には副担任として、機構の教員を学部全体で 1 名配置している。

資料理28 学年担任一覧

入学年度	数理・自然情報科学科 (数学科)	物理科学科 (物理学コース)	*化学科 (化学コース)	地質科学科 (地球学コース)	生物科学科 (生物学コース)	物質循環学科 (物質循環学コース)	
27年度	15 S	花木・境	小竹	各教員	山田	柴田・高梨	島野・公文
26年度	14 S	佐々木・沼田	天児	各教員	齋藤	市野・東城	鈴木・(國頭)
25年度	13 S	高木・謝	奥山	各教員	牧野	高橋・高田	戸田・(朴)
24年度	12 S	一ノ瀬・五味	竹下	各教員	森清	佐藤・浅見	村越
23年度	11 S	中山・乙部	志水	各教員	原山	2年：高橋・高田 3年：佐藤・浅見	公文・(島野)
22年度	10 S	玉木・谷内	川村	各教員	保柳	高橋・高田	鈴木・(朴)

化学科については、各学生に担当教員が決まっている。

2014 年度入学	14S3035 大木	13S3029 瀧崎	12S3026 小田
学習相談員: 金	14S3036 大木	13S3030 瀧崎	12S3027 小田
14S3001 樋上	14S3037 大木	13S3031 飯山	12S3028 小田
14S3002 樋上	12S3801 金	13S3032 飯山	12S3029 大木
14S3003 樋上	12S3802 金	13S3033 飯山	12S3030 大木
14S3004 金		13S3034 尾関	12S3031 大木
14S3005 金	2013 年度入学	13S3035 尾関	12S3032 石川
14S3006 金	学習相談員: 金	13S3036 尾関	12S3033 石川
14S3007 巽	13S3001 樋上		12S3034 吉野
14S3008 巽	13S3002 樋上	2012 年度入学	12S3035 吉野
14S3009 巽	13S3003 樋上	学習相談員: 太田	12S3036 竹内
14S3010 石川	13S3004 金	12S3001 樋上	
14S3011 石川	13S3005 金	12S3002 樋上	2011 年度入学
14S3012 石川	13S3006 巽	12S3003 樋上	学習相談員: 太田
14S3013 竹内	13S3007 巽	12S3004 樋上	11S3001 吉野
14S3014 竹内	13S3008 巽	12S3005 巽	11S3002 吉野
14S3015 竹内	13S3009 吉野	12S3006 巽	11S3003 吉野
14S3016 小田	13S3010 吉野	12S3007 巽	11S3004 吉野
14S3017 小田	13S3011 石川	12S3008 金	11S3005 石川
14S3018 小田	13S3012 石川	12S3009 金	11S3006 石川
14S3019 太田	13S3013 石川	12S3010 尾関	11S3007 石川
14S3020 太田	13S3014 大木	12S3011 尾関	11S3008 大木
14S3021 太田	13S3015 大木	12S3012 尾関	11S3009 大木
14S3022 庄子	13S3016 大木	12S3013 尾関	11S3010 大木
14S3023 庄子	13S3017 竹内	12S3014 飯山	11S3011 尾関
14S3024 庄子	13S3018 竹内	12S3015 飯山	11S3012 尾関
14S3025 飯山	13S3019 小田	12S3016 飯山	11S3013 尾関
14S3026 飯山	13S3020 小田	12S3017 瀧崎	11S3014 尾関
14S3027 飯山	13S3021 小田	12S3018 瀧崎	11S3015 飯山
14S3028 飯山	13S3022 太田	12S3019 瀧崎	11S3016 飯山
14S3029 瀧崎	13S3023 太田	12S3020 庄子	11S3017 飯山
14S3030 瀧崎	13S3024 太田	12S3021 庄子	11S3018 瀧崎
14S3031 瀧崎	13S3025 庄子	12S3022 太田	11S3019 瀧崎
14S3032 吉野	13S3026 庄子	12S3023 太田	11S3020 瀧崎
14S3033 吉野	13S3027 庄子	12S3024 太田	11S3021 樋上
14S3034 吉野	13S3028 瀧崎	12S3025 小田	11S3022 樋上

(出典: 理学部事務部作成)

平成 26 年度から担当教員による全学部生の個別面談が実施されており、GPA を面談担当教員の参考データとして活用している。

平成 27 年度からは、長期欠席学生について、「長期欠席学生の調査等に関する要項」を理学部学生委員会が中心となって定め、関係者の情報共有を徹底している。(資料理 29)

資料理 29 長期欠席学生の調査等に関する要項

信州大学理学部

長期欠席学生の調査等に関する要項

〔2015.9 学生委員会決定〕

【目的】

近年、精神的な病や悩みを抱える学生が増加していることに伴い、長期欠席学生を早期に把握する必要がある。それにより、学生のメンタルヘルスケアや自殺防止対策に役立てるとともに、修学指導における危機管理の観点からも大学・学生・保護者（保証人）が相互に情報を共有することも目的とする。
本要項は、そのための調査方法等について示したガイドラインである。

【調査時期】 毎年度各学期 2 回ずつ（各学期の前半と後半）を原則とする。

【調査対象】 学部生、大学院生（修士、博士） 全員
（4年生以上の研究室配属済みの学生も近年長期欠席や自殺者が増えている）

【調査方法】 各学科・コースにおいて、出席確認システムにおいて全科目指定の設定で抽出されたデータをもとに調査を行う。4年生以上の学生についても、長期欠席者の有無を必ず調査する。

【長期欠席学生への対応】

- 長期欠席学生の定義は、出席確認システムにおいて全科目指定の設定で抽出された者を原則とする。4年生以上（大学院生）の長期欠席学生の定義は、1ヶ月大学へ来ていないことを原則とするが、学科・コースの判断によりそれ以上短い期間設定をしても構わない。
- 学科・コースにおいて、長期欠席学生に対し、以下のことを行う。
 - ①本人へ連絡（安否確認）
 - ②本人と面談（欠席理由）
 - ③必要に応じ保護者（保証人）への連絡や面談
 - ④必要に応じ総合健康安全センターや学生相談センターを紹介
 - ⑤学科・コース内会議への状況報告

【調査報告】 各学科・コース学生委員等は次のとおり調査結果を報告する。

- 報告期限……調査後それぞれ「5月末、7月末、11月末、1月末」まで
- 報告先……理学部学生支援グループ（西村 ×××@gm.shinshu-u.ac.jp）
- 報告内容……別紙様式で報告する。

【その他】

<学生情報の共有>

本調査により、各学科・コースと学生相談センター、総合健康安全センターがそれぞれ持つ学生の就学状況の情報を共有できるようにし、想定される悪い事態を早期に発見し、大学・学部としても対処できるようにしておく。

<危機管理>

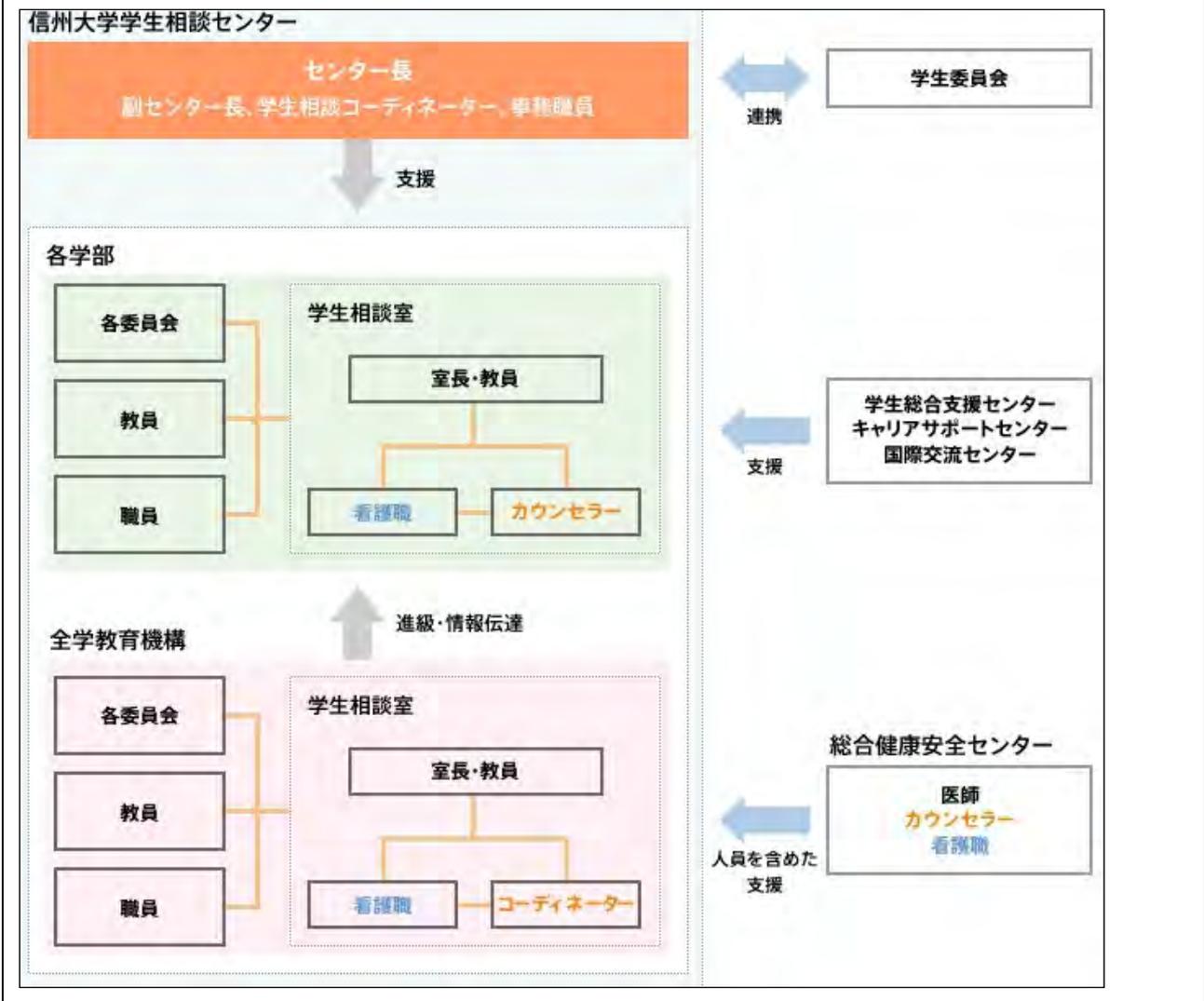
学科・コースにおける当該学生の指導にあたっては、状況に応じ保護者（保証人）と早めに情報を共有しておく。悪い事態に陥ってから連絡し、心象を悪くしたりトラブルになるというようなことは避ける。

出典：理学部長期欠席学生の調査等に関する要綱より抜粋

② 学生相談センター

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料 30)

資料理 30 学生相談センター及び学生相談室



専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典：信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている。(資料理 31～32) 学務課には共通教育の授業支援、教務に関すること等を担う共通教育支援室を設置している。この他に、全学的な教育活動を展開するために各施設に専門的知識技能を有する職員を配置している。(資料理 33) さらに、学部・研究科の教育活動に必要な職員をそれぞれ配置している。(資料理 34)

また、大学院生を TA として雇用し、演習・実験・実習科目で(一部講義科目でも)教育補助者として積極的に活用している。(資料理 35～39) 附属図書館に大学院生による学習支援相談員を置き、学生へのレポート作成支援等を行っている。(資料理 40)。

資料 31 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

(1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。

(2) 庶務及び会計に関すること。

(3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。

(4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。

- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関する
こと。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第
108 号)第 6 条に定める大
学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の
連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支
援センターの業務執行及
び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 (省略)
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌
する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること
(出典：信州大学規程集)

資料理 32 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現
在

(出典：経営企画課作成資料)

資料理 33 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館 ^{注3}	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9 ^{注1}	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

注 1：医学部附属病院担当者を含まず。

(出典：経営企画課作成資料)

資料理 34 学部・研究科の学務担当の職員数

理学部
理工学系研究科(松本キャンパス)
15

平成28年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

資料理 35 大学院生によるレポート作成支援

(別紙)

平成24年度学内版 GP 成果報告書

取組名	大学院生を活用した学部学生のレポート作成能力の向上支援の取組
実施組織	附属図書館中央図書館
実施責任者	森 一郎
取組の目標	初年次学生対象の授業共通教育科目「大学生基礎カゼミ」および「人を動かすための理論と方法ゼミ」において課されたレポートの作成に対して、附属図書館(中央図書館)に配置された大学院生の相談員(図書館ラーニングアドバイザー、以下図書館 LA と略す)を活用し、レポートの書き方支援を実施し、学生が大学で求められるレポートを書けるようにする。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 支援を担当する図書館 LA への研修計 5 回 事前研修 2 回、中間研修 1 回、期末研修 1 回、最終まとめ 1 回 2. レポート支援スペースの整備 机×2 台、椅子×6 脚を購入し、支援スペースを整備した 3. 図書館 LA によるレポート支援 のべ 193 時間 支援利用学生 101 名 4. 利用学生および図書館 LA へのアンケート調査および分析 5. 支援を受けた学生のレポートの点数は、そうでない学生と比較して高くなることが確認できた。 6. 活動の内容と成果についての報告レポートの作成・公開 別添のとおり
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	支援を受けた学生のレポートの点数はそうでない学生と比較して、レポートの点数が高くなる傾向があった。また、学期末に実施した学生へのアンケート調査では、「後期もこの支援の受けたい」と回答した学生が 6 割以上、「友達や来年の 1 年生に、この支援を受けることを勧めたい」と回答した学生が 7 割以上にのぼったことから、このような支援への要望が高いことが分かった。平成 25 年度は、学長裁量経費により「大学生基礎カゼミ」を共通シラバスで 6 コマ開催し、更に支援を広げる計画である。

(出典：平成 24 年度学内版 GP 成果報告書より)

資料理 36 TA 採用人数

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
人数 (人)	173	183	161	114	104	111

(出典：理学部事務部作成)

資料理 37 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TA は、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学規程集)

資料理 38 各学部等における TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
理 学 部	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加
 F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

- a. 資料のコピー、保存 b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施錠等)
 c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

(出典：経営企画課作成)

資料理 39 TA 配置科目 (平成 27 年度)

学 科	科 目	区 分	科目数
数理・自然情報科学科	代数入門演習	必修	22
	情報科学演習	必修	
	電磁気論	自由	
	位相空間論演習	必修	
	幾何入門	必修	
	線形代数学 I	必修	
	微分積分学 I	必修	
	微分積分学 II	必修	
	線形代数学演習 I	必修	
	線形代数学演習 II	必修	
	微分積分学演習 I	必修	
	微分積分学演習 II	必修	
	微分積分詳論 I	必修	
微分積分詳論 II	必修		

	確率論	自由	
	幾何学特別講義 VI	自由	
	解析学特別講義 I	自由	
	自然情報学基礎講義	自由	
	情報処理 I	自由	
	実解析学演習 I	選択	
	集合論	必修	
	力学と微分方程式演習	必修	
物理科学科	物理学演習 I	必修	21
	物理学演習 II	必修	
	物理学演習 III	必修	
	物理学演習 IV	必修	
	物理学演習 V	必修	
	物理学演習 VI	必修	
	物理学演習 VII	必修	
	物理学演習 VIII	必修	
	物理学演習 IX	必修	
	物理学実験 I	必修	
	物理学実験 II	必修	
	物理学実験 III a	必修	
	物理学実験 III b	必修	
	量子力学 I	必修	
	量子力学 II	必修	
	量子力学 III	必修	
	電磁気学 I	必修	
	電磁気学 II	必修	
	統計力学 I	必修	
	熱力学	必修	
	情報科学演習	自由	
化学科	分析化学実験	必修	8
	情報科学演習	必修	
	無機化学実験	必修	
	有機化学実験	必修	
	物理化学実験	必修	
	アドバンス演習・実験・実習 I	自由	
	アドバンス演習・実験・実習 II	自由	
	アドバンス演習・実験・実習 III	自由	
地質科学科	地質学入門実習	必修	12
	鉱物岩石学実験 I	必修	
	鉱物岩石学実験 II	必修	
	堆積古生物学実験 I	自由	
	堆積古生物学実験 II	自由	
	地質学序説実習	必修	
	地質調査法実習 I	必修	
	地質調査法実習 II	必修	
	地質調査演習	必修	

	野外巡検 I	必修	
	岩石学実験 I	必修	
	岩石学実験 II	自由	
生物科学科	系統分類学実験	必修	9
	自然史実習	自由	
	生態学実験	必修	
	新入生ゼミナール	共通	
	生態学	必修	
	多様性生物学実験	必修	
	基礎生物学実験	必修	
	情報学演習	自由	
	生態学	必修	
物質循環学科	物質循環基礎実習 I	必修	5
	物質循環基礎実習 II	必修	
	野外調査実習 I	必修	
	野外調査実習 II	必修	
	生態システム学 I	必修	
合計			77

(出典：理学部事務部作成)

資料理 40 学習支援相談員による相談件数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
件数	172 件	144 件	97 件	56 件	168 件

※注意事項

- ・平成 26 年度は中央図書館耐震改修により件数減
- ・中央図書館での相談件数のみ

(出典：理学部事務部作成)

3. 教員の教育力向上のための体制とその効果

① 学生や地域社会からのニーズを把握する仕組み

高校生、在学生など、様々なニーズに応じたアンケートを行い、教育課程の編成・実施につなげている。(資料理 41)

資料理 41 理学部アンケート調査一覧

<アンケート実施者>

在学生・・・卒業時に満足度調査を実施。

高校生・・・オープンキャンパス（以下、「0C」）、入試説明会、高大連携事業を通じて、アンケートなどにより実施。

高校教員・・・高大連携事業などを通じて、意見を把握。

卒業生・・・アンケートを実施。

保護者・・・0C アンケートを把握。

企業や卒業生の雇用主・・・アンケートや担当者へのインタビューなどを実施。

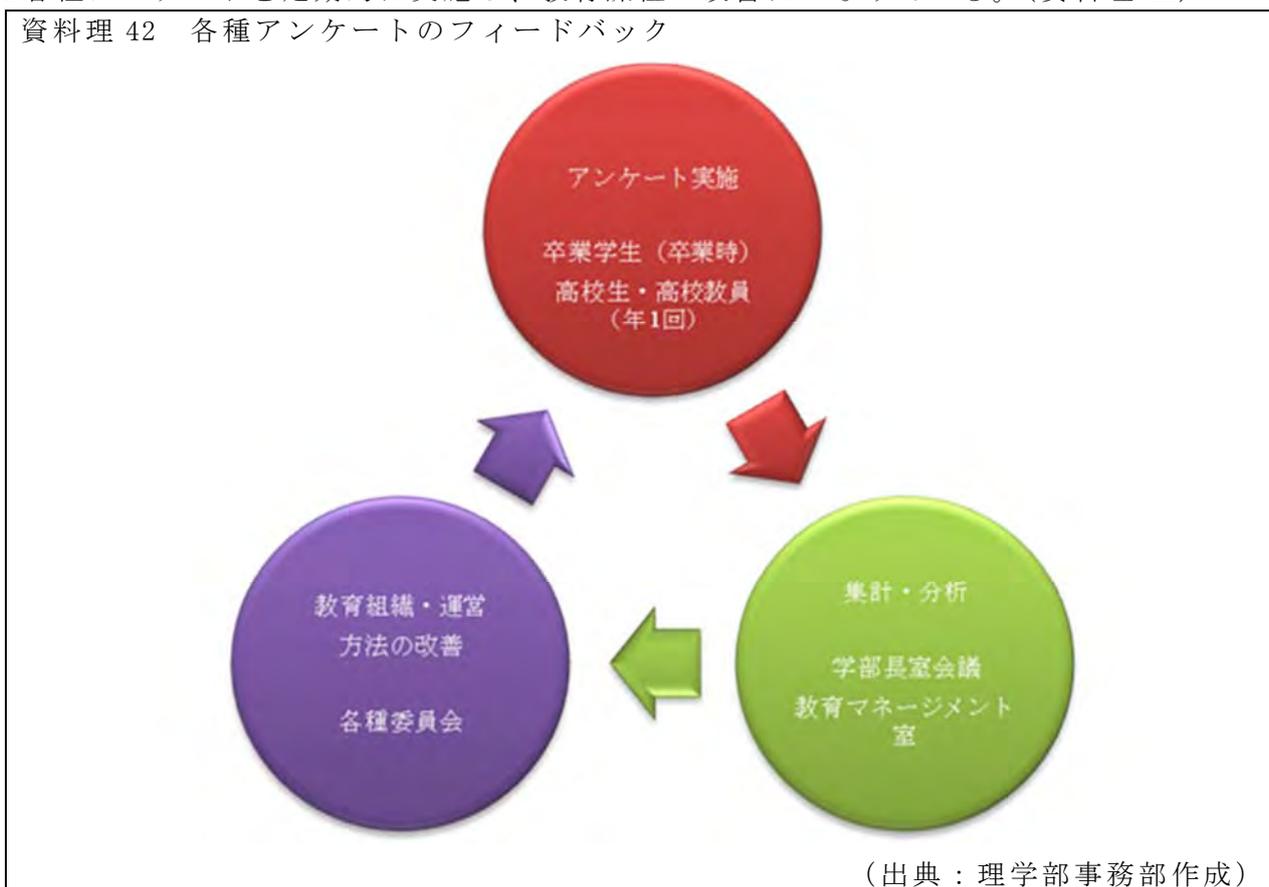
名称	対象	時期	担当
授業改善アンケート	在学生	半期に一度	教務委員会

新入生アンケート	新入生	毎年	広報情報室
満足度調査	卒業生・修了生	毎年	評価・点検委員会
OC アンケート	OC 参加者（保護者含む）	毎年	社会貢献委員会
進学アンケート	1, 2, 3 年生	毎年	広報情報室
入試説明会アンケート	高校生, 高校教員, 予備校関係者	数年毎	学生支援グループ
卒業生雇用主へのアンケート	卒業生就職先	数年毎	評価・点検委員会
高大連携事業における高校生へのアンケート	高校生, 高校教員	毎年	学部長室

(出典：理学部事務部作成)

また、将来計画委員会が中心となり、卒業生、在学生、高校生、高校教員を対象とした各種アンケートを定期的実施し、教育課程の改善につなげている。(資料理 42)

資料理 42 各種アンケートのフィードバック



授業改善アンケートについては、以下の通りである。(資料理 43)

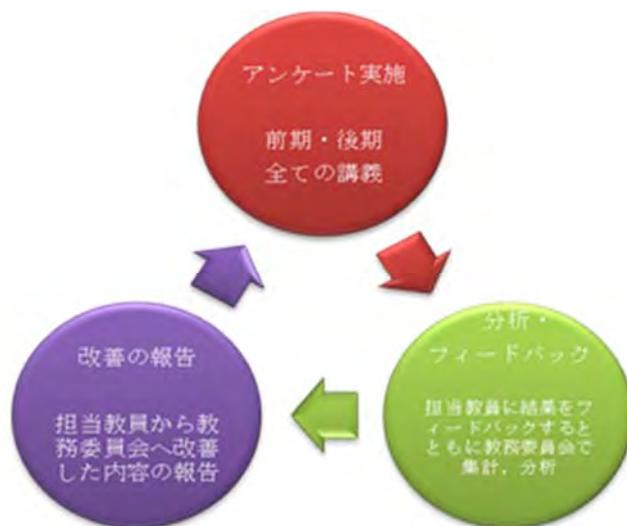
資料理 43 授業改善アンケート

実施主体・・・教務委員会

概要・・・全教員は、学生からの個々の指摘や要望に対して、どのような授業改善・教育改善を行ったか、文書で教務委員会に対して報告を行うこととしている。

効果・・・授業単位でのきめ細かい改善を行っている。

および結果のフィードバック



出典：理学部事務部作成

授業改善アンケートの回答票

アンケート実施日：平成 26 年 6 月 13 日

配付数 29 枚

回収数 29 枚

授業題目名：有機化学 III

曜日・時限：金・2

担当教員名：太田 哲

学生からの回答	良い点 (A)わかりやすい。 (B)板書が見やすい、丁寧。 (C)字が大きくて見やすい。 (D)化合物の特徴の話、講義からそれた話がおもしろい。	悪い点 (改善点) (E)もう少しペースが速くても良い。 (F)板書で色を使ってもらいたい。
対応方法	(A)～(D)概ね好評なので、今後も継続したい。 (E)教科書で自習可能な箇所はその都度伝えることとし、講義で詳しく解説する内容を限定して進度を速めるようにした。 (F)強調箇所には色分けするかわりに太字、下線、囲みなどを使用している。受講生は重要な所を自ら判断してノートを取るようになってもらいたい。(実際のクラスでは確認していないが、一般に男性の約 5%に色覚異常があることを考慮し、色チョークは意図的に使わないようにしている。このことは学生には伝えていない)	
周知	有 (周知方法：講義中に口頭で伝えた)	

出典：授業改善アンケート集計結果より抜粋

②FD等の実施

各種FD(ワークショップ、講習会、講演会)などを行っている。(資料理44)

資料理44 FD開催状況					
開催年度	開催日		主催	講演内容等	対象者、参加者等
平成22年度	9月7日	理学部FD講演会 (ワークショップ形式)	評価・点検委員会	1.総合的な数学教育の試み(講師:(数理)中山一昭) 2.物理科学科における物理実験授業(講師:(物理)長谷川庸司) 3.コバルト錯体の合成,分析と廃液の処理(講師:(化学)石川厚) 4.地質分野における実験授業の苦勞と工夫(講師:(地質)斉藤武士) 5.分子生物学実験入門(講師:(生物)久保浩義) 6.物質循環学科の科学英語教育の試み(講師:(物循)公文富士夫)	26
	10月5日	理学部FD講演会 (ワークショップ形式)	評価・点検委員会	1.物理科学科における物理実験授業(講師:(物理)長谷川庸司) 2.分子生物学実験入門(講師:(生物)久保浩義) 3.物質循環学科の科学英語教育の試み(講師:(物循)公文富士夫)	33
	12月7日	ポートフォリオについてのFD研修 (ワークショップ形式)	理数学生応援プロジェクト実施WG	吉田孝紀(地質科学科)	29
	12月21日	理学部チューター,メンター研修 (ワークショップ形式)	理数学生応援プロジェクト		教員9,学生35
	7月,12月	テニユアトラック助教のピアレビュー (授業参観形式)			教員,各10名程度
平成23年度	11月1日	GPA制度について考える	評価・点検委員会,教務委員会		
平成24年度	7月3日	学生のやる気を高める方法	評価・点検委員会	Kathleen T. Brinko(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学FDセンター長)	21
	11月3日	本学の理学部教育について (座談会:学生を交えての理学部教育に関するフォーラム)	評価・点検委員会	パネラー12名(各学科卒業生2名)	

	11月20日	如何にして研究成果を分かりやすく伝えるか	理数学生応援プロジェクト	伊藤冬樹（教育学部准教授 有機物理科学）	学部3,4年, 修士学生対象
	12月4日	2011 新入生アンケートの結果から	評価・点検委員会		18
平成 25 年度	7月23日	教育における ICT 活用に関する FD 講習会	高等教育研究センター, e-learning センター		3
	2月18日	理学部入試制度を考える	評価・点検委員会, 入試制度検討WG		23
平成 26 年度	10月7日	科研費の取り方と本学の考え方	評価・点検委員会	高等教育研究センター 加藤 鈺三教授 研究推進部研究推進課 山田 課長	35
	12月2日	学生の問題行動などへの対処の仕方	評価・点検委員会	学生相談センター 小田佳代子 学生相談コーディネーター	46
	1月6日	TOEIC プログラムについて	教務委員会	IIBC IP 事業本部 学校普及チーム 長嶋裕介	41
	2月5日	シラバス・ガイドライン改定のポイント	教務委員会	高等教育研究センター 加藤 鈺三教授	32
平成 27 年度	12月12日	学生に勉強させる授業デザイン	評価・点検委員会	高等教育研究センター 加藤善子准教授	18

(出典：理学部事務部作成)

③ 共通教育の授業改善

機構では教育の質の改善・向上を図るため、評価分析室機構分室会議を中心に授業改善アンケート、機構教務委員会で共通教育グッドプラクティスに取り組んでいる。(資料理45～46)

資料理45 学生による授業改善アンケート

2015年(平成27年)10月8日

平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

＜アンケート質問項目＞

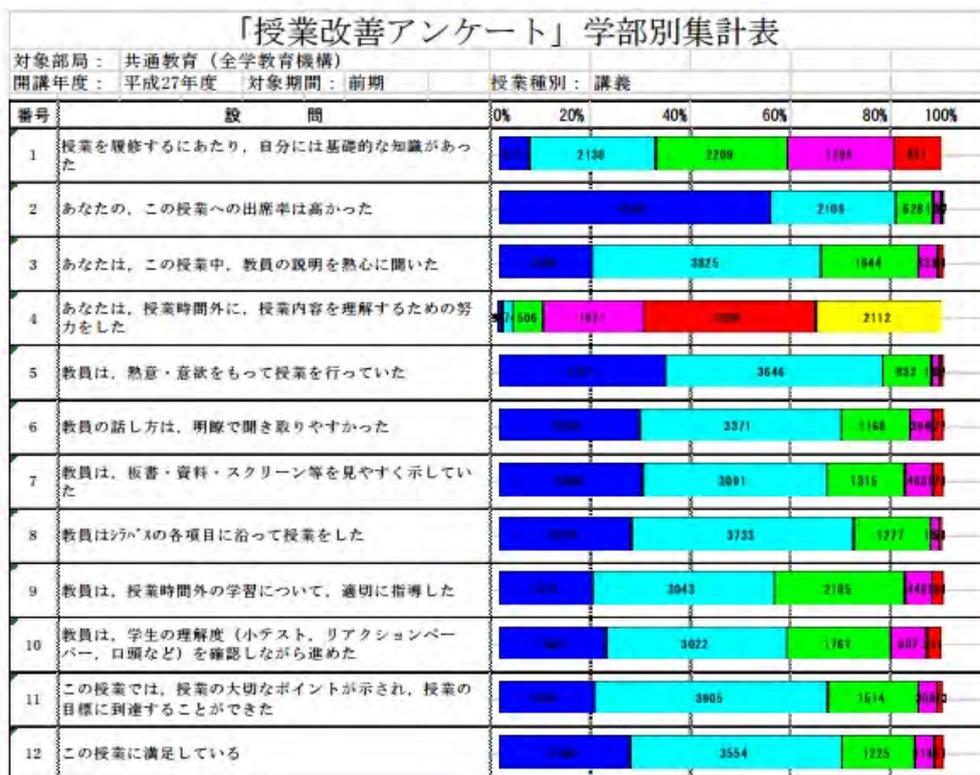
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)
※4. の選択肢(週4時間以上、週3~4時間、週2~3時間、週1~2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

1. 全体に関する結果

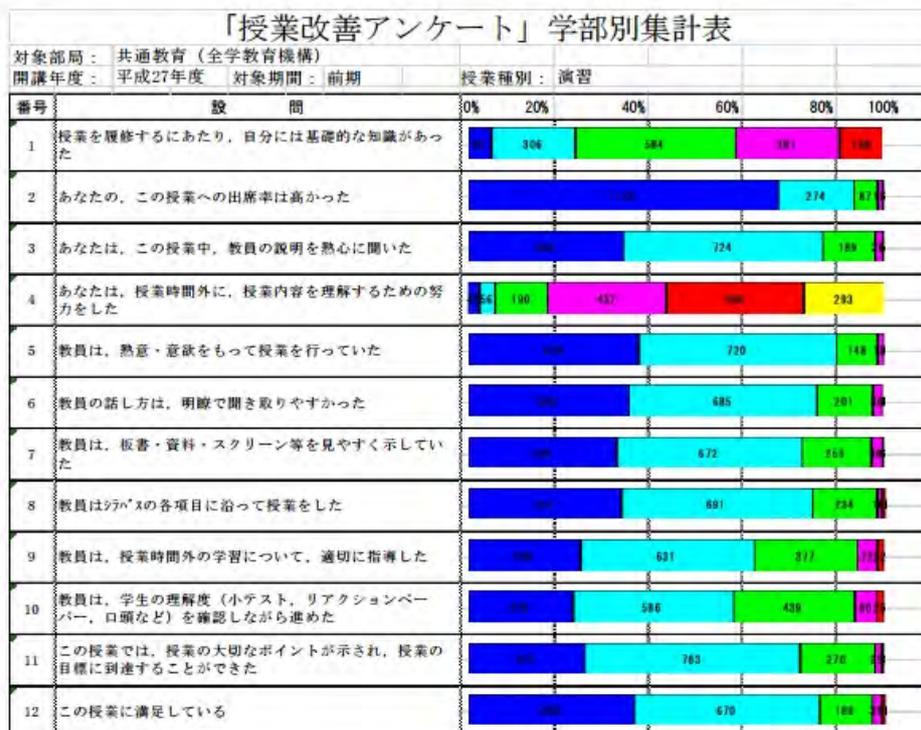
紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体:50%,54%,演習全体:41%,49%,外国語全体:46%,79%,実験・実習全体:56%,76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1~3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない
 ※4.の選択数のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図2【演習科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない
 ※4.の選択数のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

資料理46 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

選定の流れ

1. テーマ決定
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. 公募
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. 応募授業のピアレビュー
応募された取組については、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. 審査
全学教育機構教務委員会において行います。
5. 選定授業担当者による取組発表
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）
H24	男女共同参画の推進に向けての取組
H25	授業外学修時間を増やす取組
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課にて作成）

（水準）期待される水準を上回る

（判断理由）

在学生、受験生、卒業生および保護者の期待に応え、本学部で教育を進めるにあたり適切な学科・コース編成および教員配置が行われている。特に平成 27 年度改組においては、学生本位の教育を目指して体制を刷新し、カリキュラムを大幅に改訂した点は、想定される関係者の期待に十分応えている。（資料理 8、19～21）

教育サポートとしては、クラス担任を設置するだけでなく、長期欠席学生について本人・保護者への連絡・面談を実施している。（資料理 28～29）また、平成 24 年度には学生相談センター及び学生相談室が設置される等、学生・教員の学習・教育環境を支える全学的なサポート体制も構築されている。（資料理 30、31）これらは期待される水準を上回る実績である。

さらに、授業改善アンケートにおける学生からの指摘や要望に対して、各教員が今後どのように対応するかを回答・周知する体制が整っている。（資料理 43）さらに各種 FD を行い、教育改善に取り組んでいる。（資料理 44）このように個々の授業を単位としたきめ細かい実践を達成できたことは、期待される水準を上回るとする判断根拠となる。

資料理 48 シラバス

登録コード	SB501100			市民開放授業			
授業題目	物理実験学			担当教員	竹下 徹		
英文授業名	Methods of Experimental Physics			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学年	1年
講義室	理学部第3講義室		授業形態	講義	備考	自由	
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素⑦：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く素養。 ・それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる。広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ知識と能力。 ・数学および自然情報学の専門知識を修得し、かつ、それらを活用する修練を十分に積み重ねており、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、培ってきた自身の数理学的知性に基づく総合的な判断・対処ができる、高度専門職業人としての能力と見識。 ・物理学を通して、自然を理解するための幅広い知識と理解力。 ・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】 <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的現象とその奥に潜む関係を考えることを磨く ・統計学の手法を学ぶ ・数値を統計的に処理し、結果を洞察できる ・自然現象に関わる確率的現象を知る ・多くの数値データからの確実な処理を行える ・数値データの取り扱いと、そこから得られる結果を評価できる。 <p>【授業のねらい】</p> <p>物理は実験と理論の両輪で自然を理解しようとする試みである。このため実験は、理論が自然を正しく説明するべく解釈を与えるものかどうかをテストするとともに、理論の予言に添わないあるいはそれとは異なる未知の現象を発見する唯一の方法である。このためには、実験により得られる「結果」が十分な「精度」を確保した「数値」であるかどうか重要である。これにより「測定結果」が妥当なものかどうか判定できる。</p> <p>この授業では、「測定」から得られる数値データの組の集積から「結果」という数値に至る道程を確かなものにする事をまず目標とする。さらに身の回りの種々の過程を試みて、その妥当性を直感的に把握できるようになることを狙う。</p> <p>また物理現象を説明する多くの統計理論のどれを実験結果を適切に説明するための理論として採用するかは、実験者の基本能力である。これを養うことも目標とする。</p>				<p>1. データの記述 (データの種類と代表化)</p> <p>2. 平均値、標準偏差、ヒストグラム</p> <p>3. データの相関</p> <p>4. 確率変数と分布-離散型、連続型</p> <p>5. 大数の法則と確率</p> <p>6. 理論分布 (二項分布)</p> <p>7. 理論分布 (ポアソン分布)</p> <p>8. 理論分布 (幾何分布、指数分布)</p> <p>9. 理論分布 (ガウス分布)</p> <p>10. 中心極限定理</p> <p>11. 精度の伝搬式</p> <p>12. 実験精度の計算</p> <p>13. 真の値の推定</p> <p>14. 信頼度、仮説</p> <p>15. 分布の検定</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <p>授業の折々に出題する宿題(次回授業時に提出)と期末試験の合計点で60点以上を合格とする。成績は以下の基準を適用する。</p> <p>秀 90点以上</p> <p>優 80-90点</p> <p>良 70-80点</p> <p>可 60-70点</p> <p>(6)成績評価の基準</p> <p>(7)事前事後学習の内容</p> <p>(8)履修上の注意</p> <p>物理学実験において必ず必要になる作業が精度の計算である。これに至る理論背景を理解し、実際数値計算できるようにすることが目標であり、自ら手計算を電卓を用いて行うこと。教科書を指定しないので、参考書web-siteを見ること。関数電卓を入手すること。</p> <p>(9)質問、相談への対応</p> <p>質問は宿題の中に書き込むことが出来これに返答する。研究室をおとずれ直接質問することを勧める。</p>			
<p>(3)授業のキーワード</p> <p>物理学実験、数値データ処理、統計学、精度、誤差</p>				<p>【教科書】</p> <p>【参考書】</p> <p>http://atlas.shinshu-u.ac.jp/class/exp.html</p>			
<p>(4)授業計画</p>							

(出典：シラバス)

②専門科目、共通教育科目

本学授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している。(前掲資料理 10、p10)

学年を追って、まず共通教育と理学全般の基礎教育(専門教育の一部)を1年次に修得し、2年次以降、各コースの専門教育へと段階的に履修するように構成されている。(資料理 49)

数学科 履修例 (先進プログラム: 数学科・数理科学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), さらに深く数学を追求するために
修士課程へ進学, その後博士課程に進学

卒業要件
 共通教育科目26単位
 グリーンサイエンス科目: 12単位
 コース必修科目36単位(共通科目を含む)
 コース選択科目: 50単位(共通科目, 他コースの科目, 探究科目を含む)
 計 124単位
 【自由科目】
 アドバンス科目: 5単位
 大学院科目: 先取り履修

4年次	3年次	2年次	1年次	専 門 科 目	卒業研究 (12単位) 代数学特別講義 I, 幾何学特別講義 I, 解析学特別講義, 数学特別講義 I (各2単位)		大学院科目先取り履修	
					環論, 体論, 多様体論, トポロジー, 実解析学 I / II, 線形代数学統論, 環論演習, 実解析学演習, 関数解析学 (各2単位)	電磁気論, 熱・波動方程式論, 変分法・解析力学, 数理モデル論, 偏微分方程式と量子論(各2単位)	アドバンス演習・実験・実習 III / IV(各1単位)	
					代数入門, 代数入門演習, 群論, 群論演習, 位相空間論, 位相空間論演習 (各2単位), 幾何入門, 関数論 I / II (各4単位) 微分積分学詳論Ⅲ(2単位)	情報処理 I, 数理統計学, 確率論基礎, 微分方程式と力学, 微分方程式と力学演習 (各2単位)	アドバンス演習・実験・実習 I / II (各1単位)	2年次生向け 外国語科目 (4単位)
					グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論Ⅱ (2単位)		アドバンスゼミ (1単位)	
線形代数学演習 I / II, 微分積分学演習 I / II (各1単位), 微分積分学詳論 I / II, 集合論(各2単位)								
グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群: 線形代数学 I / II, 微分積分学 I / II (各2単位)								
共通科目: 情報科学演習(2単位)								

数理科学
コース

自然情報学
コース

アドバンス科目

共通教育科目

物理学コース 履修例 (学際プログラム履修: 理学科・物理学コース)

企業

卒業(学位取得), 就職

卒業要件
 共通教育科目26単位
 グリーンサイエンス科目: 22単位以上
 コース必修科目64単位(共通科目,
 探究科目を含む)
 コース選択科目: 12単位(共通科目, 他
 コースの科目, 探究科目を含む)
 計 124単位

4年次	3年次	2年次	1年次	専 門 科 目	数学特別講義 I (2単位)	セミナー(2単位)	物理化学特論 I (2単位)	地球・惑星物理学(2単位)	進化遺伝学(2単位)	元素環境論(2単位)	
						電磁気学Ⅲ, 量子力学Ⅲ, 統計力学 I / II, 物理学演習 VII / VIII / IX (各2単位), 物理学実験Ⅲa / Ⅲb(各4単位), 宇宙物理学, 物理学最前線(各2単位)					
					情報処理 I (2単位)	力学Ⅲ, 熱力学, 電磁気学 I / II, 量子力学 I / II, 物理数学 II / III, 物理学演習 III / IV / V / VI, 物理学実験 II (各2単位)	物理化学 I / II (2単位)		地球環境論(2単位)	2年次生向け 外国語科目 (4単位)	
					グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論Ⅱ (2単位)						
力学 I / II, 物理学演習 I / II, 物理数学 I, 物理学実験 I (各2単位)											
グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群: 微分積分学 I / II, 線形代数学 I / II, 化学概論 I / II (各2単位)											
共通科目: 情報科学演習(2単位)											

数理自然
コース

物理学
コース

化学
コース

地球学
コース

生物学
コース

物質循環
学コース

共通教育科目

化学コース 履修例 (先進プログラム履修:理学科・化学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), 修士課程進学

卒業要件
共通教育科目26単位
グリーンサイエンス科目:22単位以上
コース必修科目46単位
(共通科目, 探究科目を含む)
コース選択科目:30単位(共通科目, 他コースの科目, 探究科目を含む)
計 124単位
【自由科目】
アドバンス科目:5単位
大学院科目:先取り履修

専門科目	4年次	卒業研究(10単位) セミナー(2単位) 大学院先取り履修					
	3年次	有機化学Ⅲ, 物理化学Ⅲ(各2単位), 有機化学実験, 物理化学実験(各3単位) 分析化学特論Ⅰ/Ⅱ, 無機化学特論Ⅰ/Ⅱ, 有機化学特論Ⅱ/Ⅲ, 物理化学特論Ⅰ/Ⅱ(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅲ/Ⅳ(各1単位)					
	2年次	熱力学(2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅰ/Ⅱ(各1単位)	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅱ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅱ, 線形代数学Ⅱ, 物理学実験(各2単位)				2年次生向け 外国語科目 (4単位)
	1年次	基礎分析化学, 基礎無機化学, 基礎有機化学, 基礎物理化学, 基礎化学実験(各2単位), 化学数学(2単位) アドバンスゼミ(1単位)	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅰ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅰ, 線形代数学Ⅰ, 物理学概論Ⅰ, 地学概論Ⅰ(各2単位)				教養科目(15単位) 外国語科目(4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
		共通科目:情報科学演習(2単位)					
	物理学コース	化学コース	地球学コース	生物学コース	物質循環学コース	共通教育科目	

地球学コース 履修例 (先進プログラム履修:理学科・地球学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), さらに幅広い専門知識と
研究の深化へ向けて修士課程へ進学

卒業要件
共通教育科目26単位
グリーンサイエンス科目:22単位以上
コース必修科目42単位(共通科目, 探究科目を含む)
コース選択科目:34単位(共通科目, 他コースの科目, 探究科目を含む)
計 124単位
【自由科目】
アドバンス科目:5単位
大学院科目:先取り履修

専門科目	4年次	卒業研究(10単位) セミナー(2単位) 大学院先取り履修					
	3年次	分析化学Ⅰ, 無機化学Ⅰ(各2単位) 地質調査演習(4単位), 野外巡検Ⅱ, 地球学コロキウムⅠ/Ⅱ(各2単位), 堆積学, 地球・惑星物理学, 堆積・古生物学実験Ⅰ/Ⅱ(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅲ/Ⅳ(各1単位)	地質学入門実習, 地質学序説実習(各1単位), 地質学序説(2単位) アドバンスゼミ(1単位)	地球システム学Ⅰ, 生態システム学Ⅰ(各2単位)			
	2年次	地球史学, 鉱物学, 岩石学, 地層学, 第四紀学, 鉱物・岩石学実験Ⅰ/Ⅱ, 野外巡検Ⅰ, 地質調査法実習Ⅰ/Ⅱ, 科学英語Ⅰ/Ⅱ(各2単位), 古生物学, 日本地質(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅰ/Ⅱ(各1単位)	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅱ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅰ/Ⅱ, 線形代数学Ⅰ/Ⅱ, 物理学実験(各2単位)	細胞生物学(2単位) 微生物代謝論(2単位)			2年次生向け 外国語科目 (4単位)
	1年次	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅰ(2単位) 基礎理学科目群:物理学概論Ⅰ/Ⅱ, 化学概論Ⅰ/Ⅱ, 生物学概論Ⅰ/Ⅱ, 化学実験, 生物学実験(各2単位)	地質学入門実習, 地質学序説実習(各1単位), 地質学序説(2単位) アドバンスゼミ(1単位)				教養科目(15単位) 外国語科目(4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
		共通科目:情報科学演習(2単位)					
	物理学コース	化学コース	地球学コース	生物学コース	物質循環学コース	共通教育科目	

生物学コース 履修例 (学際プログラム履修:理学科・生物学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), さらに幅広い専門知識と
専修免許取得へ向けて修士課程へ進学

卒業要件
共通教育科目26単位
グリーンサイエンス科目:22単位以上
コース必修科目41単位(共通科目,
探究科目を含む)
コース選択科目:35単位(共通科目、他
コースの科目、探究科目を含む)
計 124単位

専門科目	4年次	有機化学特論 V (2単位)	地球・惑星物理学、火山学(各2単位)	セミナー(2単位)	生物地球化学 I、大気環境学(各2単位)	
	3年次	熱力学 I、電磁気学 I、統計力学 I (各2単位)	分析化学 I、無機化学 I、基礎物理化学(各2単位)	岩石学、第四紀学、古生物学、構造地質学(各2単位)	生物学コロキウム(4単位)、発生生物学実験、生態学実験(各3単位)、生物統計学演習(2単位)、進化生物学特論 I/II(各2単位)	
	2年次	力学 I、量子力学 I (各2単位)		生態学、遺伝学、発生生物学、生体生化学、進化多様性生物学(各2単位)系統分類学実験、機能形態学実験、生体生化学実験(各3単位)	微生物代謝論(2単位)	2年次生向け 外国語科目 (4単位)
	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 II (2単位) 基礎理学科目:微分積分学 I/II、線形代数学 I/II、物理学実験(各2単位)					
	細胞生物学、基礎生物学実験、系統分類学(各2単位)					
1年次	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目:物理学概論 I/II、化学概論 I/II、地学概論 I/II、化学実験、地学実験(各2単位)					教養科目(15単位) 外国語科目(4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
共通科目:情報科学演習(2単位)						
物理学コース		化学コース		地球学コース	生物学コース	物質循環学コース
						共通教育科目

物質循環学コース 履修例 (標準プログラム履修:理学科・物質循環学コース)

企業・公的機関

卒業(学位取得), 就職

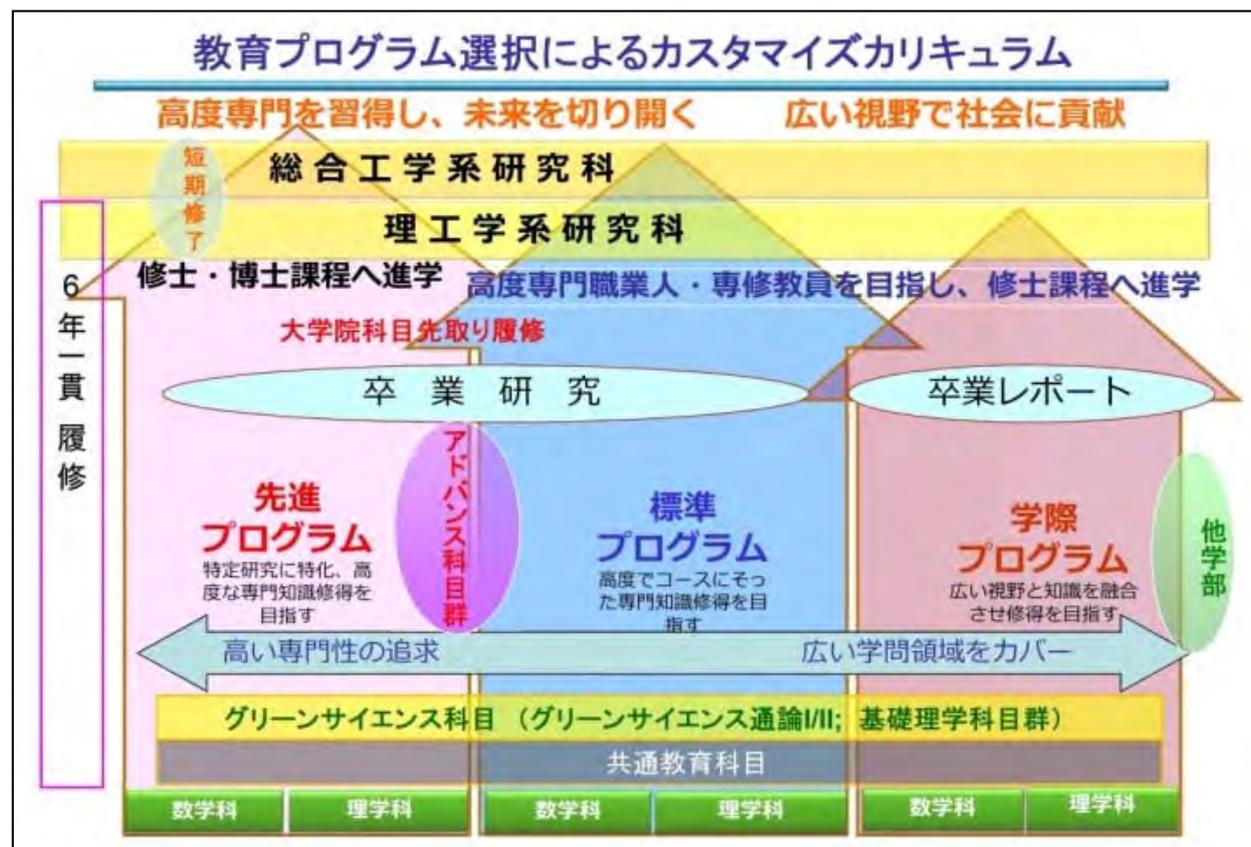
卒業要件
共通教育科目26単位
グリーンサイエンス科目:22単位以上
コース必修科目41単位(共通科目,
探究科目を含む)
コース選択科目:35単位(共通科目、他
コースの科目、探究科目を含む)
計 124単位

専門科目	4年次				システム解析学セミナー、セミナー(各2単位) 卒業研究(10単位)	
	3年次	分析化学 I/II、有機化学 I/II (各2単位)	第四紀学、堆積学、地球史学(各2単位)	遺伝学、進化遺伝学(各2単位)	物質循環学コロキウム I/II、野外調査実習 III(各1単位)、システム解析学実習 I/II(各2単位)、堆積環境学、生態毒性学、生態遷移論、群集生態学(各2単位)	
	2年次	熱力学(2単位)	無機化学 I/II (各2単位)	細胞生物学、分子生物学(各2単位)	地球システム学 I/II、生態システム学 I/II、地球環境史学、大気環境学、環境基礎理論、環境計測学入門、微生物代謝論(各2単位)、科学英語 III/IV、物質循環基礎実習 I/II、野外調査実習 II(各1単位)	2年次生向け 外国語科目 (2単位)
	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論 II (2単位)、 基礎理学科目:線形代数学 II、物理学実験(各2単位)					
	物質循環学序説 I/II(各2単位)、野外調査実習 I(1単位)					
1年次	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群:物理学概論 I/II、化学概論 I/II、微分積分学 I/II、線形代数学 I、化学実験(各2単位)					教養科目(15単位) 外国語科目(6単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
共通科目:情報科学演習(2単位)						
物理学コース		化学コース		地球学コース	生物学コース	物質循環学コース
						共通教育科目

(出典:理学部事務部作成)

③平成 27 年度改組カリキュラムの特徴（資料理 50～51）

資料理 50 本学部の教育課程（学年次別）
 1 年次・・・共通教育科目（26 単位）以外に理学の基礎科目としてグリーンサイエンス通論（新規・必修科目 4 単位）、微分積分学・線形代数学（新規・必修科目 8 単位）、および自然科学科目を理学部共通科目として履修。
 2 年次以降・・・上述の授業で得た基礎知識を土台として各コースの専門科目（理学の基礎科目を含み計 98 単位以上）を履修し、高い専門性を系統的に修得できるようにになっている。



（出典：理学部事務局作成）

資料理 51 卒業に必要な単位数

区分	科目区分	単位数	
共通教育科目	教養科目	15	
	基礎科目	外国語科目	8
		健康科学科目	1
		新入生ゼミナール科目	2
	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目 (備考参照)	
	小計	26	
専門科目	専門科目	98	
/	合計	124	

備考：外国人留学生在が日本語・日本事情の科目を履修し、修得した単位については、教養科目及び外国語科目の単位に算入することができる。

（出典：理学部学生便覧）

必修科目により各コースの専門性を確実に身につけた上で、他コースも含めて広く選択科目を履修することにより理学の幅広い知識を習得することもできるようになっている。
(前掲資料理 8、p 8)

各コースそれぞれに卒業要件等を学生便覧より学生に示している。(資料理 52)

資料理 52 数学科の卒業要件

V 卒業に必要な単位数(卒業要件)

区 分	1年次 に修得を要する単位		2年次 に修得を要する単位		3年次 に修得を要する単位		4年次 に修得を要する単位		卒業要件
	内容	単位数	内容	単位数	内容	単位数	内容	単位数	
共通 教育 科目	教養科目	選択	「環境科学群」から2単位選択必修 「人文科学群」 「社会科学群」 「自然科学群」 「体育・スポーツ群」 「教養ゼミナール群」から50又は2単位 ◆初修外国語科目(2単位以内)は「人文科学群」へ算入可	15					15 (5つ以上の科目群から選択)
	外国語科目	必修	英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅠ)	2			8
			英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ)	1					
			英語(リスニング&リーディングⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅡ)	2			
			英語(リスニング&リーディングⅡ)	1					
	健康科学科目	必修	健康科学・理論と実践	1					1
	新入生ゼミナール科目	必修	新入生ゼミナール	2					2
日本語・日本事情科目	選択	<外国人留学生対象>	-						
計			22		4			26	
専門 科目	グリーンサイエンス通論	必修	グリーンサイエンス通論Ⅰ	2	グリーンサイエンス通論Ⅱ	2			4
	基礎理学科目群	必修	微分積分学Ⅰ	2					8
			微分積分学Ⅱ	2					
			線形代数学Ⅰ	2					
			線形代数学Ⅱ	2					
	学部共通	必修	情報科学演習	2					2
	必修科目			10		24			34
選択科目A								8	
選択科目B 探究科目					* 1			42	
計								98	
合計		1年次 に修得を要する単位		2年次 に修得を要する単位		3年次 に修得を要する単位		4年次 に修得を要する単位	124

* 1 選択科目B、探究科目(42単位)について

先進プログラム 標準プログラム	コース選択科目B	30単位	42単位
	卒業研究	12単位	
学際プログラム	コース選択科目B	30単位	42単位
	理学部学部共通科目、数学科の選択科目、理学部の専門科目、他学部の専門科目、長野県内で単位互換協定を結んでいる他大学、5大物理学部共通科目を12単位取得	12単位	

(出典：平成 27 年度理学部学生便覧)

④ 共通教育

共通教育科目は、学士課程共通の DP（前掲資料理 3、p3）に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。（資料理 53～54）

資料理 53 学位授与の方針マップ（共通教育）

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)	
開講年度	2014	年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通	

検索 ダウンロード シラバス検索へ

201～300件（全1260件中） <前へ 次へ>

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03097	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○						○				
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌学ゼミ					○								○		
03198	自然誌・博物学ゼミ													○	○	
03199	植物生態学ゼミ	○												○		
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○										○		
03203	物理学の世界【SUNS】			○		○										
03205	身近な化学					○								○		
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○					
03300	「物質工学の世界」ゼミ					○								○		

（出典：信州大学シラバス検索システム）

資料理54 共通教育シラバス

時間割コード	01088		授業科目	グローバルに生きるゼミ	担当教員	松岡 幸司	
英文授業名	Global Awareness Seminar					RUZICKA DAVID EDWARD	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育211演習室	授業形態	演習	備考			
精神と思想	<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素A④：全学共通・⑤みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができ【言語認識 自己啓発スキル】</p> <p>【授業の達成目標】 ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。 【授業のねらい】 名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。 社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで漠然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。 そこでこのゼミでは： ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？ ・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？ この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということも現実的に考えることを通じて、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。 最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要 「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。） 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようになります。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。）</p> <p>(3)授業のキーワード</p>			<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画 1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(I) 7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(II)（担当：Ruzicka） 9. グループ発表 10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 ☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法 ・毎回の授業終了後の提出物：30% ・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30% ・個人発表（相互評価+教員による評価）：30% ・個人発表の報告書：20%</p> <p>(6)履修上の注意 ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。 ・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。 ・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ませ」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</p> <p>(7)質問、相談への対応 オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。 研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただし、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。 松岡：mailwur@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p> <p>【教科書】 特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。 【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。</p>			

(出典：シラバス)

2. 学生や地域社会からのニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

(1) 授業改善アンケート、満足度調査及び高校関係者へのアンケート

毎学期中(6月及び11月)に授業改善アンケートを(前掲資料理43、p45)、卒業時には満足度調査を実施している。また、高大連携事業を通じて高校生や高校教員からのニーズをくみ取る体制が整っている。(資料理55~57)

資料理55 授業改善のためのフィードバックループ

調査結果は直ちに授業にフィードバックされ、また教務委員会が中心となって、授業改善の内容を把握している。また、満足度調査の結果は評価・点検委員会が中心となって集約され、教育マネジメント室において改善策を議論する体制が整備されている。



(出典：理学部事務部作成)

資料理 56 (満足度調査. 平成 26 年度より「進路・教育に関する調査」と呼称)

学部 4 年生 (卒業予定者)

教育・進路に関する調査

この調査は学生の皆さんが受けている教育や進路を決定する際に行った活動内容を調べるものです。調査の結果は、信州大学理学部の教育の充実のために活かしていきたいと考えています。ご協力を宜しくお願いします。なお、調査の分析は統計的な処理により行い、皆さんから回答された内容は慎重かつ厳重に管理してまいります。また、調査結果は、信州大学理学部の教育改善のために適切な方法で公開・利用されますが、それ以外には利用されることは決してありません。ご協力よろしくをお願いします。

平成 27 年 1 月 8 日

評価・点検委員長 谷内 靖
就職委員長 中山 一昭

アンケートへの回答が終わりましたら、**1 月 29 日 (木)** までに
A 棟 1 階学生支援グループ、南支援室及び北支援室にある回収箱に提出してください。
ご協力よろしくお願いします。

信州大学理学部卒業生アンケート 1 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
質問 1 あなたの所属する学科はどこですか。 ①数理・自然情報科学科 ②物理科学科 ③化学科 ④地質科学科 ⑤生物科学科 ⑥物質循環学科		
1	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
質問 2 あなたの入学年はいつですか。 ①2012年4月 ②2011年4月 ③2010年4月 ④2009年4月 ⑤2008年4月 ⑥2007年4月 ⑦2006年4月 ⑧その他		
2	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑧
質問 3 性別を教えてください。 ①男性 ②女性		
3	① ②	
質問 4 入学形態はどれですか。 ①一般選抜(前期) ②一般選抜(後期) ③留学生 ④3年次編入学 ⑤帰国子女選抜 ⑥推薦入試・A0入試 ⑦その他		
4	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
質問 5 あなたの 4 月からの進路は次のどれですか？ ①就職 ②大学院進学(信大) ③大学院進学(他大学) ④就職希望だけ未定 ⑤進学希望だけ未定 ⑥その他		
5	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥
質問 6 就職・進路について意識し始めたのはいつからですか？ ①1年生 ②2年生 ③3年生前期 ④3年生後期 ⑤4年生前期 ⑥4年生後期 ⑦その他		
6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
●	1	次のページへ続く ●

信州大学理学部卒業生アンケート 2 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
信州大学で受けている教育について、以下の意見や感想についてあてはまる数字をマークしてください。		
① 共通教育課程に対する満足度		
質問 7 共通教育を受けたことによって、自分の世界が広がった。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
7	① ② ③ ④ ⑤	
質問 8 共通教育で学んだことによって、学部を越えた友人ができた。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
8	① ② ③ ④ ⑤	
質問 9 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)のどれを履修しましたか。(複数回答可) ①数学(微分積分学I) ②物理学(力学) ③化学 ④生物 ⑤地学		
*9	① ② ③ ④ ⑤	
質問 10 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)で得た知識は、専門課程の学習を始めるにあたって役に立った。※質問9で「①履修した」を回答した人のみ回答してください。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
10	① ② ③ ④ ⑤	
質問 11 共通教育で教養科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
11	① ② ③ ④ ⑤	
質問 12 共通教育で語学科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
12	① ② ③ ④ ⑤	
質問 13 共通教育に関してご意見等ありましたらお書きください。		
13		
●	2	次のページへ続く ●

信州大学理学部卒業生アンケート 3 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)					●
② 理学部に対する満足度					
質問 14 学部の教育は総合的にみて満足のいくものである ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
14	①	②	③	④	⑤
質問 15 自然科学に対し知的好奇心・探究心がそそられる授業が多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
15	①	②	③	④	⑤
質問 16 科学の発展に貢献をしたいと考えるようになった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
16	①	②	③	④	⑤
③ 授業・学部教育課程に対する満足					
質問 17 講義の授業内容のレベルは適切である ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
17	①	②	③	④	⑤
質問 18 各講義の人数は内容に対して適切であった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
18	①	②	③	④	⑤
質問 19 講義には、学習意欲や興味が増すように工夫された授業が多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
19	①	②	③	④	⑤
質問 20 教職, 学芸員, JABEE など資格取得に役立つ授業を受講できた ①受講しなかった ②受講したが資格を取得(申請)しなかった ③受講して資格を取得(申請)した(又は申請する予定である) ④その他					
20	①	②	③	④	④
質問 21 視野を広げるのに役立つ授業が用意されていた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
21	①	②	③	④	⑤
質問 22 実験・実習・演習の内容は満足できるものだった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
22	①	②	③	④	⑤
質問 23 実験・実習・演習には、スキルが身につくものが多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う					
23	①	②	③	④	⑤
●			3	次のページへ続く	●

信州大学理学部卒業生アンケート 4 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)				●
質問 24 卒業研究では、自ら課題を発見して解決する方法を習得できた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
24	① ② ③ ④ ⑤			
質問 25 先端分野の勉強ができた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
25	① ② ③ ④ ⑤			
質問 26 専門的な知識を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
26	① ② ③ ④ ⑤			
質問 27 論理的な考え方を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
27	① ② ③ ④ ⑤			
質問 28 コミュニケーション能力を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
28	① ② ③ ④ ⑤			
質問 29 成績評価結果は公正であると感じた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
29	① ② ③ ④ ⑤			
④ 教職員の対応・施設・設備に対する満足度				
質問 30 学習に関する相談に教員はよく対応してくれた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
30	① ② ③ ④ ⑤			
質問 31 職員の窓口対応は親切であった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
31	① ② ③ ④ ⑤			
質問 32 実験室・演習室は充実している ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
32	① ② ③ ④ ⑤			
質問 33 図書館・リフレッシュラウンジなど自主的な学習のための施設・設備が整備されている ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
33	① ② ③ ④ ⑤			
●		4	次のページへ続く	●

信州大学理学部卒業生アンケート 5 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)				●											
⑤ その他															
質問 34 大学生活で、何が自分にプラスになりましたか (複数回答可) ①講義 ②実験・実習 ③野外実習 ④卒業研究 ⑤教職員 ⑥先輩 ⑦友人 ⑧自主ゼミ ⑨サークル ⑩自治会 ⑪部活動 ⑫アルバイト ⑬その他															
*34	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	
質問 35 自分の専攻分野に満足していますか。 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない ④() 専攻がよかった ⑤その他															
35	①	②	③	④	⑤	④	⑤	理由							
質問 36 信州大学 (理学部) では開講されていないが、あるとよいと思う科目名を書いてください。															
36															
質問 37 信大理学部への進学を後輩・知人に勧めたいですか。 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない ④その他															
37	①	②	③	④	④	理由									
質問 38 そのほか、教育に関するご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。															
38															
●	ご協力ありがとうございました。				5	次は進路に関する実態調査です				●					

信州大学理学部卒業生アンケート 6 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
⑥ 進路に関する実態調査		
質問 39 就職活動を行いましたか？ ①はい ②いいえ (進学希望) ③いいえ (その他の理由) ④その他		
39	① ② ③ ④	④
就職活動を行った方にお聞きします。		
質問 40 就職活動 (自己分析・情報収集など) に取り組んだ時期はいつからですか？ ①3年4月以前 ②3年前期 ③3年9~10月 ④3年11月~12月 ⑤3年1月~2月 ⑥3年3月~4年4月 ⑦4年5月以降 ⑧その他		
40	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑧
質問 41 就職活動をする先輩をみてどのように感じていましたか？ ① 厳しい環境が続くから、自分も頑張らないといけないと思った ② 厳しい環境だけけど、自分は何とかなるのではないかと思った ③ 先輩の活動状況をあまりよく知らない ④その他		
41	① ② ③ ④	④
質問 42 エントリー (教員・公務員等志望の場合は受験) した数を教えてください。 ①1から3社 ②4から5社 ③6から10社 ④10社~20社 ⑤20社以上		
42	① ② ③ ④ ⑤	
質問 43 内定 (内々定) を得た数はいくつですか？ ①1社 ②2社 ③3社 ④4社以上 ⑤0社		
43	① ② ③ ④ ⑤	
質問 44 内定 (内々定) が決まった時期はいつですか？ (複数の内定をもらった方は複数回答可) ①4/30以前 ②5/1~ ③5/15~ ④6/1~ ⑤6/15~ ⑥7/1~ ⑦8/1~ ⑧9/1~ ⑨10/1~ ⑩その他		
*44	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑩	
質問 45 質問 43 で ①~④ を選択された方 内定を得たのは希望していた職種でしたか？ ① はい ② いいえ ③ 希望していない職種もあった		
45	① ② ③	
質問 46 就職活動の相談ほどなたにしていましたか？ (複数回答可) ①学内の友人・知人 ②学外の友人・知人 ③サークル等の先輩 ④就活で知り合った社会人 ⑤両親などの保護者 ⑥キャリアサポートセンターのスタッフ ⑦大学の先生 ⑧彼・彼女 ⑨インターネット等の質問サイト ⑩その他		
*46	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑩	
質問 47 就職活動を通じてよかったこと・価値のあったことは何ですか？ (複数回答可) ①いろいろな人に会える ②友人等からの情報や自己分析・企業研究・面接から視野が広がる ③自分のやりたいこと興味のあることがわかってくる ④その他		
*47	① ② ③ ④	④
質問 48 辛かったことは何ですか？ (複数回答可) ①この厳しい社会情勢・就職環境では自分が内定をもらえる気がしない ②お金がかかる ③内定をもらえなかったことを考えると憂鬱になる ④やらなければならないことがたくさんあるので面倒くさい ⑤研究の時間を奪われる ⑥バイト・遊びの時間を奪われる ⑦その他		
*48	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
●		6 ●

信州大学理学部卒業生アンケート 7 (選択項目については番号を塗りつぶしてください) ●												
就職活動するうえで協力してほしいことがありましたら教えてください。												
質問 49 理学部の教員や職員に対して (複数回答可) ①特になし ②研究時間・セミナー参加への配慮 ③自己分析へのコメント・他己分析 ④エントリーシートの書き方 ⑤敬語やマナーについて教えてほしい ⑥社会人としての心構えを教えてください ⑦卒業生の就職先を教えてください ⑧仕事内容や業界について教えてほしい ⑨面接対策 ⑩とにかく、そっとしておいてほしい ⑪その他												
*49	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
質問 50 両親・保護者に対して (複数回答可) ①特になし ②金銭的支援 ③自己分析へのコメント・他己分析 ④エントリーシートの書き方 ⑤敬語やマナーについて教えてほしい ⑥社会人としての心構えを教えてください ⑦仕事内容や業界について教えてほしい ⑧面接対策 ⑨とにかく、そっとしておいてほしい ⑩その他												
*50	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
今後、就活を行う友人・後輩へ一言メッセージをお願いします！												
【自己分析】												
【企業研究】												
【資料請求等】												
【合同セミナー・説明会参加】												
【インターンシップ】												
【筆記試験対策】												
【経済的負担】 就活でおよそどのくらいの費用がかかりましたか？ (万円)												
【その他】												
●	アンケートは以上です							7	ご協力ありがとうございました			●

(出典：理学部事務部作成)

資料理 57 高大連携事業における高校生へのアンケート

<p>「大学や理学部に対するイメージについてのアンケート」 H27.12.23 実施</p> <p>このアンケートは、みなさんが大学や信州大学理学部などについて、どのようなイメージを持っているかをしり、今後に活かすことを目的としています。お手数ですが、回答をよろしくお願い致します。 ※選択式の質問は、自分に当てはまる番号のマーク（だ円）を鉛筆またはボールペンで塗りつぶしてください。</p>			
<p>あなたの考えていること、思っていることについてお聞きします。</p>			
<p>質問 1 数学や理科などの科学分野で興味のあること、興味ある分野を教えてください。</p>			
1			
<p>質問 2 現在あなたは、どの学部・分野に進学したいと考えていますか。</p>			
2			
<p>質問 3 大学進学についてどのように考えていますか。 ①ぜひ長野県内に進学したい ②できれば長野県内に進学したい ③どちらでもよい、こだわりはない ④できれば長野県外に進学したい ⑤ぜひ長野県外に進学したい ⑥その他（下記に書いてください）</p>			
3	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥その他	
<p>理由等あればお書きください。一人暮らしをしたい。費用をおさえたい。都会に行きたい。やりたい分野を学べる学部が県内に無い など</p>			
<p>質問 4 大学卒業後についてどのように考えていますか。 ①ぜひ長野県内で就職したい ②できれば長野県内で就職したい ③どちらでもよい・こだわりはない ④できれば長野県外で就職したい ⑤ぜひ長野県外で就職したい ⑥その他（下記に書いてください）</p>			
4	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥その他	
<p>質問 5 大学院進学についてどのように考えていますか。 ①ぜひ大学院へ進学したい ②できれば大学院へ進学したい ③どちらでもよい・こだわりはない ④大学院へ進学するつもりはない ⑤その他（下記に書いてください）</p>			
5	① ② ③ ④ ⑤	⑤その他	
<p>質問 6 質問 5 で④以外に回答した方にお聞きします。信州大学の理学系大学院に進学したいですか。 ①ぜひ進学したい ②一応、進学を考えたい ③進学対象の一つとして考えたい ④あまり思わない ⑤全く思わない ⑥よくわからない・その他（下記に書いてください）</p>			
6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥	
<p>理学部のイメージについてお聞きします。</p>			
<p>質問 7 「理学部」についてどのようなイメージがありますか。（複数回答可） ①教養が身につく ②専門分野を深く学べる ③教育内容のレベルが高い ④将来の選択肢が増える ⑤社会で役立つ力が身につく ⑥学生生活が楽しめる ⑦勉強する環境が整っている ⑧周囲からの評判がよい ⑨資格取得に有利 ⑩その他（下記に書いてください）</p>			
7※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑩その他	
<p>質問 8 「理学部の学生」についてどのようなイメージがありますか。（複数回答可） ①知的な ②落ち着いた ③個性的な ④まじめな ⑤のんびり ⑥明るい ⑦自由な ⑧おしゃれな ⑨上品な ⑩先進的な ⑪その他</p>			
8※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	⑪その他	
●	裏面に続きます		●

		●
<p>質問 9 理学部を卒業した人はどのような分野に就職していると思いますか。(複数回答可)</p> <p>①大学の教員 ②中学や高校の教員 ③研究所・研究機関 ④博物館学芸員 ⑤公務員(技術系) ⑥公務員(事務系) ⑦技術者 ⑧システムエンジニア ⑨アクチュアリー ⑩民間企業(イメージした企業名を下記に書いてください) ⑪その他(下記に書いてください)</p>		
9※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	
	⑩企業名	⑪その他
<p>質問 10 その他、信州大学理学部のイメージ、意見や感想、信州大学理学部の先生や学生とやってみたことがあれば、自由にお書きください。</p>		
●	ご協力ありがとうございました。	●

(出典：理学部事務部作成)

(2) 学生への就学指導

本学部では、成績や出欠状況をふまえた担任による生活・学修指導を行っている。(前掲資料理 28、p 34)

また、学生の成績表を年 2 回全保護者に送付している。(資料理 58)

資料理 58 保護者への成績表の送付

平成27年3月

保証人（保護者） 各位

信州大学理学部

平成26年度後期終了時「成績通知書」の送付について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
 日頃は本学部の教育・研究にご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。
 さて、このたびは標記学期の成績が確定しましたので、ご子息またはご息女の修学状況について、同封の「成績通知書」により、お知らせ申し上げます。
 成績通知書については、下記をご参照ください。
 また、単位に関する留意事項を本紙裏面または別紙に記載しましたので、併せてご参照ください。

記

◆成績通知について

- ・本学部においては、平成25年度前期分から通知を開始しました。
- ・平成26年度後期終了時の成績通知は、学部1～4年生の保証人（保護者）様あてに送付します。
- ・本人への成績通知は、3月下旬に別途済んでいます。

◆学年について

本学部の進級時期は4月（留年生等は10月もあり）となっており、同封の「成績通知書」に記載の学年は、平成26年度における学年となります。

◆成績通知書の見方について

- ・年欄……〔例〕 13(1) の場合、2013年度1年生時に履修したことを示します。
- ・評価欄……「秀，優，良，可，認定」：合格
「不可，不受講」：不合格

◆GPA制度について

平成26年度入学生(14S)から「GPA制度」を導入しています。詳細は別紙「GPA制度について」（平成26年度入学生(14S)の保護者のみ同封）をご確認ください。

【学部事務担当】

信州大学理学部 学生支援グループ（担当：西村）
 〒390-8621 松本市旭3-1-1 TEL 0263-37-3320

※学生個人の修学状況、履修相談等に関するお問い合わせは、裏面「問い合わせ先」に掲載の学科担当教員等へ直接ご照会ください。

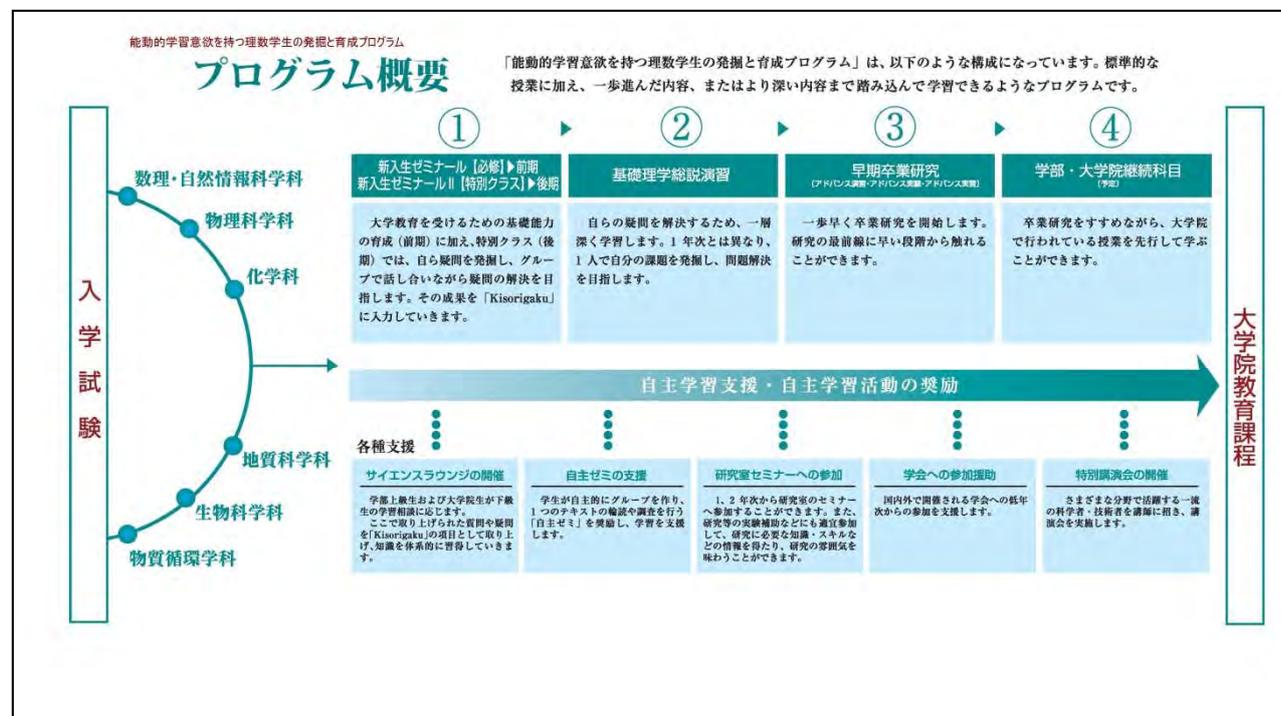
(出典：理学部事務部作成)

(3) 理数学生応援プロジェクト (平成 21 年度～平成 25 年度) (資料理 59～63)。

資料理 59 理数学生応援プロジェクト概要

※本学部において、もっと学びたいという学生のニーズに応えるため、文部科学省の「理数学生応援プロジェクト」採択を受け、「能動的学習意欲をもつ理数学生の発掘と育成プログラム」を平成 21-24 年度の 4 年間実施した。

- ・自ら積極的に学ぼうとしている学生を応援する主体的な学修 (アクティブ・ラーニング) プログラム
- ・通常のカリキュラムに加えて、「新入生ゼミナール (特別クラス)」、「基礎理学総説演習」、「早期卒業研究」[アドバンス演習 (数理・理論科学分野), アドバンス実験 (実験科学分野), アドバンス実習 (フィールド科学分野)], 「学部・大学院継続科目」(大学院授業科目先取り科目) を用意
- ・サイエンスラウンジ (毎年 100 回以上の開催), 自主ゼミナール, 特別講演会 (毎年 10 回以上の開催), 国内外の学会への参加支援 (毎年 20 人以上への支援), 研究インターンシップ, チュートリアル教育, 早期研究室配属など, 多様なプログラム



(出典：信州大学理学部ホームページ「理数学生応援プロジェクト 能動的学習意欲を持つ理数学生の発掘と育成プログラム」をもとに理学部事務局作成)

資料理 60 理数学生応援プロジェクト 学年次別の教育課程・取り組み

- 新入生ゼミナールII(特別クラス)

- 1年次(後期)

- 【授業のねらい】

理学部では信州の豊かな自然、歴史と伝統の中で、調和の取れた自然観を育み、基礎的な研究を通して、豊かな学識と将来の複雑、多様な社会変化にも対応できる能力の育成を目指すというコンセプトのもとで、教育をおこなっています。特別クラスでは、ウェブ上のシステム「Kisorigaku」を利用することにより、積極的な学習意欲および問題意識をもった学生をより多く育成するのが目的です。



- 【授業の概要】

「Kisorigaku」とは、世界的によく知られているインターネット上の百科事典「Wikipedia」と同じソフトウェアを用いて理学部が独自に立ち上げたウェブ上のシステムです。この授業では、ガイダンスで「Kisorigaku」の基本的な入力方法について学んだ後、少人数のグループに分かれ、教員の指導の下で各グループでテーマを決めます。グループごとに、そのテーマに関して考察した内容をまとめて「Kisorigaku」に掲載します。テーマについて各自が調べたことや考察したことについてグループ内でディスカッションすることにより、理解を深め、またコミュニケーション能力を高めます。

- 【授業計画】

1. ガイダンス
2. テーマの決定
3. グループによる「Kisorigaku」作成
4. 中間報告会
5. グループによる「Kisorigaku」作成
6. 成果報告会

- 基礎理学総説演習

- 2年次(前期・後期)

テーマは教員の指導の下で各学生が定め、それに関する考察をまとめて「Kisorigaku」に掲載することを目指します。「サイエンスラウンジ」で出された疑問や質問に関する解説や「自主ゼミ」で議論した内容を掲載してもかまいません。基本的に個人で行いますが、中間報告会などを通してお互いのテーマについてディスカッションも行います。

- 早期卒業研究(アドバンス演習)

- 3年次(前期・後期)

セミナー形式でテキストの輪読を行います。内容、および形態は学生の自主性を尊重して、相談の上決定します。また、参加者の都合の良い時間に週に90分程度のセミナーを行います。セミナー以外に、外部講師を招いて入門的な内容の講演を行ない、更に、講師とのフリーディスカッションも行います。



- その他

- カリキュラム以外の取り組み

以下のような取り組みを学年を問わず行っています。

- 【サイエンスラウンジ】

上級生が下級生の質問に答える機会を作るための取り組みとして「サイエンスラウンジ」を行っています。

- 【自主ゼミ】

学生が自主的にグループを作り、一つのテキストの輪読などを行なう「自主ゼミ」を奨励しその援助を行います。具体的には、テキスト費用、コピー機の利用、セミナー室の確保などです。

(出典：理学部事務部作成)

資料理 61 理数学生応援プロジェクト実績

		平成22年度	平成23年度	平成24年度
サイエンスラウンジ	参加人数	307	606	543
	実施回数	80	130	119
自主ゼミナール	参加人数	16	12	12
	参加状況 (グループ数)	5	3	3
特別講演会	参加人数	396	412	316
	開催件数	10	10	11
国内学会、学術交流会等への参加	支援人数	24	32	25
	支援状況(件)	2	9	5
研究インターンシップ	受講者数		1	5
チュートリアル教育	参加人数	44	28	109
自然環境診断Jr.マイスター制度	履修者	—	14	8
早期研究室配属	人数	20	12	10
先取り履修(先端科学特別講義)	履修者	—	—	42
	科目	—	—	12

(出典：理学部事務部作成)

資料理 62 理数学生応援プロジェクト 講演会・発表会の実績状況

開催年月日	講演、講師
平成22年6月26日	「生物の保全(松本市内のヘイケボタルの保全を例に)」 藤山 静雄(信州大学・理学部)
平成22年7月13日	「古海洋変遷を通過しての放散虫の進化と多様性」 石谷 佳之(JAMSTEC)
平成22年10月16日	「琵琶湖の生い立ち—特に琵琶湖層群にみられる動植物の進化史を中心に—」 山川 千代美(琵琶湖博物館)
平成22年11月4日	「今、太陽が変だ」 柴崎 清登(国立天文台・野辺山太陽電波観測所)
平成22年11月12日	「国際宇宙ステーションにおける」 太陽活動の観察古賀 清一(宇宙航空研究開発機構:JAXA)
平成22年11月26日	「ゴミから見えてくる人の行動心理」 沖野 外輝夫(信州大学・名誉教授)
平成22年11月26日	「素数ゼミの秘密:ノアの箱舟に乗ったセミたち」 吉村 仁(静岡大学・創造科学技術大学院)
平成22年12月13日	「製薬会社:医薬品開発-創薬研究現場での化学と生物物理」 大軽 貴典(田辺三菱製薬会社・創薬化学第一研究所)
平成22年12月21日	「人間社会を磁気嵐から守るために~宇宙天気予報をめざす~」 宗像 一起(信州大学・理学部)
平成23年2月1日	「完全数と関連するお話」 花木 章秀(信州大学・理学部)
平成23年2月3日	「超弦理論とはどんなものか」 米谷 民明(放送大学)
平成23年4月26日	平成22年度成果発表会
平成23年7月11日	「東北大震災から学んだこと、伝えたいこと」 塚原 弘昭(信州大学・名誉教授)
平成23年7月12日	平成23年度成果発表会
平成23年7月19日	「パズルの中の数理」 坂井 公(筑波大学大学院・数理物質科学研究科)
平成23年10月18日	「一流研究へのアプローチ...今なぜヨウ素なのか」 横山 正孝(千葉大学・名誉教授)
平成23年10月21日	「鑑定の科学—物質から過去を読む—」 中井 泉(東京理科大学・理学部応用化学科)
平成23年11月25日	「科学・技術と社会の関わり—文化としての科学—」 鈴木 直(関西大学・システム理工学部)
平成23年11月30日	「数学・社会・人間—考える暮—」 河野 敏雄(京都大学・名誉教授)
平成23年12月13日	「準結晶の物性—その特異な電子状態と物性について」 木村 薫(東京大学大学院・新領域創成科学研究科)
平成23年12月13日	「準結晶—その特異な原子配列秩序について—」 枝川 圭一(東京大学・生産技術研究所)
平成23年12月13日	「珪藻化石から生命と地球の歴史を、もっと深く！」 齋藤 めぐみ(国立科学博物館・地学研究部)
平成23年12月20日	平成23年度成果発表会
平成24年2月1日	「宇宙と素粒子の謎」 福見 武夫(中央大学・理工学部)
平成24年4月23日	平成23年度成果発表会
平成24年7月20日	「金融系企業における数理専門職への道—投資とリスク管理における数学の役割—」 黒田 耕嗣(日本大学・文理学部)
平成24年10月11日	「身近な自然—アユの棲む川—について考えよう！」 阿部 信一郎(独立行政法人水産総合研究センター・日本海区水産研究所資源生産部)
平成24年10月18日	「ナノカーボンの世界 ~研究は好奇心と偶然から~」 篠原 久典(名古屋大学大学院・理学研究科)
平成24年10月31日	「確率と統計と地震予測」 尾形 良彦(統計数理研究所・名誉教授)
平成24年11月15日	「アフリカの環境汚染を考える」 池中 良徳(北海道大学大学院・獣医学研究科)
平成24年11月20日	「研究成果を如何に効果的に伝えるか!？」 伊藤冬樹氏(教育学部・准教授 有機物理化学)
平成24年12月10日	平成24年度前期成果発表会
平成24年12月11日	「物理の魅力」 大貫 博隆(大阪大学・名誉教授)
平成25年1月24日	「3000mのタイムカプセル:極域アイスコアから探る過去の気候変動」 川村 賢二(国立極地研究所)
平成25年2月1日	「ヒッグス粒子発見のムコウ側—素粒子の標準模型を超える新物理探索—」 久野 純治(名古屋大学・大学院理学研究科)
平成25年5月13日	平成24年度成果発表会
平成25年10月7日	平成25年度成果発表会
平成26年2月27日	「神の粒子、ヒッグス粒子の大発見」 波場 直之(島根大学総合理工学部)

(出典：理学部事務部作成)

資料理 63 学部長裁量経費による公募型アドバンス演習・実験・実習

※平成 23 年度から実施。学生による研究を支援するため、学部長裁量経費で学生に対して研究費を支給している。理数応援プロジェクトから派生した取り組みである。

学生向け公募要項

平成 27 年度「理学部公募型アドバンス演習・実験・実習」公募について

平成 27 年 4 月 8 日
学部長室

学生自らが研究計画を立て実行し、そして成果を発表する「理学部公募型アドバンス演習・実験・実習」を募集します。

この取り組みでは、学生の自主性・能動性を一層高めることを目的としています。
多くの学生の皆様からのご応募お待ちしております。

募 集 要 項

1. 目的
通常授業とは異なるより高度な、またはより特殊な演習・実験・実習に対して研究費を支援し、学生の意欲、理学部の教育の質の向上につなげることを目的とする。
2. 対象
アドバンス科目履修学生（3 年生）
3. 公募期間
平成 27 年 4 月 8 日（水）～ 5 月 11 日（月）（締切厳守）
4. 応募書類提出先
申請者（学生）は、risuouen@shinshu-u.ac.jp にメールにて提出してください。
5. 採択予定件数
5 件程度を予定しています。
6. 経費・研究費など
採用された研究計画には 10 万円以内で研究経費を支援します。

公募にあたっての注意事項

- ①指導教員
応募を検討する場合、研究内容と関連する各学科の先生に相談し、研究計画を立ててください。応募には、指導する先生の許可が必要です。
- ②申請書の提出締切
別紙公募申請書に必要事項を記入し、期日までに提出してください。グループで研究を行う場合、代表者を決め申請書を提出してください。代表者が連絡窓口となります。
5 月 11 日（月）を締め切りとします。
- ③採用決定（5 月）
申請者本人、担当教員にメールで通知します。
- ④研究の開始
採用が決定したら、直ちに実習・実験を開始し、可能ならば、8 月はじめの「自然シリーズ」で成果（途中経過）発表を行います。また、優れた成果が出れば、全国コンペ、サイエンスインカレ（平成 28 年 3 月）へ応募、出場することを目指します。
- ⑤成果の発表
サイエンスミーティング（長野県の理数科高校の学生との共同の成果発表会）（平成 28 年 3 月）で発表を行います。また、優秀な成果は各分野の学会においても発表を行います。
- ⑥成果報告書の提出
平成 28 年 1 月末までに研究を終了し、終了次第、研究成果報告書を提出してください。
※⑤、⑥は、採用された場合の義務となります。

	申請テーマ	学 科	学 年	指導教員	配分額
平成 23 年度 (4 件)	光音響分光測定装置の開発・研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
	C01E2 プラスミド複製開始タンパク質機能ドメインの解析	生物科学科	3	伊藤 建夫	100,000
	木崎湖堆積物から読み取る気候変動	物質循環学科	3	公文富士夫	100,000
	鉱物の合成	地質科学科	3	牧野 州明	100,000
平成 24 年度 (2 件)	山岳源流域に特異的に生息する生物種群を対象とした遺伝的構造の究明	生物科学科	3	東城 幸治	100,000
	光音響分光法 (PAS) による各種金属フタロシアニン錯体の分光学的研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
平成 25 年度 (2 件)	光音響分光法を利用した木の葉の紫外可視スペクトルの研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
	クジャクの羽の発色機構	地質科学科	3	牧野 州明	100,000
平成 26 年度 (9 件)	光音響分光法 (PAS) による, 季節ごとの諏訪湖のアオコ発生量の測定	化学科	3	樋上 照男	83,000
	長野県希少植物ハナノキの隔離分布の要因を推測する	生物科学科	3	佐藤 利幸	81,000
	絶滅危惧種シナイモツゴの MHC 遺伝子の多様性と寄生虫感染率に関する研究	生物科学科	3	高田 啓介	83,000
	ミズカマキリとヒメミズカマキリにおける生物系統地理学的解析	生物科学科	3	東城 幸治	83,000
	有用植物の抽出物質による微生物への成長抑制と物質特定	物質循環学科	3	朴 虎東	83,000
	女鳥羽川の生態系	物質循環学科	3	山本 雅道	38,000
	水収支の観点から見た諏訪湖の水質汚染問題	物質循環学科	3	岩田 拓記	83,000
	野生動物を用いた環境評価法の確立と応用	物質循環学科	3	宮原 裕一	83,000
	梓川流域の植生とそれを利用する希少種: クロツバメシジミならびにミヤマシジミ (蝶類) の分布	物質循環学科	3	島野 光司	83,000
平成 27 年度 (5 件)	ゼーベック効果による発電とその応用	物理科学科	3	竹下 徹	91,000
	植物の色素の分析	化学科	3	樋上 照男	100,000
	ヒマラヤ・カリガンダキ川に見られる礫の起源と運搬過程	地質科学科	3	吉田 孝紀	100,000
	アンモナイト化石中の鉱物及び化石の保存環境	地質科学科	3	吉田 孝紀	81,000

カマキリモドキ類における遺伝的構造の 解明	生物科学科	3	東城 幸治	100,000
--------------------------	-------	---	-------	---------

(出典：理学部事務部作成)

(4) 社会や地域へ向けた教育提供・交流

① 科目等履修生等

社会人や地域住民の方に大学の授業を提供する方途として科目等履修生を募集、市民開放授業を実施している(資料理 64~65)。また、出前講座も活発に行っている。(資料理 66)

資料理 64 科目等履修生実績

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
0	9	5	9	5	6

(出典：理学部事務部作成)

資料理 65 市民開放授業実施状況

正規の学生のために開講している通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民にも開放している。生涯学習に対する社会的な要請に応え、本学と地域社会の連携をより一層深めることを目的としている。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
実施授業科目数	41	28	35	28	22	
受講人数	57	39	49	32	26	
理学部開講 授業数	136	116	117	117	113	107

(出典：理学部事務部作成)

資料理 66 出前講座実績・開講講座等

出前講座は、長野県内の公民館、障害学習センター、図書館および博物館等の生涯学習期間、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育機関並びに保育園及び公的な性格を持つ機関及び団体からの申込みを受けて、本学の教員が各地に赴いて講座を行うもの。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
登録講座数	36	35	37	36	37	32
実施講座数	12	16	28	10	8	

(出典：理学部事務部作成)

② 信州自然誌科学館（「自然」シリーズ）の開催

地域住民や小中学生に向け、自然科学の面白さを伝える取り組みとして、信州自然誌科学館（「自然」シリーズ）を開催している。(資料理 67)

資料理 67 信州自然誌科学館（「自然」シリーズ）参加者数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度

テーマ	自然のからくり	自然を見つめる	自然をさぐる	自然のちから	※	自然をかなでる
参加者数	655	670	479	552	1721	808

※平成 26 年度は「2014 青少年のための科学の祭典松本大会」として開催
例年 8 月初旬の週末二日間で実施

(出典：理学部事務部作成)

③野尻湖発掘調査団への協力

地域住民との交流の取り組みとしては、1962 年より行っている野尻湖発掘調査団がある。(資料理 68)

資料理 68 野尻湖発掘調査団

野尻湖発掘調査団への協力

野尻湖発掘とは

- 1962年より始まる「大衆発掘」
- 誰でも参加が可能
- 自分の手で遺物を見つけ、一人一人が自分自身の野尻湖発掘を作る
- 参加者が支える野尻湖発掘—手弁当の精神—
- 地元とつながる野尻湖発掘—地元主義—

理学部による活動協力

- 社会や大学に対して働きかけることによる、社会性や優れた人間性の修得
- たゆまぬ知的的好奇心と探究心の涵養と実践

理学部開催の「自然シリーズ」での出展支援



2009年 来て！見て！触る！
2010年 4万年前にタイムスリップ ～野尻湖人の生活を体験してみよう～
2011年 火山灰で万華鏡を作ってみよう2012年 野尻湖底発掘体験！

学生の自主的な取り組みと継続的活動の支援

学生の発掘参加

「野尻湖発掘調査団松本事務局」活動

「野尻湖友の会」への活動



協力の成果

大学の知的拠点としての役割を自覚し、信州の自然環境の保全や生涯学習への寄与、地域との緊密な連携を実現する活動となっている。

(出典：理学部事務部作成)

④信州サイエンスキャンプ

高等学校との連携を推進するため、科学技術振興機構の次世代人材育成事業「信州サイエンスキャンプ」により、本学部の学生と長野県内の理数科設置高校、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定高校の生徒が一堂に会し開催する研究成果発表会「信州サイエンスミーティング」を実施している。(資料理 69)

資料理 69 SSH 等研究成果発表会実施状況

	事業名	開催日時	参加校	参加者数
平成 22 年度	課題研究合同研修会	平成 22 年 12 月 18 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高	不明

			校、木曾青峰高校、大町高校の計8校	
平成 23 年度	課題研究合同研 修会	平成 23 年 12 月 17 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	115
	信州サイエンスミ ーティング	平成 24 年 3 月 17 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	103
平成 24 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 24 年 11 月 11 日(土)	不明	不明
	信州サイエンスミ ーティング	平成 25 年 3 月 16 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	116
平成 25 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 25 年 11 月 23 日(土)	飯山北、長野、屋代、大町、松本深志、東海大 三、諏訪清陵、箕輪進修、伊那北、飯田の10 高13チーム	78
	課題研究合同研 修会	平成 25 年 12 月 8 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	97
	信州サイエンスミ ーティング	平成 26 年 3 月 15 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	100
平成 26 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 26 年 11 月 15 日(土)	長野、長野清泉、屋代、松本深志、松本秀峰、 大町、木曾青峰、伊那北、飯田、野沢北、東海 大三、諏訪清陵の計12校	144
	課題研究合同研 修会	平成 26 年 12 月 20 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	100
	信州サイエンスミ ーティング	平成 27 年 3 月 14 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校、須 坂園芸高校、上田千曲高校、臼田高校、岡谷 工業高校、伊那北高校、駒ヶ根工業高校、下 伊那農業高校、大町高校	200
平成 27	信州サイエンステ	平成 27 年 11	10 校	108

年度	クノロジーコンテスト～科学の甲子園 全国大会長野県予選～	月 14 日(土)		
	課題研究合同研修会	平成 27 年 12 月 23 日(水)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校、松本深志高校の計 10 校	164
	信州サイエンスミーティング	平成 28 年 3 月 13 日(日)	野沢北高校、諏訪清陵高校、駒ヶ根工業高校、松本工業高校、大町高校、木曾青峰高校、東海大学付属第三高校、飯山高校、長野日本大学高校、伊那北高校、屋代高校、岡谷工業高校、エクセラン高校、飯田高校	200

(出典：理学部事務部作成)

⑤信州大学自然科学館の開設

信州大学自然科学館は、貴重資料の展示、データベース化と公開、小中高校生・市民向け体験学習事業の実施等教育研究活動への協力を行うため、平成 24 年 8 月に開設された。(資料理 70) また同館は、学芸員の資格取得にかかる実習に活用されている。(資料理 71)

資料理 70 信州大学自然科学館



「信州大学自然科学館」には、旧制松本高等学校や松本師範学校時代から引き継がれた貴重な資料のほか、理学部教員と学生により発見された化石やミエ（シンシュウ）ゾウのレプリカ、岩石標本や文理学部（1949～1966 年）から使われてきた計測装置などが収蔵、展示されています。





(出典：信州大学ホームページ「トピックス」

http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/archive_data/2012/08/post-480.html)

資料理 71 教職および博物館に関する科目 (平成 27 年度)

< 教員免許取得のための科目 (理学部開講科目) >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
数学科指導法 I	西牧 守	2	前期	木 2	2
数学科指導法 II	西牧 守	2	後期	木 3	2
数学指導法特論	西牧 守	3	前期	月 2	2
数学指導法演習 I	西牧 守	3	後期 (前半)	月 3	1
数学指導法演習 II	西牧 守	3	後期 (後半)	月 3	1
理科指導法 (物理)	武田 三男	2	前期 (前半)	水 2	1
理科指導法 (化学)	石川 厚	2	前期 (後半)	水 2	1
理科指導法 (地学)	山田 桂	2	後期 (前半)	火 5	1
理科指導法 (生物)	(非) 藤山 静雄	2	こう き(後半)	火 5	1
理科指導法特論	宗像 一起 他	2	通年	集中	2
理科指導法演習 I	公文 富士夫 他	2, 3	前期	集中	1
理科指導法演習 II	公文 富士夫 他	2, 3	後期	集中	1
教職実践演習 (中・高)	森清 壽郎	4	後期	集中	2
介護等体験の意義と実際	庄司 和史	2	通年	集中	2
中学校教育実習		4	通年	集中	4
高等学校教育実習		4	通年	集中	2
教育実習事前・事後指導		4	通年	集中	1

＜博物館学芸員取得に関する科目＞					
科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
生涯学習概論	(非) 小岩井 彰	1, 2, 3	前期	集中	2
博物館概論	大塚 勉	1, 2, 3	後期	水 5	2
博物館経営論	金井 直 他	2, 3	前期 (集中) 後期	月 3	2
博物館資料論	(非) 福島 正樹 他	2, 3	前期	月 1	2
博物館資料保存論	(非) 福島 正樹	2, 3	前期	月 2	2
博物館展示論	(非) 福島 正樹	2, 3	後期	月 4	2
博物館教育論	(非) 福島 正樹	1, 2, 3	後期	月 5	2
博物館情報・メディア論	小山 茂喜 他	2, 3	通年	集中	2
博物館実習 I	大塚 勉 他	3	前期 前期 (集中)	火 5	1
博物館実習 II	大塚 勉	4	通年	1	1
博物館実習 III	大塚 勉	4	通年	1	1

(出典：理学部事務部作成)

(5) 国際的に通用する技術者育成の取組

地質科学科の応用地質学コースの教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受けている(資料理 72~73)。

資料理 72 日本技術者教育認定機構 技術者教育プログラム認定とは

1. 技術者教育プログラム認定の目的

JABEE の主要な活動は、高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力(Minimum Requirement)の養成に成功していることを認定することである。

JABEE の活動は教育機関に一定のカリキュラムや達成度を押し付けたり、教育機関の教育レベルを調べて順位付けし公表したりするものではない、むしろ、文部省の大学設置基準の大綱化に従い、各大学の個性を伸ばすことを目的としている。各教育機関に独自の教育理念と教育目標の公開を要請し、新しい教育プログラムや教育手法の開発を促進し、日本や世界で必要とされる多様な能力を持つ技術者の育成を支援するものである。

2. 日本技術者教育認定制度の求めるもの

JABEE は前節で紹介した理念を実現するために、各高等教育機関に次のような活動を求めている。

大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。

教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。

教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。

- 学生や就職先企業など顧客層のニーズを取り入れる方法
- 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法 (Assessment)
- 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法 (Evaluation)

d) 効果的な自己点検・教育改善システム（組織と活動）

入学学生の質，教員，設備，大学のサポート，財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は，教育機関が，整然とした教育目標と教育戦略を持ち，必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために，人的資源や設備が組織的にも財政的にも充分であることを要求している。

（出典：日本技術者教育認定機構ホームページ「JABEEと認定制度」
http://www.jabee.org/about_jabee/accreditation_system/）

資料理 73 日本技術者教育認定機構 認定校（平成 27 年度）

一般社団法人 日本技術者教育認定機構

高等教育機関名	認定プログラム名	分野	新規認定開始年度	備考
静岡大学 http://www.shizuoka.ac.jp/				
工学部	機械工学科 日本技術者教育認定機構認定プログラム	機械	2004	2008年度以前修了生は 工学部 機械工学科昼間コース
工学部 物質工学科	化学システム工学コース	化学	2003	2006年度以前修了生は 工学部物質工学科 化学工学コース
農学部	環境森林科学科	森林	2006	2008年度以前修了生は 農学部 森林資源科学科
大学院 工学研究科	化学バイオ工学専攻 化学システム工学コース	化学(修士)	2007	2013年度以前修了生は 大学院工学研究科 物質工学専攻化学システム工学コース
静岡理科大学 http://www.sist.ac.jp/				
理工学部 機械工学科	総合機械工学コース	機械	2010	
芝浦工業大学 http://www.shibaura-it.ac.jp/				
工学部	応用化学科	応化	2006	2011年度以前修了生は 工学部応用化学科 応用化学コース
工学部	電子工学科	電気・電子	2013	
工学部 機械機能工学科	応用コース	機械	2006	2011年度以前修了生は 工学部機械工学第二学科 応用コース
工学部 機械工学科	総合機械工学コース	機械	2006	
工学部 電気工学科	総合電気工学コース	電気・電子・情報通信	2006	
島根大学 http://www.shimane-u.ac.jp/				
生物資源科学部 地域環境科学科	地域工学教育コース	農業工学	2006	2014年度以前修了生は 生物資源科学部地域開発科学科 地域工学コース
総合理工学部	地球資源環境学科	地球・資源	2003	
総合理工学部 機械・電気電子工学科	機械電気電子コース	電気・電子・情報通信	2005	2014年度修了生は 総合理工学部電子制御システム工学科 機械電気電子コース
総合理工学部 建築・生産設計工学科	材料プロセス工学コース	材料	2008	2014年度以前修了生は 総合理工学部材料プロセス工学科 材料プロセス工学コース
総合理工学部 数理・情報システム学科 情報系	コンピュータサイエンス専修プログラム	情報	2004	
総合理工学部 物質科学科	機能材料化学コース	化学	2007	
総合理工学部 物質科学科	物理系コース	物理・応物	2007	
首都大学東京 http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/				
都市環境学部 都市環境学科	地理環境コース	地球・資源	2003	2007年度以前修了生は 東京都立大学 理学部 地理学科
昭和女子大学 http://swu.ac.jp/				
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース	建築グループ	建築	2010	
信州大学 http://www.shinshu-u.ac.jp/				
繊維学部 化学・材料系	材料化学工学課程	化学	2002	2010年度以前修了生は 繊維学部精密素材工学科
理学部 地質科学科	応用地質科学コース	地球・資源	2006	
水産大学校				
	水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科	農学	2008	2010年度以前修了生は 水産情報経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科
鈴鹿工業高等専門学校 http://www.suzuka-ct.ac.jp/				
専攻科	複合型生産システム工学	工学	2003	

（出典：日本技術者教育認定機構ホームページ「JABEE認定プログラム教育機関名別一覧」より抜粋）

(6) グローバル社会で活躍する人材養成の取組

グローバル人材を養成する教育の取り組みとして、英語を用いた講義(資料理74~75)、インターナショナル茶屋を実施している。(資料理76) 海外への留学派遣は、大学間交流協定にもとづく交換留学制度を活用している。(資料理77)

資料理 74 英語による専門科目			
開講期間	授業名	教員氏名	曜日・時限
通年(集中)	地質科学演習	森清 壽郎	不定
前期	分析化学演習Ⅱ	巽 広輔	火 1
前期	科学英語 I	角野 由夫	月 4
前期	コロキウム I	三宅 康幸	金 2
前期	動物発生学	柴田 直樹	火 1
前期	生理生態学	佐藤 利幸	木 2
前期	コロキウム	浅見 崇比呂 他	月 1 月 2 月 3
前期	発生遺伝学	柴田 直樹	水 1
前期	系統進化学	市野 隆雄	火 2
前期	科学英語 I	公文 富士夫	金 2
前期	コロキウム I	村越 直美	火 2
後期	無機化学演習	竹内 あかり	金 2
後期	科学英語 II	保柳 康一	月 2
後期	コロキウム II	國頭 恭	火 2

(出典：理学部事務部作成)

資料理 75 英語による講義の一例 (シラバス)

登録コード	S5021	県内大学開放授業		市民開放授業	
授業題目	系統進化学	担当教員		市野 隆雄	
英文授業名	Systematics and Evolution	副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	理学部第2講義室	授業形態	講義	備考	自由
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」変遷②：全学共通 ・自然界の多種多様な生命・生物現象に常に知的好奇心と探究心を抱く習慣。 ・生物学の専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる。広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ資質と能力。 ・②専門分野分野における知識・技能を備え、それらを活用できる【専門知識と応用力】</p> <p>【授業の進め方】 ・生物に関するあるテーマについて、洋書もふくめた書籍を参照することで自力で理解できるようになる。 ・地球の長い歴史の中で生物がどのように系統進化してきたかを高校生にわかりやすく説明できるようになる。 ・Be able to construct and interpret evolutionary phylogenies according to the concepts of common ancestry and parsimony of derived characters. ・Learn how geography affects the pattern of evolution. ・Learn how the evolutionary history shaped the temporal pattern of diversity of life on earth. ・Compare and contrast coevolution and natural selection. ・Get practice in reading English literature. ・Get practice in talking scientific contents in English.</p> <p>【授業のねらい】 生物の分類が他の無生物の分類と異なるのは、生物の進化を反映している点である。この講義の目的は、生物の系統分類に進化の過程を反映させるための基本的な手法を理解し、系統進化学的な考え方を学ぶことである。具体的には、主要生物の系統関係を推定する方法を学び(教科書第2章)、次に、生物が長い歴史の中で地理的な分断と分岐をつくりだすように進化してきたかを、地理的な視点から理解する(教科書第6章)。さらに地球上の生物多様性の増大と絶滅の歴史を把握し(教科書第7章)、最後に生物の種間相互作用による進化、すなわち表進歩とは何かについて、具体例をつづりだして把握する(教科書第18章)。</p> <p>(2)授業の概要 <i>This course will be done basically in English. Students will be obliged to talk in English when they explain figures of the text on the screen in the class. Each student is assigned to explain a figure in the upcoming class. Students are allowed to ask questions in Japanese, though.</i> This course will be an in-depth examination of the unifying principles of systematics and evolution. Students will be required to read the text, give an oral presentation to the class, and participate in class discussion. The course sequence begins with an introduction, then move to phylogenetic analysis, cladistic biogeography, evolution of biodiversity, and coevolution. Prerequisite: Systematics</p> <p>(3)授業のキーワード 生物科学の応用力、普遍的・数論的理解力</p> <p>(4)授業計画 1. Introduction 2. 生命の樹 - 分類と系統(教科書第2章)-1 3. 生命の樹-2 4. 生命の樹-3 5. 進化の地理学(教科書第6章)-1 6. 進化の地理学-2 7. 進化の地理学-3 8. まとめ、中テスト 9. 生物多様性の進化(教科書第7章)-1 10. 生物多様性の進化-2 11. 生物多様性の進化-3 12. 共進化：補綴相互作用の進化(教科書第18章)-1</p> <p>(5)成績評価の方法 Grading: 35% based on Midterm Exam 35% based on Final Exam 13% based on Presentations 12% based on Quizzes 5% based on Homework</p> <p>Exams - there will be two exams (1 midterm and the final). Presentation - Students will be required to give an oral presentation to the class summarizing the content of assigned figures. In-class Activities (quizzes, participation) - these activities cannot be "made-up" if you are absent. Outside Activities (homework) - various short assignments will be given throughout the term and are due at the next class.</p> <p>(6)成績評価の基準 過去のテスト問題のうち添削説明などと同レベルの問題が解ければ「水準にある」、過去のテスト問題のうち追加問題が解ければ「やや上にある」、同じくやや難しい追加問題が解ければ「かなり上にある」、同じく応用的な難しい追加問題が解ければ「卓越している」と評価する。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 過去の講義に対応した教員書のページを指定するので、その部分をe-LIBS上に提示されているキーワードを参照しながら講義前に読んでおく。 毎回、次の発表者を取り巻く。発表者は、指定された教科書の図表(各1枚)について、画像を投影したスクリーンを使って、わかりやすく英語で説明をおこなう。 次回出される課題(宿題)について、参考書やさまざまなウェブサイトを参照した上で解答を準備しておく。次回の講義で質問タイムに報告してあるよう。 ・講義後、講義の内容を整理し、疑問点については、各種資料を参考にするなどして解決する。</p> <p>(8)宿題の指導 教科書の指定ページを読んでいることを前提に毎回の講義はこなされる。講義は双方向的に行われる。主体的な学習・質問と積極的な講義への参加が望まれる。e-learningサイトに、教科書の内容についての日本語解説を掲載する。授業中の入退室は厳禁。</p> <p>(9)教材、相談への対応 講義に関する質問・相談は、授業の前後、もしくは市野研究室(理学部203号、金曜日15-16時)まで実施して下さい。</p> <p>【教科書】 Evolution, 3rd edition, D.J. Futuyma, Sinauer Associates. (約1万円、生協扱い) 【参考書】 ・岩槻邦男・馬淵晴雄著『生物の多様性』(裳華房、A1304) ・里田達一・阿部永編著『動物地理の自然史』(北海道大学図書刊行会、3000円)</p>					

(出典：シラバス)

資料理 76 インターナショナル茶屋実施状況

※平成 26 年度から実施。

留学生を核として日本人学生も含めて英語でディスカッションをおこなう

	日 時	場 所	参加者	内容等
第 1 回	平成 26 年 11 月 2 日 (日)	ウッドデッキ	20	銀嶺祭にあわせて実施，英語のコミュニケーションを楽しんだ
第 2 回	平成 26 年 12 月 29 日 (月)	ラウンジ A211	20	Year-end party と称して，英語による忘年会を行った
第 3 回	平成 27 年 6 月 30 日 (火)	多目的ホール	23	知の森基金の支援を受けた海外派遣の報告会を英語で行った
第 4 回	平成 27 年 10 月 15 日 (木)	多目的ホール	25	アンダラス大学からの短期留学生との交流会を行った。両国について英語でプレゼン，懇親会。
第 5 回	平成 27 年 12 月 21 日 (火)	多目的ホール	20	Year-end party と称して、英語による忘年会を行った。

(出典：理学部事務部作成)

資料理 77 学生海外派遣状況

年度	派遣学生数 (人)	内訳	
		派遣国名	人数
平成 24 年度	3	ベルギー	1
		ドイツ	1
		オランダ	1
平成 25 年度	1	オランダ	1
平成 26 年度	10	ベルギー	1
		ドイツ	3
		マレーシア	3
		オーストラリア	2
		ベトナム	1
平成 27 年度	10	ドイツ	2
		マレーシア	5
		アメリカ合衆国	1
		ベトナム	2

(出典：理学部事務部作成)

3. 信州の地の利を生かしたフィールドワークと安全に配慮した教育

本学部のカリキュラムの特徴である、信州の地の利を生かした多種多様なフィールドワーク関連の実験、実習(資料理 78)を安全に実施するため、安全の手引きを毎年学生に配布し、実験・実習における注意を喚起している。(資料理 79)

資料理 78 フィールドワークに関する実習，実験科目一覧(平成 24 年度～平成 27 年度)

学 科	科目名	開講時間	開講概要	期間 中の	単 位	年 次	区 分	履修登録数			
								H24	H25	H26	H27

				時間 数							
地質 科学 科	地質学入門実習	前期水 4		22.5	1	1	必修	27	32	32	34
	地質学序説実習	後期水 4		22.5	1	1	必修	28	32		33
	鉱物・岩石学実習 I	前期木 3, 4		45	2	1	必修	34	34	30	35
	鉱物・岩石学実習 II	後期木 3, 4		45	2	1	必修	34	31		36
	地質調査法実習 I	前期金 2, 3, 4, 5		90	2	1	必修	33	28	29	33
	地質調査法実習 II	後期金 2, 3, 4, 5		90	2	1	必修	35	32		34
	野外巡検 I	集中土	年間 8 回 日帰り		2	1	必修	35	38	28	33
	野外巡検 II	集中火 3, 4	学習会 実習 6 月		2	2	必修		31	30	29
	地質調査演習	集中	7~10 日間		4	2	必修		30	28	30
	岩石学実験	前期金 3, 4		45	2	3	自由		13	14	14
		後期金 3, 4		45	2	3	自由	3	6		16
	堆積・古生物学実験 I	前期木 3, 4		45	2	3	自由	4	24	29	26
	堆積・古生物学実験 II	後期木 3, 4		45	2	3	自由	5	11		12
	地球化学実験	前期水 3, 4		45	2	3	自由	4	24	17	25
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2~4	自由		2		
地質実務体験実習	集中	インター ンシップ		1	3	自由		11		6	
生物 科学 科	生物学基礎実験	前期火 3, 4		45	2	1	必修	30	29	30	30
	形態組織学実験	前期金 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	31	32	29	33
	系統分類学実験	前期水 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	29	30	29	33
	生態学実験	後期金 3, 4, 5		67.5	2	2~3	必修	32	30		31
	分子生物学実験	後期水 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	32	31		32
	動物発生学実験	前期木 3, 4, 5		67.5	2	3	必修		32	28	30

	多様性生物学実習	前期金 3, 4	週 1 回 20 時間 及び 集中	45	1	3	必修		30	26	30
	生体生物学実習	後期木 3, 4		45	1	3	自由	2	14		14
	進化生物学実習	後期水 3, 4		45	1	3	自由		18		14
	自然史実習	集中	基本 2 泊 3 日～4 日		1	2～4	自由	7	16	22	20
	臨湖実習	集中	6 日間 (泊 り込み)		1	2～4	自由		2		5
	公開臨海実習	集中			1	2～4	自由	2			3
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2～4	自由		2		
	生物インターンシップ	集中	インター ンシップ	基本 30 時 間	1	3～4	自由		1		
物質 循環 学科	物質循環基礎実習 I (A)	前期月 3, 4		45	1	2	必修	10	14	11	10
	物質循環基礎実習 I (B)	前期金 3, 4		45	1	2	必修	12	15	13	14
	物質循環基礎実習 II (A)	後期月 3, 4		45	1	2	必修	10	14		10
	物質循環基礎実習 II (B)	後期金 3, 4		45	1	2	必修	12	15		14
	野外調査実習 I	集中	各実習項 目 1 日程度		1	1	必修	29	24	21	26
	野外調査実習 II	集中	3 泊 3 日		1	2	必修	23	29	24	24
	野外調査実習 III	集中	システム 解析学実 習 II に準 ずるほか、 4 年生、院 生の野外 調査等に 同行		1	3	必修		23		22
	システム解析学実習 I	前期水 3, 4 木 3, 4		90	2	3	必修	1	23	31	24
	システム解析学実習 II	後期月 3, 4 金 4, 5		90	2	3	必修		23		22
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2～4	自由		3		
	社会実務研修	集中	インター ンシップ		1	3～4	自由				1

(出典：理学部事務部作成)

資料理 79 安全の手引き

※室外及び室内実験・実習に対応

目 次

はじめに -----	1	9.3 野外調査の際の時間管理 － 「早発ち」・「早帰り」	
第1部 安全の心得		9.4 滑落・転落事故の防止	
1章 実験・実習の安全に関する基本事項	2	9.5 落石・崩落の危険	
2章 電気による事故 -----	3	9.6 調査中の水に関わる事故	
2.1 電気器具の使用に関する注意事項		9.7 危険な動物・昆虫	
1) 一般的注意		9.8 暑さによる疾患	
2) 配線・アースについて		9.9 落雷	
3) スイッチ（開閉器）の取扱い		9.10 雪氷調査での注意	
4) 電気による火災やショートおよびスパーク事故について		9.11 湖沼調査での注意	
5) 異常に気付いた場合の処置		9.12 外国で野外調査をするときの危険	
2.2 感電事故の防止と感電時の応急処置		9.13 フィールドで行う応急処置	
1) 感電事故の防止		10章 廃棄物 -----	36
2) 感電時の応急処置		第2部 緊急時の対処と予防	
3章 機械類・重量物 -----	5	11章 火災・爆発事故 -----	37
3.1 工作機械使用時の注意		11.1 火災	
3.2 レーザ装置使用時の注意		1) 火災発生時の処置	
3.3 その他の器械・装置使用時の注意		2) 火災の予防	
3.4 重量物の取扱い		11.2 爆発事故と対処法	
4章 ガラス器具 -----	10	11.3 都市ガスによる事故の防止	
5章 化学実験操作における注意事項 --	11	1) ガス漏れ発生時の処置	
6章 危険物質と危険の予防 -----	12	2) ガス漏れ予防	
1) 危険物質の取扱いに関する一般的注意		12章 地震災害 -----	39
2) 火災、爆発に関する危険物（消防法による危険物）		1) 地震発生時の処置	
3) 人体に有毒・有害な危険物質		2) 地震災害の予防	
4) 放射性同位元素およびエックス線装置の取扱い		13章 応急処置 -----	40
5) 遺伝子組換え実験について		13.1 共通の処置	
7章 実験廃液の処理 -----	18	13.2 いろいろな状況での処置	
1) 実験廃液の定義		13.3 薬品中毒の応急処置	
2) 実験廃液の排出に関する運用・管理方法		13.4 人工呼吸、心臓マッサージ	
8章 高圧ガス、低温寒剤(液化ガス) --	22	防災対策マニュアル -----	42
8.1 高圧ガス		理学部避難場所	
8.2 低温寒剤(液化ガス)		事故発生時の処置および連絡	
9章 フィールドワーク -----	24		
9.1 一般的注意			
9.2 自動車の運転			

(出典：理学部安全の手引きより抜粋)

4. 専門教育を基にしたキャリア教育

科学における倫理問題に対応できるよう、理学部共通科目として「科学技術と職業倫理」を開講した。(資料理 80)

資料理 80 科学技術と職業倫理シラバス

登録コード	S9001		担当教員	吉野 和夫	
授業題目	科学技術と職業倫理			副担当	武田 三男・谷内 靖・市野 隆雄・戸田 任重 ・三宅 康幸
英文授業名				対象学年	3・4
単位数	1	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
		授業形態	講義	備考	(共通) 自由
<p>(1)授業のねらい 科学技術は社会のさまざまな問題と密接に関連をもつて発展してきており、その使用は社会に大きな影響を与える。そして、近年ますますその側面は強くなってきているといえる。ここでは大学で学ぶ科学技術を卒業後の職業において活かしていくための倫理について学ぶ。 倫理そのものを知識として知るのが目的ではなく、理学の諸分野における具体的な問題について触れながら講述する。当面する諸問題に対しては、必ずしも常に答が存在しているわけではない。そうした中でも科学技術が人類の幸福のために役立てるためには、職業人一人一人の倫理的自覚がいかに重要であるかを認識できるようにする。</p> <p>(2)授業の概要 夏期集中で、数学、物理学、化学、地質学、生物学、物質循環学の専門家が、それぞれの分野に即した課題で倫理の重要性について講述する。グループごとに討論をするなど、さまざまな形態で受講者が考えて意見をもつような形式で進めていく。</p> <p>(3)授業のキーワード</p> <p>(4)授業計画 1コマ目：ガイダンスと受講の注意 2コマ目：核分裂反応の発見から原子爆弾投下に至るまでの科学技術者の役割と倫理問題、及び原子爆弾投下後の核科学者の動きと倫理観、原子力の平和利用における科学者の倫理観の重要性について講述する。 3コマ目：数学と生活：数学の発展が人間生活に及ぼした影響等を考察し、その中で科学技術者の役割について考える。 4コマ目：科学者及び科学者の集まりである学会の出現とその社会に及ぼした影響を概観し、これからの科学者並びに技術者の社会的責任について、物理学者を例にとって考える。 5コマ目：地質災害と住民の生活：火山活動によって生活の場を失った住民の安全対策に関するビデオを見て、災害問題に係わる科学技術者の役割と倫理観について考える。 6コマ目：優生思想と遺伝子操作技術の諸問題：生命技術の発達、生命倫理にかかわるさまざまな問題を生みだしてきた。人間の本性は、遺伝で</p>				<p>どこまで左右されるのか？またそれを踏まえて遺伝子操作 や生殖医療はどこまでゆるされるのか？... これらの問題について、できればグループ討論を通じて理解を深めたい。 7コマ目：環境問題にかかわる科学技術者の倫理：環境アセスメント調査と環境コンサルタント（例えば、原子力施設の立地条件、風力発電施設の立地条件、海岸沿い施設の立地条件など）に係わる技術者の倫理について考える。 8コマ目：試験</p> <p>(5)成績評価の方法 各回ごとの小レポートの評価（3割）と最終の試験の結果（7割）を総合して、90%以上の評価点をS、80%以上をA、70%以上をB、60%以上をC、それ以下をDとする。</p> <p>(6)履修上の注意 さまざまな分野における倫理観の重要性について自分のこととして考えて欲しい。毎回の小レポートをしっかりと書けるように真剣な態度で受講すること。</p> <p>(7)質問、相談への対応 それぞれの担当教員に直接アポイントをとった上で訪問してください。全体的なことは吉野までメール（yoshino@shinshu-u.ac.jp）で尋ねても良いです。吉野のオフィスアワーは随時ですが前もってメールでアポイントを取ってください。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書】 2コマ目：原子核エネルギーの話（アイザック・アシモフ著、住田健二訳、東海科学選書） 6コマ目：優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか（米本昌平 ほか、2000、講談社現代新書）</p>	

(出典：シラバス)

学生の職業意識の涵養を図るため、インターンシップ（1～2単位）を実施している。(資料理 81～82)。

資料理 81 インターンシップ参加者数

	数理・自然 情報科学科	物理科学科	化学科	地質科学科	生物科学科	物質循環学科	合計
平成 22 年度	0	0	0	11	1	0	12
平成 23 年度	0	0	1	3	0	0	4
平成 24 年度	0	0	0	9	0	3	12
平成 25 年度	0	0	0	11	1	0	12
平成 26 年度	0	0	0	1	0	0	1
平成 27 年度	2	0	0	5	0	1	8

(出典：理学部事務部作成)

資料理 82 インターンシップ科目一覧

開講期間	授業名	教員氏名
通年(集中)	数理実務体験実習	谷内 靖
通年(集中)	化学実務体験	樋上 照男
通年(集中)	地質実務体験実習	三宅 康幸
通年(集中)	社会実務研修	村越 直美

(出典：理学部事務部作成)

資料理 83 コア・サイエンス・ティーチャー (CST) 養成拠点事業

[教育] 文部科学省委託事業 (平成22年度～実施)

コアサイエンスティーチャー養成プロジェクト(初級CST)

教育現場における資質の高い理科教員を養成を目指す

理科教員を目指す信州大学の学生を対象に、多岐にわたる理科学分野を体験することで、知識の乏しさや苦手分野を克服し、専門性の向上を図ります。

- 1 実際の教育現場、現任教員とのつながり**
実際に現場に出てみたいとわからないことも多い教育分野において、実際の授業の流れや問題点、対処法などを直接、現場の教員に聞くことができます。
- 2 具体的な実践力、指導力の習得**
火や薬品などを扱うことも多い理科の教育現場において、指導に立つ前に、実験についての指導力をしっかり身につけることができます。
- 3 教育体験と専門外の知識向上**
研究・専門分野以外の理科の各分野を指導するため、各分野の基礎学力や観察・実験能力はもちろん、最先端研究に関する専門知識も修得します。また、教育体験の経験を経験しながら、専門分野以外の分野の苦手意識を克服することができます。

初級CST

理科教員を目指す学生が対象
信州大学と長野県教育委員会が連携して開設する初級CST養成プログラムを受講、必要単位を取得し、且つ、課されたレポートと模擬授業実践を修了した学生のうち、教員として採用された者をコア・サイエンス・ティーチャー(初級CST)として認定しています。



登録・認定者数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
登録者数 (理学部)	65 (14)	47 (14)	56 (11)	25 (9) (6月現在)
初級CST認定者数 (理学部)	—	14 (2)	20 (4)	27 (11) (認定予定)

[社会貢献] 文部科学省委託事業 (平成22年度～実施)

コアサイエンスティチャー養成プロジェクト(上級CST)

小学校・中学校 現職教員対象
 小・中学校教育現場における資質の高い理科教員を養成を目指す

- 1 現場の先生同士の交流** 理科教育で活躍する教員が集まるので、お互いの知識や経験の共有化が図れる。
- 2 現場の声に基づいた実践的カリキュラム** 実際に教員が不得意と感じている単元を中心に作成されたカリキュラムなので、問題点を具体化でき、多角的な見方ができるようになる。
- 3 信州大学とのつながり、専門性の向上** 信州大学が所有する最新の機材や教材を借用することで、多様なニーズに応えることができる。



受講者の声 理科の授業を教育実習で行ったとき、ノート指導で苦労したのは、結果から考察への移行がスムーズに行かないことだった。「考察を書いてみよう」と言ってもなかなか書けず、結果と同じことを考察として書くことも多かった。現職の先生方のお話を聞く中で、人それぞれ工夫をされていることがわかった。先生方の実践例は参考にしたものがたくさんあった。
【ノート指導、理科室の掲示物、小学校で使う主な薬品の性質と理科準備室の整理整頓】受講生



信州を題材とした指導素材が、対象学年・分野・地域等で検索できる

(出典：理学部事務部作成)

5. 学生の主体的な学習を促すための取組

(1) 理数学生応援プロジェクト (前掲資料理 59～63、p 70～76)。

(2) e-Learning (eALPS システム) の活用

教室外学習をうながすため、e-Learning (eALPS システム) で宿題や事前学習をうながす工夫を行っている。(資料理 84)

資料理 84 eALPS 利用実績

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開講数	390	315	512	407	686	750
利用数	45	57	59	50	68	110
利用率	12	18	12	12	10	15

※加工数：シラバスがあって、履修登録のある授業の数

※利用数：教員が何らかの形で利用しているコースの数

※利用率：利用数/開講数

- ・総アクセス数は年々増加、学外からのアクセスが増加している。
- ・利用時間のピークは 22 時～23 時
- ・授業期間中は週末以外約 2,000 件/日を超える。

(出典：理学部事務部作成)

(3) 他学部授業科目の履修、他大学との単位互換

多様な履修形態を保証するしくみとして、他学部の科目履修などが、各コースごとに自由に選択履修できる科目として位置づけられている。(資料理 85～88)

資料理 85 他学部聴講

		人文 学部	経済 学部	教育 学部	医学部	工学部	農学部	繊維 学部	合計
平成 22 年度	前期受講者数	18	10		2				30
	後期受講者数	26	21						47
	通年のべ科目数	85	42		2				129
平成 23 年度	前期受講者数	16	18	1	3		2		40
	後期受講者数	34	16		1				51
	通年のべ科目数	75	41	2	4		3		125
平成 24 年度	前期受講者数	19	12		2	1	2	1	37
	後期受講者数	18	23		3	4		1	49
	通年のべ科目数	53	46		7	6	2	2	116
平成 25 年度	前期受講者数	12	26				3		41
	後期受講者数	22	24		2	1	3	1	53
	通年のべ科目数	50	84		2	1	7	1	145
平成 26 年度	前期受講者数	12	31				5		48
	後期受講者数	25	26	1				1	53
	通年のべ科目数	48	72	3			5	1	129
平成 27 年度	前期受講者数	20	33		1				54
	後期受講者数	21	37			1			59
	通年のべ科目数	64	73		1	3			141

(出典：理学部事務部作成)

資料理 86 5 大学理学部連携による相互単位互換制度による実習科目

大学名	授業科目
茨城大学	生物科学野外実習 地質環境科学実習 地質調査演習 I
埼玉大学	臨海実習
富山大学	野外実習 I 地質学巡検
信州大学	野外調査法実習 III 解析学特別講義 II
静岡大学	放射線管理実習 生物科学野外実習

(出典：理学部事務部作成)

資料理 87 県内大学連携による科目履修者一覧

学 科	学年	履修年度	開講部局	授業科目・題目	科目区分
地質科学科	3	2010	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	3	2010	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
化学科	1	2012	共通教育(全学教育機構)	国際看護学 【長野県看護大学開講】	共通科目
数理・自然情報科学	3	2012	共通教育(全学教育機構)	数値解析法 【諏訪東京理科大学開講】	共通科目
数理・自然情報科学	3	2012	共通教育(全学教育機構)	数値解析法 【諏訪東京理科大学開講】	共通科目
化学科	1	2012	共通教育(全学教育機構)	生態学 【長野大学開講】	共通科目
化学科	1	2013	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
化学科	1	2013	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
物理科学科	1	2014	共通教育(全学教育機構)	看護倫理学 【佐久大学開講】	共通科目

(出典：理学部事務部作成)

資料理 88 県外他大学における臨海・臨湖実習

平成 27 年度 公開実習・開講スケジュール一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
7月																																北大(富田)～	
8月	～室積																																
	東大(三崎)																																
	北大(富田)																																
	筑波大(下田・吾平)																																
9月	～九六(大島)																																
	～熊本大(合津)																																
	～島根大(隠岐)																																
	～京大(瀬戸)																																
	～金沢大(能登)																																
	新潟大(佐渡)																																
	筑波大(潮来)																																
	新戸大(岩田)																																
11月																																	
3月	～東大(三崎)																																
	熊本大(合津)																																
	九六(大島)																																
	高知大(宇佐) 初旬																																
	京大(瀬戸) 下旬に7日間																																

(出典：理学部事務部作成)

(4) 各種セミナーや講演会、シンポジウムの開催

各コースでは、日常的に各種セミナー（資料理 89）をおこなっている。また、理学部全体としても多くの講演、シンポジウム（資料理 90～91）の機会を設けている。

資料理 89 セミナー開催状況						
セミナー等	開催実績（回数）					
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
数理学懇談会	15	10	7	9	11	8
信州トポロジーセミナー	19	21	12	12	15	14
信州代数セミナー		7	7	7	3	5
信州確率論セミナー		1	2		2	
信州数理物理セミナー	8	7	6	7	10	12
物理基礎科学セミナー	28	35	33	33	34	34
物性コロキウム	30	30	30	29	23	31
化学コロキウム		4	3	1		
分析化学セミナー			1			
アルプスサイエンスセミナー	1	1	1	1	1	1
物質循環談話会	9	10	8	8	8	8
地球科学セミナー		1				
生物科学教室セミナー	13	13	14	13	2	2

（出典：理学部事務部作成）

資料理 90 シンポジウム開催状況		
年度	シンポジウム開催名称等	開催日
平成 22 年度	(非) 可換代数とトポロジー	2011/3/9～11
平成 23 年度	確率論サマースクール 2011	2011/8/8
	(非) 可換代数とトポロジー	2012/3/14～16
平成 24 年度	信州応用トポロジーセミナー	2012/11/23
	第 1 回先端加速器科学技術推進シンポジウム in 信州	2013/1/26
	場の数理とトポロジー（研究集会）	2013/2/6～8
	ワークショップ「数理学と情報科学の周辺」	2013/2/14
	代数的トポロジー信州春の学校	2013/3/8～10
	信州関数解析シンポジウム	2013/3/14～15
平成 25 年度	研究集会「グレブナー若手集会」	2013/7/12
	ワークショップ「情報セキュリティと関連する離散数学」	2013/8/9～10
	研究集会「Sage Days 53.5」	2013/10/5
	信州関数解析シンポジウム	2013/11/28～29
	(非) 可換代数とトポロジー	2014/2/19～21
	第 19 回代数学若手研究会	2014/2/26～28
	第 6 回代数学若手セミナー	2014/3/1
代数的トポロジー信州春の学校	2014/3/6～8	
平成 26 年度	信州大学偏微分方程式研究集会	2014/6/13～14
	第 3 回関数解析シンポジウム	2014/12/1～2
平成 27 年度	第 1 回「光と水」の研究会	2014/6/16

	第 2 回「光と水」の研究会	2014/7/21
	第 3 回「光と水」の研究会	2014/9/15
	第 4 回「光と水」の研究会	2014/10/27
	第 5 回「光と水」の研究会	2014/11/17
	第 4 回関数解析シンポジウム	2015/12/3～4
	第 2 回信州大学自然科学館ミニシンポジウム	2015/12/12
	第 6 回「光と水」の研究会	2014/12/15
	第 7 回「光と水」の研究会	2014/1/19
	第 8 回「光と水」の研究会	2014/2/16

(出典：理学部事務部作成)

資料理 91 講演会開催状況

年度	講演会名称等	講演者	開催日
平成 22 年度	「化学への招待 化学と医療・医薬」	吉野和夫 (信州大学理学部) 加藤和夫 (持田製薬)	2010/12/4
平成 23 年度	Water in Nanoconfinement (微小空間の水)	M.-C. Belissent-Funel 教授 (Laboratoire Leon Brillouin, Saclay France)	2011/5/25
	「Growth and Properties of Ultra -Thin Layers of Ionic Liquids on Gold and Graphite Surfaces (金およびグラファイト表面上のイオン液体の超薄膜層の成長と特性)」	V. Kempter 教授 (Clausthal University)	
	「泡とイオン」	前田悠 (九州大学名誉教授)	2011/10/27
平成 24 年度	「金融系企業における数理専門職への道ー投資とリスク管理における数学の役割ー」	黒田耕嗣 (日本大学文理学部教授)	2012/7/20
	「神の粒子ヒッグスをさぐる」	竹下徹 (信州大学理学部)	2012/8/5
	「身近な自然ーアユの棲む川ーについて考えよう！」	阿部信一郎 (独立行政法人水産総合研究センター 日本海区分水産研究所主事)	2012/10/11
	数理談話会「確率と統計と地震予測」	尾形良彦 (統計数理研究所名誉教授、東京大学生産研究所客員教授)	2012/10/31
	「アフリカの環境汚染を考える」	池中良徳 (北海道大学大学院獣医学研究科講師)	2012/11/15
	「物理の魅力」	大貫惇睦 (琉球大学客員教授、大阪大学名誉教授)	2012/12/11
	数理科学プロジェクト講演会「自然の中の左巻きと右巻きー磁気電析の話題を中心にしてー」	青柿良一 (職業能力開発総合大学校名誉教授、物質・材料研究機構 リサーチアドバイザー)	2013/1/18

信州大学理学部 分析項目 I

	「3000mのタイムカプセル：極域アイスコアから探る過去の気候変動」	川村賢二（国立極地研究所准教授）	2013/1/24
	第1回先端加速器科学技術推進シンポジウム in 信州『先端加速器の世界 いのちを守る、宇宙を創る』	竹下徹（信州大学理学科） 辻井博彦（放射線医学総合研究所フェロー） 鈴木厚人（高エネルギー加速器研究機構機構長）	2013/1/26
平成 25 年度	分析化学会中部支部 信州地区講演会		2013/10/4
	平成 25 年度東海地区化学教育討論会	鈴木孝洋（長野県阿南孤島学校） 榎本紘司（愛知県立岡崎北高等学校） 堀史有（岐阜県立各務原西高等学校） 榎本貴之（三重県立松阪工業高等学校） 大石公隆（静岡県立島田工業高等学校） 吉野和夫（信州大学理学部）	2013/10/12
	「リン酸カルシウムを応用した人口骨の研究開発」	菊池正紀（物質・材料研究寄稿（NIMS）バイオセラミックスグループリーダー）	2013/10/18
	「化粧品」と界面化学」	岩井秀隆（花王株式会社上席主任研究員、信州大学地域共同センター客員教授）	2013/10/25
	第22回ソノケミストリー討論会		2013/10/25～26
	理数支援特別講演会「規制反応場と分析化学」	寺前紀夫（日本分析化学会会長、東北大学名誉教授）	2013/11/12
	日本分光学会中部支部 長野地区講演会	金継業（信州大学理学系准教授）	2013/12/18
平成 26 年度	「信州の黒曜石と旧石器時代のヒト・環境」	工藤雄一郎（国立歴史民族博物館） 小野昭（明治大学黒曜石研究センター）	2015/6/8
平成 27 年度	信州大学理学部グリーンサイエンス講演会	天野良彦（信州大学工学系教授）	2015/7/17
	「ニュートリノ質量の発見」2015 ノーベル物理学賞講演会	中畑雅行（東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設長（教授）） 佐藤丈（埼玉大学理工学研究科（准教授））	2016/1/9

（出典：理学部事務部作成）

6. 共通教育科目における教育内容・方法の工夫

① 新入生ゼミナール等

高等学校までの勉学から、大学での学びへと橋渡しをするため、各学部・学科等で1クラス20人程度により必修2単位として開講している。(資料理92)

資料理92：新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期(学部・学科(課程・系)によって指定)に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのための計画の立案を行います(ポートフォリオ作成)。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科(課程・系)の方針に従い、学部・学科(課程・系)の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

(出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成)



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

新入生ハンドブック-目次

前書き j

序章 信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 1

第1章 何のために学ぶのか -10年後の世界を想像しよう- 7

1.1. 卒業後の世界を知ろう 7

1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 14

1.2.1. コミュニケーション(情報伝達)技術の進化 14

1.2.2. 技術革新の光と影 17

1.3. 急速に変化する社会で活躍するために:
 知の訓練場「大学」 22

1.3.1. 自分で問題を発見する 22

1.3.2. 森の中に木を見る 23

1.3.3. 真の知識を身につける 24

1.3.4. 目標がすべて 26

第2章 大学での学習スキル 31

2.1. 大学の授業とは 31

2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない 33

2.3. 授業は学びの一部でしかない:自主学習が大事 34

2.4. 自主学習の例 35

2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36

2.4.2. 専門のある何でも屋に 37

2.5. 学習観を再考しましょう 39

2.6. 能動的な学びを 41

第3章 探す・集める・探す 47

3.1. 調べるとは 48

3.2. 資料を探す 51

3.2.1. 辞典を使う 51

3.2.2. 検索術語 53

3.2.3. 図書館で探す 56

3.2.4. インターネット検索を使う 61

ii

5.1. 信州大学学生相談センターおよび
 全学教育機構相談室について 93

5.2. 学習の科学 94

5.2.1. 時間の前借りはしない 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い? 96

5.2.6. 五感を使う 98

5.3. タスクを管理する 98

5.3.1. 忘れ防止対策 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する 99

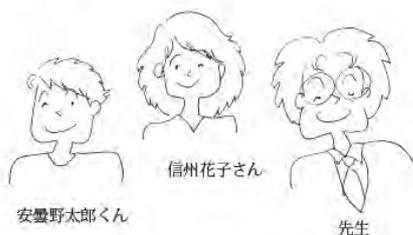
5.3.3. 自分の処理時間を把握する 100

5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある? 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか 103

登場人物



iv

3.3. 問いを作り上げる 64

第4章 レポートの書き方 69

4.1. レポートとは? 69

4.2. レポートの構想とメモ 70

4.3. 問題の見つけ方 72

4.3.1. 文献はうたがってかかる 72

4.3.2. 常識はうたがってかかる 73

4.3.3. 自分でデータを集めてみる 73

4.4. レポートの構成と文章 74

4.4.1. ねらいを短い文章に 74

4.4.2. ミニ目次のすすめ 74

4.4.3. 分かりやすい構成を 77

4.4.4. 文体はどうするか 77

4.4.5. 受け身の表現は避ける 77

4.5. レポートの落とし穴 78

4.5.1. 一次資料って何だろう 78

4.5.2. 意見の流用 79

4.5.3. 専門用語の震 79

4.6. 形をととのえる 80

4.6.1. まずは表紙から 80

4.6.2. 一般的なかたち 81

4.6.3. 見やすい体裁に 81

4.6.4. 引用と脚注 82

4.6.5. 推敲はかならず 83

4.7. レポートから論文へ 83

4.8. 口頭発表にむけて 84

4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい? 84

4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには 85

4.8.3. 質疑への対応 86

第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも 93

iii

(出典:「信州大学新入生ハンドブック2015」)

②教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。(資料理93)

資料理93 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

【教養ゼミナール】

本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が生かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。

教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

「大学生基礎力ゼミ」について

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいのかわからない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

昨年受講した学生の声

平成27年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

③ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している。(資料理94~95)

資料理94：平成27年度 信州ユビキタスネットシステム(SUNS)利用授業の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論Ⅱ-自分の将来像を探るステップ-【SUNS】	小池 健一
物理学の世界【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会【SUNS】(信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学Ⅰ【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学Ⅱ【SUNS】	村上 好成

一般化学 I 【SUNS】	村上 好成	
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)		

資料理 95：平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learning のみで行う授業)の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論 【EA】	加藤 善子	ジェンダー論 【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ 【EA】	加藤 敏三	検索の科学 【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級 (総合) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I 【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II 【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディング I 【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディング II 【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級 (読解) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級 I 【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級 II 【EA】	佐々木 寛
ハングル中級 I 【EA】	延 鎮淑	ハングル中級 II 【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康 【EA】	川 茂幸		
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)			

④教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成（英語、微分積分学 I、力学、生物科学 I）、リメディアル教育（英語基礎、基礎数学、基礎物理、基礎化学）、各種英語資格試験による単位認定県内他大学との単位互換を行っている。（資料理 96）

資料理96：共通教育科目における教育方法や学習支援

【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1 学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※ その他、学部・学科（系）によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

【習熟度別クラス】

英語 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。（上級）（中級）（初級）の 3 レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

微分積分学 I、力学、生物科学 I 基礎科学科目の履修方法は学部・学科（課程・系）により異なりますので、各学部・学科（課程・系）の履修指導に従ってください。学部・学科（課程・系）でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学 A については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科（系）から掲示等で指定されます。

【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 水曜日の5時限 平成27年4月15日～7月1日（ただし、4月29日、5月6日を除く）

講義室：共28番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ（<http://www.c-snet.jp/>）でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

【遠隔講義システム（SUNS）*による受講】平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）*を通じて信州大学で受講できるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

（水準）期待される水準を上回る

（判断理由）

在学生、受験生および保護者の期待に応え、広い学問的素養と理学の基礎を修得した上で各コースの専門性を培うことができるよう、科目の構成や年次進行が設定されている。

（資料理49）

教育編成において特筆すべきは、平成27年度改組により、7つの分野別コースと3つの履修プログラムにより21種類の履修ルートを設けている点である。これにより旧来の研究者・技術者養成型の履修モデルにとどまらず、広く学生個々のニーズに応じた履修モデルのカスタマイズが可能となっている。（資料理50）

教職・学芸員資格取得のためのカリキュラム（資料理71）や、キャリア教育（資料理80～82）、理数系教員養成（資料理83）など、様々な制度や科目を設定することで学生や社会からの多様なニーズに応えることのできる教育体制を整えている。

卒業生の雇用者からの期待に応え、DPに基づく教育課程を編成し、職務遂行のための能力を身につけることができる教育を実施している（資料理 80～83）。また、学生の主体的学修を促す取り組みを実施している。（資料理 84～88）

進学先の大学院関係者、研究関連学会や機関の期待に応え、理数学生応援プロジェクト（資料理 59～63）、信州の地の利を生かしたフィールドワーク（資料理 78）を実施し、論理的思考力と理学の基礎知識や専門的な技量を培う教育を実施している。

地域社会・自治体の期待に応え、地域社会への大学教育や研究内容の開放、交流等も実施している。（資料理 64～70）

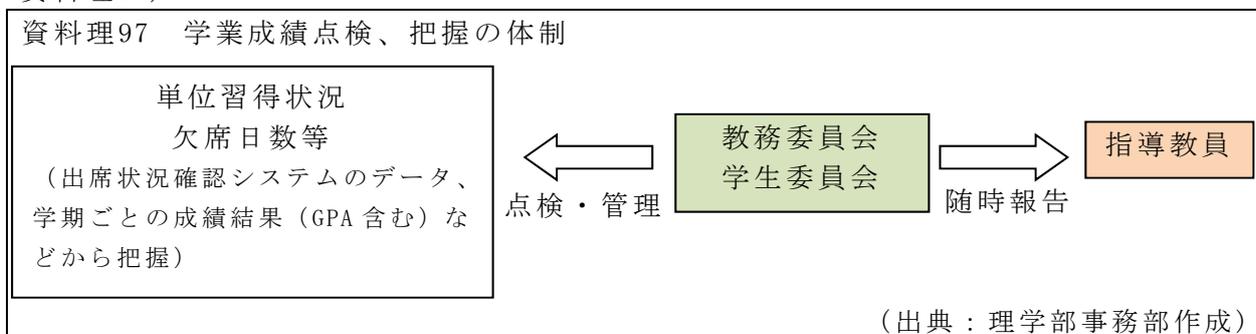
分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 学業の成果の点検、把握の体制

学業の成績の点検、把握の体制は以下のとおりである。(前掲資料理41～43、p43～45、資料理97)



(2) 進級・卒業・休学・退学等の状況

過去6年の進級率は以下のとおり推移している。(資料理98) 進級要件については、学生便覧で周知している(資料理99)。過去6年の休学者及び退学者は以下のとおり推移している(資料理100)。

資料理98 学年別進級率・卒業率

	平成22 年度 入学生	平成23 年度入 学生	平成24 年度入 学生	平成25 年度入 学生	平成26 年度入 学生	平成27 年度入 学生
最短就業年限で2年次に進級した者	95.0%	94.6%	88.0%	92.5%	91.6%	96.7%
最短就業年限で3年次に進級した者	85.5%	79.8%	85.2%	91.0%	86.5%	
最短就業年限で4年次に進級した者	83.3%	83.0%	88.9%	84.9%		
4年間で卒業した者(休学も含めて4年以内)	76.9%	75.3%	81.0%			
6年以内で卒業した者(休学も含めて6年以内)	91.9%					

(出典：理学部事務部作成)

資料理99 進級要件

学科	コース	年次	要件
数学科	数理科学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	なし
	自然情報学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	なし

理 学 科	物理学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・「共通教育科目」、「グリーンサイエンス通論」及び「基礎理学科目群」について卒業要件を満たしていること。 ・「情報科学演習」の単位を取得済みであること。 ・物理学コースのコース必修の授業科目のうち、1年次及び2年次を対象とする授業科目の単位を全て取得済みであること。 ・「物理学実験Ⅲa」と「物理学実験Ⅲb」の単位を取得済みであること。 ・上記に加えて、卒業要件124単位に対して100単位取得済みであること。 <p>ただし上記の要件を満たさない場合でも、単位の取得状況や就学状況などをコースで検討し進級を認める場合もあります。</p>
	化学	1年次から2年次	35単位以上修得済みであること。
		2年次から3年次	<p>80単位以上習得済みであること。ただし、以下の項目も満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての共通教育科目を修得済であること ・基礎理学科目群を必修8単位を含めて18単位以上取得済みであること。 ・基礎分析化学、基礎無機化学、基礎有機化学、基礎物理化学、基礎化学実験を修得済であること。
		3年次から4年次	<p>110単位以上修得済みであること。ただし、以下の項目も満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析化学実験、無機化学実験、有機化学実験、物理化学実験を修得済であること。 ・情報科学演習と3年次までのコース必修科目42単位をあわせて44単位のうち42単位以上修得済であること。
	地球学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	2年次までの必修科目すべての単位を取得し、かつ3年次必修科目10単位のうち6単位以上取得していること。
	生物学	1年次から2年次	基礎生物学実験を含む30単位を取得済みであること。
		2年次から3年次	60単位を取得済みであること。
		3年次から4年次	すべての必修科目を含む100単位を履修済みであること
	物質循環学	1年次から2年次	35単位以上修得済みであること。
		2年次から3年次	70単位（外国語科目4単位、新入生ゼミナール2単位、健康科学科目1単位、情報科学演習2単位、物質循環基礎実習2単位を含む）以上修得済みであること。
		3年次から4年次	100単位（システム解析学実習Ⅰ2単位を含む）以上修得済みであること。

(出典：信州大学理学部学生便覧 平成27年度入学生用より抜粋)

資料理100 休学者・退学者数

	平成22 年度	平成23 年度	平成24 年度	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度
--	------------	------------	------------	------------	------------	------------

休学者数	21	22	30	23	21	16
退学・除籍者	16	22	15	14	9	5

(出典：理学部事務部作成)

(3) 教育職員免許及び各種免許の取得状況

過去6年間の卒業生の教職免許取得率及び学芸員資格取得率は以下のとおりである。(資料理101～102) また、JABEE認定コースの修了状況は以下のとおりである。(資料理103)

資料理 101 卒業生の資格取得状況 (教員免許)

年度	取得人数	免許取得率 (取得数/卒業生)	免許種類別		卒業生数
			中学校	高等学校	
平成 22 年	78	37%	57	78	212
平成 23 年	61	32%	37	61	192
平成 24 年	68	34%	60	68	202
平成 25 年	77	37%	66	77	209
平成 26 年	66	32%	54	64	204
平成 27 年	49	24%	43	49	207

(出典：理学部事務部作成)

資料理 102 卒業生の資格取得状況 (学芸員資格)

年度	資格取得率 (取得数/卒業生)		卒業生数
平成 22 年	14	7%	212
平成 23 年	15	8%	192
平成 24 年	7	3%	202
平成 25 年	16	8%	209
平成 26 年	11	5%	204
平成 27 年	6	3%	207

(出典：理学部事務部作成)

資料理 103 JABEE (地質科学科応用地質学コース修了生の状況)

年度	応用地質学コース修了生		地質科学科卒業生数
	人数	卒業生に占める割合	
平成 22 年度	21	72%	29
平成 23 年度	22	63%	35
平成 24 年度	14	54%	26
平成 25 年度	22	85%	26
平成 26 年度	22	67%	33
平成 27 年度	15	50%	30

(出典：理学部事務部作成)

(3) - 2 教員の養成、コア・サイエンス・ティーチャー (CST) の養成

理学部卒業生のキャリアパスとして、中学・高校の教員職への就職は重要なものの一つであり、学生本人、保護者からの教職教育への期待も大きい。これに応えるため、教職教育を進めるとともに、平成 21 年度に教職相談室を設置した。(資料理 104)

資料理 104 教職相談について

特任教授が、それぞれの学部での教職相談を行なっています。
 履修方法・教育実習・教員採用試験等気軽に相談してください。
 ※工学部・農学部・繊維学部については、教職教育部の教員の授業の前後でも教職相談を行なっています。

[担当と場所ならびに開設日]

百瀬司郎特任教授…松本キャンパス教職教育部教職相談室

井出忠臣特任教授…松本キャンパス…月曜日・水曜日

繊維学部…火曜日

工学部…金曜日

千村重平特任教授…松本キャンパス…月曜日・火曜日・木曜日

農学部…水曜日

繊維学部…金曜日

TEL 0263-37-3367 でも相談可能です。

(出典： <http://kyoushoku.shinshu-u.ac.jp/kyoushoku/note/soudan.html>)

さらにコア・サイエンス・ティーチャー (CST) において独自の教育プロジェクトを進めた結果、毎年 30 名近くの学生が初級 CST を取得した。(資料理 105)

資料理 105 初級 CST 取得状況

	履修者数	学年履修者内訳			
		1年	2年	3年	4年
平成22年度	10	2	3	2	3
平成23年度	27	8	5	12	2
平成24年度	28	11	6	1	10
平成25年度	28	11	9	8	0
平成26年度	31	7	11	6	7

(出典：理学部事務部作成)

(4) 学生の受賞状況

学生の受賞実績は以下の通りである。(資料理106)

資料理106 受賞論文掲載等

該当年度	学科等	受賞等の概要
平成 23 年度	地質科学科	2012年2月18日(土), 19日(日)に日本科学未来館および東京国際交流館プラザ平成で開催された文部科学省主催の「サイエンス・インカレ」において、奨励賞を受賞
平成 24 年度	生物科学科	2012年8月31日(金)につくば国際会議場で開催された「第2回リサーチフェスタ 2012」において、ポスター発表の研究発表部門で銅賞を受賞

平成 24 年度	物質循環学科	2013 年 3 月 2 日（土），3 日（日）に幕張メッセ国際会議場（千葉市）で開催された文部科学省主催の「第 2 回サイエンス・インカレ」において，Nature 賞（協力企業賞）を受賞
平成 25 年度	生物科学科	論文が日本動物学会「Zoological Science Award 2013」選出，あわせて受賞論文の中で特に優れた論文に贈られる「藤井賞」の受賞（2013 年 6 月 11 日）
平成 27 年度	物理学科	2016 年 3 月 5 日（土），6 日（日）に神戸国際会議場（兵庫県）で開催された文部科学省主催の「第 5 回サイエンス・インカレ」において，関電工賞（協力企業賞）を受賞

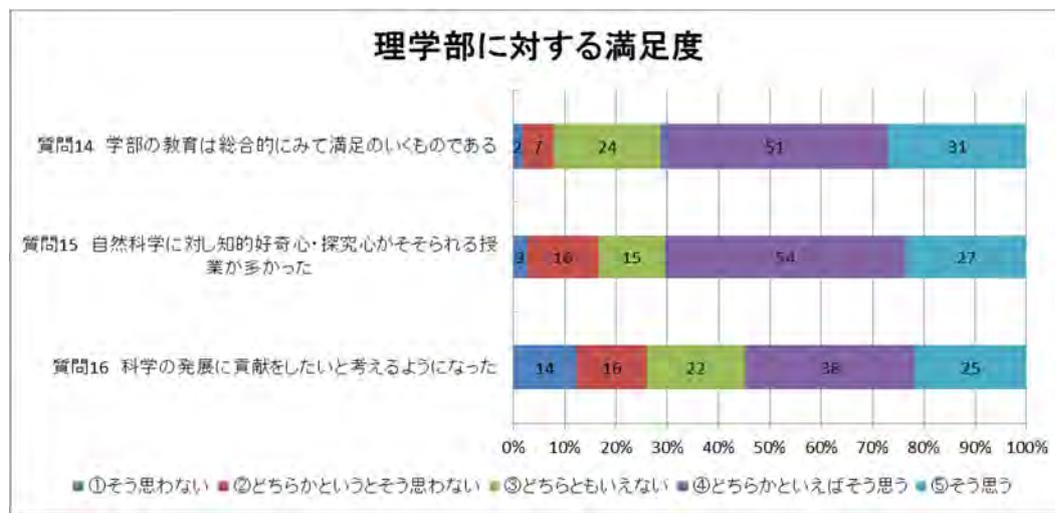
（出典：理学部事務部作成）

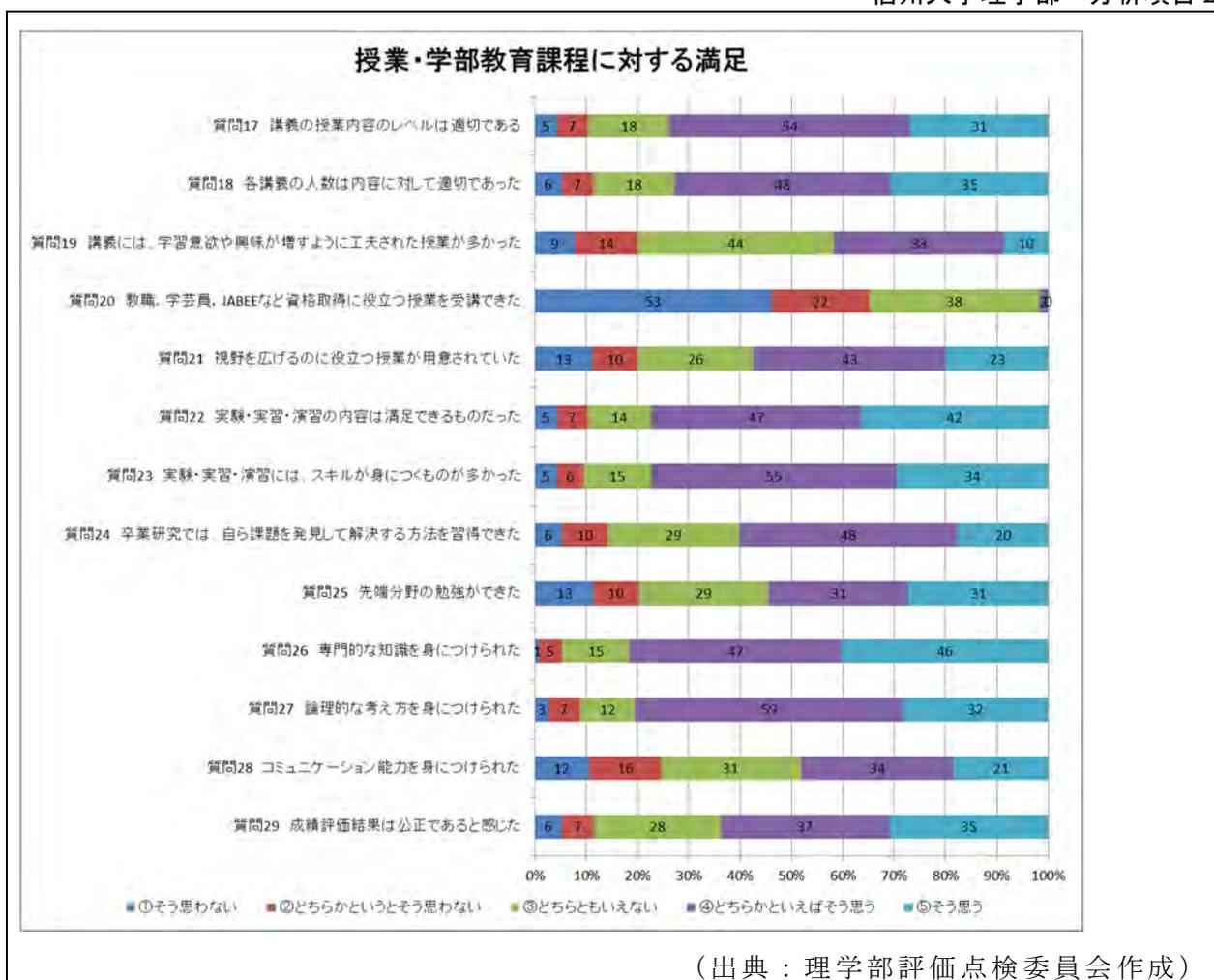
（5） 学業の成果に対する学生の評価

卒業時に、専門教育に関する満足度調査を行っている。（資料理107）

資料理107 平成26年度満足度調査

- ・ 調査項目：①学部 ②教育課程 ③教員・授業 ④各種サービス ⑤施設設備
- ・ 質問14「学部の教育は総合的に見て満足のものである」では「どちらかという」とそう思う」「そう思う」をあわせると70%を超えている。
- ・ 質問26「専門的な知識を身につけられた」質問27「論理的な考え方を身につけられた」においては80%を超えている。





(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

卒業時のアンケート調査の結果において、「学部の教育は総合的に見て満足のいくものである」では「どちらかというと思おう」「そう思う」をあわせると70%を超えている。(資料107)

過去6年間の卒業生の教職免許取得率は24%から37%で推移している。(資料理101)また、学芸員や習得技術者等の、教育内容を活かした各種資格の取得が行われている(資料理102~103)。

また、様々な分野で本学部の学生が受賞している。(資料理106)

これにより在学生・受験生・それらの保護者等の期待に応えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

(1) 卒業後の進路の状況 (資料理108)

資料理 108 進路状況

大学院進学率はおよそ40～55%、また就職率は全国平均等と比較して一貫して高く75～80%で推移している。約9割の学生が卒業時の進路を決定できている。

卒業年度	区分	卒業者 A	進学者		就職者		専 学 修 校 等 校 入 ・ 学 外 国 の	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左記以外の者		不 詳 ・ 死 亡 の 者
			人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)	
H21	全体	18,413	8,400	45.62%	7,200	71.91%	287	279	2,050	11.13%	197
	国立	7,460	4,703	63.04%	2,058	74.65%	68	31	553	7.41%	47
	計	211	113	53.55%	74	75.51%	5	0	19	9.00%	0
	男	157	88	56.05%	50	72.46%	4	0	15	9.55%	0
	女	54	25	46.30%	24	82.76%	1	0	4	7.41%	0
H22	全体	18,297	8,185	44.73%	7,213	71.33%	248	289	2,114	11.55%	248
	国立	7,324	4,536	61.93%	2,055	73.71%	55	50	542	7.40%	86
	計	212	106	50.00%	83	78.30%	0	0	23	10.85%	0
	男	155	82	52.90%	53	72.60%	0	0	20	12.90%	0
	女	57	24	42.11%	30	90.91%	0	0	3	5.26%	0
H23	全体	18,116	7,886	43.53%	7,306	71.42%	214	356	2,216	12.23%	138
	国立	7,247	4,423	61.03%	2,000	70.82%	55	69	668	9.22%	32
	計	192	105	54.69%	67	77.01%	0	1	19	9.90%	0
	男	130	77	59.23%	37	69.81%	0	0	16	12.31%	0
	女	62	28	45.16%	30	88.24%	0	1	3	4.84%	0
H24	全体	18,063	7,725	42.77%	7,794	75.39%	235	278	1,900	10.52%	131
	国立	7,142	4,338	60.74%	2,070	73.82%	67	63	561	7.85%	43
	計	202	94	46.53%	84	77.78%	0	0	24	11.88%	0
	男	145	71	48.97%	59	79.73%	0	0	15	10.34%	0
	女	57	23	40.35%	25	73.53%	0	0	9	15.79%	0
H25	全体	17,828	7,517	42.16%	8,004	77.63%	163	298	1,757	9.86%	89
	国立	7,013	4,227	60.27%	2,109	75.70%	42	55	549	7.83%	31
	計	209	73	34.93%	109	80.15%	0	0	27	12.92%	0
	男	152	55	36.18%	76	78.35%	0	0	21	13.82%	0
	女	57	18	31.58%	33	84.62%	0	0	6	10.53%	0
H26	全体	18,233	7,767	42.60%	8,608	82.25%	137	227	1,409	7.73%	85
	国立	7,347	4,453	60.61%	2,274	78.58%	41	59	490	6.67%	30
	計	204	91	44.61%	95	84.07%	0	0	18	8.82%	0
	男	154	76	49.35%	64	82.05%	0	0	14	9.09%	0
	女	50	15	30.00%	31	88.57%	0	0	4	8.00%	0
H27	全体										
	国立										
	計	215	74	34.42%	122	86.52%	0	1	18	8.37%	0
	男	160	59	36.88%	88	87.13%	0	1	12	7.50%	0
	女	55	15	27.27%	34	85.00%	0	0	6	10.91%	0

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査（関係学科別）より、区分「理学」を抜粋
 なお、平成27年度については、平成28年6月末現在未公開

（出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成）

就職活動シーズンには、就職ガイダンスや講演会が開催され、学生の就職活動を組織的に支援している。（資料理109～110）

資料理 109 理学部就職セミナー実施状況（平成27年度）

※キャリアサポートセンターで実施する各種セミナー等の他に、理学部就職委員会が主催してガイダンス・講演会・企業説明会を開催している。

開催日	事 項
H27. 4. 17	会社説明会 電子テクノ株式会社 ソニー株式会社
H27. 4. 20	会社説明会 京セラ株式会社 株式会社地熱エンジニアリング
H27. 4. 21	会社説明会 株式会社トヨタコミュニケーションシステム 日本石油金属資源開発機構（JOGMEC）
H27. 4. 22	会社説明会 玉野総合コンサルタント株式会社
H27. 4. 23	会社説明会 地圏総合コンサルタント株式会社 開発設計コンサルタント
H27. 5. 11	会社説明会 ニコン株式会社
H27. 5. 22	会社説明会 水資源開発機構
H27. 6. 11	マイナビ就職ガイダンス
H27. 6. 26	会社説明会 株式会社 SRI
H27. 6. 30	会社説明会 ソニー・イーエムシーエス株式会社
H27. 7. 3	会社説明会 株式会社富士通アドバンスエンジニアリング
H27. 8. 7	会社説明会 HOYA 株式会社
H27. 10. 6	会社説明会 株式会社 SRI
H27. 10. 31	キャリア教育イベント「キャリアデザインを考える」 会社説明会
H27. 12. 17	国際石油開発帝石株式会社 会社説明会
H27. 12. 18	JSR 株式会社

H28. 1. 29	物理学生のための就職支援セミナー 会社説明会	
H28. 2. 10.	ソニー株式会社 会社説明会	
H28. 2. 15	三祐コンサルタンツ株式会社 会社説明会	
H28. 2. 16	JX 金属株式会社 会社説明会	
H28. 2. 17	水資源開発機構 会社説明会	
H28. 2. 18	株式会社戸田建設 会社説明会	
H28. 2. 19	株式会社地熱エンジニアリング 株式会社ニュージェック	

(出典：理学部事務部作成)

資料理 110 「キャリアデザインを考える～卒業生と就職を語ろう～」ポスター

平成27年
10月31日(土)
14:00～17:00
※申込不要・出入自由
対象：全学生(学部・大学院)
会場：理学部C棟2階
大会議室

①講演会「知って役立つ労働法」
長野労働局総務部企画室長 青木 重和 様
14:00～15:00

②講演会「将来のキャリアを見据えての
学生生活の過ごし方」
信州大学キャリアサポートセンター 光武 聖子 様
15:00～15:20

③OB・OGとの座談会
「卒業生と就職を語ろう」
座談会参加者一覧：
●JR東日本 ●松本市役所
●信州吉野電機 ●松本市立波田中学校
●JFEテクノリサーチ ●信州大学
15:30～17:00

主催：信州大学理学部就職委員会 後援：信州大学理学部同窓会

キヤリアデザインを考える
卒業生と就職を語ろう

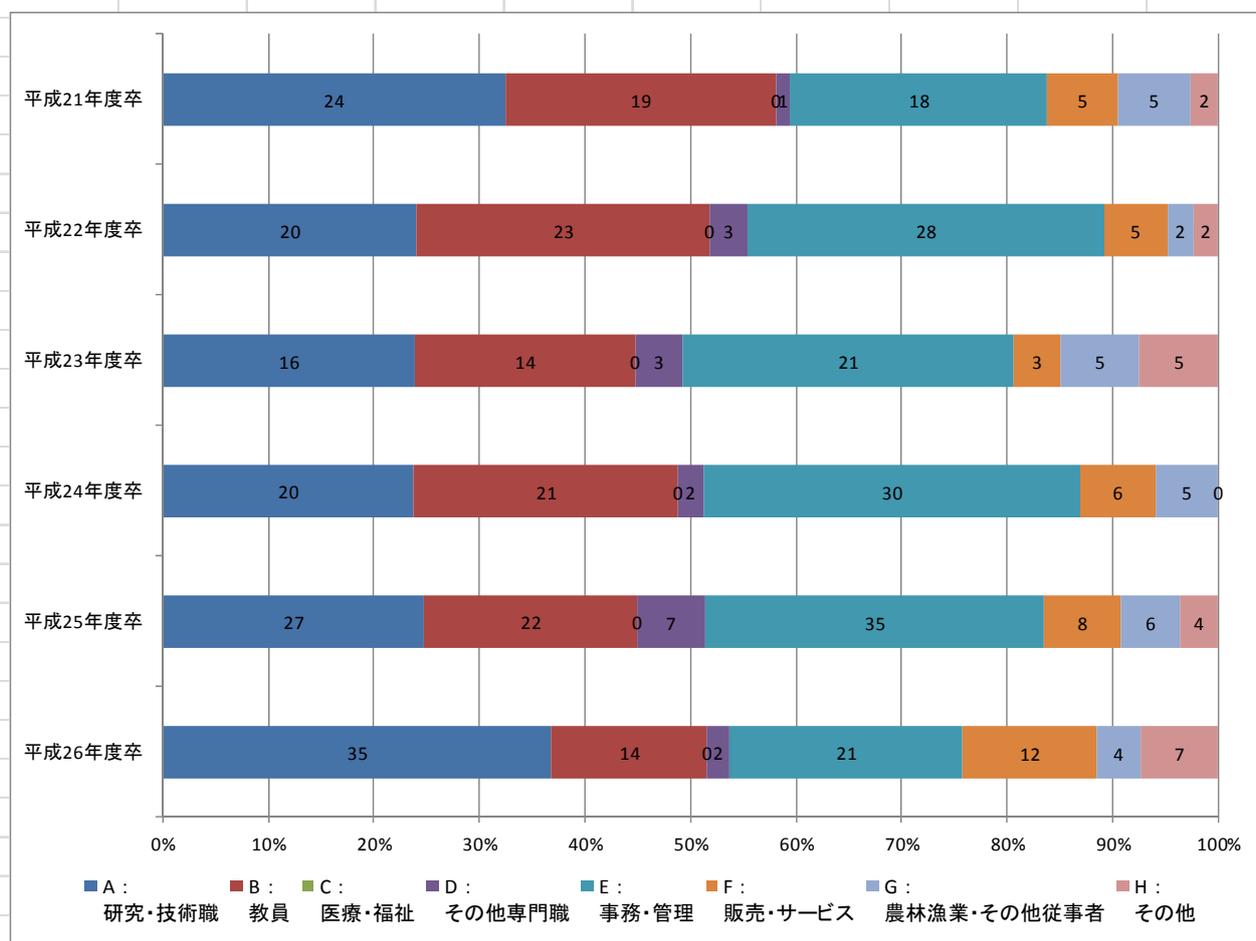
(出典：理学部就職委員会作成)

就職先に関して、卒業生の職業別・産業別就職状況は以下の通りである。（資料理111）

資料理 111 職業別就職状況

6年間において、約5割以上の学生が、各種技術者や教員、その他専門職等の職種に就いており、各学科で身につけた能力と就職先の職種との関連性が認められる。

	A: 研究・技術職	B: 教員	C: 医療・福祉	D: その他専門職	E: 事務・管理	F: 販売・サービス	G: 農林漁業・ その他従事者	H: その他	合計
平成21年度卒	24	19	0	1	18	5	5	2	74
平成22年度卒	20	23	0	3	28	5	2	2	83
平成23年度卒	16	14	0	3	21	3	5	5	67
平成24年度卒	20	21	0	2	30	6	5	0	84
平成25年度卒	27	22	0	7	35	8	6	4	109
平成26年度卒	35	14	0	2	21	12	4	7	95



(出典：理学部事務部作成)

(2) 卒業生、卒業生就職先からの意見聴取等

平成24年、27年に行った卒業生との座談会(資料理112)では、企業人として活躍する卒業生から、学部での実験や実習、卒論等が現在の職業に役立っているとの回答が寄せられた。(資料理113)

資料理112 卒業生との座談会

理学部評価・点検委員会では、信州大学銀嶺祭(大学祭)期間中の11月3日(土)午後、卒業生による座談会「卒業生と理学部を語ろう～理学部の教育改善を目指して～」を開催いたしました。

この座談会は、学部教育を実際に受けた卒業生の率直な意見をお聞きし、理学部教育について評価・点検を行い、学部教育の改革に向けた参考にしようという考えのもとに実施されたものです。

当日は、各学科を卒業・修了し、さまざまな分野・職場で活躍されている20代、30代の計13名に出席頂き、卒業後に感じている本学の理学部や理学部教育について、また、将来理学部はこうあってほしいということについて率直な感想、意見を語って頂きました。



また、平成27年度も同様に、信州大学銀嶺祭(大学祭)期間中の10月31日(土)に学生OB・OGとの座談会を行い、6名のOB・OGと23名の現役学生が就職について意見交換を行いました。

(出典：理学部旧ホームページより抜粋、理学部事務局作成)

資料理113 卒業生と理学部を語ろう！OBアンケートの結果(抜粋)

卒論・修論・博士論文作成について

数学の文章を書くときに、誤解を生じないような表現を心がけました。数学の文章を書く上では良い経験になりました。

数学全般の力。

まとめる・文章を作成するということが学部生のときにどういうものか分かっていなかった。レポートも正しいことを書いて提出すれば何とかなっていた。しかし、論文を作成するようになり、「自分でまとめること」「人に伝えたいことを適切に書く」という重要さがわかり、人に見られるもの、人に興味をもってもらえるような文章を書く力をつけることができたと思う。

論理的な文章の組立や、客観的なものの考え方などです。

コツコツとデータ集めでしょうか。

実際に文章を書いて、先生から直しをもらい過程を経て文章の書き方が身についた。何回かやり取りをするようになると誤字・脱字もぐらいしか赤入れがなくなってきて力が付いたことを実感した。現在仕事の上でも、後輩を指導する上でも役に立っていると思う。

いろいろありますが、特に自分の見解を他者に伝える難しさが壁でした。知識と疑問点、至らない部分を第三者的に見て、限られた時間でまとめる力は、仕事でもプライベートでも必要です。まだまだ修行中ですが、とても役に立っています。

卒論発表会も、学部卒ではなかなか経験できないことだったのだと、社会出てから気づきました。

卒論をまとめる過程で得た「自分の足を使って調べる」経験は、行政という立場での企画・立案においても、とても役に立っています。

重複しますが、「常に疑問を持つ」ということ。あと、似て非なることとっていますが、「常に好奇心を持つ」ということは人生を豊かにしてくれると思います。

卒論などでは一人で論文をまとめる作業のなかで、「筋道立てて説明する」力が付いたと思う。この力は現在の仕事での住民に対する説明など専門を問わずに役に立っているものであると思う。

データを正確に取ってこれらをまとめる。これは授業で学ぶこと。
卒論・修論では相手に伝える・相手に読んでもらえるようにすることが大事だと思った。
知っていることと分かったことは全く違う。
(先生から言われた課題受け身で取り組んでいると) なぜこの研究をしているのかという「イントロダクション」が卒論の時に書けなかった。”分からないから明らかにする”ということすら気づかず書けず悩んだ記憶がある。
実体験をアウトプットとする力が身についたと思う。

(出典：平成24年「卒業生と理学部を語ろう」アンケート)

(3) インターンシップ

理学部の全ての学科では平成19年度よりインターンシップに関する授業を設けており、近年では毎年10人程度の参加者がある。(前掲資料理81～82、p 88-89)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

インターンシップの導入や、就職セミナーの実施等の就職指導によって、進学率や就職率とも全国平均以上であり、学生の進学・就職支援が十分になされている(資料理81～82、108)。このような環境の下で、卒業時の進路決定が十分になされていると言える。

また、就職先として専門分野に関連した進路を選ぶ学生が過半数に及び、学部での専門教育が進路決定に大きな影響を与え学生の力を引き出しているといえる(資料理111)。

また、社会人として活躍する卒業生からも、専門教育が効果的に学生の能力を引き出していることが示されている(資料理113)。

以上のことから、在学生・受験生・保護者、および卒業生の雇用者からの期待に応え、期待される水準を上回っているといえる。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

平成27年度に改組を行い、教育実施体制に格段の改善がみられた。プログラム制の導入（資料理8）により、個別性の高い理学部の学問分野の専門性を確保しつつ、互いに関連の深い理学分野を広く学ぶこともできるようになった。

学部長のガバナンスを強化し、学生からの指摘や要望に対して、各教員が対応を文書で教務委員会に報告するよう体制を強化した（資料理24、42、43）ため、日常的な授業改善がおこなわれるようになった。第1期中期目標期間（H16～21年度）においては、このような授業改善の文書報告はおこなわれていなかった。また学生相談センターを平成24年度に新設したことにより、サポート体制が充実した（資料理30）。

教育内容・方法については、第2期中期目標期間において教育関連のプロジェクトを次々に実施してきた。まず「理数学生応援プロジェクト」事業（資料理59～63）は先進プログラムとして継承・発展している。また「コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラム」事業（資料理83）により設置された教職相談室（資料理104）は、その後の理学部の教職教育に大きな役割を果たし続けている。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

① 事例1 「理数学生応援プロジェクト実施に伴う学生の受賞」

学生の主体的な学習を促すために、「理数学生応援プロジェクト」（資料理59～63）において新入生ゼミ、アドバンス実験、サイエンスラウンジ、自主ゼミ等の開催支援を行った。平成25年度以降は、学部による継続的な支援を続けている。

② 事例2 「就職率の向上」

OB・OGとの座談会などが開催され（資料理112）、就職支援体制が整備されている（資料理109）。就職先関係者からの聴取もなされており、社会の要請を教育に反映する体制も整備されている。これらを反映して、平成21年度に比べ、就職率は高い数値を維持している。また、約9割の学生が卒業時の進路を決定でき、良好な状態を維持している（資料理108）。

8. 医学部

- I 医学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・8-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・8-21
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・8-21
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・8-136
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・8-167

I 医学部の教育目的と特徴

1 教育目的

(1) 理念・目標

本学部の理念・目標を以下に示す（資料医1）。

資料医1 医学部の理念・目標

（理念）

豊かな人間性、広い学問的視野と課題探求能力を身につけた臨床医、医療技術者や医学研究者などを育成するとともに、高度で個性的な医科学研究を行います。また医科学の教育・研究と医療活動を発展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与します。

（教育目標）

1. 医に携わる者としての基本的な知識・技能・態度を修得させる。
2. 医学的問題点の把握と自発的に解決する能力を培う。
3. 豊かな人間性と医に携わる者としての倫理観を育てる。
4. 幅広い教養教育を通して、人間としての教養をたかめる。
5. 国際交流ができる外国語能力を育成する。

（出典：信州大学ホームページ「基本理念・目標・沿革」）

(2) 3つの方針

本学部の学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入の方針を以下に示す（資料医2～4）。

資料医2 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（医学科）

信州大学医学部医学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士（医学）」の学位を授与する。

「意欲・態度」

- ・温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。
- ・医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。

「思考・判断」

- ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。

「コミュニケーション」

- ・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。

「技能・知識」

- ・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。

（保健学科）

信州大学医学部保健学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士（看護学）」又は「学士（保健学）」の学位を授与する。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身につけ、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠

に基づいた判断の進め方について理解することができる。

3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

資料医3 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学科ディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシー

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部医学科のディプロマポリシーに掲げた「意欲・態度」「思考・判断」「コミュニケーション」「技能・知識」の各項目を備えた医療人、医学研究者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを作成します。

温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけるために、専門教育と並行して教養教育及び医療倫理教育を実施し、まずは社会人として、その後医師としての高い見識と誠実な態度の醸成を図ります。また、疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得するために、低学年から専門基礎科目と専門科目を積み上げていきます。基礎医学講義・実習と並行して、グループディスカッションにより臨床症例問題の解決を図る少人数教育を行うことで、基礎医学的知識の統合的理解および基礎医学的知識と臨床医学的知識の融合を図ります。加えて、課題解決型の実習により、常に最新の情報を収集する技能の向上と様々な情報を総合的に判断する能力の向上を図ります。臨床医学講義・実習では、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関連する基礎医学知識の確認や、臨床医学の基本的知識の習得を図ります。症例検討型の授業を取り入れることで、基本的知識の深い理解をうながします。

患者やその家族との意思疎通やチーム医療を推進する能力を身に付けるべく、低学年時から他学科と合同して行う講義や実際の患者と触れ合う機会を取り入れます。

臨床実習では、それまでに身に付けた知識や態度、技術を繰り返し確認することで、医師として求められるレベルにまで引き上げていきます。

保健学科カリキュラム概要

本学保健学科は、未曾有の高齢社会の中で、変化する社会をとらえ、進展し続ける医療科学技術を理解し、全人的医療を行いうる医療人を育成することを目的としております。この目的を達成するため、信州大学という8学部を擁する総合大学の利点と、長野県内外に輩出した卒業生を核として全国に張り巡らされたネットワークを最大限に活用し、フィールドでの実践を重視した教育を基本として人材を養成します。

(信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

資料医4 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

(医学科)

医学科の求める学生像

医学部医学科ではこんな人を求めています。

- (1) 医師となる明確な目的意識を持っていること
- (2) 医学を学んでゆくにあたって必要な基礎学力があること

- (3) 医師となるのにふさわしい協調性，決断力，積極性を持っていること
- (4) 病める人を救う情熱，思いやりと奉仕の心，倫理観を持っていること
- (5) 将来の人類のために創造的な医学研究を志向する探求心を持っていること

上記を満たすために，高等学校では以下の科目を身につけていることが望めます。

- ① 数学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学Bについての十分な知識・技能と数学的思考法
- ② 理科：物理，化学，生物，地学についての基礎的知識と科学的な思考力
- ③ 地理歴史，公民：世界史B，日本史B，地理B，現代社会，倫理，政治経済についての基礎的知識と社会的素養
- ④ 国語：十分な読解力，思考力，表現力
- ⑤ 英語：十分な読解力，表現力，会話能力
- ⑥ 特別活動及び課外活動を通じた自主的，協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(保健学科)

保健学科の求める学生像

保健学科は専門性の異なる看護学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻で構成されています。保健・医療においては専門性を追求するだけでなく，刻々と変化していく社会情勢や科学に対応し，様々な職種間の連携をとることが必要です。

このため，保健学科は，次のような資質を備えた学生を強く望んでいます。

- (1) “人”に深い関心と思いやりを持ちうる人
- (2) 絶え間なく進歩する科学を理解・適用していくための基礎学力と論理的能力のある人
- (3) 社会に対し積極的に関わり，専門職としての役割を果たそうとする意欲のある人

保健学科に入学するまでに学んできてほしいこと

保健・医療・福祉領域における医療職者の役割は，拡大し，多様化してきました。医療職者には，人間の命の尊さを真摯に理解し，人を思いやる心を持ち，幅広い基礎知識と応用力，たゆみない探究心により，社会に対しても積極的に関わり役割を果たそうとする意欲を持つことが求められます。

このため，保健学科に入学するまでに高等学校等において次のようなことを身につけていることが望めます。

- (1) 国語・英語に関しては，基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力・論理的思考力
- (2) 数学に関しては，「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学A」，「数学B」の知識と論理的思考方法
- (3) 理科に関しては，「物理」，「化学」，「生物」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢
- (4) 地理歴史・公民に関しては，刻々と変化していく社会情勢に対応していくための基礎知識と応用力
- (5) 特別活動及び課外活動等を通じた自主的，協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(出典：「信州大学学生募集要項」)

2 組織の特徴や特色

(1) 組織の特徴

① 基本的組織の特徴

本学は県内5キャンパスに分散しており，本学部は，松本キャンパスにて一貫教育を行っている。(資料医5～7)

資料医 5 キャンパス配置図



(出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料医 6 : 全学教育機構の概要

全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

資料医 7：信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

②学部の特徴

本学部は昭和19年設置の松本医学専門学校に始まり、昭和26年に医学部医学科となり、保健学科は平成14年に医療技術短期大学部から改組。(資料医8)

資料医 8：医学部組織の概要

○本学部は県内唯一の医育機関として、また附属病院は県内唯一の大学病院として長野県の医療をリードしている。

○今日まで多くの医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等を輩出し、長野県のみならず日本の医療に貢献している。

○専門医を多数育て、最先端医療を積極的に導入することにより、長野県医療の最後の砦としての役割を果たしている。一方、多くの患者さんに接し、人に優しい医療を実践することにより、地域医療を支える人材を多数育成している。さらに、リサーチマインドを持った医療従事者の育成を推進し、医療レベルの向上に貢献している。

(次頁に続く)



③ 産学官連携施設

産学官が連携したインキュベーション施設を有している（資料医9）。

資料医9 産学官連携施設

(大学の施設)	所在地(市町村)
	※すべて長野県
信州地域技術メディカル展開センター	松本市

(出典：「大学概要2015」抜粋)

④ 寄附講座

研究機関等からの付託を受け寄附講座を設置している（資料医10）。

資料医10 医学分野に関する寄附講座一覧

講座名	寄附者	設置期間	寄附額(期間総額) (単位：千円)
地域医療推進学講座	長野県	H21.4.1～H24.3.31	90,000
医学教育学講座	JA長野厚生連	H22.4.1～H27.3.31	60,000
神経難病学講座	キッセイ薬品工業株式会社	H22.4.1～H32.3.31	310,000
下部尿路医学講座	旭化成ファーマ, 杏林製薬	H23.4.1～H26.3.31	28,500

	株式会社, グラクソ・スミスクライン株式会社		
創薬科学講座	キッセイ薬品工業株式会社	H24. 4. 1～H30. 3. 31	180, 000
在宅療養推進学講座	キッセイコムテック株式会社	H25. 3. 27 ～ H28. 3. 31	24, 000
人工聴覚器学講座	メドエル・エレクトロメデイツィニッシェ・ゲレーテ・ゲーエムベーハー	H25. 4. 1～H28. 3. 31	39, 000
メディカル・ヘルスイノベーション講座	株式会社ブルボン, 多摩川精機株式会社, 社会医療法人財団慈泉会相澤病院	H25. 4. 1～H28. 3. 31	54, 000
下部尿路医学講座	旭化成ファーマ, 杏林製薬株式会社	H26. 4. 1～H27. 3. 31	8, 000
産業衛生学講座	セイコーエプソン株式会社, 東筑摩郡筑北村, 株式会社ファーストリテイリング	H26. 4. 1 ～ H27. 10. 31	6, 358
感染病態解析学講座	JA 長野厚生連	H27. 4. 1～H32. 3. 31	60, 000

(出典：医学部作成)

⑤協力, 関連施設

本学部の教育にあたり, 多くの病院・施設の協力を得ている。(資料医11)

資料医11 教育協力病院・施設

(医学科)

病院名 (37病院)		
長野県立 須坂病院	市立大町総合病院	県立こころの医療センター 駒ヶ根
長野県立 木曽病院	飯山赤十字病院	富士見高原病院
安曇総合病院	昭和伊南総合病院	岡谷市民病院
佐久総合病院	伊那中央病院	新町病院
篠ノ井総合病院	諏訪赤十字病院	肝疾患診療相談センター
小諸厚生総合病院	安曇野赤十字病院	相澤病院
長野松代総合病院	長野県立こども病院	市立甲府病院
北信総合病院	長野市民病院	丸の内病院
国保依田窪病院	長野赤十字病院	諏訪中央病院
まつもと医療センター松本病院	松本市立病院	上越総合病院
まつもと医療センター中 信まつもと病院	飯田市立病院	丸子中央病院
国立病院機構信州上田医療センター	厚生連 鹿教湯病院	佐久市立国保浅間総合病院
国立病院機構 小諸高原病院		

(保健学科)

看護学専攻

相澤訪問看護ステーション ひまわり	小諸高原病院	松本市北部デイサービスセンター
相澤病院	塩尻市保健福祉センター	松本市北部保健センター
相澤訪問看護ステーション ひまわり塩尻事業所	塩尻市社会福祉協議会訪問看護ステーション	松本市立病院
あさま温泉敬老園デイサー	篠崎訪問看護ステーション	松本市立病院 訪問看護ス

ビスセンター		テーション
あずみの里訪問看護ステーション	篠ノ井総合病院	松本市田川デイサービスセンター
安曇野市豊科保健センター	小規模多機能型居宅介護事業所 となりの縁側おかだ	松本市北部デイサービスセンター
安曇野市穂高保健センター	小規模多機能施設 かがやきの家笹部	松本赤十字乳児院
安曇野市三郷保健センター	城山介護老人保健施設 ゆめてらす	松本西訪問看護ステーション
安曇野赤十字訪問看護ステーション	竹の湯デイサービスセンター	松本保健福祉事務所
蟻ヶ崎デイサービスセンター	中信松本病院	丸の内病院
池田町総合福祉センターやすらぎの郷	ツクイ松本デイサービスセンター	丸の内訪問看護ステーション
うつくしがはら温泉敬老園 ショートステイ	ツクイ松本北深志デイサービスセンター	南ふれあいホーム
うつくしがはら温泉敬老園 デイサービスセンター	デイサービスセンタージョイフル岡田	村井病院
うつくしの里デイサービスセンター	長野県看護協会南松本訪問看護ステーション	メンタルケアセンターあずみ
大町市中央保健センター	長野県立こども病院	山形村保健福祉センターいちいの里
大町保健福祉事務所	藤森訪問看護ステーション	ゆめの里和田訪問看護ステーション
介護老人福祉施設 岡田の里	訪問看護ほっとステーション	れんげの家
岡谷市保健センター	松岡病院	老人保健施設 あずみの里
介護老人保健施設 安曇野メディア	松川村保健センター	
介護老人保健施設 ハーモニー	松本協立訪問看護ステーションすみれ	
北アルプス医療センターあづみ病院併設訪問看護ステーションあずみ	松本市医師会訪問看護あいステーション	
北ふれあいホーム	松本市西部保健センター	
グループホームおかだ	松本市中央保健センター	
御殿の湯デイサービスセンター	松本市南部保健センター	
検査技術科学専攻		
相澤病院	信州大学医学部附属病院	松本医師会センター
長野県立こども病院		
理学療法学専攻		
あいち小児保健医療総合センター	長岡療育園	竹重病院
安曇総合病院	長野中央病院	長野県立総合リハビリテーションセンター
安曇野赤十字病院	藤森病院	長野県厚生連佐久総合病院

飯山赤十字病院	松本協立訪問看護ステーションすみれ	長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院
石川県立中央病院	松本市立病院	長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院
一之瀬脳神経外科病院	丸子中央病院	長野県厚生連小諸厚生総合病院
伊那中央病院	山梨県立あけぼの医療福祉センター	長野県厚生連富士見高原病院
医療法人社団日高会 日高病院	一宮西病院	長野県厚生連北信総合病院
神奈川リハビリテーション病院	稲荷山医療福祉センター	長野県立こども病院
上條記念病院	昭和伊南総合病院	長野松代総合病院
国保依田窪病院	信州大学医学部附属病院	長野赤十字病院
小林脳神経外科病院	信濃医療福祉センター	飯田市立病院
しいのみ学園	諏訪赤十字病院	富士温泉病院
城西病院	諏訪中央病院	
独立行政法人地域医療機能推進機構東京蒲田医療センター	相澤病院	

作業療法学専攻

相澤病院	信州大学医学部附属病院	小諸厚生総合病院
飯田市立病院	総合上飯田第一病院	上伊那生協病院
伊那中央病院	長野県立須坂病院	城西病院
介護療養型老人保健施設いずみの	長野県立総合リハビリテーションセンター	信濃医療福祉センター
介護老人保健施設辛夷園	長野市民病院	諏訪湖畔病院
介護老人保健施設ハーモニー	長野中央病院	諏訪中央病院
上條記念病院	メンタルサポートそよかぜ病院	千曲荘病院
健和会病院	安曇野赤十字病院	倉田病院
厚生連安曇総合病院	栗田病院	鶴賀病院
こころの医療センター駒ヶ根	恵寿総合病院	南信病院
佐久総合病院	北アルプス医療センターあずみ病院	飯田病院
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院	厚生連富士見高原病院	北ふれあいホーム
篠ノ井総合病院	佐久総合病院	
城西病院	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院	

(出典：医学部作成)

(2) カリキュラムの特徴・特色

① 基本的な構成

本学は、共通教育科目と専門科目にて教育課程を編成している。(資料医12)

資料医12 信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深

い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。
(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典:信州大学規程集)

②専門科目

専門科目の特徴、構成を以下に示す(資料医13)

資料医13 医学科・保健学科カリキュラムの特徴、構成

① 医学科

講義による教育を少なくし、課題追求・問題解決型の教育および臨床実習を積極的に導入している。さらに、臨床実習における自主性を尊重し、積極的かつ実践的な学習ができる環境を整えている。臨床能力の評価には要所に客観的臨床能力試験(OSCE)を取り入れ習熟度を総合的に判断している。カリキュラムの作成・実施については学内および学外からの評価を行っている。また、平成23年度入学生から新カリキュラムが始まっている。

6年生		卒業試験 ユニット講義 臨床実習(Clinical clerkship)(学外実習を含む) 臨床実習終了後 OSCE
5年生		臨床実習(clinical clerkship)(学外実習を含む) Midterm OSCE
4年生	後期	臨床実習(clinical clerkship)(学外実習を含む),
	前期	共用試験(CBT・OSCE) 臨床医学講義・演習(ユニット講義・系統講義・TBL)
3年生	後期	臨床医学講義・演習(ユニット講義・系統講義・TBL) 基礎医学講義
	前期	基礎医学講義・実習 自主研究演習
2年生		共通教育 基礎医学講義 早期体験実習
1年生		共通教育 基礎医学講義 早期体験実習

②保健学科

体験実習などにより老人や障害者などの弱い立場にある人と接する機会を多くするとともに、緩和医療や医療倫理の教育にも力を入れている。さらに、医学科と保健学科が合同で講義やチーム医療実習を行っている。

(次頁に続く)



③ 共通教育科目

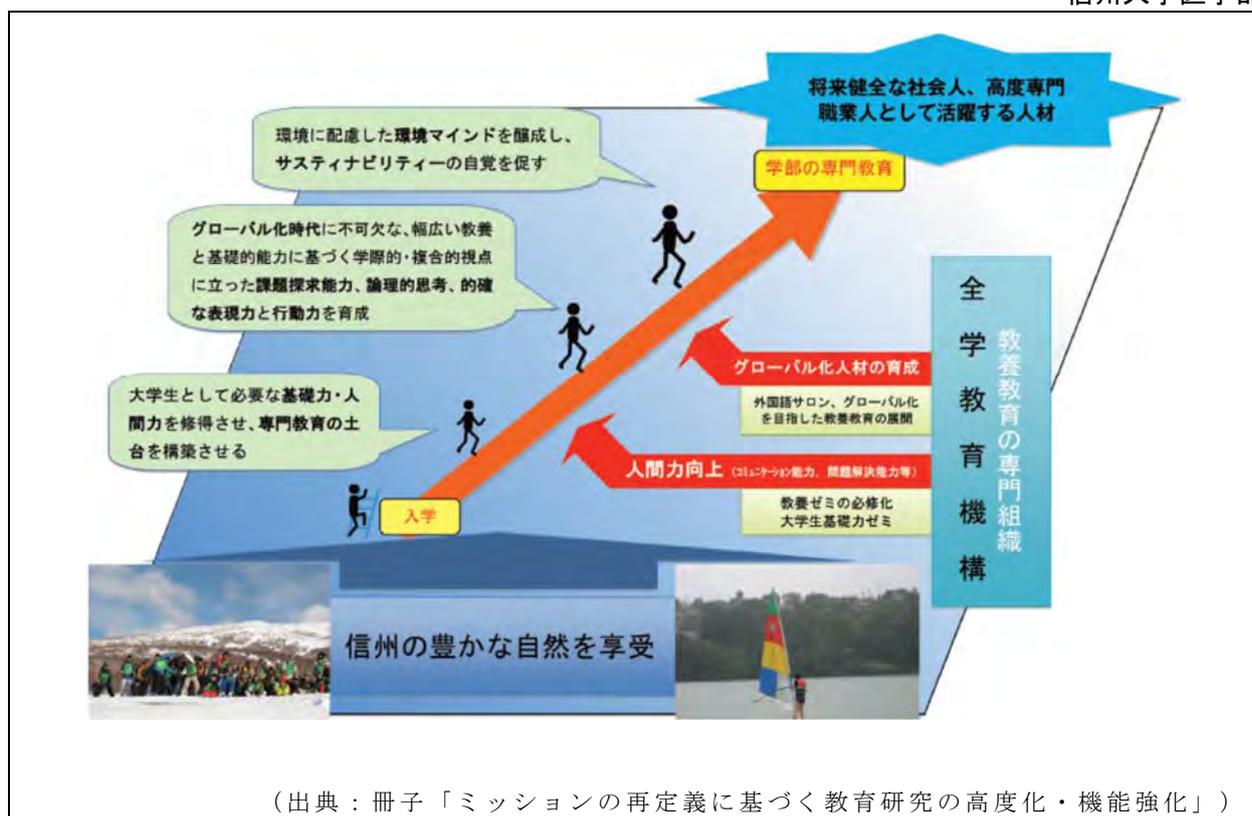
1, 2年次生が受講する共通教育科目は、様々な学問領域に関する授業を開講。(資料医14, 15)

資料医14 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。

(次頁に続く)



資料医 15 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科（課程）を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育（学部一貫教育）の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

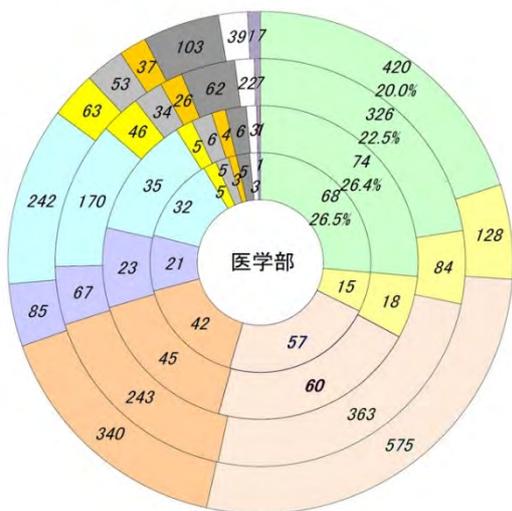
3 入学者の状況

入学者の特徴を以下に示す。(資料医16~22)

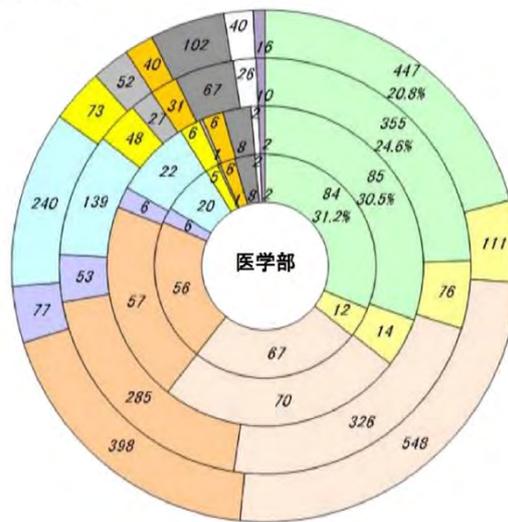
資料医16 志願者、受験者、合格者、入学者の県別割合

医学部全体

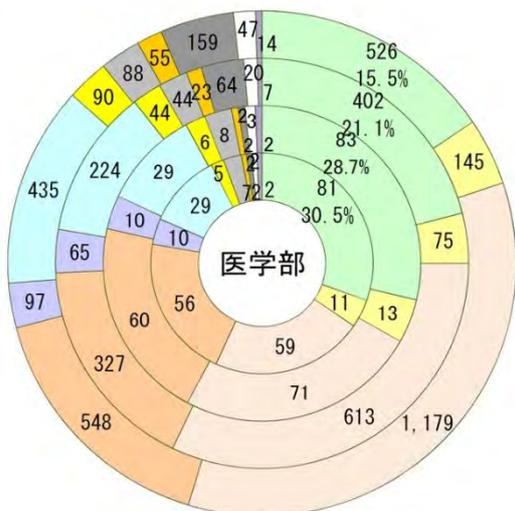
平成21年度



平成23年度



平成26年度

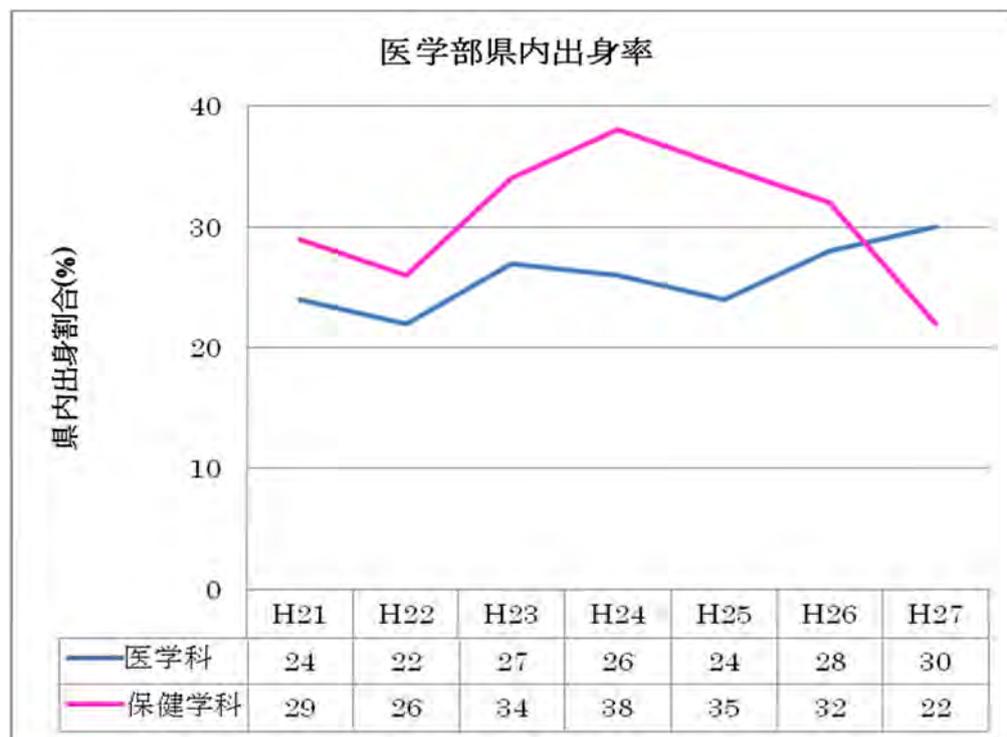


凡例

- | | |
|---------|-------|
| 最外周：志願者 | 長野 |
| 第2周：受験者 | 甲越 |
| 第3周：合格者 | 関東 |
| 最内周：入学者 | 東海 |
| | 北陸 |
| | 近畿 |
| | 東北 |
| | 中国 |
| | 四国 |
| | 九州・沖縄 |
| | 北海道 |
| | その他 |

(出典：経営企画課作成)

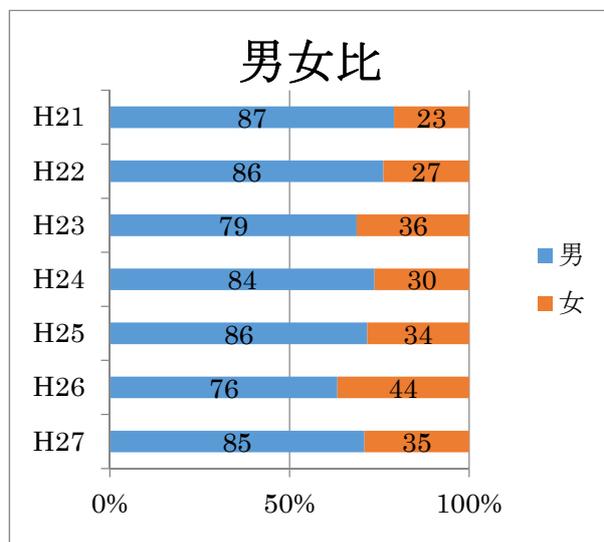
資料医17 医学科・保健学科 入学者の長野県出身者割合



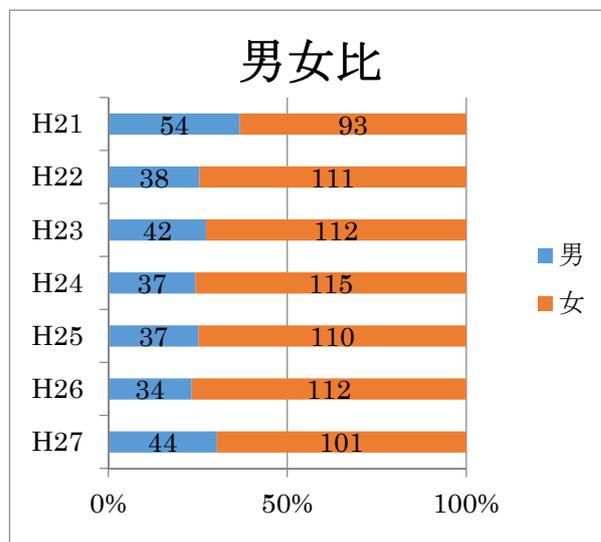
(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

資料医18 入学者の男女比

医学科



保健学科

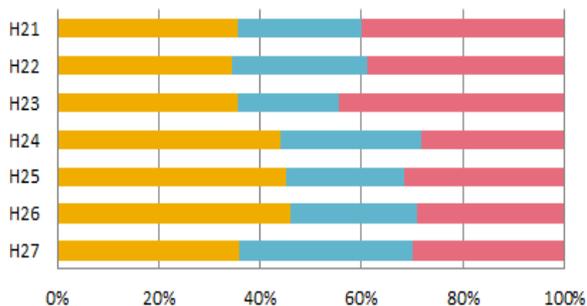


(出典：経営企画課作成)

資料医19 入学者の卒業年度

医学科

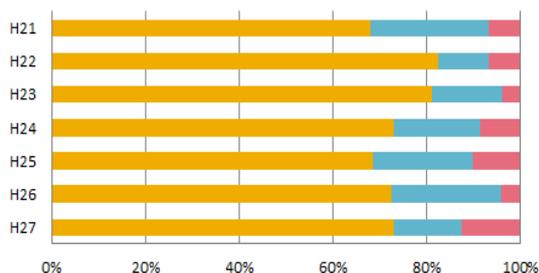
高校卒業年



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	39	39	41	50	54	55	43
■前年卒	27	30	23	32	28	30	41
■その他	44	44	51	32	38	35	36

保健学科

高校卒業年



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	100	123	125	111	101	106	106
■前年卒	37	16	23	28	31	34	21
■その他	10	10	6	13	15	6	18

(出典：経営企画課作成)

資料医20 一般入試志願倍率の推移

医学科



保健学科



(出典：経営企画課作成)

資料医21 入学定員

医学科では県内医療に従事する医師を養成するため、平成17年度入学生から県内推薦特別選抜入試制度を導入している。また、保健学科では、3年次編入学入試のほか、理学療法学専攻と作業療法学専攻では、社会人特別選抜制度を設けている。

学 科	専 攻	一般入試		特別選抜		計	第3年次 編入学
		前期日程	後期日程	推 薦	社会人		
医学科	-	85	15	20	-	120	-
保健学科	看護学	50	10	10	-	70	10
	検査技術学	23	9	5	-	37	3
	理学療法学	15	3	-	若干人	18	2
	作業療法学	15	3	-	若干人	18	2

(出典：医学部作成)

資料医22 入試科目

医学部
前期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学科	教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等	
医学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学	①		「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
		②		「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科	①		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」		
外国語			「英語」	左欄の科目	
保健学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学	①		「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
		②		「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科	①		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」		
外国語			「英語」	左欄の科目	

- 注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方(大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。
- 注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者(9ページ「6入学者選抜方法(3)旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照)のみ選択解答することができます。
- 注3 旧教育課程履修者は、理科において新・旧の異なる教育課程の科目を組み合わせて選択解答することはできません。
- 注4 「英語」はリスニングを課します。

個別学力検査実施教科・科目等

学 科	受 験 教 科 ・ 科 目 等
医 学 科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B) (※1 ※4)
	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)
	理科(化学基礎・化学) (※5)
	小論文 (※2)
	面接 (※3)
保 健 学 科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) (※1 ※4)
	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)

- ※1 数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。
- ※2 小論文は、指定された字数内で論述する方式です。
- ※3 面接は、数名を1グループとして実施します。場合によってはさらに個別面接を行うことがあります。
- *** 旧教育課程履修者に対する経過措置 ***
- ※4 数学については、旧教育課程履修者が不利にならないように出題します。
- ※5 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目(化学Ⅰ・化学Ⅱ)の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

(次頁に続く)

医学部

後期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学科	教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等	
医学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学		①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
			②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科		①	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」		
外国語		「英語」	左欄の科目		
保健学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学		①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
			②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科		①	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」		
外国語		「英語」	左欄の科目		

注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方（大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者（9ページ「6入学者選抜方法（3）旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照）のみ選択解答することができます。

注3 旧教育課程履修者は、理科において新・旧の異なる教育課程の科目を組み合わせることはできません。

注4 「英語」はリスニングを課します。

個別学力検査実施教科・科目等

学 科	受 験 教 科 ・ 科 目 等
医 学 科	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）（※1 ※3）
	外国語（英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング）
	理科（化学基礎・化学）（※4）
保 健 学 科	面接（※2）

※1 数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。

※2 面接は、教名を1グループとして実施します。

*** 旧教育課程履修者に対する経過措置 ***

※3 数学については、旧教育課程履修者が不利にならないように出題します。

※4 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目（化学Ⅰ・化学Ⅱ）の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

（出典：「平成27年度入学者選抜要項」）

[想定する関係者とその期待]

医学部は，社会に貢献する医療人を育てることが期待されている。

学生とその保護者

幅広い医学的知識に基づいた臨床能力を持ち，医療人となるに相応しい問題解決能力，倫理観，幅広い教養の涵養

医療機関

幅広い医学的知識に基づいた臨床能力を持ち，医療人となるに相応しい問題解決能力，倫理観，幅広い教養を持つ人材の育成

地域社会

長野県の地域医療に安定的に貢献する医療人の育成

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 基本的組織の編成

①学術研究院，全学教育機構と学部

教員の流動性と全学的な教育・研究マネジメントを可能とするため，教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料医 23)

学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構(以下，機構)を設置。

資料医 23 学術研究院と学部との関係



学術研究院は，3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は，いずれかの学系に所属し，職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院，全学教育機構において，教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において，診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において，研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において，研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において，担当業務に携わる。

これにより，先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し，研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

②学部教育の検討・実施体制

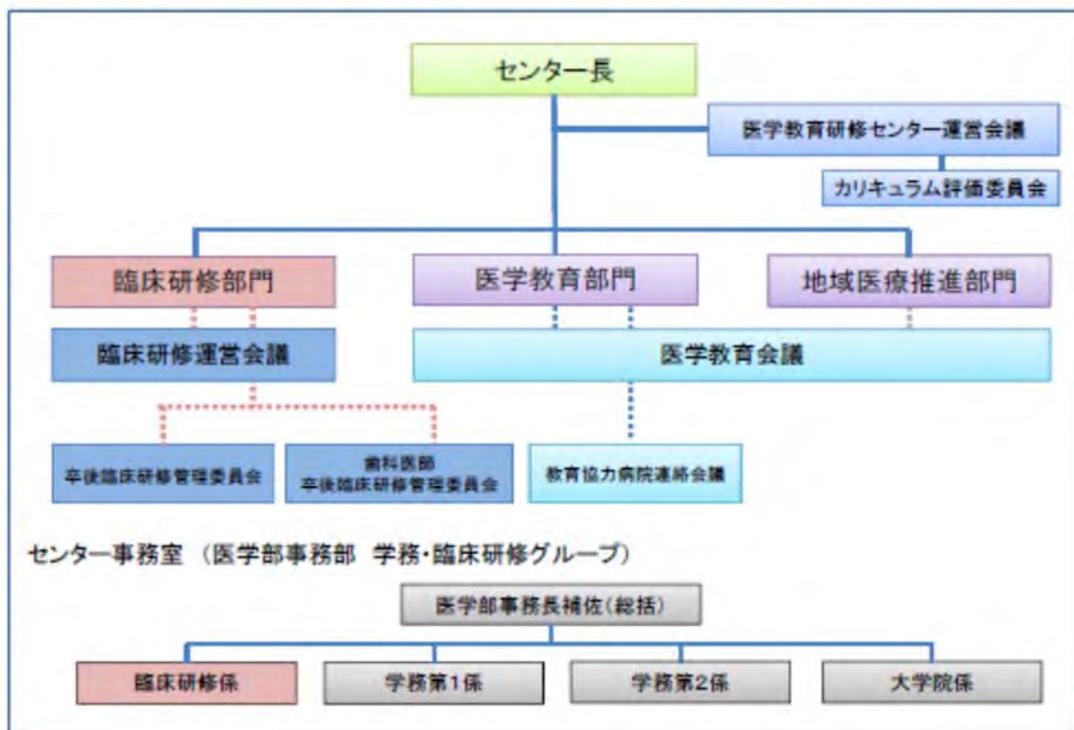
②-1 医学科

医学教育研修センターが教育課程編成の中心となり、一貫した卒前卒後教育を推進（資料医24～27）。

資料医24 医学教育研修センター

医学教育センター（学生教育）、地域医療推進学講座（地域医療を担う人材育成）、卒後臨床研修センター（研修医の教育）における卒前卒後教育を包括的に実施する組織として、平成27年11月1日付で医学教育研修センターを設置した。

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター 組織図



(出典：医学部作成)

資料医25 医学教育研修センター

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター規程（抄）

（設置）

第1条 医学部及び医学部附属病院に、医学部における卒前教育（以下「卒前教育」という。）並びに医学部附属病院（以下「附属病院」という。）における医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項及び歯科医師法（昭和23年法律第202号）第16条の2第1項に規定する臨床研修（以下「卒後臨床研修」という。）を包括的に行う組織として、信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 センターは、医学部及び附属病院が協力し、一貫した医学教育による医師の養成を行うとともに、その実施のために長野県内の医療機関と連携した医学教育体制を構築し、地域医療の推進に貢献することを目的とする。

（業務）

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 医学部の学生（以下「医学部学生」という。）及び附属病院の研修医（以下「研修医」とい

- う。)に対する教育及び研修に係る管理運営に関すること。
- イ 医学科の学生及び研修医個々に係る一貫した卒前教育及び卒後臨床研修の教育・実習・研修計画の立案及び評価に関すること。
- ロ 共通教育及び保健学科との共同教育に関すること。
- ハ 医学部長から付託された入試の実施に関すること。
- ニ 医学科の学生に係る進級及び卒業判定に関すること並びに研修医に係る研修修了判定に関すること。
- ホ 各教室との調整に関すること。
- ヘ 共用試験の管理運営に関すること。
- ト 医学教育に関する調査研究，開発及び支援に関すること。
- チ eMEDプログラム学生の教育計画立案及び担当教室との調整に関すること。
- リ 臨床実習における教育協力病院と学生との連絡調整に関すること。
- ヌ 卒後臨床研修の企画，策定及び調査に関すること。
- ル 研修医の募集及び登録に関すること。
- ヲ 卒後臨床研修の実施過程におけるカリキュラム管理に関すること。
- ワ 研修医及び指導医の評価に係る業務に関すること。
- カ 研修医に係る連絡・照会等の対応に関すること。
- ヨ 研修医に係る協力型臨床研修病院及び協力型相当大学病院並びに研修協力施設との連絡調整に関すること。
- タ 歯科医師免許を有する研修医に係る卒後臨床研修の管理運営に関すること。
- レ その他医学部学生及び研修医（附属病院卒後臨床研修センターが行う業務を除く。）に関すること。
- (2) 医学部のスキルズラボの管理運営に関すること。
- (3) 卒前教育ファカルティ・デベロップメント，臨床研修指導医講習会の企画・開催・運営に関すること。
- (4) 推薦入学学生，長野県医学生修学資金貸与学生・研修医のキャリア支援に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターに，次の各号に掲げる部門を置き，主に当該各号に掲げる部門の業務を行う。

- (1) 医学教育部門 医学教育に関する業務
- (2) 臨床研修部門 卒後臨床研修に関する業務
- (3) 地域医療推進部門 地域医療の推進に関する業務

(出典：医学部作成)

資料医26 医学科の教育内容検討改善（PDCA）組織図



(出典：医学部作成)

資料医27 地域医療推進学講座

○信州大学医学部地域医療推進学講座は、医師不足を主たる原因とする長野県の地域医療の崩壊を少しでも阻止すべく「県内病院の特に医師不足が深刻な診療科における医師の養成・確保を図るため、医師が不足する特定診療科の効率的な医師の養成等に関する実践的研究を行い、信州大学医学部を中心とした即戦力医師等の供給システムの構築を図る。」を目標に設置された。この設立趣旨に基づいて、医師の地域偏在・診療科偏在・女性医師の増加・診療科の専門細分化、ならびに医療資源としての医師の適正配置について、それらの現状を把握し、解決策を立案すべく調査・研究、活動を行う。また、今後の医療を担う人材としての高校生への啓発事業を開催し、さらに医学生の卒前・卒後教育にも参画する。

○講座の目標

医師不足を中心とした地域医療に関する問題についての長野県の状況を把握、分析し、特に相対的医師不足の解決策を提案していく。現行においては『長野県の医療を担う医師を、専門診療科の人数バランスを考慮しつつ増やす』が喫緊の課題となるが、重要なのはこの医師が地域医療マインドとプロフェッショナリズムを有し、かつ県民に信頼されうる臨床力を持っている必要があることである。この点において、医学教育、初期研修教育、その後の専門科医師養成の果たす役割の重要性が改めて認識され、前述の課題に対し考えられる施策は以下の通りとなる。

1. 長野県からの医学部進学者を増やす。
2. 信州大学卒業生の大学病院あるいは県内病院での初期研修を促進する。
3. 県出身者で他の大学出身者の大学病院あるいは県内病院での初期研修を促進する。

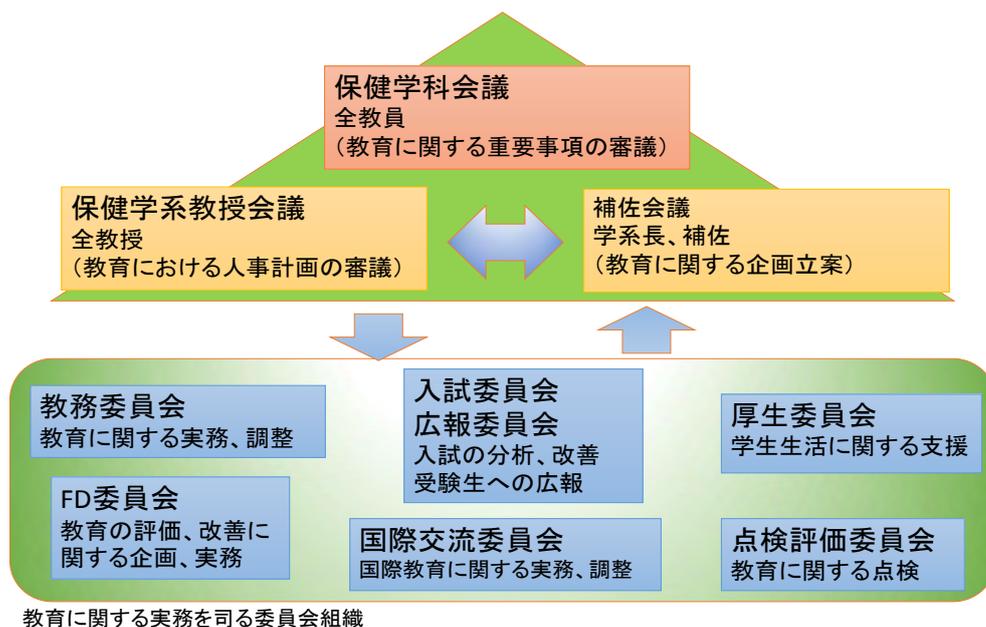
4. 県外（県外で初期研修）からの専門（後期）研修者を増やす。
 5. 各診療科の魅力の発信，診療科偏在の実態を知らせることにより，バランスのとれた診療科選択を促す。
- これら施術実現に貢献すべく，以下の調査・研究ならびに事業を実施，計画する。

（出典：医学部ホームページから）

②-2 保健学科

看護師，保健師，助産師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士の育成に関して，教務委員会が中心となり，カリキュラムならびに附属病院等の実習環境を整備。（資料医28）

資料医28 保健学科の教育内容検討改善（PDCA）組織図



（出典：医学部作成）

③ 関係者のニーズを把握するための取組

ニーズを把握し，広報や教育課程の編成・実施につなげている。（資料医29）

資料医29 関係者のニーズ把握
（医学科）

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生医学部進学セミナー ・予備校講師による講演と現役医師による講演 ・信州大学医学部附属病院見学会 ・医学部医学科オープンキャンパス ・医学部教室，附属病院診療科の見学 ・信州赤ひげ塾（協力） ・長野県教育委員会主催のイベント ・学生は医学科志望の高校生とのグループ懇談へ協力参加 ・様々な分野で活躍する医師の講演 	複数回/年	地域医療推進学講座，他機関	広報
新入生	合宿でのヒアリング（KJ法を用いた目指す医師像の発表），地域医療推進学による支援（スタートアップセミナー，信州医療ワールド夏季セミナー，研修会・交流会の実施）	1/年	医学教育研修センター	授業改善・意識調査

学生	アンケート, ヒアリング (実習時, 担任とのクラス会), 医学教育研修センター医学教育会議への参加, 学生会代表者との面談	1 ~ 3 / 年 (会議への参加は毎月)	医学教育研修センター	授業改善・意識調査
卒業生	実習中のヒアリング, 卒後臨床研修における支援	1 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査
地域医療機関	実習中のヒアリング, 出張医学教育FD時アンケート	2 ~ 3 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査
父母	父母会実施時アンケート	1 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査

(保健学科)

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
高校生	・ 医学部保健学科オープンキャンパス ・ 高校での模擬講座 ・ 高校生のための授業公開	1/年 6/年 1/年	広報委員会 広報委員会 広報委員会	広報
新入生	・ 新入生ガイダンス ・ 新入生合宿研修でのアンケート	1/年 1/年	教務委員会・ 厚生委員会	授業改善・意識調査
学生	授業改善アンケート 卒業時到達度調査	各授業 1/年 1/年	FD委員会 教務委員会	教育方法の改善
卒業生	卒業生へのアンケート調査 卒業生を迎えての懇談会でのアンケート, インタビュー	3年毎 隔年	点検評価委員会 各専攻	教育方法の改善
地域	就職先調査	不定期	点検評価委員会	教育方法の改善

(出典：医学部作成)

④ 教員の配置

専任教員の配置状況を以下に示す。(資料医30)

資料医30 教員の配置状況

	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
医学科	41	42	44	104	3	234
設置基準上の人数	30	-	-	-	-	140

保健学科	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
看護学専攻	11	6	4	7	2	30
設置基準上の人数	6	-	-	-	-	12
検査技術学専攻	7	2	1	2	0	12
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8
理学療法学専攻	4	3	0	3	0	10
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8
作業療法学専攻	4	0	2	2	0	8
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8

(出典：医学部作成)

⑤ 共通教育

機構を中心に全学協力体制で実施。(資料医 31～33)

資料医31 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、本学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

3 共通教育企画実施部に、次の各号に掲げる教育部門を置く。

- (1) 環境マインド教育部門
- (2) 人文・社会科学教育部門
- (3) 自然科学教育部門
- (4) 健康科学教育部門
- (5) 英語教育部門
- (6) 初修外国語教育部門

4 共通教育企画実施部に責任者を置き、副機構長(教育担当)をもって充てる。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- (4) 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- (5) その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

- 4 議長は、運営会議を主宰する。
- 5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。
- 6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
 - (2) 機構の運営組織に関する事項
 - (3) 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針（採用人事方針を含む。）に関する事項
 - (4) 教職教育部の業務に関する事項
- 7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

第3章 機構と各学部との連携体制等

（学長及び共通教育推進会議）

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

2 学長は、全学（すべての学術研究院の学系、学部、大学院研究科、学内共同教育研究施設等及び教員をいう。）に対して共通教育への協力を要請し、必要に応じて全学の教員に対し共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを命ずることができる。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

（出典：信州大学規程集）

資料医32：国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（職務）

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- (3) 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- (4) 全学教育機構の運営に関する事
- (5) その他共通教育の実施に関する事

（組織）

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教務担当の理事
- (3) 全学教育機構長
- (4) 高等教育研究センター長
- (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- (6) その他学長が必要と認める者

（議長）

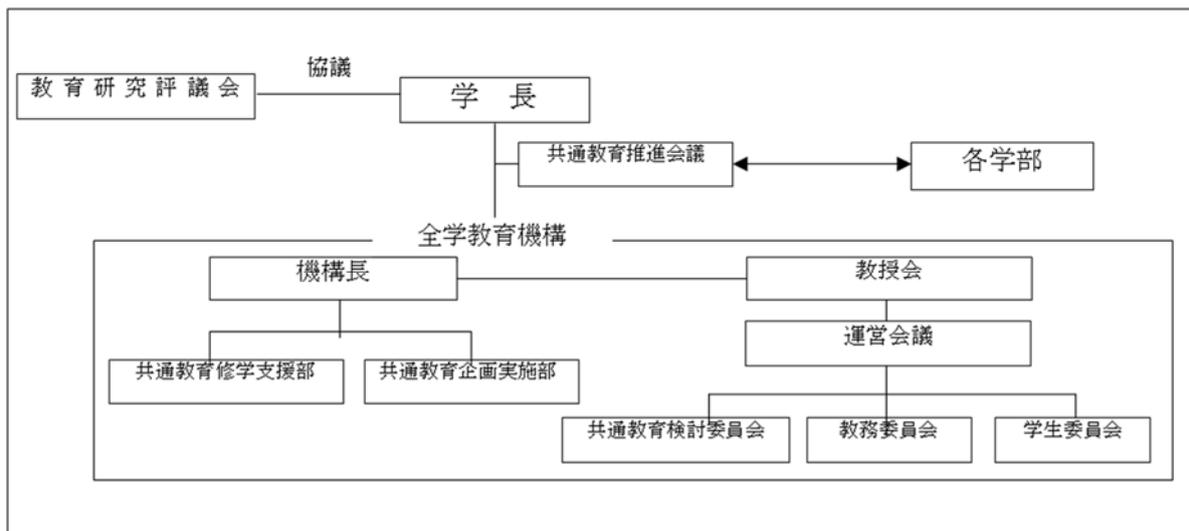
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

（出典：信州大学規程集）

資料医33 共通教育科目の教育体制



(出典:経営企画課作成)

(2) 教育内容・方法の改善の仕組

① 医学科

教育内容・方法を改善する取組として、前掲資料医24(22頁)のとおり体制を構築。

①-1 医学教育研修センター

医学科の教育に関する検討・改善は医学教育研修センターが担当し、学生代表を含む医学教育会議にて検討している(前掲資料医25(22頁),26(24頁),資料医34~35)。国際基準に合致するカリキュラムを行うため、平成23年度にカリキュラム検討WGを設置した(資料医36)。

資料医34 医学教育研修センター医学教育会議の構成員

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター医学教育会議細則(抄)

(組織)

第3条 医学教育会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センターの教員
- (2) センター規程第7条第1号から第4号までに規定するセンター支援員
- (3) 医学部医学科学生会が選出する学生

(出典:医学部作成)

職名	職種	任命方法		職名	氏名	
センター長	教授	医学科会議の議に基づき、学部長が任命		教授	多田 剛	
副センター長		センター長の推薦に基づき、学部長が任命(2人)		准教授	森田 洋	
				講師	森 淳一郎	
	センター教員	若干人		助教	清水郁夫	
	センター教員(兼務)			助教	黒川由美 (地域医療)	
センター支援教員			補佐会議	教授	田中榮司 (2内)	
			OSCE運営委員会	教授	花岡正幸 (1内)	
			大学院委員会	教授	本田孝行 (病態解析診断学)	
			卒後臨床研修センター(副センター長)	助教	増田雄一	
			卒後臨床研修センター	助教	加藤 沢子	
			センター長が指名した者(若干人)	講師	牛木淳人(1内) H27.4.1~H28.3.31	
				講師	高橋 徹(精神科) H27.4.1~H29.3.31	
				講師	林 宏一(皮膚科) H26.4.1~H28.3.31	
			学部長・保健学科長が指名した者	(若干人)	教授	竹下敏一(免疫微生物) H27.4.1~H29.3.31
					教授	瀧 伸介(免疫) H26.8.1~H28.7.31
					教授	太田浩良 (保)教務委員長
					教授	木村貞治 保健学科長が氏名した者
					准教授	中澤勇一 (地域医療)

学生代表(H27年度)	5年	—
	4年	—
	4年	—
	3年	—

学生代表 5年1人, 4年2人, 3年1人

(出典: 医学部作成)

資料医36 カリキュラム検討WG

カリキュラム検討 WG 活動記録

●メンバー

学部長，評議員，副学部長【座長】，医学教育センター長，卒後臨床研修センター長，医学部長が指名した教授（4名），医学教育センター副センター長，医学教育センター教員，地域連携推進学講座教員，

●主な活動と実績

1. 臨床実習時間を大幅に増やすなど、国際基準に合致したカリキュラムの編成を行うとともに、新カリキュラムへ円滑に移行するための調整を行った。
2. 新しい臨床実習方法である150通りの臨床実習を導入し、これに伴うカリキュラムの改訂を行った。さらに、外部評価や教育協力病院連絡会議の計画・運営を行った。
3. 授業時間を1単位90分から60分に短縮し、実習や自習の時間を確保した。また、授業時間短縮に伴う学力低下を予防するためe-learningを拡充した。
4. 自主研究演習を充実させ、PBLやTBLを積極的に導入することにより、学生の自主性を育てやすいカリキュラムとした。
5. 看護体験実習や保健学科との合同講義などを導入し、チーム医療の教育を積極的に取り入れた。
6. 卒業に際して学力を正しくかつ効率的に評価するため、卒業試験科目の統合化を行うとともに再試験を全て廃止し、最後に行う総合試験にて合否を最終判定する制度とした。

（出典：医学部作成）

①-2 医学科の実習の体制

平成24年度に県内協力病院と連携する連絡会議を設置し、学生教育に関する協力体制を構築（資料医37）。

資料医37 県内協力病院と連携する連絡会議における各病院からの意見

（平成27年度開催分）

H28.1.14 開催教育協力病院会議での各病院からの意見

- ・手さぐりではある。やる気のある学生を送ってもらい、よくやっている。期待している
- ・知ってもらえる機会が増えた気がする
- ・5年以上来ていなかったが、臨床実習で来るようになり、病院の活性化につながっている。
- ・臨床実習で受け入れるようになり、学生に電子カルテで記載してもらおうよう変更した。責任を持ってやってもらおう。
- ・臨床実習ずっと来ている。心配したが屋根瓦でやっている。勉強になっている。
- ・クールを重ねるごとにこなれてきた。積極的に手技をやっている。立ち位置を見つけてやっている。
- ・外科・プライマリ。熱心に参加している。リハビリ、検診科をみてもらい経験値をあげてもらおう。

（出典：医学部作成）

①-3 医学科の教育プログラムに関する常置の外部評価委員会の設置

平成24年度より外部評価委員会を設置し、教育プログラム全般について毎年評価を受け、教育の改善に取り組んでいる。（資料医38,39）

資料医38 外部評価委員会の委員名簿

	所属	職名
1	国立大学法人山梨大学	教授
2	医療系大学間共用試験実施評価機構	副理事長
3	独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター	特命副院長・地域医療教育センター部長
4	飯田市立病院	病院長
5	諏訪赤十字病院	病院長
6	富士見高原病院	統括院長
7	地方独立行政法人長野県立病院機構	理事長

（出典：医学部作成）

資料医39 外部評価委員会で確認した成果と、改善の実績
平成26年度外部評価委員会

	事業計画書における実施計画	具体的な成果	評価に対する対応（改善）
①	双方向的学習および e-Learning システムの環境整備を図る	座学の効率化を進めつつ、教育協力病院での実習中にも利用可能な学習資料を提供することにより、学生の自主学習を支援することができた。一部領域の e-learning コンテンツを作成し、学生に公開した。	内科系を中心とした複数の診療科と相談し、eALPS 上の e-learning のコンテンツを拡充していく。 60 分でも十分な授業が展開できるよう、センターとして学内 FD 等を通じて支援していく。
②	学内外教員の教育の質を高める活動を展開する	①出張 FD を 33 病院にて開催し、医学教育の現状、今後の臨床実習計画、患者の同意と事故補償への対策等を取り上げた。 ②9 月 13 日、12 月 7 日に信大および教育協力病院の学生指導医による、「参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ」を開催し、診療科別実習目標を作成した。 ③ポートフォリオの見直しを行い評価法を確立した。 ④臨床実習中のチュートリアル手法を内科系診療科に提供し、その成果を日本医学教育学会（7 月 18-19 日、和歌山）にて発表した。 ⑤我が国の医学教育改革について欧州医学教育学会（8 月 31 日-9 月 3 日、ミラノ）のワークショップで事例を報告し、参加者と討議した。また同学会で情報収集に努め、計画①などに反映させた。	出張 FD を継続し、ポートフォリオ等も説明することで教育協力病院における評価体制を整備する。担当医からの評価表の項目を段階的に変更することで観察評価を充実させる。
③	シミュレーションツールの利用の拡大を図る	呼吸器内科、救急科、外科など 9 科にて、シミュレーション教育を臨床実習に取り入れた。また、学生向けの勉強会を行うなどの支援を行うことで、スキルズラボを利用する学生が増え、本年度（～12 月末）は延べ 913 名が利用した。	シミュレーション実習の評価としても活用できるよう、Midterm OSCE の結果を各科にフィードバックする。 教育協力病院指導医にもスキルズラボの情報提供を行っていく。時間外の利用希望にはセンター教員が可能な範囲で対応する。

④	ホームページ上に情報の公開を行う	ホームページを41回更新し、広く情報発信を行っている。	引き続きwebページの更新を頻回に行い、情報発信に努める。
⑤	外部評価者を招聘して、Advanced OSCEを実施する	山梨大学 藤井教授に来学いただき、H26年6月28日実施した。	27年度以降も臨床実習終了後OSCEを引き続き実施する。なお27年度は教育協力病院の指導医に外部評価者を依頼する予定とする。
⑥	学内外指導医に対する意見聴取を行って、実習の最終調整を行う	出張FDにあわせて教育協力病院との意見交換を行い、各病院の事情に合わせたカリキュラムを樹立した。「参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ」を開催し、現実的な学習目標を伴ったコースを制定した。カリキュラム案作成後に、再度、教育協力病院および評価担当教室から、意見をもらい最終調整を行った。	大学・教育協力病院の指導医が連携し、順次到達目標の見直しを行っていく。学生からのコメントについては多面的なフィードバックの一部として指導医にもお伝えする。
⑦	新カリキュラムの対象となる4年次生に臨床実習(Basicクラークシップ)を開始する	H26年10月より新4年生の臨床実習を開始した。また、ポートフォリオの再編成や自己評価表の導入を行った。平成27年度の臨床実習にも反映可能となる様、実習期間内にアンケート調査を行った。	ポートフォリオの内容を段階的に改訂することで実習評価をさらに充実させていく。経験症例数の数値目標については、まず各病院で経験できる症例の概数を把握していく。
⑧	ハワイ大学 Sim Tiki シミュレーションセンターにてシミュレーション教育の指導者養成講習会を実施する	H26年9月23日～10名参加により実施。 (指導医8名(うち6名教育協力病院)、看護師2名)	指導医講習会等の場を活用してシミュレーション教育について周知を試み、学内事例などの紹介を行う。病院向け講習会の開催にむけた準備として、県内諸施設のシミュレーション設備についてアンケートを実施する。
⑨	2学年合同臨床講義のカリキュラムを策定する	①H26年12月22日「医学概論演習Ⅱ-5年生から臨床実習について聞く-」において1年と5年生の合同授業を行った。 ②H26年10月～12月に医学科・保健学科4年の「医学部合同チーム医療演習」を行った。 ③H27年度開始予定の5,6年合同授業について、日程・内容を確定した。	合同チーム医療演習や手技演習を含め、2学年合同授業の内容をさらに充実させて継続していく。また学生が時間通りに出席できるよう、授業について各科に周知を図る。
⑩	「150通り臨床実習(案)」を学内各科、教育協力病院、学生に提示する	院内診療科、教育協力病院から指導体制や宿泊可能人数等の聞き取り調査を行い、「150通り臨床実習コース」を作成した。学生には、平成27年5月に説明会を開催する予定。	実習期間中に各病院をセンター教員が巡回し、指導や学生のストレスについて情報を収集し対応する。また出張FDで各病院に伺った際にも、質疑応答を積極的に行って問題点を抽出していく。
⑪	卒後研修管理委員会時に教育協力病院との信州大学・教育協力病院連絡協議会を開催する	① H27年1月15日信州大学医学部・附属病院教育協力病院連絡協議会・卒後臨床研修管理委員会を開催し、説明を行った。	27年度以降も連絡協議会と研修管理委員会を同時開催し、利便性の向上を図る。

(出典：医学部作成)

②保健学科

②-1 保健学科の実習の体制

地域と連携した実習体制を構築し、実習指導者会議（資料医40）を通して教育へ還元している。

資料医40 各専攻で開催している保健学科、臨地・臨床実習指導者会議
（理学・作業療法学専攻の例）

平成27年度信州大学医学部保健学科
理学療法学専攻・作業療法学専攻臨床実習指導者会議 出席者名簿

（別紙）

平成27年度信州大学医学部保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻
臨床実習指導者会議日程表

日時 平成27年12月4日（金） 13時30分～17時30分

場所 信州大学医学部保健学科
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
〈Tel 0263-37-2576 医学部総務G（庶務係）〉

出席者 学外関係者：理学療法学専攻臨床実習指導者
作業療法学専攻臨床実習指導者
本学関係者：理学療法学専攻教員，作業療法学専攻教員

議事等日程

受付（地域保健推進センター入口：13時00分～13時30分）

合同講演会（13時30分～14時30分）

会場 地域保健推進センター3階 多目的講義室

- ① 医学部長，学科長挨拶
- ② 講演会「クリニカルレクチャーの現状（仮）」

専攻別会議（14時40分～17時30分）

会場 理学療法学専攻：保健学科中校舎1階 211・212講義室
作業療法学専攻：保健学科南校舎2階 作業療法実習室

- ① 出席者紹介
- ② 平成27年度臨床実習について
- ③ 平成28年度臨床実習計画について
- 休憩（20分）
- ④ 施設別オリエンテーション

解散（17時30分）

身障系

	施設名	出席者
1	相澤病院	北菌 由恵
2	安曇野赤十字病院	古川 智巳
3	北アルプス医療センター あづみ病院	村井 貴
4	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター-鹿教湯病院	山田 武
5	恵寿総合病院	北谷 渉
6	健和会病院	尾崎 新司
7	小諸厚生総合病院	有坂 和也
8	信州大学医学部附属病院	石原 早紀子
9	長野県立須坂病院	田中 由香里
10	長野市市民病院	今井 さゆり
11	厚生連富士見高原病院	池上 綾香
12	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター-三才山病院	丸山 佳子

発達・身障・地域系

1	飯田市立病院	下平 絵里香
2	介護療養型老人保健施設 いずみの	森川 友貴
3	上伊那生協病院	橋場 美樹
4	上條記念病院	和形 理絵
5	佐久総合病院	宮下 宏江
6	篠ノ井総合病院	宮沢 京子
7	城西病院	西村 望
8	諏訪中央病院	森 冬樹
9	総合上飯田第一病院	玉木 聡
10	介護老人保健施設ハーモニー	鈴木 美菜
11	療育センター らいふ	伴 純一

精神系

1	北アルプス医療センター あづみ病院	千葉 大
2	飯田病院	中村 未来
3	北ふれあいホーム	野村 智恵美
4	倉田病院	川村 吉徳
5	栗田病院	傳田 拓男
6	ク・セラ社会福祉事務所	二宮 彰浩
7	こころの医療センター駒ヶ根	杉村 めぐみ
8	信州大学医学部附属病院	石川 総理
9	諏訪湖畔病院	依田 良太
10	第2コムハウス	松本 千里
11	千曲荘病院	諸山 絃
12	南信病院	杉村 直哉
13	村井病院	濱上 幸司
14	メンタルサポートそよかせ病院	高丸 亜沙美

（出典：医学部作成）

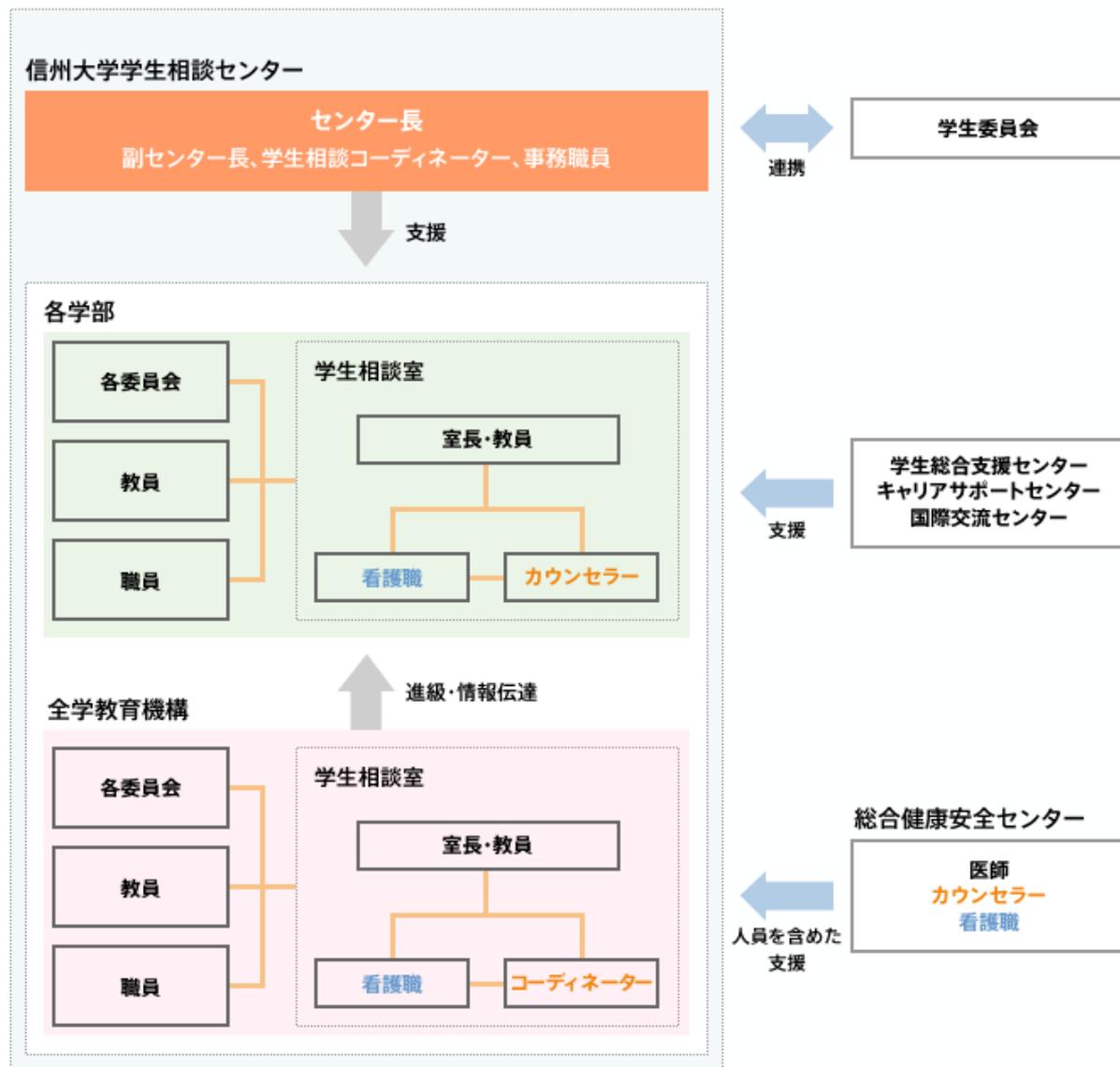
(3) 学生支援の体制

① 学生相談センター

(資料医 41)

資料医 41 学生相談センター及び学生相談室

平成 24 年度に全学組織の学生相談センターと、各学部に学生相談室が設置された。



(次頁に続く)

専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典: 信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

②学生相談センターと連携した学生支援体制の構築
(資料医 42)

資料医 42 学生相談センターと連携した学生支援体制の構築

学生相談室と緊急連絡体制を作り, 毎月 1 回ミーティングを行い学生支援体制を整えている。

学生相談室ミーティング

実施回数

月 1 回 (1 時間程度)

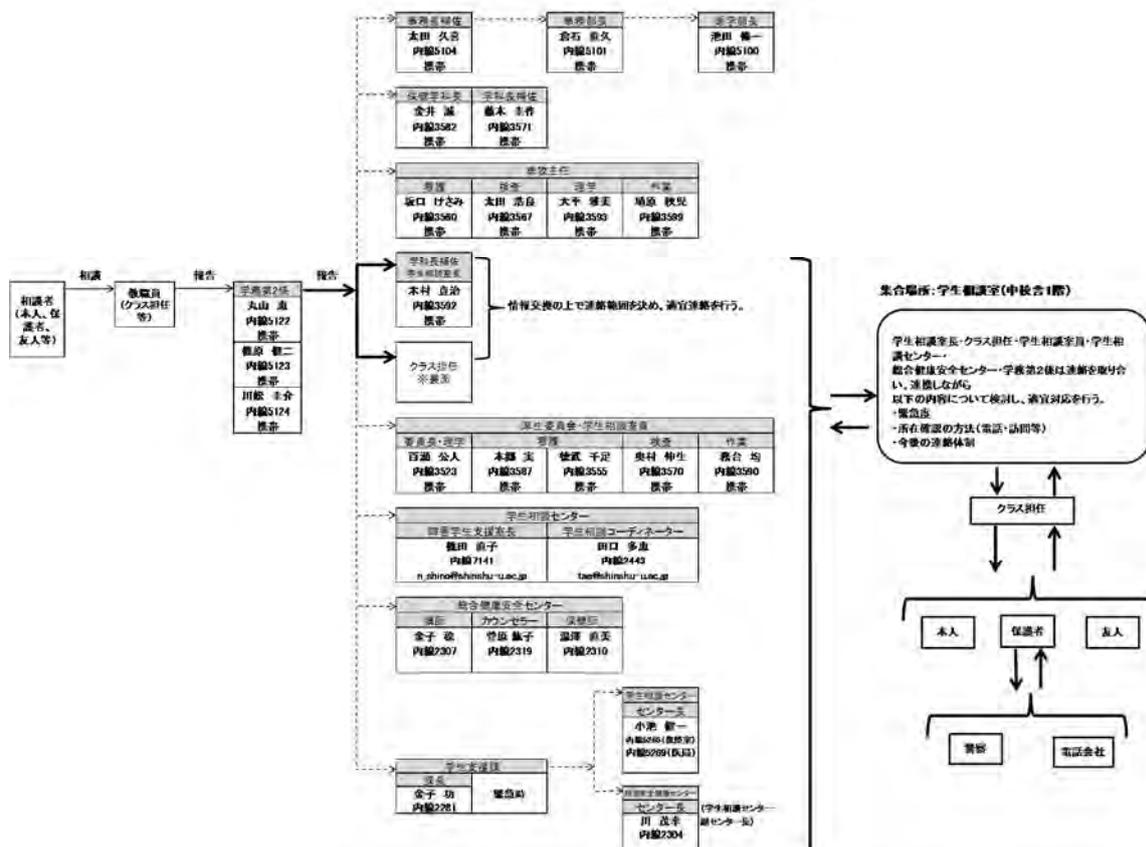
参加者

保健学科学生相談室長, 総合健康安全センターカウンセラー, 保健師,
学生相談センターカウンセラー, 学務第 2 係職員

ミーティング内容

- ・総合健康安全センター及び学生相談センターにおいて, 面談を行った学生の状況報告 (継続・新規) 【月平均 15 名程度】
- ・出席管理システムにおいて出席回数が少ない学生の状況確認。
- ・担任等から「授業を欠席しがち」「友人関係で悩んでいるようだ」等報告のあった学生について報告, カウンセラーとの面談への連携。
- ・学生相談センターに相談があった松本キャンパスにおける諸問題の報告。
(不審者情報, 宗教勧誘等)

「学生相談室」としての緊急連絡体制(保健学科の例)



- ③ 担任制
- ③-1 医学科

全学年にまたがるグループ制度と学年毎の担当制度を組み合わせることで学生指導を行っている。(資料医43, 44)

資料医43 縦系横系制度



(横系)

平成27年度学年担当制度の学年担当教授・教室

	担当教員	教室(所属)
15 M 1 年 生	松 尾 教授	形成再建外科学
	大 森 教授	薬剤部
	本 田 教授	病態解析診断学
	宇佐美 教授	耳鼻咽喉科学
	瀧 教授	免疫制御学
	塩 沢 教授	産科婦人科学
	浅 村 教授	法医学
14 M 2 年 生	佐々木 教授	組織発生学
	田 渕 教授	分子細胞生理学
	鈴 木 教授	神経可塑性学
	能 勢 教授	スポーツ医科学
	今 村 教授	救急集中治療学
	川眞田 教授	麻酔蘇生学
	田 中 教授	内科学(第2)
13 M 3 年 生	栗 田 教授	歯科口腔外科学
	池田(修) 教授	内科学(第3)
		精神医学
	石 塚 教授	泌尿器科学
	岡 田 教授	外科学(第2)
	伊 藤 教授	外科学(第2)
	野見山 教授	衛生学公衆衛生学
12 M 4 年 生	駒 津 教授	内科学(第4)
	小 泉 教授	包括的がん治療学
	沢 村 教授	生理学
	花 岡 教授	内科学(第1)
	谷 口 教授	分子腫瘍学
		分子細胞生化学
	池田(宇) 教授	内科学(第5)
11 M 5 年 生	竹 下 教授	免疫・微生物学
	新 藤 教授	循環病態学
	小 池 教授	小児医学
	森 泉 教授	人体構造学
	村 田 教授	眼科学
	青 山 教授	代謝制御学
	樋 口 教授	加齢生物学
10 M 6 年 生	山 田 教授	分子薬理学
	福 嶋 教授	遺伝医学・予防医学
	菅 野 教授	病理組織学
	中 山 教授	病理学
	奥 山 教授	皮膚科学
	角 谷 教授	画像医学
	宮 川 教授	外科学(第1)
	加 藤 教授	運動機能学
	本 郷 教授	脳神経外科学

(次頁に続く)

(縦系)

平成27年度グループ担任一覧

グループ番号	教室名	グループ担任教員名	備考
1	組織発生学	佐々木 克典	
2	人体構造学	森泉 哲次	
3	生理学	沢村 達也	
4	分子細胞生理学	田淵 克彦	
5	包括的がん治療学	小泉 知展	
6	分子薬理学	山田 充彦	
7	薬剤部	大森 栄	
8	病理組織学	菅野 祐幸	
9	免疫・微生物学	竹下 敏一	
10	遺伝医学・予防医学	福嶋 義光	
11	衛生学公衆衛生学	野見山 哲生	
12	法医学	浅村 英樹	
13	内科学第一	花岡 正幸	
14	内科学第二	田中 榮司	
15	内科学第三	池田 修一	
16	精神医学	鷺塚 伸介	
17	小児医学	小池 健一	
18	皮膚科学	奥山 隆平	
19	画像医学	角谷 眞澄	
20	外科学第一	宮川 眞一	
21	外科学第二	岡田 健次	
		伊藤 研一	
22	運動機能学	加藤 博之	
23	脳神経外科学	本郷 一博	
24	歯科口腔外科学	栗田 浩	
25	泌尿器科学	石塚 修	
26	眼科学	村田 敏規	
27	耳鼻咽喉科学	宇佐美 真一	
28	産科婦人科学	塩沢 丹里	
29	麻酔蘇生学	川眞田 樹人	
30	形成再建外科学		
31	病態解析診断学	本田 孝行	
32	救急集中治療医学	今村 浩	
33	病理学	中山 淳	地域医療推進学 中澤勇一
34	免疫制御学	瀧 伸介	
35	内科学第五	池田 宇一	
36	(院)分子病理学	中山 淳	
37	(院)循環病態学	新藤 隆行	
38	(院)加齢生物学	樋口 京一	
39	(院)神経可塑性学	鈴木 龍雄	
40	(院)分子腫瘍学	谷口 俊一郎	
41	内科学第四	駒津 光久	
42	(院)代謝制御学	青山 俊文	
43	(院)スポーツ医科学	能勢 博	
44	医療情報部	濱野 英明	

(次頁に続く)

信州大学医学部医学科のグループ制度に関する内規（平成15年10月9日施行）

（趣旨）

第1条 信州大学医学部医学科に、学生の修学・学生生活に関する指導・助言を適切に行うためグループ制度を置く。

（グループ編成）

第2条 グループは、6学年45グループを基本とし、学生は在学中同一グループに属する。

2 3年次編入学生については、別に定める。

（グループ担当教員及び副グループ担当教員）

第3条 各グループに属する学生に対して修学・学生生活に関する指導・助言を行うため、グループ担当教員及び副グループ担当教員（以下「グループ担当教員等」という。）各一人を置く。

2 グループ担当教員は教授をもって充て、学生委員会の議に基づき医学科長が委嘱する。

3 グループ担当教員は、所属する講座等の教員のうちから、副グループ担当教員を指名する。

4 副グループ担当教員は、グループ担当教員を補佐し、グループ担当教員に事故があるときには、その職務を代行する。

5 グループ担当教員等は、原則として当該グループの学生が卒業するまで担当するものとする。

6 グループ担当教員等が所属する講座等は、当該グループ担当教員等を支えるものとする。

（協力体制）

第4条 グループ担当教員等は、学生に指導・助言を行うに当たり、必要に応じて学生委員会、医学教育センター及び総合健康安全センターと連携を図るものとする。

（グループ幹事及びグループ副幹事）

第5条 グループ担当教員等と学生との連絡を密にするため、各グループにグループ幹事及びグループ副幹事を各1人置く。

2 グループ幹事及びグループ副幹事は、当該グループの学生の互選により選出する。

（雑則）

第6条 この内規に定めるもののほか、グループ制度に関し必要な事項は、医学科会議が別に定める。

（出典：医学部作成）

資料医 44 「縦糸」クラス別懇談会

平成27年度 春のグループ別懇談会開催日程

グループ番号	講座名	懇談会日程	時間	場所
1	組織発生学	4月13日(月)	17:30~	教室内(ホール)
2	人体構造学	4月24日(金)	12:10~	教室内(ミーティングルーム)
3	生理学	4月23日(木)	12:00~	チュートリアルルーム3(基礎棟1F)
4	分子細胞生理学	4月16日(木)	18:00~	ミーティングルーム2(基礎棟3F)
5	包括的がん治療学	4月15日(水)	18:30~	教室内(会議室) (旭町庁舎3F信州がんセンター内)
6	分子薬理学	4月8日(水)	18:00~	教室内(セミナー室)
7	薬剤部	4月10日(金)	18:00~	ビュー270(病院東病棟10F)
8	病理組織学	4月14日(火)	18:00~	教室内(ゼミナール室)
9	免疫・微生物学	4月20日(月)	17:00~	ミーティングルーム3(基礎棟4F)
10	遺伝医学・予防医学	4月21日(火)	18:00~	ミーティングルーム2(基礎棟3F)
11	衛生学公衆衛生学	4月22日(水)	17:30~	レストラン ソレイユ(外来棟5F)
12	法医学	4月23日(木)	18:00~	チュートリアルルーム4(基礎棟1F)
13	内科学第一	4月21日(火)	19:00~	教室内(医局)
14	内科学第二	4月14日(火)	18:30~	教室内(医局)
15	内科学第三	4月23日(木)	18:00~	教室内(医局)
16	精神医学	5月15日(金)	17:30~	教室内(医局)
17	小児医学	5月15日(金)	18:00~	教室内(図書室)
18	皮膚科学	4月21日(火)	17:30~	教室内(医局)
19	画像医学	4月22日(水)	17:30~	教室内(医局)
20	外科学第一	4月23日(木)	18:00~	教室内(医局)
21	外科学第二	4月14日(火)	18:00~	教室内(心臓血管外科カンファレンスルーム)
22	運動機能学	4月22日(水)	17:00~	教室内(医局)
23	脳神経外科学	4月27日(月)	17:00~	教室内(ホール)
24	歯科口腔外科学	4月16日(木)	18:00~	教室内(カンファレンスルーム)
25	泌尿器科学	4月10日(金)	18:00~	教室内(医局)
26	眼科学	4月27日(月)	17:30~	教室内(医局)
27	耳鼻咽喉科学	4月22日(水)	18:30~	教室内(医局)
28	産科婦人科学	4月7日(火)	18:00~	教室内(ゼミ室)
29	麻酔蘇生学	4月15日(水)	18:30~	教室内(医局)
30	形成再建外科学	5月15日(金)	18:30~	教室内(医局)
31	病態解析診断学	4月9日(木)	12:00~	教室内(カンファレンスルーム)
32	救急集中治療医学	4月14日(火)	17:30~	救命センターミーティングルーム
33	病理学	4月7日(火)	18:00~	チュートリアルルーム10(旭総合研究棟6F)
34	免疫制御学	4月23日(木)	18:00~	教室内(旭総合研究棟6F セミナー室)
35	内科学第五	4月22日(水)	12:15~	教室内(旭総合研究棟5F 会議室)
36	(院)分子病理学	4月7日(火)	18:00~	チュートリアルルーム10(旭総合研究棟6F)
37	(院)循環病態学	4月30日(木)	18:00~	修士講義室(旭総合研究棟9F)
38	(院)加齢生物学	4月14日(火)	18:00~	教室内(加齢生物学セミナー室)
39	(院)神経可塑性学	4月13日(月)	17:30~	教室内(セミナー室)
40	(院)分子腫瘍学	5月7日(木)	17:00~	教室内(セミナー室)
41	内科学第四	4月10日(金)	17:00~	教室内(医局)
42	(院)代謝制御学	4月10日(金)	18:00~	教室内(セミナー室)
43	(院)スポーツ医科学	4月10日(金)	18:00~	教室内(セミナー室)
44	医療情報部	4月20日(月)	17:30~	教室内(会議室)

(出典：医学部作成)

③-2 保健学科

各専攻の学年毎に担任を置き，学生生活全般について指導を行うとともに，担任が厚生委員会委員を務め，学科として対応している。（資料医45）

資料医45 保健学科の担任制度

平成27年度担任表

専攻	1年	2年	3年	4年	専攻主任	連絡員	就職担当
看護	平林 優子	小林 千世	五十嵐 久人	奥野 ひろみ	坂口けさみ	松井 瞳	石田 史織
	柳澤 節子	芳賀 亜紀子	下里 誠二	高橋 宏子		丹下 めぐみ	鈴木 敦子
	山口 大輔	下井 眞理子	高橋 理沙	寺内 英真		上原 文恵	
検査	奥村 伸生	石田 文宏	相良 淳二	日高 宏哉	太田 浩良	小穴 こず枝	小穴 こず枝
理学	大平 雅美	百瀬 公人	木村 貞治	ゴウ アーチェン	大平 雅美	西澤 公美	三好 圭
作業	埴原 秋児	上村 智子	務台 均	小林 正義	埴原 秋児	赤羽 美和 *連絡員当番	9月まで：田中 侑千恵 10月から：赤羽 美和
全学副担任	兼元 美友 内：7169 外：37-2889						

※保健学科では，前期，後期開始時に，GPAに基づいた学業面や生活面に関する個別面談を実施している。

（出典：医学部作成）

④副担任制

機構教員が副担任として学部のクラス担任とともに1年次の修学指導を行っている。（資料医46）

資料医46 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

学部・学科等		クラス担任数	
		正	副
医学部	医学科	学科教員 全教授	1
	保健学科	学科教員 6	1

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）

⑤ オフィスアワー
(資料医 47, 48)

資料医 47 医学科のオフィスアワー

医学科はシラバスで学生に周知。

シラバスの例

科目名	薬理学演習・実習	題目(副題)	薬理学
担当教員、教員連絡先内線	山田 充彦	5185	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 前期	火曜, 4時限 火曜, 5時限 火曜, 6時限 木曜, 1時限 木曜, 2時限 木曜, 3時限 金曜, 1時限 金曜, 2時限 金曜, 3時限	
単位数、講義室	3単位	医学科第2講義室 旭総合講義室 A B	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適切に判断し、必要な行動ができる。 ・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。 		
授業のキーワード	薬力学、薬物動態学、臨床薬理学、毒物学		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	解剖学、生理学、生化学、病理学、免疫・微生物学などの基礎医学の知識を統合し臨床医学に応用するために、薬物による疾病の治療学の理論を修得する。		
個別行動目標SBOs(授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物の濃度反応曲線、作用薬と阻害薬を説明できる。 2) 主たる神経伝達物質、ホルモン、オータコイド、増殖因子、サイトカインの種類、生理的・病態生理的役割、受容体、受容体に連関する細胞内情報伝達機構を説明できる。 3) 以下の薬の作用機序、薬理作用、臨床適応、副作用、禁忌を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 自律神経に作用する薬、② 循環器に作用する薬、③ 中枢神経に作用する薬、④ 麻酔薬・筋弛緩薬、⑤ 呼吸器に作用する薬、⑥ 消化器に作用する薬、⑦ 内分泌システムに作用する薬、⑧ 抗糖尿病薬、⑨ 抗腫瘍薬、⑩ 抗炎症薬、⑪ 造血薬 		
テキスト、教材、参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 田中千賀子、加藤隆一編、NEW薬理学 改訂第6版、南江堂 2) Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 12nd edition, McGraw-Hill. 3) 樋口宗史、前山一隆監訳、ラング・デール薬理学 西村書店 4) 柳澤輝行、飯野正光、丸山敬、三澤美和監訳 カッツング薬理学 第10版 丸善 5) 加藤隆一、臨床薬物動態学 改訂第4版、南江堂 		
履修上の注意	講義では薬理学の全範囲をできるだけ網羅するようにするが、教科書による自学自習も必要である。試験では、講義の内容と教科書(NEW薬理学)に書かれている内容の理解について問う。また実習は3種類行うが、いずれも出席(実習ガイダンスへの出席も含む)とレポート提出は筆記試験の受験資格を得るために必要である。		
授業の形式、視覚機器等の活用	<p>授業は講義、実習からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義のスライドをPDFファイル化してe-ALPSに掲載するので、各自必要に応じて印刷し講義に持参すること。 2) 実習は3種類行う。実習1は、モルモットのラングンドルフ心を用いて自律神経薬・チャネル作用薬の実験を行う。実習2, 3はコンピューターシュミレーションで、血圧と腸管収縮に関する実験を行う。いずれも実験結果をもとに、レポートを作成する。実習欠席者(実習ガイダンスの欠席も含む)、レポート未提出者は筆記試験を受験できないので注意すること。 		
成績評価の方法	本試では、実習レポート(5点 X 3 = 15点満点)及び筆記試験(中間試験+期末試験)(85点満点)の成績を総合的に評価する。再試では、筆記試験(100点満点)のみで成績で評価する。		
成績評価の基準	90-100点: 秀 80-89点: 優 70-79点: 良 60-69点: 可		
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の該当範囲を予習しておくこと。 ○レジュメをeALPSにアップしておくので予習しておくこと。 ○課題については、授業中、指示をする 		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー(質問、相談への対応)	<p>医療において薬物療法は非常に重要です。薬理学では、皆さんがこれまでに学んだ基礎医学の知識を応用して、薬物療法の種類と原理を解説します。即ち、薬理学は基礎医学と臨床医学の橋渡しをする分野です。医師を目指す皆さんが、興味を持ち積極的に学んでくれることを期待しています。質問・相談は、下記のオフィスアワーに講義担当教員が応対します。</p> <p>教官のオフィスアワー【氏名 所属 職名 オフィスアワー 場所 電話番号】 【山田充彦 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2605 分子薬理学講座教授室】 【中田 勉 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2606 分子薬理学講座教授室】 【柏原俊英 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2606 分子薬理学講座教授室】</p>		

(出典：医学部作成)

資料医48 保健学科のオフィスアワー

保健学科は学生便覧により学生に周知。

17. 教員一覧・オフィスアワー

【看護学専攻】

○基礎看護学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	松永保子	随時（要事前連絡）
准教授	柳澤節子	毎週火曜日12:00-13:00
准教授	小林千世	毎週火曜日12:00-13:00
助教	山口大輔	随時（要事前連絡）
助教	上原文恵	随時（要事前連絡）

○成人・老年看護学

教授	本郷実	毎週火曜日・木曜日17:00-18:00
教授	池上俊彦	随時（要事前連絡）
教授	深澤佳代子	随時（要事前連絡）
教授	會田信子	随時（要事前連絡）
准教授	山崎浩可	随時（要事前連絡）
講師	寺内英真	毎週火曜日17:00-18:00
助教	松井瞳	随時（要事前連絡）
助教	北條由美乃	随時（要事前連絡）
助教	丹下めぐみ	随時（要事前連絡）

○小児・母性看護学

教授	坂口けさみ	毎週月曜日12:00-13:00
教授	市川元基	毎週月曜日12:00-13:00
教授	金井誠	毎週水曜日12:00-13:00
教授	平林優子	随時（要事前連絡）
准教授	玉井真理子	毎週水曜日12:30-13:30
講師	芳賀亜紀子	毎週月曜日12:00-13:00
講師	徳武千足	随時（要事前連絡）
助教	鈴木泰子	随時（要事前連絡）
助手	米山美希	随時（要事前連絡）
助手	鈴木敦子	随時（要事前連絡）

○広域看護学

教授	奥野ひろみ	毎週水曜日12:00-13:00
教授	下里誠二	毎週木曜日12:00-13:00
准教授	高橋宏子	随時（要事前連絡）
准教授	五十嵐久人	毎週水曜日12:00-13:00
講師	山崎明美	毎週水曜日12:00-13:00
助教	高橋理沙	毎週水曜日12:00-13:00
助教	石田史織	随時（要事前連絡）

【検査技術科学専攻】

○生体情報検査学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	高昌星	毎週木曜日12:00-15:00
教授	相良淳二	毎週火曜日17:00-18:00
教授	太田浩良	毎週月曜日12:00-13:00
教授	藤本圭作	毎週火曜日16:20-17:50
准教授	日高宏哉	毎週月曜日12:00-13:00
助教	樋口由美子	随時（要事前連絡）

○病因・病態検査学

教授	奥村伸生	毎週金曜日18:30-18:30
教授	石田文宏	毎週火曜日18:00-17:00
教授	長野則之	随時（要事前連絡）
准教授	寺澤文子	毎週月曜日18:10-18:10
助教	小穴こず枝	毎週金曜日18:00-17:00

【理学療法学専攻】

○基礎理学療法学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	木村貞治	毎週火曜日12:00-13:00
教授	百瀬公人	毎週月曜日・金曜日12:00-13:00
准教授	横川吉晴	毎週火曜日12:00-13:00
助教	西澤公美	毎週水曜日12:00-13:00
助教	西川良太	随時（要事前連絡）

○応用理学療法学

教授	大平雅美	毎週火曜日12:00-13:00
教授	齋藤直人	毎週火曜日12:10-13:00
准教授	ゴウアーチェン	毎週月曜日・火曜日12:00-13:00
助教	三好圭	毎週月曜日12:00-13:00

【作業療法学専攻】

○基礎作業療法学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	寺田信生	随時（要事前連絡；メールにて確認のこと）
教授	小林正義	毎週火曜日・金曜日16:10-18:00
講師	務台均	随時（要事前連絡）
助教	田中佐千恵	毎週木曜日14:00-17:00

○実践作業療法学

教授	壺原秋児	毎週月曜日11:00-13:00
教授	上村智子	毎週木曜日12:00-13:00
助教	赤羽美和	毎週木曜日18:10-17:30

（出典：医学部作成）

⑥入学者，その保護者への支援

シラバスを入学前からホームページに公開し，入学式後に保護者向けオリエンテーションを実施。（資料医49）

資料医49 保護者向けオリエンテーション

平成27年度 医学部医学科 新入生ガイダンス

（1日目第1部（保護者同席））

- ◎ 日 時 平成27年4月4日（土） 13時30分～16時10分
 対 象 新入生と保護者
 場 所 講義室A・B（旭総合研究棟9階）
- ・ 学部長挨拶（13:30～）
 - ・ 病院長挨拶（13:35～）…14:00頃退席
 - ・ 父母会長挨拶（13:40～）
 - ・ 学部長講演（13:45～14:15）「信州大学における医学教育」
 - ・ 医学教育センター「カリキュラム，修学上の注意，進級判定」多田教授（14:15～14:40）
 （休憩）
 - ・ 卒後臨床研修センター「臨床研修制度の概要と信州大学医学部附属病院での臨床研修」森田准教授（14:50～15:15）
 - ・ 地域医療推進学講座「医師養成に関わるわが国の状況と地域医療」中澤准教授（15:15～15:40）
 - ・ 長野県奨学金について（15:40～15:50）
 - ・ 父母会創設7人賞 授賞式（15:50～16:10）

（1日目第2部）

- ◎ 日 時 平成27年4月4日（土） 16時30分～
 場 所 講義室A・B（旭総合研究棟9階）
- ・ 生協から教科書販売等の案内【生協購買部】（16:30～16:35）
 - ・ 学生会によるクラス運営のガイダンス【医学科学学生会長】（16:35～）

<保護者>

- 場 所 第2実習室（16:30～）
- ・ 信州医学会の紹介（16:30～16:35）【多田先生（H27-28担当）】
 - ・ JA長野厚生連寄附講座五周年記念講演「医学教育 この10年間の歩み」多田教授（16:35～17:15）
 - ・ JA長野厚生連への感謝状贈呈式 池田学部長（17:15～17:20）
 - ・ 旭会館1階食堂へ移動・解散

（出典：医学部作成）

保護者へ学生の成績を送付。（資料医50）

資料医50 保護者への成績の通知

- ・ 4月に前年度の成績を，1（留年）～5年に発送
- ・ 9月に1，2年（前期成績）を発送

（出典：医学部作成）

⑦全学的な支援

学務部を中心として、全学的な教育サポート体制を構築。(資料医 51～55)

資料医 51 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 庶務及び会計に関すること。
 - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
 - (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
 - (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
 - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
 - (7) 学位の授与に関すること。
 - (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
 - (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
 - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
 - (11) 出前講座に関すること。
 - (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
 - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
 - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
 - (2) 共通教育の教務に関すること。
 - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
 - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
 - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
 - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 省略
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
 - (3) 学生募集に関すること。
 - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
 - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

資料医 52 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポ ートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5

臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成)

資料医 53 附属図書館，総合健康安全センター，総合情報センター，e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
松本キャンパス	54	13	9	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

資料医 54 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TAは，本学大学院の優秀な学生に対し，教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ，これに対する手当支給により，当該学生の処遇の改善に資するとともに，大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TAは，非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TAは，学部学生，修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験，実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)

資料医 55 各学部等におけるTAの業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
医学部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

授業時間内の業務内容
 A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加
 F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容
 a. 資料のコピー，保存 b. 教室のメンテナンス(空調，照明，施錠等)
 c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータをもとに経営企画課にて作成)

(4) 入学者選抜方法の工夫

医学科

①-1 医学科の入学者選抜の工夫

平成23年度から入試改革WGを設置し，平成28年度入試までに入試改革を行った。(資料医56, 57)

資料医56 入試改革WG

入試改革 WG まとめ

1. 設置目的：平成 27 年度入試に向けて、医学科入試の抜本的な改革を検討する。
2. 開催状況

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
メンバー	教授 8 名	教授 11 名	教授 10 名
開催回数 (打合せ等含む)	8 回	4 回	6 回

※平成 26 年度中に、設置目的を達したとして WG は解散

3. 入試改革 WG の検討による主な入試改革

	平成 25 年度入試	平成 26 年度入試	平成 27 年度入試	平成 28 年度入試
推薦	・合格基準点の設定	・既卒 1 年目の定員枠の設置		
前期日程		・センター試験及び個別学力検査の配点の見直し ・「外国語（英語）」の追加 ・「面接・小論文」の点数化	・「理科（化学）」の追加 ・入学定員の見直し (55 名→85 名) ・2 段階選抜の導入	・「理科（物理・生物）」の追加及び 2 科目選択式への変更 ・後期日程廃止に伴う入学定員の見直し (85 名→100 名)
後期日程			・「理科（化学）」の追加 ・入学定員の見直し (45 名→15 名)	・廃止

(出典：医学部作成)

資料医57 医学科の入試制度改革

入試の変更について

○個別試験科目の変更について

試験科目の推移

平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	科目名		科目名		科目名		科目名
前期	数学 面接・小論文	⇒	英語 数学 面接・小論文	⇒	英語 数学 化学 面接・小論文	⇒	英語 数学 物理・化学・生物から 2 科目 面接
後期	英語 数学 面接	⇒	英語 数学 面接	⇒	英語 数学 化学 面接	⇒	廃止

(次頁に続く)

配点等の推移

平成 25 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	200	100	200	200	200			900
	個別			150				段階評価	150
合計		200	100	350	200	200			1,050
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250		250		個別面接	500
	合計	100	50	350	100	350			950



平成 26 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150		150		100	400
合計		100	50	250	100	250		100	850
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250		250		個別面接	500
	合計	100	50	350	100	350			950



平成 27 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150	100	150		100	500
合計		100	50	250	200	250		100	950
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250	100	250		個別面接	600
	合計	100	50	350	200	350			1050



平成 28 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150	150	150	150		600
合計		100	50	250	250	250	150		1050
後期 日程	センター	廃 止							
	個別								
	合計								

(出典：医学部作成)

①-2 長野県内枠推薦入試の拡充

医学科では、長野県出身の学生を集め地域医療の拡充に繋げている。（資料医58）

資料医58 県内枠推薦入試

長野県内枠推薦入試の推移について

入試年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
募集人数	13	15	15	20	20	20	20
入学者数	13	15	15	20	20	20	20
全体	113	115	115	120	120	120	120

（出典：医学部作成）

保健学科

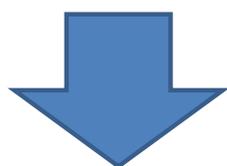
入試科目の検討を行い基礎学力向上のために平成28年度以降社会を応用科目に変更することとした（資料医59）

資料医59 保健学科の入試科目の変更

大学入試センター試験 教科・科目の変更

平成27年度入試

教科	科目等	
国語	国語	} から1
地理歴史	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	
公民	現代社会, 倫理, 政治経済, 倫理・政治経済	
数学	数学Ⅰ・数学A	} から1
	数学Ⅱ・数学B, 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎	
理科	物理, 化学, 生物	から2
外国語	英語	[5教科7科目]



平成28年度入試

教科	科目等	
国語	国語	} から1
地理歴史	世界史B, 日本史B, 地理B	
公民	現代社会, 倫理, 政治経済, 倫理・政治経済	
数学	数学Ⅰ・数学A	} から1
	数学Ⅱ・数学B, 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎	
理科	物理, 化学, 生物	から2
外国語	英語	[5教科7科目]

（出典：医学部作成）

② 志願者確保に向けた活動

オープンキャンパス、公開授業、高校への出張講座や学科説明会を通じて、優れた入学希望者の確保に努めている。（資料医60～61）

資料医60 オープンキャンパス、公開授業、高校での出前講座や学科説明会などの開催状況

平成26年度 長野県内枠推薦入試説明会

学校名	説明日時		参加 予定数	参加 学年	参加者数 (実績)
飯田高等学校	6月3日	火 16:10~17:10	45	1~2	43
上田高等学校	6月11日	水 15:00~	53	1~3	50
野沢北高等学校	6月13日	金 16:20~	27	1~3	27
屋代高等学校	6月14日	土 10:00~11:30	163	2	133
長野高等学校	6月17日	火 16:10~	90	1~3	91
松本県ヶ丘高等学校	6月18日	水 16:00~	10	1~3	7
諏訪清陵高等学校	6月20日	金 16:00~	20	1~3	20
松本深志高等学校	6月25日	水 16:00~	43	3	40
長野日本大学高等学校	7月4日	金 16:10~17:30	53 (高校生 33 保護者 20)	1~3	55
須坂高等学校	7月9日	水 16:00~	14	1~3	14
佐久長聖高等学校	7月22日	火 13:30~	22 (1年4 2年10 3年8)	1~3	21
伊那北高等学校	7月25日	金 13:30~	20	1~3	13

平成26年度 講師派遣実績

No.	実施日	曜日	高校名	主催	内容	対象	受講者数			備考
							県内	県外	計	
	H26.10.4	土	長野県諏訪清陵高校	諏訪清陵高校	模擬講義	1年生対象	206		206	
	H26.10.23	木	長野県須坂高校	須坂高校	模擬講義	2年生対象	209		209	
	H27.3.6	金	長野県木曾青峰高校	長野県木曾青峰高校	模擬講義	1・2年生対象	122		122	

(次頁に続く)

(医学科) ※他学部参加者含む

	オープンキャンパス		長野県内枠 推薦入試説明会		予備校等での説明会		高校への講師派遣	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
H24	2	580	12	317	7	285	5	658※
H25	2	581	12	490	7	204	4	526※
H26	2	623	12	514	7	158	3	537※
H27	2	560	12	382	6	159	6	138

(出典：医学部作成)

資料医61-1 医学科のオープンキャンパス

2015 医学部医学科オープンキャンパス

開催日 平成27年7月26日(日)

受付時間 9:30～10:30

会場 旭総合研究棟9階 講義室A・B 他

プログラム

- 1) 学部説明
- 2) 信州大学の医学教育・カリキュラム説明
- 3) 医学生パネルディスカッション
- 4) 見学・体験・懇談

前半<13:30～14:30>の体験・見学・実習箇所は選択となります。

後半<14:40～15:40>は指定箇所の体験・見学・実習となります。

※オープンキャンパスの申し込みは毎回100%を超えている。

(次頁に続く)

平成27年度オープンキャンパス 体験・見学・懇談内容

見学・体験	場所	内容
シミュレーター体験	第1実習室	心・肺、採血、耳鏡等のシミュレーターを体験
BLS体験	第2実習室	人形やAEDを用いたBLS実習 (Basic life support=1次救命措置)
臨床教室訪問	外科学第一	簡単な手技の体験とミニレクチャー
	画像医学	画像診断についてミニレクチャー
	耳鼻咽喉科学	教室での研究や、臨床について説明
	脳神経外科学	教室での研究や、臨床について説明
病院部門訪問	総合診療科	総合診療科での臨床について説明
	手術部	術衣にて着替えての手術室の見学
	内視鏡センター	内視鏡の見学と実習
	臨床検査部	各検査部門の見学
	放射線部	CTやMRIの見学
	薬剤部	薬剤業務の見学
	高度救命救急	ヘリポートの見学
基礎教室訪問	分子病理学	ミニレクチャー
	組織発生学	教室での研究について説明
	免疫・微生物学	教室での研究について説明
	遺伝医学	ミニレクチャー
医学生との懇談	医学部基礎棟	受験や学生生活について医学部生との懇談
若手医師との懇談	医学部基礎棟	受験や医師としての生活について若手医師との懇談

(出典：医学部作成)

資料医 61-2 保健学科のオープンキャンパス

2015 医学部保健学科オープンキャンパス（全体説明会の後に、専攻別プログラムを実施している）

開催日 平成27年8月9日（日）
 受付時間 第1グループ：10:00～10:30
 第2グループ：12:30～13:00
 開催時間 第1グループ：10:30～14:30
 第2グループ：13:00～16:00
 会場 旭総合研究棟9階講義室A・B・C
 医学部保健学科各専攻実習室 ほか

プログラム

第1グループ 10:30~14:30

第2グループ 13:00~16:00

各専攻紹介，模擬ミニ講義，入試資料配付，学生食堂体験など。

※第1・第2グループとも同じ内容。

オープンキャンパスでは大学生活をイメージしやすいよう在学生の説明機会を設けている。

企画・運営：広報委員

2013年度 オープンキャンパス 7月20日(土) 看護学専攻 見学ルート・役割分担

グループ	学内集合	学内誘導①	13:10-13:30	13:30-13:50	13:50-14:10	14:10-14:30	14:30~
		学内誘導②	14:40-15:00	15:00-15:20	15:20-15:40	15:40-16:00	16:00~
A	オリエンテーション (311)	教員	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	最終の場所で アンケートへの 記入と 回収
B		教員	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	
C		教員	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	
D		教員	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	

<旭総合研究棟>

	内容	集合時間	担当者
会場受付	午前10:00~10:30/午後12:30~13:00 *旭総合研究棟9階集合 受付・資料配布・会場整理など	9:30	玉井、石田
旭総合研究棟 から保健学科 誘導案内	見学者集合：生協前 1 G 12:50...13:00までに保健学科311番教室に誘導 2 G 14:10...14:30までに保健学科311番教室に誘導	1 G 12:45 2 G 14:05	高橋理沙
専攻紹介	AM/PM 2回	10:20	坂口
模擬講	PM	13:30	市川

(出典：医学部作成)

(5) 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制
医学科

①教育担当者対象FDの実施

教育力向上のため、以下のFD等を開催。(資料医62~64)

資料医62 信州大学医学部医学科医学教育FD

カリキュラムプランニングや教育技法修得を目標に開催。

第15回信州大学医学部医学科医学教育FD

(終了報告)

【日 時】平成25年9月21日(土)~22日(日)

【会 場】穂高ビューホテル

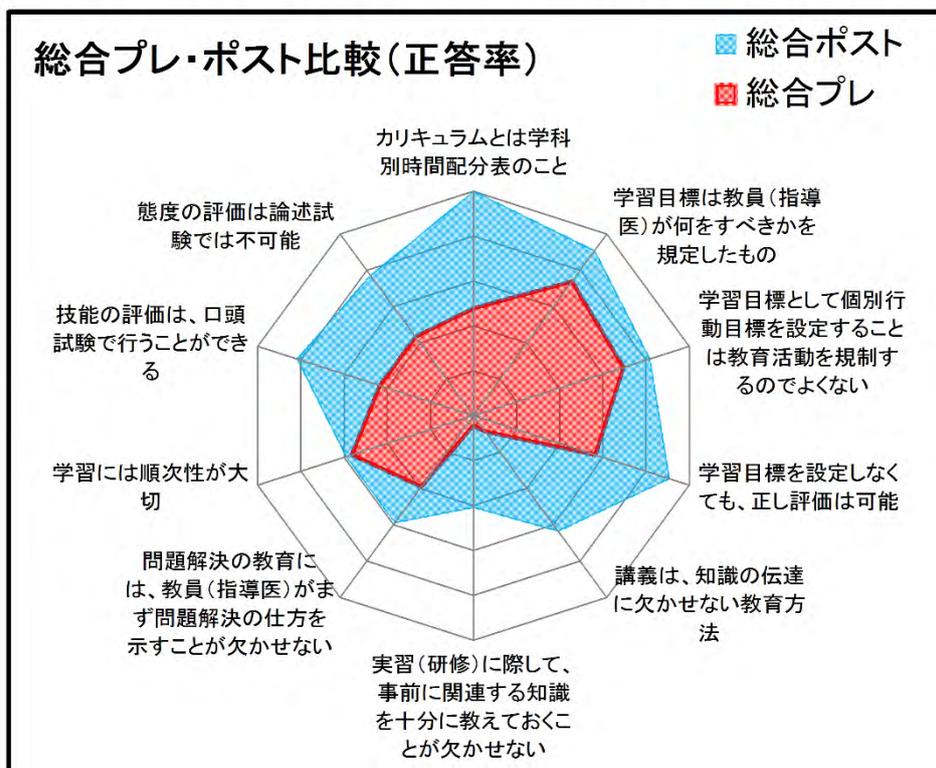
【講 師】医療系大学間共用試験実施機構
理事 齋藤宣彦 先生

【参加者】教員 23名 スタッフ 13名



【医学教育FDの効果】

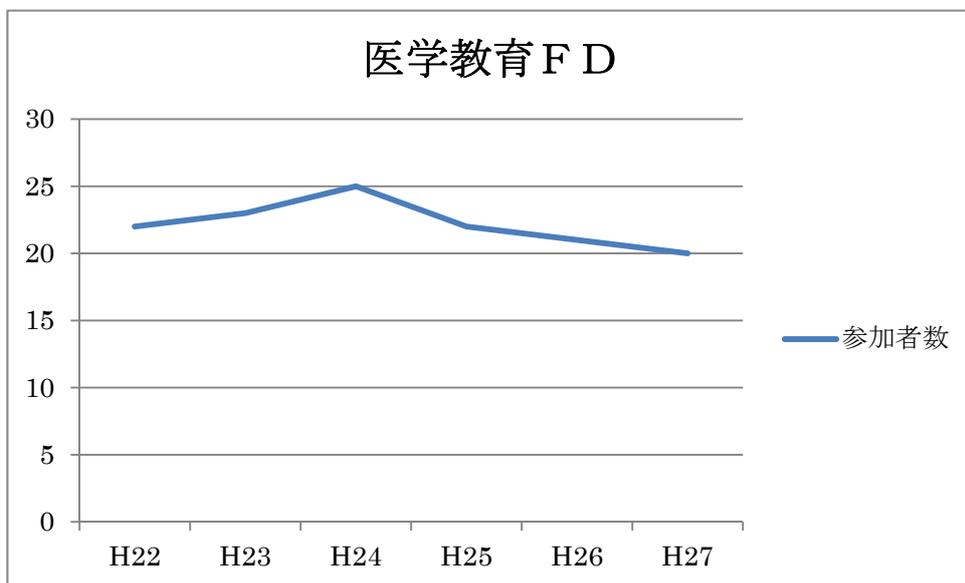
教育に関する基本的事項の正答率は、医学教育FD後に上昇した。



(次頁に続く)

(参加者数)

年度	教員	スタッフ
H26	21	11
H27	20	14



(出典：医学部作成)

資料医63 医学教育出張FD

教育協力病院における教育水準を担保すべく、教育目的や学生指導などに関するFDを出張開催。

(次頁に続く)

出張医学教育FD				
年度	年月日	病院名	参加人数	
24	1	平成24年10月31日	県立こども病院	13
	2	平成24年12月3日	県立木曽病院	20
	3	平成24年12月11日	安曇野赤十字病院	10
	4	平成25年1月10日	信州上田医療センター	26
	5	平成25年1月11日	まつもと医療センター松本病院	14
	6	平成25年2月1日	まつもと医療センター中宿松本病院	19
平成24年度合計			102	
年度	年月日	病院名	参加人数	
25	1	平成25年5月29日	市立大町総合病院	25
	2	平成25年6月3日	富士見高原病院	18
	3	平成25年6月17日	長野赤十字病院	53
	4	平成25年6月18日	佐久総合病院	37
	5	平成25年7月22日	小諸厚生総合病院	20
	6	平成25年7月29日	松代総合病院	27
	7	平成25年8月5日	北信総合病院	21
	8	平成25年9月2日	飯田市立病院	61
	9	平成25年9月30日	篠ノ井病院	42
	10	平成25年10月8日	県立須坂病院	20
	11	平成25年10月21日	諏訪赤十字病院	82
	12	平成25年11月6日	松本市立病院	25
	13	平成25年11月6日	こころの医療センター駒ヶ根	13
	14	平成25年11月12日	安曇総合病院	22
	15	平成25年11月13日	浅間総合病院	27
	16	平成25年11月19日	伊那中央病院	36
	17	平成25年11月25日	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	14
	18	平成25年12月9日	長野市民病院	65
	19	平成25年12月11日	小諸高原病院	9
	20	平成25年12月16日	岡谷市民病院	20
平成25年度合計			637	
年度	年月日	病院名	参加人数	
26	1	平成26年9月9日	飯山赤十字病院	15
	2	平成26年9月11日	上田医療センター	26
	3	平成26年9月22日	市立岡谷病院	14
	4	平成26年9月29日	鹿教湯病院	12
	5	平成26年9月29日	小諸厚生総合病院	15
	6	平成26年10月6日	富士見高原病院	
	7	平成26年10月6日	県立木曽病院	15
	8	平成26年10月7日	長野松代総合病院	48
	9	平成26年10月10日	丸の内病院	28
	10	平成26年10月14日	相澤病院	27
	11	平成26年10月14日	県立須坂病院	18
	12	平成26年10月15日	市立大町総合病院	
	13	平成26年10月21日	伊那中央病院	
	14	平成26年10月22日	まつもと医療センター中宿松本病院	
	15	平成26年10月23日	国保依田窪病院	
	16	平成26年10月24日	まつもと医療センター松本病院	
	17	平成26年10月27日	長野赤十字病院	
	18	平成26年10月27日	篠ノ井総合病院	
	19	平成26年10月28日	佐久総合病院	
	20	平成26年11月4日	県立こども病院	
	21	平成26年11月5日	県立こころの医療センター駒ヶ根	
	22	平成26年11月10日	飯田市立病院	
	23	平成26年11月10日	長野市民病院	
	24	平成26年11月11日	安曇総合病院	
	25	平成26年11月12日	浅間総合病院	
	26	平成26年11月13日	諏訪中央病院	
	27	平成26年11月18日	小諸高原病院	
	28	平成26年11月19日	松本市立病院	
	29	平成26年11月27日	昭和伊南総合病院	
	30	平成26年12月1日	安曇野赤十字病院	
	31	平成26年12月8日	北信総合病院	
	32	平成26年12月8日	諏訪赤十字病院	
	33	平成26年12月9日	丸子中央病院	
平成26年度合計			218	

(次頁に続く)

年度	年月日	時間	病院名	参加人数	回数	
27	1	平成27年5月20日	17時～17時30分	小諸高原病院	12	3
	2	平成27年5月25日	17時～17時30分	小諸厚生病院	17	3
	3	平成27年6月1日	18時30分～19時00分	飯田市立病院	61	3
	4	平成27年6月1日	18時30分～19時00分	県立木曾病院	10	3
	5	平成27年6月2日	17時30分～18時	北アルプス医療センターあづみ病院	11	3
	6	平成27年6月4日	8時～8時30分	松本市立病院	25	3
	7	平成27年6月4日	16時30分～17時	昭和伊南総合病院	7	2
	8	平成27年6月8日	18時～18時30分	諏訪赤十字病院	73	3
	9	平成27年6月9日	18時30分～19時	まつもと医療センター松本病院	13	3
	10	平成27年6月10日	18時30分～19時	市立大町総合病院	30	3
	11	平成27年6月10日	18時～18時30分	長野赤十字病院	73	3
	12	平成27年6月11日	18時～18時30分	丸子中央病院	18	2
	13	平成27年6月11日	18時30分～19時	信州上田医療センター	46	3
	14	平成27年6月16日	18時50分～19時20分	伊那中央病院	48	3
	15	平成27年6月23日	15時～15時30分	浅間総合病院	7	3
	16	平成27年6月29日	18時～18時30分	篠ノ井総合病院	47	3
	17	平成27年7月1日	17時～17時30分	県立こころの医療センター駒ヶ根	18	3
	18	平成27年7月3日	18時30分～19時	まつもと医療センター-中信松本病院	15	3
	19	平成27年7月6日	17時30分～18時	安曇野赤十字病院	28	3
	20	平成27年7月6日	18時20分～18時50分	丸の内病院	28	2
	21	平成27年7月7日	18時～18時30分	飯山赤十字病院	12	2
	22	平成27年7月9日	18時～18時30分	諏訪中央病院	23	2
	23	平成27年7月13日	19時～19時30分	長野市民病院	67	3
	24	平成27年7月14日	18時～18時30分	県立須坂病院	25	3
	25	平成27年7月14日	18時～18時30分	相澤病院	32	2
	26	平成27年7月16日	17時～17時30分	国保依田窪病院	5	2
	27	平成27年7月21日	18時30分～19時	佐久総合病院	47	3
	28	平成27年7月27日	18時～8時30分	市立岡谷病院	24	3
	29	平成27年8月3日	18時～18時30分	富士見高原病院	18	3
	30	平成27年8月4日	18時～18時30分	長野松代総合病院	37	3
	31	平成27年8月18日	18時～18時30分	上越総合病院	33	1
	32	平成27年8月24日	17時30分～18時	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	8	3
	33	平成27年9月1日	15時～15時45分	市立甲府病院	3	1
平成27年度小計				921		

(次頁に続く)

出張医学教育FD(長野赤十字病院)

【日時】 平成26年10月27日 17時30分～ 18時00分

【場所】 長野赤十字病院

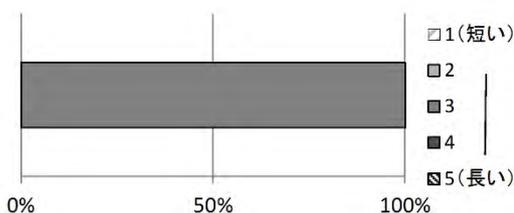
【参加人数】 65名

【内容】

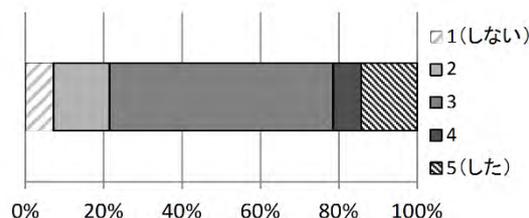
- 卒前クリニカルクラークシップの現状
- 信州大学における今後の臨床実習
 - ・150通りの選択肢からなる参加型臨床実習について
 - ・学生が行うことのできる医行為について
 - ・臨床実習の指導医
- 患者の同意と事故補償



FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



参加者の意見

FDで分かったこと	FDで疑問が残ったこと	ご意見											
目標はわかった。	万が一、医療事故に学生がかかった時の対応。保険の問題でなく、実務的・法的な対応の実際。	移行期なのかもしれないが、初期研修医との兼合いは難しい。現状であれば教育内容が似かよってしまい、どのように差別化を図るか、教える側としては工夫をしていかなければならず、結構大変だと思う。											
病院に実習に来る学生が増える。学生教育における実習の割合が増える。学生が増える。仕事も増える。だけど、楽しいかもしれない。	学生の社会的資質。												
信大の新しい実習体制。	具体的ななにをやらせて良いのか。												
学生がなぜ病院で実習するかがわかった。	今後の大学の役割について。												
学生研修の意義。	学生の実習のフィードバックの基準は何かありますか？(ほとんどの医師は教育のトレーニングを受けたことがないため)												
英語ができないと世界で通用する医師になれない。	WFMEの認証水準 (ここが目標では?)の比較表	この比較表があればより日本の医学教育の何が欠けている(ガラパゴス)のかははっきりすると思います。目標水準ゴールを明確に。卒業時到達点は、現在の初期研修制度1年目終了時のレベル?2年目のレベル?											
150通りの臨床実習の位置づけが理解できた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>例) 現在の医学教育</th> <th colspan="2">WFME</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習期間</td> <td>X年</td> <td>X</td> <td>Y</td> </tr> <tr> <td>診療科目</td> <td>Z</td> <td>◎</td> <td>M</td> </tr> </tbody> </table>	例) 現在の医学教育	WFME		実習期間	X年	X	Y	診療科目	Z	◎	M	
例) 現在の医学教育	WFME												
実習期間	X年	X	Y										
診療科目	Z	◎	M										
すべて理解できた。													
学生実習の実際。													
臨床場面に学生にも参加してもらい、実践力をつける必要がある。													

(出典：医学部作成)

資料医64 参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ

信州大学医学部附属病院および教育協力病院が協力して学生を教育する目的を再確認し学生指導の目安を作成すべく開催。

(次頁に続く)

参加型臨床実習を推進するための
信州大学医学教育ワークショップ

2014

— 新しい臨床実習での望ましい学生教育を考える —

日 時 平成26年9月13日（土）9時から

会 場 信州大学医学部第2実習室（医学部講義棟2階）

参加者 信州大学および教育協力病院の学生指導医 合計42名

信州大学医学部医学教育センター

【タイムスケジュール】

時刻	時間	テーマ	内容	備考
8:30～		受付		名札配布
9:00～	15分	開会式	主催者挨拶	日程の確認
9:15～	15分	新カリキュラムの説明		
9:30～	60分	『信州大学と教育協力病院で屋根 瓦式教育を定着させるには』	グループ作業	KJ法
10:30～	30分		全体発表	発表3分、討論2分、6グループ
11:00～	60分	診療科別実習目標①の作成	グループ作業	
12:00～	60分	昼食・休憩		レストラン ソレイユ (附属病院外来棟5階)
13:00～	30分	診療科別実習目標①の発表	全体発表	発表3分、討論2分、6グループ
13:30～	60分	診療科別実習目標②の作成	グループ作業	
14:30～	30分	診療科別実習目標②の発表	全体発表	発表3分、討論2分、6グループ
15:00～	60分	実習の方略と評価方法の作成	グループ作業	
16:00～	30分	発表	全体発表	発表3分、討論2分、6グループ
16:30～	20分	閉会式	主催者挨拶	

- ① ワークショップにて作成されたプロダクトは、「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」における各科の実習目標として医学教育センターでまとめ、信州大学医学部の各教室および各教育協力病院に配布する。
- ② このワークショップにて新たな問題が明らかになった場合は、それを解決するための新たなワークショップを企画する。

(次頁に続く)

信州大学医学部医学科診療科別臨床実習の到達目標

臨床実習における学習目標 「内科共通」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	一般内科診療ができる。	1 実患者の医療面接を実践できる。
		2 基本的身体診察とその解釈ができる。
		3 プロブレムリストと鑑別診断を挙げ、検査計画を立案できる。
		4 検査結果の解釈ができる。
		5 治療方針を立案できる。
		6 1-5をPOMR形式でカルテ記載できる。
		7 1-5を指導医に説明できる。
		8 受け持ち患者のサマリーを作成できる。
2	患者を含めたチーム医療が実践できる。	1 挨拶ができる。
		2 患者、家族とコミュニケーションを取ることができる。
		3 チーム内でのコミュニケーションが取れる。
		4 指導医とともにインフォームドコンセントに参加、実施できる。
		5 適切なコンサルトを行うことができる。
		6 指導のもとで患者の治療、患者教育が実践できる。
		7 カンファレンスでプレゼンテーションができる。
3	基本的な手技を身に付ける。	1 「信州大学の医学生における臨床実習の目標」のI-Aをすべて身に付ける。

(出典：医学部作成)

②OSCE評価者研修

患者への対応に十分な臨床能力を修得しているかを、OSCEによって確認している。試験を厳正かつ公正に実施するため、積極的に教員を共用試験医学系OSCE認定評価者講習会に参加させている。(資料医65)

資料医65 OSCEの評価者研修

共試機構総発第25号
平成27年5月28日

医学系会員 各位

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
医学系 OSCE 実施小委員会
委員長 北村 聖
外部評価者認定専門部会
部会長 羽野 卓三

平成27年度共用試験医学系 OSCE 評価者認定講習会について (通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃、当機構の運営にご協力いただきお礼申し上げます。

さて、このことについて、下記のとおり開催いたしますので参加願います。

また、2016年度 OSCE から「四肢と脊柱」の課題が新たに加わることに伴い、今年度の講習会から「四肢と脊柱」の評価者養成と認定も行いますので、積極的に参加願います。

なお、参加申込については別紙をご覧の上、メール (cato@umin.ac.jp) にて 平成27年8月7日(金) までに回答願います。

記

- 目 的 共用試験 OSCE の適切な評価ができる外部評価者の養成と認定
- 日時・場所 平成27年 9月27日(日) 関西医科大学 枚方学舎
平成27年10月11日(日) 東京慈恵会医科大学 西新橋キャンパス
平成27年10月25日(日) 帝京大学 板橋キャンパス
・全体講習 13:00~14:45
・個別ステーション講習 15:00~16:45
- 内 容 8ステーション
(医療面接、頭頸部、胸部、腹部、神経、基本手技、救急、四肢と脊柱)
- 参 加 者
- ・受講者は共用試験 OSCE の評価を1回以上経験した者に限ります。
 - ・各大学においてステーション毎に2名以上の認定評価者が在籍するよう講習会への参加をお願いします。平成27年5月28日付け共試機構総発第24号「共用試験医学系 OSCE 認定評価者情報の更新について(依頼)」別紙を参考にしてください。
 - ・1名が複数ステーション受講希望の場合は、複数会場の申込みが必要です。
 - ・昨年までに認定を受けた者が別ステーションを受講することも可能です。その場合、全体講習を受講しなくてもかまいません。
 - ・一般病院勤務者の受講も可能です。但し今後評価者として共用試験 OSCE に関わる医師に限ります。
- 参 加 費 無料
- そ の 他
- ・講習内容は、昨年度と同様です。
 - ・旅費等は、各大学で負担願います。
 - ・希望者全員の受講が可能ですが、会場案内は申込締切後に別途連絡します。
 - ・各大学での OSCE の各ステーション責任者は認定評価者が担当されるようお願いいたします。

以上

(次頁に続く)

(別表)

ST	氏名	大学名	9月12日(土)	9月27日(日)	10月11日(日)	10月25日(日)
			東北大学	関西医科大学	東京慈恵会医科大学	帝京大学
医療面接	守屋 利佳	北里大学		◎	◎	
	三瀬 順一	自治医科大学	◎			○
	大滝 純司	北海道大学				
	岸 美紀子	群馬大学			○	
	石川 ひろの	東京大学		○		◎
	岡田 宏基	香川大学	○ 事前打合せ)			
頭頸部	林 達哉	旭川医科大学	○ 事前打合せ)			○
	熊倉 俊一	鳥根大学	○			○
	鈴木 富雄	大阪医科大学		○		
	古谷 伸之	東京慈恵会医科大学			○	
	松井 俊和	藤田保健衛生大学		○	○	
胸部	佐藤 徹	杏林大学			○	○
	横崎 典哉	広島大学	○ 事前打合せ)	○		
	山崎 直仁	高知大学			○	
	大屋 祐輔	琉球大学				
	石川 和信	福島県立医科大学	○			
	羽野 卓三	和歌山県立医科大学				
	石川 鎮清	自治医科大学				○
	林田 晃寛	心臓病センター-榎原病院		○		
腹部	高田 清式	愛媛大学		○	○	○
	藤本 真一	奈良県立医科大学				
	渡部 健二	大阪大学		○		
	松井 邦彦	熊本大学			○	
	長原 光	東京女子医科大学	○ 事前打合せ)			○
	小坂 健夫	金沢医科大学	○			
神経	苅田 典生	神戸大学		○		○
	高橋 慎一	慶應義塾大学			○	
	栗栖 薫	広島大学				○
	宇宿 功市郎	熊本大学	○			
	松井 真	金沢医科大学		○		
	道勇 学	愛知医科大学	○ 事前打合せ)		○	
基本的 臨床手技	石井 誠一	東北大学	○ 事前打合せ)	○	○	○
	宮本 学		○			
	多田 剛	信州大学				○
	河野 誠司	神戸大学		○		
	柵山 年和	東京慈恵会医科大学			○	
救急	本間 正人	鳥取大学	○ 事前打合せ)			
	藤田 智	旭川医科大学		○		
	西山 陸	神戸大学	○			
	氏家 良人	川崎医科大学				○
	瀬尾 宏美	高知大学			○	
	阪本 雄一郎	佐賀大学		○		○
	山畑 佳篤	京都府立医科大学			○	
四肢と 脊柱	谷口 純一	熊本大学	○ 事前打合せ)	○	○	
	大川 淳	東京医科歯科大学			○	
	高橋 誠	東京医科歯科大学		○		○
	大谷 晃司	福島県立医科大学	○			
	山脇 正永	京都府立医科大学				○
	宮田 靖志	名古屋医療センター			○	

(次頁に続く)

受講年度	大学名	名前	ふりがな <small>※並列の場合はご記入ください</small>	所属 <small>※並列の場合はご記入ください</small>	役職 <small>※並列の場合はご記入ください</small>	面接	頭部	胸部	腹部	神経	外科	救急	四肢・脊柱
H25	信州大学	青木 薫	あおき かおる	保健学科学療法	准教授					○			
H20	信州大学	上松 一永	あげまつ かずなが	病理学	准教授	○							
H23	信州大学	新倉 則和	あらくら のりかず	内視鏡センター	准教授				○				
H20	信州大学	伊澤 淳	いざわ あつし	循環器内科	講師			○					
H16	信州大学	石塚 修	いしばかおさむ	泌尿器科学	教授				○				
H25	信州大学	伊藤 研一	いとう けんいち	乳腺内分泌呼吸器外科部門	教授		○						
H17	信州大学	今村 浩	いまむら ひろし	救急集中治療医学	教授							○	
H18	信州大学	上田 和彦	うえだ かずひこ	画像医学	准教授	○							
H25	信州大学	上原 剛	うえはら たけし	病態解析診断学	准教授	○							
H26	信州大学	牛木 淳人	うしき あつひと	内科学第1	講師	○							
H18H27	信州大学	内山 茂晴	うちやま しげはる	運動機能学	准教授					○			○
H24	信州大学	梅村 武司	うめむら たけじ	内科学第二	准教授				○				
H21	信州大学	漆畑 一寿	うるしはた かずひさ	呼吸器・感染症内科	助教			○					
H21	信州大学	大平 哲史	おおひら さとし	産科婦人科	講師				○				
H18	信州大学	岡 賢二	おか けんじ	産科婦人科	助教	○							
H26H27	信州大学	加藤 博之	かとう ひろゆき	運動機能学	教授					○			○
H26	信州大学	金井 信一郎	かない しんいちろう	感染制御室	助教	○							
H25	信州大学	上條 祐司	かみじょう ゆうじ	血液浄化療法部	准教授				○				
H22	信州大学	鬼頭 良輔	きとう りょうすけ	耳鼻いんこう科	助教		○						
H18	信州大学	小泉 知展	こいずみ ともり	包括的がん治療学講座	教授			○					
H20	信州大学	後藤 哲哉	ごとう てつや	脳神経外科	講師					○			
H21	信州大学	小林 聡	こばやし あきら	外科学第1	准教授				○				
H21	信州大学	駒津 光久	こまつ みつひさ	内科学第4	教授		○						
H19	信州大学	小山 満	こやま じゅん	内科学第5	准教授			○					
H16	信州大学	塩沢 丹里	しおざわ たんり	産科婦人科学	教授						○		
H26	信州大学	下島 恭弘	しもじま やすひろ	在宅療養推進学講座	准教授					○			
H26	信州大学	菅 智明	すが ともあき	内科学第二	講師				○				
H20	信州大学	関島 良樹	せきじま よしき	内科学第3	准教授					○			
H25	信州大学	高橋 淳	たかはし じゅん	整形外科	講師					○			
H23	信州大学	高山 浩史	たかやま ひろし	救急集中治療医学	助教							○	
H17	信州大学	田中 榮司	たなか えいじ	内科学第2	教授				○				
H18	信州大学	田中 聡	たなか さとし	麻酔科蘇生科	准教授						○		
H23	信州大学	天正 恵治	てんしょう けいじ	運動機能学	助教					○			
H22	信州大学	新田 憲市	にった けんいち	高度救命救急センター	助教							○	
H16	信州大学	野見山 哲生	のみやまてつお	衛生学公衆衛生学	教授	○							
H18	信州大学	花岡 正幸	はなおか まさゆき	内科学第1	教授	○							
H25	信州大学	濱野 英明	はまの ひであき	医療情報部	准教授				○				
H19	信州大学	林 宏一	はやし こういち	皮膚科	講師						○		
H19	信州大学	堀内 哲吉	ほりうち てつよし	脳神経外科学	准教授					○			
H20	信州大学	本田 孝行	ほんだ たかゆき	病態解析診断学	教授			○					
H26	信州大学	松浦 宏樹	まつうら ひろき	小児医学	助教	○							
H25	信州大学	松本 和彦	まつもと かずひこ	臨床試験センター	准教授	○							
H25	信州大学	宮本 強	みやもと つとむ	産科婦人科学講座	講師						○		
H26	信州大学	村田 貴弘	むらた たかひろ	脳神経外科	助教					○			
H24~26	信州大学	森 淳一郎	もり じゅんいちろう	医学教育センター	講師	○	○	○				○	
H20	信州大学	森田 洋	もりた ひろし	卒後臨床研修センター	准教授					○			
H23	信州大学	安尾 将法	やすお まさのり	呼吸器・感染症内科	講師			○					
H20	信州大学	山本 洋	やまもと ひろし	内科学第1	准教授	○							
H25	信州大学	杠 俊介	ゆずりは しゅんすけ	形成再建外科	准教授						○		
H20・H27	信州大学	吉村 康夫	よしむら やすお	リハビリテーション部	講師					○			○
H27	信州大学	小林 法元	こばやし のりもと	小児科	講師								○
H27	信州大学	橋本 幸始	はしもと こうじ	内科(2)	助教				○				
H27	信州大学	小松 通治	こまつ みちはる	内科学(第二)	助教				○				
H27	信州大学	小川 輝之	おがわ てるゆき	泌尿器科学	准教授				○				
H27	信州大学	立石 一成	たていし かずなり	内科学(第一)	助教			○					
H27	信州大学	鈴木 彰	すずき あきら	外科(1)	講師						○		
H27	信州大学	川真田 樹人	かわまた みきと	麻酔蘇生学	教授							○	
H27	信州大学	望月 勝徳	もちづき かつのり	救急集中治療医学	講師							○	

(出典：医学部作成)

③ 模擬患者の養成

現場に近い環境でOSCEを実施するため模擬患者を養成。(資料医66)

資料医66 模擬患者ボランティア勉強会
 模擬患者ボランティアの登録数 29名

勉強会の開催状況

Advanced OSCEに向けた勉強会
 平成26年度

開催日	4/25	5/9	5/23	6/6	6/20	6/28
参加人数	20	19	21	22	23	24

OSCEに向けた勉強会

回数	日時	集合場所	対象者	備考
第1回	平成26年 7月4日(金) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	ガイダンス OSCE予行用シナリオ練習 (ブルーファイル)
第2回	7月25日(金) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE予行用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
第3回	8月4日(月) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
第4回	8月19日(火) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE予行用・本試用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
第5回	8月29日(金) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE予行用・本試用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
第6回	9月5日(金) PM 1:00~4:10	医学部講義棟 基礎棟1~5F	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川・担当教員	臨床実習前集中講義 (12:50~16:10) OSCE予行用シナリオ (ブルーファイル)
第7回	9月12日(金) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
評価者 研修	9月12日(金) PM 6:00~	旭総合研究棟 9階 講義室A1B	SP : 数名 教員: OSCE評価者	OSCE評価者(教員)のための研修会 (ピンクファイル)
第8回	9月17日(木) PM 4:00~	基礎棟 第一会議室	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
本試験	9月21日(日) AM 11:00~	長野県松本文化会館 1階中ホール	S P : 全員	OSCE本試用シナリオ (ピンクファイル) 昼食は2階「バウゼ」
追試	9月26日(金)	旭総合棟 チュートリアルルーム	SP : 数名	
反省会	9月29日(月) PM 4:00~	外来棟5F「ソレイユ」	S P : 全員 教員: 多田・森・清水・黒川	反省会

平成26年度

開催日	7/4	7/25	8/4	8/19	8/29	9/5
参加人数	25	19	19	17	20	22
開催日	9/12	9/17	9/21	9/26	9/29	
参加人数	20	22	23	23	23	

(出典：医学部作成)

④シミュレーション教育の指導者研修

平成25年度より、以下（資料医67）による指導者の育成を行っている。

資料医67 ハワイ大学でのシミュレーション教育の研修

・ハワイ大学 SimiTiki シミュレーションセンター指導者研修会、ハワイ大学シミュレーションセンターの視察

信州大学医学部では平成26年度より臨床実習の時間を51週から72週に延長します。これに伴い、臨床実習の期間をベーシックとアドバンスドの2つのクラークシップに別けて、ベーシッククラークシップではシミュレーション教育を積極的に取り入れる予定です。

この度私は、長野県立病院機構のご好意で、平成24年11月20、21日とハワイ大学医学部Sim Tikiシミュレーションセンターで、シミュレーション教育指導者研修を受けてきました。この研修で、私は信州大学医学部のシミュレーション教育では機材の購入や、専用の施設の充実もさることながら、シミュレーション教育を行なう人材の育成も急務であると強く感じました。

以下省略

（出典：医学部ホームページ）

⑤職員の能力向上

事務の力向上のための活動（資料医68）を行っている。

資料医68 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（国立大学医学部長会議常置委員会、全国医学部長病院長会議主催）

国公立大学医学部・歯学部 教務事務職員研修

参加者名簿

第16回 H27年 5/13～5/15 学務第1係 高地妙子

第15回 H26年 5/13～5/15 学務第2係 篠原健二

第14回 H25年 5/8～5/10 学務第1係 金子倫三

第13回 H24年 6/6～6/8 学務第2係 中島華

第12回 H23年 6/1～6/3 大学院係 細川美佳

目的

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修は、医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図るとともに、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的とする。

（出典：医学部作成）

保健学科

教育力向上のための活動（資料医69-71）。

資料医69 保健学科FD委員会

○FD研修会

年度	FDテーマ（講師）	参加者数等
H22		
H23	教員・指導者はどうあるべきか ～フィジカルアセスメント教育を通して～	40名
H24	「新たな未来を築くための大学教育の質的転換について～障害学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」（中央教育審議会答申）について	46名
H25	学生相談の進め方（東京大学学生相談ネットワーク本部精神保健支援室長 渡邊慶一郎）	44名
H26	学生への支援-教員としての葛藤-（教育学部教授 上村恵津子）	52名
H27	学生に勉強させるためのアクティブ・ラーニング	46名

（出典：医学部作成）

資料医70 教員相互の授業見学（保健学科）

（見学方法の概要）

他の教員の授業を見学可能な教員が授業見学の後、感想を授業担当教員にフィードバックしている。時期	期間	見学授業科目数
平成 23 年度	12月5日（月）～1月6日（金）	2科目
平成 24 年度	12月3日（月）～12月26日（水）	4科目
平成 25 年度	12月2日（月）～12月20日（金）	3科目
平成 26 年度	12月1日（月）～12月19日（金）	2科目
平成 27 年度	6月22日（月）～7月10日（金） 11月30日（月）～12月18日（金）	7科目

（出典：医学部作成）

資料医 71 学生による授業改善アンケート

平成27年度前期「授業改善アンケート」科目別集計表

MPP140

授業科目:	
担当教員:	
集計人数:	

1. 授業内容について

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	授業はよく準備・計画されていた	0	0	0	5	42
		0%	0%	0%	11%	89%
2	授業はシラバス、または、講義日程表から大幅に逸脱することなく実施された	0	0	0	4	43
		0%	0%	0%	9%	91%
3	授業の開始・終了時間が守られていた	0	0	0	3	44
		0%	0%	0%	6%	94%
4	教員の話す速度は適切で、聞き取りやすかった	0	0	0	4	43
		0%	0%	0%	9%	91%
5	板書、OHP、液晶の画像は見やすかった	0	0	1	11	35
		0%	0%	2%	23%	74%
6	授業の内容(資料や説明)は分かりやすかった	0	0	0	13	34
		0%	0%	0%	28%	72%
7	学生からの発言や質問の機会があった	0	0	2	8	37
		0%	0%	4%	17%	79%
8	教員は発言や質問に適切に対応した	0	0	1	5	41
		0%	0%	2%	11%	87%
9	予習・復習のための学習課題又は資料が提示された	0	0	7	16	24
		0%	0%	15%	34%	51%
10	この授業の成績評価の基準が明確に示された	0	1	4	9	33
		0%	2%	9%	19%	70%
11	教育に対する担当教員の熱意を感じた	0	0	1	5	41
		0%	0%	2%	11%	87%
12	この授業では、担当教員の学問的・専門的識見が感じられた	0	0	1	1	45
		0%	0%	2%	2%	96%
13	全体的に見て、授業の内容は、授業によって達成しようとしている目標に相応しいものであった	0	0	0	7	40
		0%	0%	0%	15%	85%
14	この授業では、この学部・学科のカリキュラム全体の教育目標に沿った授業内容が提供されていた	0	0	0	7	40
		0%	0%	0%	15%	85%

2. 自己評価について

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	私はこの授業に対する学習意欲が高まった	0	1	0	11	35
		0%	2%	0%	23%	74%
2	私はこの授業を熱心に聞いた	0	1	1	15	30
		0%	2%	2%	32%	64%
3	私はこの授業の予習・復習に熱心に取り組んだ	0	4	7	18	18
		0%	9%	15%	38%	38%
4	私はこの授業の学習目標を達成できた	0	1	2	18	26
		0%	2%	4%	38%	55%

総合評価

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	この授業に対して、総合的に満足している	0	0	0	11	36
		0%	0%	0%	23%	77%

注1: 上段は人数を、下段は割合を示す。

注2: 回答の項目は「1: そう思わない、2: あまりそう思わない、3: どちらとも言えない、4: ややそう思う、5: そう思う」

(出典: 医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 医学科では医学教育研修センター（資料医25(22頁))およびカリキュラム検討WG（資料医36(32頁))を中心に（資料医26(24頁))，保健学科では教務委員会およびFD委員会を中心に（資料医28(25頁))，幅広い医学的知識に基づいた臨床能力と問題解決能力，倫理観，幅広い教養を涵養する教育カリキュラムを編成し，学生とその保護者，医療機関の期待に応じている。
- カリキュラムに関する会議に学生が参加し（資料医34(29頁), 35(30頁))，学生の意見をカリキュラム作成・改善に反映している。
- 外部の医療機関や教育機関からの意見を取り入れてカリキュラムを整備するとともに（資料医38(33頁)～40(35頁))，多様なFDを実施し（資料医62(57頁)～64(61頁))，優れた教育技能を持つ教育者を養成することで医療機関の期待に応じている。
- 医学科では地域医療推進講座（資料医27(24頁))の活動や出張FD（資料医63(57頁))により，保健学科では臨地・臨床実習指導者会議（資料医40(35頁))により，多くの県内医療機関と協力体制を構築し，地域医療機関の教育力を養うことで地域社会の期待に応じている。
- 医学科では長野県の医療を担う人材を養成し地域医療に貢献するため，県内卒の推薦入試を実施している。（資料医58(52頁))
- 両学科とも担任をおき，学生生活全般について細やかな指導を行うことで学生とその保護者の期待に応じている。（資料医43(39頁)～45(44頁))

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① 専門科目

①-1 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

本学部の方針に対応した教育課程を編成し、カリキュラムマップ、シラバスにより学生に公開している(資料医72,73)。

資料医72 学位授与の方針マップ

(医学科の例)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発…	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来…	◎多様な文化受容マイ…	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション…	◎情報活用能力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解…	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理…	◎環境基礎力	◎環境実践力	◎温かい人間性や高い倫…	◎医師としての高い見識…	◎患者の身体的・心理的…	◎患者やその家族と十分…	◎疾病の正確な診断と適…	◎常に最新の医療情報を…	◎生命を尊び 人間につ…	◎保健・医療において生…	◎保健・医療の専門職者…	◎保健・福祉の現…	◎文化の多様性を理解し…	◎多くの学問分野に接し…
M02076	法医学演習・実習																											
M01001	医学概論演習Ⅰ																											
M01007	トコ生物学Ⅰ	○	○	○			○	○																				
M01026	疫学・予防医学概論																											
M02014	解剖学演習・実習Ⅰ・Ⅱ											○																
M02036	病理学演習・実習																											
M02042	病理学概論演習・実習																											
M02061	生動物学演習・実習																											
M02083	産婦医学・小児医学演習・実習Ⅰ																											
M02084	衛生学・公衆衛生学演習・実習Ⅰ																											
M03002	臨床医学入門Ⅰ	○																										
M03011	臨床実習前集中講義	○																										
M04155	臨床医学I(Ⅰ) 4年	○																										
M04227	系統講義(皮膚科)																											
M04228	系統講義(麻酔科)																											
M04229	系統講義(形成外科)																											
M04230	系統講義(病態解析診断学)																											
M04231	系統講義(救急集中治療医学)																											
M04232	系統講義(臨床遺伝学)																											

(保健学科の例)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発…	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来…	◎多様な文化受容マイ…	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション…	◎情報活用能力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解…	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理…	◎環境基礎力	◎環境実践力	◎温かい人間性や高い倫…	◎医師としての高い見識…	◎患者の身体的・心理的…	◎患者やその家族と十分…	◎疾病の正確な診断と適…	◎常に最新の医療情報を…	◎生命を尊び 人間につ…	◎保健・医療において生…	◎保健・医療の専門職者…	◎保健・福祉の現…	◎文化の多様性を理解し…	◎多くの学問分野に接し…	
MPP102	人体の構造と機能Ⅱ(生理学)																												
MPP103	人体の構造と機能Ⅲ																												
MPP114	基礎看護学実習Ⅱ																												
MPP116	成人看護健康論Ⅰ																												
MPP124	老年看護方法論Ⅱ																												
MPP125	老年看護学実習Ⅰ																												
MPP126	老年看護学実習Ⅱ																												
MPP131	小児発達看護学実習																												
MPP141	精神看護学実習																												
MPP151	看護管理論																												
MPP154	看護研究Ⅰ																												
MPP155	看護研究Ⅱ																												
MPP158	助産診断・技術学Ⅰ																												
MPP180	助産診断・技術学Ⅱ																												
MPP161	助産診断・技術学Ⅳ																												
MPP170	統合実習																												
MPP172	公衆衛生看護支援論Ⅲ																												
MPP173	公衆衛生看護アセスメント論																												
MP420	発達障害作業治療学Ⅱ																												
MP422	認知障害治療学Ⅰ																												
MP425	老年期作業療法学Ⅱ																												
MP426	日常生活支援論																												
MP428	義肢装具学																												

(出典：シラバスWeb版)

資料医73 医学部シラバス

(医学科)

科目名	ヒト生物学 I	題目 (副題)	Human Biology I
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛		5820
学年、講義期間、曜日・時限	1年次	前期	月曜, 2時限
単位数、講義室	1 単位		医学科第 2 実習室 旭総合講義室 A B
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。 ・ 常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。 ・ ◎みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】 ・ ◎理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】 ・ ◎人類の知を継承し、それらの成果の上によって未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】 ・ ◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 ・ ◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ・ ◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数値的指標を用いて理解できる【普遍的・数値的理能力】 ・ ◎自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】 ・ ◎地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】 		
授業のキーワード	医学生物学		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトが地球上で古代より進化してきた生物の一つであることを理解する。 2. 食品や健康の話題を通して、人体を構成する諸器官の構造と機能を知る。 3. 人々の疾患を勉強することで人体を構成する臓器には特有の疾患があることを知る。 4. 家族や友人の医学的な相談に乗ることができ、簡単な助言ができるようになる。 5. 英語に慣れる。 		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的な思考を身につける。 2. 生命を構成する分子を説明できる。 3. 細胞の構造と機能を説明できる。 4. 組織と臓器を列記できる。 5. 循環系を説明できる。 6. 血液の機能と役割を説明できる。 7. リンパと免疫系の役割を説明できる。 8. 現代の感染症を説明できる。 9. 消化器系と栄養を説明できる。 10. 泌尿器系を説明できる。 11. 骨格系を説明できる。 12. 筋の役割や収縮の仕組みを説明できる。 		
テキスト、教材、参考書	Sylvia S. Mader Human Biology 13th edition McGraw-Hill International edition		
履修上の注意	グループ学習のため、遅刻すると他学生の迷惑となる。 グループ討議では積極的に発言する。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミニテスト (5分) 2. 本日の学習目標を解説 (10分) 3. ミニテストの正解を全員で確認する。(5分) 4. 各章のLearning outcomesのグループ学習する。(40分) あらかじめ自身の担当箇所はA4用紙1枚にまとめておく。 1人5分以内で分担分を説明して、グループ全員に理解させる。 5. グループ学習の途中で課題を配布するので、その課題の回答をグループ全員で考える。 6. 課題の回答をA4用紙1枚にまとめる。 7. 全体会で任意の学生に課題の回答を発表させる。(15分) 8. 教員による補足説明 (15分) また、全グループの回答と質問、その質問に対する回答はe-alpsで公開する。 グループ学習の時間は毎回の課題により調節する。 		
成績評価の方法	<p>毎回授業の冒頭にミニテストを行う。また、前後期とも中間試験と期末試験を行なう。 総合的評価の配分は毎回のミニテストの総計40%中間試験30%、期末試験30%とし、総計の60%以上の得点を合格とする。 ミニテスト以外の試験では不受験や30%未満の得点は不可とする。 成績不良者に対する追試験は行わない。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問、相談への対応)	<p>この授業では医学部医学科入学生がこれから学ぶ専門科目を理解するための基礎知識を得る。</p> <p>連絡先：多田剛 (医学教育センター) 内線：5820 外線：0263-37-3113 E-mail: tadatsu@shinshu-u.ac.jp</p>		

(次頁に続く)

(保健学科)

登録コード:WP107	県内大学履修科目 市民開放授業	授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	看護学概論 Introduction to Fundamental Nursing		
担当教員	松永 保子 柳澤 節子・小林 千世		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/1年	前期	木曜・3時限 木曜・4時限
単位数、講義室	2単位	保健学科241講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通	<small>生命を有し、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を社会的に理解して、人々の健康を支援することができる。</small> <small>保健・医療の専門職員として必要な知識・技能を修得して、さまざまな状況で応用できる。</small>		
授業概要	看護とは何かを学び、看護の役割と機能を理解する。 看護職者として看護の専門的知識と技術を習得する重要性を学ぶ。		
授業概要	・看護の歴史を踏まえながら、看護についての基本的事項や看護・看護学・看護技術とは何かを学び、看護の目的・対象について理解する。 ・専門職としての看護職の機能や役割について学ぶ。 ・看護を实践する上での倫理的配慮や法制度について学ぶ。 ・看護体制や看護職を含めた保健医療福祉チームの役割について学ぶ。 ・よりよい看護実践のために必要な看護過程および看護理論、および看護実践の記録である看護記録等について学習する。		
一般学習目標GIO (期待される学習効果)	・看護学の成り立ちを理解し、看護・看護学・看護技術とは何か学ぶ。 ・看護の目的・対象について理解する。 ・専門職としての看護職の機能や役割について理解する。 ・看護実践における倫理的配慮の必要性を理解する。 ・看護職に関する法制度および法的な規制について理解する。 ・看護体制や保健医療福祉チームの役割について理解する。 ・看護実践に必要な看護過程について理解する。 ・看護実践に必要な看護理論について理解する。 ・看護実践における観察・記録・報告の重要性を理解する。		
SBOs (行動目標)	・看護・看護学・看護技術とは何か説明できる。 ・健康の概念が説明できる。 ・看護の目的や対象が理解できる。 ・看護の歴史が理解できる。 ・看護の倫理規定について説明できる。 ・看護の法制度が説明できる。 ・看護体制や保健医療福祉チームの役割について説明できる。 ・看護実践に必要な看護過程および看護理論について説明できる。 ・看護実践における観察・記録・報告の重要性を理解できる。		
授業計画	第1回 (4月9日) 看護学概論とは (松永) 第2回 (4月9日) 看護学・看護技術とは (松永) 第3回 (4月23日) 看護の目的・対象 (松永) 第4回 (4月23日) 健康の概念 (松永) 第5回 (5月14日) 看護の歴史 (1) (松永) 第6回 (5月14日) 看護の歴史 (2) (松永) 第7回 (5月21日) 看護教育制度 (松永) 第8回 (5月21日) 看護の法制度 (保健師助産師看護師法など) (松永) 第9回 (5月28日) 看護業務 (松永) 第10回 (5月28日) 看護職の機能と役割 (松永) 第11回 (6月4日) 看護体制・看護方式 (松永) 第12回 (6月4日) 保健医療福祉チーム (松永) 第13回 (6月11日) 観察・記録・報告 (1) (松永) 第14回 (6月11日) 観察・記録・報告 (2) (松永) 第15回 (6月18日) 看護過程 (松永) 第16回 (6月18日) POS・フォーカスチャータリング (松永) 第17回 (6月25日) 看護倫理 (1) (柳澤) 第18回 (6月25日) 看護倫理 (2) (柳澤) 第19回 (7月2日) 看護理論 (グループワーク1) (松永、柳澤、小林) 第20回 (7月2日) 看護理論 (グループワーク2) (松永、柳澤、小林) 第21回 (7月9日) 看護理論 (発表1) (松永、柳澤、小林) 第22回 (7月9日) 看護理論 (発表2) (松永、柳澤、小林) 第23回 (7月16日) 筆記試験 (松永、柳澤) 第24回 (7月16日) まとめ (松永、柳澤、小林)		
授業の進め方	・講義 ・グループワーク ・グループ発表		
テキスト、教材、参考書	テキスト: ・看護学概論 スーヴェルヒロカワ ・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社 ・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 他にその都度、紹介および指定する。		
成績評価の方法	・出席状況 ・筆記試験 ・レポート		
成績評価の基準	・筆記試験 授業で示した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、授業内容からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」 ・レポート ①問題の設定が適切である、②その問題の背景を説明できている、③その問題にどのような課題があるのかを指摘できている、④それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている、⑤そのうえで自分の見解を提示できている、加えるに、教員を感心させるレベルであれば「卓越している」、①から⑤の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」 ・出席状況と、筆記試験およびレポートの評価を統合し、最終的に成績を判断する。		
事前事後学習の内容	・事前学習 テキストや配布資料等の授業内容に相当する部分を読んで理解しておく。また、予習をして質問等があれば、授業で質問するようにする。看護理論については、グループ毎の看護理論家の発表およびレポート提出があるので、早めにグループ全員で調べようとして、資料の準備・作成にあたる。 ・事後学習 成績評価として、筆記試験や課題レポートの提出があるので、授業後に理解できなかったところは、テキストや配布資料等で繰り返し確認して、理解する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	・「看護とは何か」を十分に理解し、自分の「看護観」を培い、深めてほしい。 ・オフィスアワーおよび授業担当者への連絡先は、ホームページを参照のこと。		

(出典：医学部シラバス)

①-2 シラバスガイドライン

以下（資料医74）に示す。

資料医74 シラバスガイドライン（作成の手引）

平成26年11月10日

信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

（平成26年11月10日第17回教務委員会決定、平成26年11月19日第138回教育研究評議会報告）

【※下線部（赤字）が現シラバスガイドラインからの変更点】

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1単位当たり「45時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の6項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

①授業の基本的な情報

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

②授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、（知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で）「○○ができるようになる」という形を標準とする。

③成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

（次頁に続く）

④成績評価の基準

この項では、「何ができているならば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

⑤事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

⑥授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に行う。

⑦履修上の注意

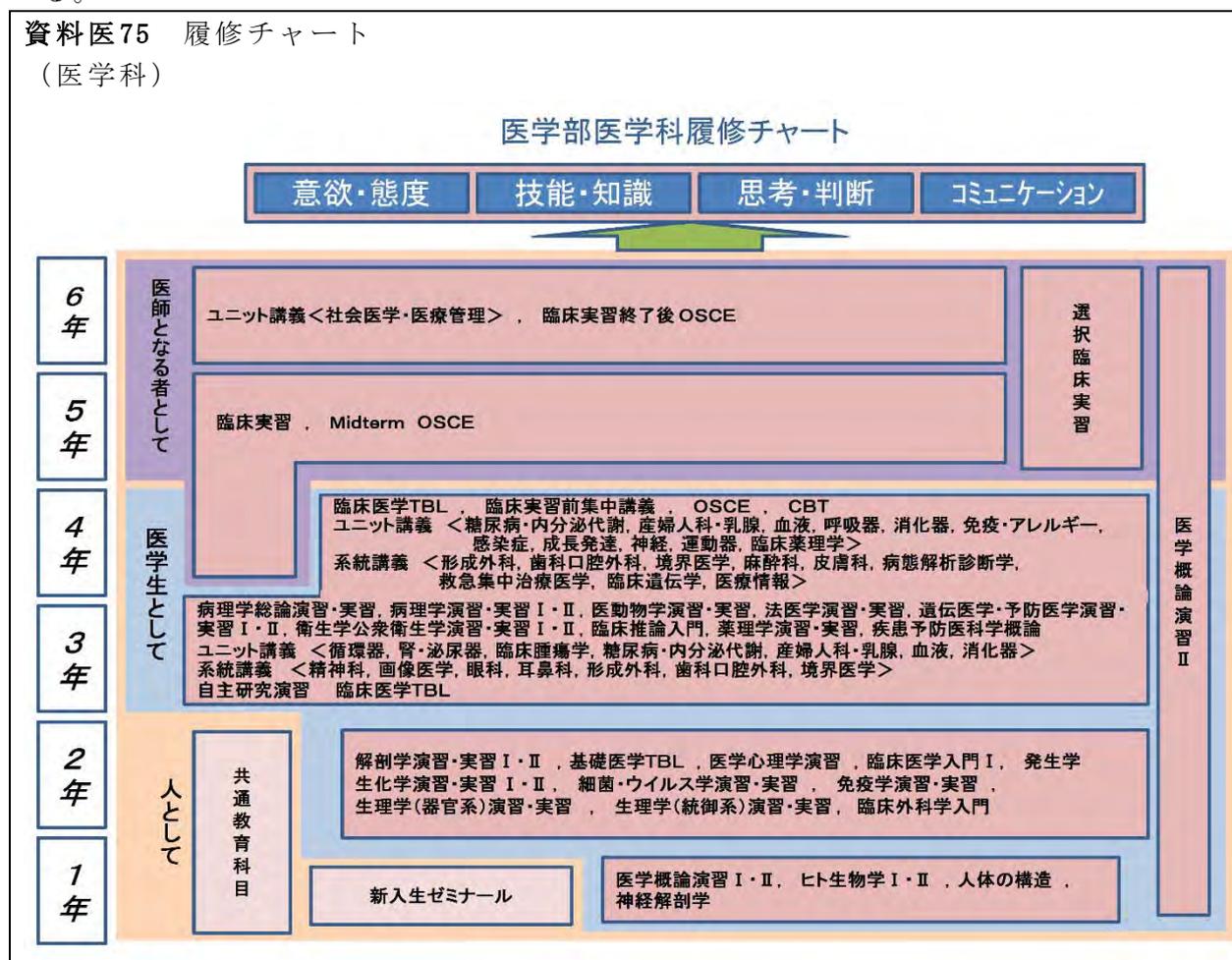
当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

(出典：「信州大学シラバスガイドラインの見直しについて」)

①-3 履修チャート

学科，専攻ごとに履修チャート（資料医 75）を明示し，的確な履修の周知を図っている。

資料医 75 履修チャート
(医学科)



(保健学科)

○看護学専攻

医学部・看護学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三・四年次

生命倫理学 看護教育学 国際看護論 看護管理論 チーム医療演習 成人看護方法論Ⅱ 小児発達看護方法論
 母性看護方法論 精神看護方法論 在宅看護方法論 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学支援論Ⅰ 看護研究概論
 成人看護学実習 老年看護学実習Ⅱ 小児発達看護学実習 母性看護学実習 在宅看護学実習 精神看護学実習
 親子関係論 救命蘇生学演習 がん看護 災害看護 専門看護特論 小児の発達障害と看護
 公衆衛生看護学支援論Ⅱ 公衆衛生看護学支援論Ⅲ 公衆衛生看護学アセスメント論 公衆衛生看護管理論
 学校・産業看護論 疫学・保健統計 公衆衛生看護学実習 助産学概論 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ
 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 助産診断・技術学Ⅴ 助産管理 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ

一年次

公衆衛生学 保健・医療・福祉政策論 看護方法論Ⅱ 看護方法論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ
 成人看護学概論 成人看護健康論Ⅰ 成人看護健康論Ⅱ 成人看護方法論Ⅰ 老年看護学概論
 老年看護方法論Ⅰ 老年看護方法論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 小児発達看護学概論 小児発達健康論
 母性看護学概論 母性看護健康論 精神看護健康論 在宅看護学概論 実践保健統計
 人体の構造と機能Ⅲ 医療社会学 臨床診断治療学

一年次

健康科学概論 国際医療協力論 リハビリテーション概論 生化学 栄養学
 病理病態学 微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学
 人体の構造と機能Ⅰ(解剖学) 人体の構造と機能Ⅱ(生理学)
 人体構造機能学実習 薬理学 看護学概論 コミュニケーション方法論
 看護方法論Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ 精神看護学概論
 ヒューマン・セクシュアリティ

学士としての基礎的素養
(環境、教養、外国語など)

- ・環境マインド
- ・外国語
- ・教養
- ・健康科学

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○検査技術専攻

医学部・検査技術科学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三
四
年
次

生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 医療システムとマネージメント 臨床検査管理学
 臨床検査総論Ⅱ(関係法規) 臨床検査解析学Ⅰ 臨床検査解析学Ⅱ 人体情報学 脳・平衡機能検査学実習
 神経・筋機能検査学実習 医用センサー工学 画像解析学 画像解析学実習 実験動物学
 遺伝子検査技術学実習 RI 検査学 分子細胞生物学 ウイルス・真菌検査学実習 感染制御学特論
 分離分析技術学特論 細胞性免疫検査技術学実習 輸血検査学 臓器移植検査学特論 脂質検査学実習
 酵素検査学実習 機器分析学 健康食品学 薬理・栄養検査学 血栓止血検査学実習 分子血液学
 病理組織検査学実習 病理細胞診検査学実習 超微形態学特論 免疫化学細胞学 臨地実習 セミナール

一
年
次

疾病の原因と発生機序 臨床医学総論 生理機能検査学 呼吸機能検査学実習
 循環機能検査学 循環機能検査学実習 医用電子工学 遺伝子検査学 病原体検査学
 細菌検査学実習 寄生虫検査学 免疫検査学 体液性免疫検査技術学実習 病態化学検査学
 定性検査学 血液検査学 血液形態検査学実習 病理検査学

一
年
次

健康科学概論 公衆衛生学 医療社会学
 保健・医療・福祉政策論 国際医療協力論
 リハビリテーション概論 生化学 栄養学 病理病態学
 微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学 生理学
 組織学 系統解剖学 組織学実習 生理学実習
 検査情報の処理と管理 臨床検査総論Ⅰ(見学と実習を含む)
 臨床化学分析学

基礎科学科目

・力学 ・電磁気学
 ・一般化学Ⅰ ・一般化学Ⅱ
 ・生物科学Ⅰ

・環境マインド ・外国語
 ・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養
 (環境、教養、外国語など)

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○理学療法学専攻

医学部・理学療法学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究



三・四年次

<理学療法の専門的知識・技術・態度の習得>

医療社会学 保健・医療・福祉政策論 生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 理学療法研究法
 臨床推論演習 臨床能力演習 臨床物理療法II 徒手療法基礎論 義肢学 装具学
 運動器疾患の理学療法(含む演習) 神経疾患の理学療法(含む演習) 内部障害の理学療法(含む演習)
 小児系の理学療法(含む演習) 理学療法治療法実習 スポーツと理学療法 地域理学療法 臨床基礎実習
 臨床実習I・II・III

二年次

<臨床医学と理学療法の専門的知識・技術の習得>

臨床医学概論 内科学 整形外科学 精神医学I 小児科学 臨床神経学 高次脳機能障害学
 運動学実習 理学療法基礎生理学 運動学習理論 理学療法評価法I 理学療法評価法II
 理学療法評価法実習 臨床物理療法I 理学療法治療法 日常生活活動

一年次

<基礎医学と理学療法の基礎に関する知識の習得>

健康科学概論 公衆衛生学 国際医療協力論
 リハビリテーション概論 生化学 栄養学 病理病態学
 微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学 生理学 生理学実習
 組織学 系統解剖学 中枢神経解剖学 肉眼解剖学実習 運動学
 人間発達学 理学療法概論 運動療法基礎論 物理療法基礎論

基礎科学科目
 ・力学

・環境マインド
 ・外国語
 ・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養
 (環境、教養、外国語など)

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○作業療法学専攻

医学部・作業療法学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三・四年次

医療社会学 保健・医療・福祉政策論 生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 作業療法管理
 作業療法研究法 作業療法評価学実習 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学特論
 精神障害作業治療学Ⅱ 精神障害作業治療学特論 発達障害作業治療学Ⅱ 発達障害作業治療学特論
 認知障害治療学Ⅰ 認知障害治療学Ⅱ 老年期作業療法学Ⅱ 日常生活支援論演習 義肢装具学
 事例研究法演習 生活支援機器論 社会生活自立支援論 地域作業療法学 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ

二年次

臨床医学概論 内科学 整形外科学 精神医学Ⅰ 小児科学 臨床神経学 高次脳機能障害学
 作業解析学実習 身体障害評価学実習 精神障害評価学実習 発達障害評価学実習 精神医学Ⅱ
 身体障害作業治療学Ⅰ 精神障害作業治療学Ⅰ 発達障害作業治療学Ⅰ 老年期作業療法学Ⅰ
 日常生活支援論 余暇活動実践論実習 高齢者リハビリテーション概論

一年次

健康科学概論 公衆衛生学 国際医療協力論 リハビリテーション概論
 生化学 栄養学 病理病態学 微生物と感染 遺伝と病気
 臨床心理学 生理学 生理学実習 組織学 系統解剖学
 中枢神経解剖学 肉眼解剖学実習 運動学 人間発達学
 作業療法概論 基礎作業学 基礎作業学実習 作業療法見学実習

基礎科学科目
・力学

・環境マインド ・外国語
・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養
(環境・教養・外国語など)

新入生ゼミナール

(出典：医学部作成)

(2) 教育方法・学生支援の工夫

① 医学科、保健学科合同授業の実施

両学科合同新入生ゼミナールでは密度の濃い議論を実現すべく、平成27年度から1グループを6～7名の少人数とした（資料医76）。

平成26年度から両学科合同チーム医療演習を4年次に導入し、他職種の理解と協働の必要性・効果を教育している。（資料医77）

資料医 76 医学部合同新入生合同ゼミナール

- 開講期・曜日・時限：前期，月曜 4 時限
- 対象学生：医学部 医学科・保健学科 1 年生
- 演習の概要

第1回から第3回は、各専攻独自のプログラムによって新入生に対するオリエンテーションや早期体験学習を行う。第4回から第15回は、医学科・保健学科の合同演習とし、医学・医療に関連した共通のテーマについてグループワークを行うことにより、お互いの専門領域や将来のチーム医療に関する理解を深めるとともに、「より良い医療」のあり方について考究する。

グループワークは、約270名の学生が各専攻バランスよく分かれるように 40のグループに分かれて 行う。

- グループ構成学生（1グループ6～7名）

医学科 2～3名

看護学専攻 1～2名，検査技術科学専攻 1・0名

理学療法学専攻 1・0名，作業療法学専攻 1・0名

（出典：医学部作成）

資料医77 医学科，保健学科の合同チーム医療演習

○授業の目的

本授業では、チームで医療を提供するためにはどのように考え、行動すべきかを、理解・実践できるようになることを目指す。実際に病棟にて遭遇しうるケースをもとに多職種グループによるディスカッションを行うことで、それぞれの専門職を理解し、チームとして問題解決に取り組めるように、コミュニケーション能力や、信頼関係を構築するスキルを身に付ける。

なお、本授業は、医学科・保健学科の合同で行う。貴重な多職種連携学習の機会であり、互いの視点や考え方の違いに積極的に目を向け、活発な議論を行うことを強く期待する。

○授業の到達目標

- ①職種が持つ専門的な知識や技術を理解し、職種間において互いの専門性を尊重する姿勢を身につける。
- ②患者ならびに家族にとって望ましい医療あるいは療養生活とは何かを考え、患者(家族)がかかえている問題を解決し、ニーズに応じていく上で、かわりが必要と考えられる専門職を見出せる。
- ③患者中心のヘルスケアチームを構成する上で患者と医療者の関係性を理解し、患者が積極的にチームに参加できるようなかかわり方を学ぶ。
- ④協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報や資源の共有化、メンバー間での調整のあり方を習得する。
- ⑤事例課題を通して、チーム医療における課題を検討し、それぞれの職種の立場から解決に向けての取り組みができる。

○日程

回数	月 日	時限	授業内容・テーマ	教室
1	10/17	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 1	医学科講義棟 第2実習室
2	10/31	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 2	
3	11/14	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 3	
4	11/28	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	発表会	
5	12/12	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	発表会	



(次頁に続く)

登録コード:MP1015	授業科目区分	学科共通専門科目 必修
科目名	チーム医療演習 Team-based Medicine Practicals	
担当教員	坂口 けさみ 石田 文宏・齋藤 直人・埴原 秋児	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年	後期(前半) 水曜・1時限 水曜・2時限 水曜・3時限 水曜・4時限 木曜・3時限 木曜・4時限 金曜・4時限 金曜・5時限
単位数、講義室	1 単位	多目的講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通	<small>①他種・他専・他科の範囲において、専門職者として自己の責任を司出し、チームの一員として活動行動に参加できる。</small> <small>②対症を遂げて患者と協働し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】</small> <small>③多様な情報を適切に取扱え、分析・活用できる【情報活用力】</small>	
授業概要	<p>患者ならびに家族を中心とした全人的なヘルスケアを提供するためには、患者が抱えている問題やニーズに応じた異なった能力・技術・視点を持つ多職種が協働的なチームを作り対応することが必要となる。そのためには患者(家族) 中心のチーム医療のあり方や相互の職種間における専門性の尊重と担うべき役割、患者(家族) を含めたチームメンバー間のコミュニケーションのとり方、確固たる倫理観を習得し、患者(家族) にとって有効なヘルスケアチームの一員としてふさわしい医療職者となることを目指す。</p> <p>*本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他職種が持つ専門的な知識や技術を理解する。 2. 患者中心のヘルスケアチーム形成における患者と医療者との関係性を理解し、患者が積極的にチームに参加できるようなかかわり方を学ぶ。 3. 患者・家族がかかえている問題の解決を図るために必要な専門職を見出し、ヘルスケアチームの形成につなげる方法を検討する。 4. 協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報やメンバー間での調整のあり方を学ぶ。 	ケアチームの形成 資源の共有化、
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他職種の専門性を理解し、尊重することができる。 2. 協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方を習得できる。 3. 患者中心のヘルスケアチーム形成の必要性を理解できる。 4. 患者・家族がかかえている問題の解決を図る上で有効なヘルスケアチームのあり方を考察できる。 	
授業計画	<p>初回 9月30日 (水) (地域保健推進センターにて行う) オリエンテーション チーム医療演習の意義とねらい、およびチームビルディング</p> <p>第2回～第8回 病院見学実習(放射線部、栄養部、リハビリ、検査輸血部)、病院面接実習：10月7日(水)、14日(水)、21日(水)、28日(水)、11月4日(水)、11日(水)、18日(水)の7日間、(薬剤部見学実習は10月11日(木)、8日(木)、22日(木)、29日(木)、11月5日(木)、12日(木)、11月19日(木)の計7日間の3限目～4限目となる) なお放射線部の見学実習には人数制限がある。見学実習をしない学生は、後期に開催される地域保健推進センター事業に出席し、地域と大学との連携について理解を深める。</p> <p>9回～11回：医学科との合同講義：10月16日(金)、30日(金)、11月13日(金) 4時限目～5時限目の3回はグループワークを行う。(医学科基礎棟第2実習室にて行う)</p> <p>第12回～13回：医学科との合同発表：11月27日(金)、12月11日(金) 4時限目～5時限目は発表会(医学科基礎棟第2実習室にて行う)</p>	
授業の進め方	病院見学実習、病棟での患者面接、および学内演習を通して学ぶ。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明する。	
テキスト、教材、参考書	<p>参考文献 細田満和子：「チーム医療」の理念と現実-看護にいかす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、(2003)。 鷹野和美(編)：チーム医療論、医師薬出版株式会社、(2004)。 野中猛：図説ケアチーム、中央法規出版、(2007)。</p>	
成績評価の方法	病院見学実習および面接実習への取組み・態度、グループディスカッションへの参加貢献度、発表会でのプレゼンテーションならびに最終まとめのレポートの内容、出席日数(3分の2以上の出席)などを総合して評価する。	
成績評価の基準	課題レポートやプレゼンテーション、質疑応答を総合的に判断し、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	各授業については30分～1時間程度の予習と復習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、連絡、相談など。 坂口：ksakagu@shinshu-u.ac.jp 齋藤：saitoko@shinshu-u.ac.jp 埴原：qhaniha@shinshu-u.ac.jp 石田：fumishi@shinshu-u.ac.jp	

(次頁に続く)

ローテーション表

G編成 日程・時限	G	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	医学科(人)	6	5	5	5	6	5	5	5	6	5	6	6	6	6	6	5	6	6	6	5	
	保健学科(人)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
	合計(人)	14	13	13	13	14	13	13	14	13	14	14	14	14	14	14	13	14	14	14	13	
		40(保24)			40(保24)			40(保24)			41(保24)			28(保16)			41(保24)			41(保24)		
10/1(水)	I・II	オリエンテーション・チームビルディング①(保健学科): 附属病院外来棟4階大会議室																				
10/8(水)	I・II (栄: III・IV)	病棟実習(24) (病棟3カ所)	—	—	—	—	—	—	—	—	外来診療(12) 放射線部(12)	リハビリ(8) 検査・輸血(8)	—	—	—	—	—	—	—	—	栄養部(12)	
10/9(木)	III・IV	—	—	—	薬剤部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/15(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/15(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/16(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/17(金)	IV・V	合同オリエンテーション・プレゼンの方法について・チームビルディング②・グループワーク① (医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
10/22(水)	I・II (栄: III・IV)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/22(水)	I・II (栄: III・IV)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/23(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/23(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/29(水)	I・II (栄: III・IV)	外来診療(12) 放射線部(12)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/29(水)	I・II (栄: III・IV)	外来診療(12) 放射線部(12)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/30(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/30(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10/31(金)	IV・V	グループワーク②(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
10/31(金)	IV・V	グループワーク②(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/5(水)		月曜日授業																				
11/5(水)		月曜日授業																				
11/6(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/6(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/12(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/12(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/12(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/13(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/13(木)	III・IV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/14(金)	IV・V	グループワーク③(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/14(金)	IV・V	グループワーク③(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/19(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/19(水)	I・II (栄: III・IV)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/20(木)	III・IV	薬剤部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/20(木)	III・IV	薬剤部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/26(水)	I・II (栄: III・IV)	栄養部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/26(水)	I・II (栄: III・IV)	栄養部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/26(水)	I・II (栄: III・IV)	栄養部(12)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11/28(金)	IV・V	報告会【2課題】(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/28(金)	IV・V	報告会【2課題】(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
12/12(金)	IV・V	報告会【1課題】(医学科・保健学科合同)及び講義・講評: 医学科基礎棟第2実習室																				
12/12(金)	IV・V	報告会【1課題】(医学科・保健学科合同)及び講義・講評: 医学科基礎棟第2実習室																				

■は学内演習(医学科・保健学科との合同演習となる)

学内演習(医学科・保健学科合同演習): 金IV・V
 病院見学実習
 病棟面接実習: 水I・II
 外来診療・放射線部見学実習: 水I・II
 臨床栄養部見学実習: 水III・IV
 リハビリテーション部・検査部・輸血部見学実習: 水I・II
 薬剤部見学実習: 木III・IV

実習場所等調整責任者
 病棟・薬剤部: 坂口
 外来診療・放射線部: 齋藤
 リハビリテーション部: 埴原
 検査部・輸血部・臨床栄養部: 石田

(出典: 医学部作成)

②全学年での進級，卒業判定

医学科は，医学教育研修センター医学教育会議にて当該学年の成績を総合的に事前判定し，教授会で決定。保健学科は，教務委員会にて事前判定し，保健学科会議で決定。
(資料医78)

資料医78 学科，専攻別の各年次の進級，卒業要件の一覧

(医学科)

各年次において進級，卒業に必要な要件等は入学時の学生便覧にて学生に開示している。

進級・卒業判定の基準について**【1年次生】**

- 進級判定の資料
 - ・ 共通教育科目の単位取得状況
 - ・ 専門科目の成績
- 進級の条件 次のすべての条件を満たすこと
条件1：共通教育科目の単位数が基準を満たしていること。
条件2：専門科目の試験すべてに合格すること。

【2年次生】

- 進級判定の資料
 - ・ 共通教育科目の単位取得状況
 - ・ 専門科目の成績
- 進級の条件 次のすべての条件を満たすこと
条件1：取得すべき共通教育科目の必要単位数を満たしていること。
条件2：すべての試験に合格すること。

【3年次生】

- 進級判定の資料
 - ・ 専門科目および臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件を満たすこと
条件：すべての試験に合格すること。

【4年次生】

- 進級判定の資料
 - ・ 専門科目および臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件をすべて満たすこと
条件1：すべての試験に合格すること。
条件2：OSCEとCBTに合格すること。

【5年次生】

- 進級判定の資料
 - ・ 臨床実習、Midterm OSCE、臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件をすべて満たすこと
条件1：臨床実習をすべて修了すること。
条件2：Midterm OSCE、臨床総合試験に合格すること。

【6年次生】

- 卒業判定の資料
 - ・ 専門科目の試験、臨床実習終了後 OSCE、選択臨床実習、各教室の卒業試験および臨床総合試験の成績
- 卒業の条件 次の条件をすべて満たすこと
条件1：選択臨床実習をすべて修了すること。
条件2：すべての試験に合格すること。

臨床総合試験の扱いについて

- 学生は，原則として当該学年のすべての試験に合格することが求められる。
- 臨床総合試験の得点が合格ラインに達していない場合や不合格となった専門科目がある場合には，当該科目の得点や実習，その他の試験の成績を勘案し，進級・卒業を総合的に判断する。

再試験制度について

- 再試験は1回のみ行う。
- 科目によっては臨床総合試験をもって再試験とする。
- 臨床総合試験をもって再試験とする科目については，別途通知する。

再履修について

- 進級・卒業判定で進級・卒業が不可となった学生は，次年度，**不可となった専門科目を再履修するとともに，すべての専門科目を再受講する必要がある。**ただし，臨床医学入門，自主研究演習など経験することが求められる課程を除く。

(次頁に続く)

(保健学科)

別表2(第3条関係)

卒業に必要な授業科目の単位数及び進級要件

●卒業要件

専攻	授業科目区分	卒業に要する単位数	
看護学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修20単位	103単位以上
	専攻専門科目	必修80単位	
	合計	128単位以上	
検査技術科学専攻	共通教育科目	必修25単位	33単位以上
	学科共通専門科目	必修11単位	92単位以上
	専攻専門科目	必修79単位	
	合計	125単位以上	
理学療法学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修 7単位	100単位以上
	専攻専門科目	必修88単位	
	合計	125単位以上	
作業療法学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修 5単位	100単位以上
	専攻専門科目	必修88単位	
	合計	125単位以上	

備考1. 3年次編入学生については、認定単位と合わせて卒業に必要な単位数を満たすこと。
 認定単位数は91単位を上限とする。
 卒業に必要な単位数は個別に異なるため注意すること。
 2. 外国人留学生については、日本語・日本事情の授業科目を履修し、単位を取得した場合は、これらの単位をもって、共通教育科目の履修すべき単位数に算入することができる。

●進級要件(全専攻共通)

- ・1年次から2年次への進級は、1年次の必修科目をすべて修得すること。
- ・2年次から3年次への進級は、2年次の必修科目をすべて修得し、さらに卒業に必要な共通教育科目の単位をすべて取得すること。
- ・3年次から4年次への進級は、3年次の必修科目をすべて修得すること。

備考(臨地実習・臨床実習に進むための条件)

(看護学専攻)

3年次後学期から始まる臨地実習に進むにあたっては、それまでの必修科目の単位すべての取得が条件となる。

(出典：医学部作成)

③医学科の特色

③-1 60分授業の導入

平成24年度より90分授業を60分授業に変更。(資料医79)

資料医 79 医学科の授業時間

1年 前・後期 (90分授業)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限			
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
	9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50		
2年	前期 (90分)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		
		開始	終了									
		9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50	
	後期 (60分)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限
開始		終了	開始	終了								
	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
3年 前・後期 (60分授業)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了
	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
4年 前期 (60分授業)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了
	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
4年 後期～ 臨床実習												
5年 前期(～7月) 臨床実習 / 後期(9月～2月) 150通りの臨床実習が始まります												
6年 (60分授業)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了
	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
6年は旧カリですが、60分授業となります												

(出典：医学部作成)

③-2 授業ごとの整合確認

モデルコア・カリキュラムに基づき全ての授業内容を再確認し、授業・カリキュラムを調整している。(資料医80)

資料医 80 モデルコア・カリキュラムと医学科カリキュラムの確認

		生化学	生理器	生理統
C	医学一般	173		
I	生命現象の科学	174		
(1)	生命現象の物質的基礎	175		
一般目標:	生体内の有機化合物の構造、性質および反応について学ぶ。	176		
⑤	【生体高分子の構造と機能】	193		
到達目標:	1) 炭水化物の基本的な構造と機能を説明できる。	194	生化学	生理器
	2) 脂質の基本的な構造と機能を説明できる。	195	生化学	生理器
	3) 蛋白質の基本的な構造と機能を説明できる。	196	生化学	生理器
	4) 核酸の構造と機能を説明できる。	197	生化学	生理器
(2)	生命の最小単位—細胞	201		
一般目標:	細胞の構造とそのさまざまなはたらきを学ぶ。	202		
①	【細胞の構造と機能】	203		
到達目標:	1) 細胞の観察法を説明できる。	204		
	2) 細胞の全体像を図示できる。	205	生理器	生理統
	3) 核とリボソームの構造と機能を説明できる。	206	生理器	生理統
	4) 小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系の構造と機能を説明できる。	207	生理器	生理統
	5) ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。	208		
	6) 細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。	209	生理器	
	7) 細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。	210	生理器	
	8) 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。	211		
II	個体の構成と機能	257		
(1)	細胞の構成と機能	258		
一般目標:	細胞の微細構造と機能を理解する。	259		
①	【細胞膜】			
到達目標:	1) 細胞膜の構造と機能を説明できる。	261	生化学	生理器
	2) 細胞内液・外液のイオン組成、浸透圧と静止(膜)電位を説明できる。	262	生理器	生理統
	3) 膜のイオンチャネル、ポンプ、受容体と酵素の機能を概説できる。	263	生理器	生理統
	4) 細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を説明できる。	264	生化学	生理器
	5) 細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。	265	生化学	生理器
	6) 細胞接着の仕組みを説明できる。	266	生化学	生理器
②	【細胞骨格と細胞運動】	267		
到達目標:	1) 細胞骨格を構成する蛋白質とその機能を概説できる。	268	生化学	生理器
	2) アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。	269	生化学	生理器
	3) 細胞内輸送システムを説明できる。	270	生化学	生理器
	4) 微小管の役割や機能を説明できる。	271	生化学	生理器
(3)	個体の調節機構とホメオスタシス	287		
一般目標:	生体の恒常性を維持するための情報伝達と生体防御の機序を理解する。	288		
①	【情報伝達の機序】	289		
①-a	情報伝達の基本	290		
到達目標:	1) 情報伝達の種類と機能を説明できる。	291	生化学	生理器
	2) 受容体による情報伝達の機序を説明できる。	292	生化学	生理器
	3) 細胞内シグナル伝達過程を説明できる。	293	生化学	生理器

重複する科目は調整を行う

(事務局資料)

(出典：医学部作成)

③-3 国際認証に対応した教育課程の構築

2023年までに国際水準に合致するカリキュラムを構築すべく、平成25年度より新カリキュラム（資料医81）を導入し、臨床実習期間の延長と、教育協力病院の複数選択が可能になった。（資料医82）

この取組は、平成24年度「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」（文部科学省）に採択された。（資料医83）

資料医81 旧カリキュラムからの変更点

		新カリキュラムについて										H27年度～ 総合試験 なくなる		
平成25年度 カリキュラム		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
2年(新カリ)		前期授業(90分)				前期試験	夏期休暇	7-9月 インターン	後期授業(60分)				後期試験+ 総合試験	看護 体験 実習
3年(新カリ) (平成25年～)		前期授業(60分)		前期試験	自主研究 演習 6W	夏期 休暇	後期授業(60分)			後期 試験	4年前倒し 授業 (60分)	3年追試 期間 (前後期)	3年 判定	
4年(旧カリ) (～平成25年)		前期授業(90分)			前期 試験	夏期 休暇	後期授業(90分)			後期 試験	CBT	OSCE集中 講義	OSCE	
5年(旧カリ) (～平成26年)		臨床実習				夏期 休暇	臨床実習							
6年(旧カリ) (～平成27年)		選択臨床実習		前期授業 (90分)	夏期 休暇	卒業試験								
-----													20W→22 W	
(参考) 新カリキュラム														
4年 (平成26年～)		前期授業(60分)			試験(前倒し分:3教科、 前期分:15教科)* 総合試験	夏期 休暇	C B T	OSCE集 中講義	OS C E	判 定	臨床実習 Basic Clinical Clerkship (20W)			
5年 (平成27年～)		臨床実習 Basic Clinical Clerkship (16W)				夏期 休暇	臨床実習(150通り) Advanced Clinical Clerkship (24W)							
		Midterm OSCE+総合試験		Advanced OSCE										
6年 (平成28年～)		選択臨床実習 Advanced Clinical Clerkship (12W)		前期講義 (60分)	夏期 休暇	卒業試験			H27年度～Advanced OSCEから臨 床実習終了後OSCEに変更					

(出典：医学部作成)

資料医82 臨床実習の変更点

1 選択肢が変わる

実習の場を150通りから選べます

信州大学医学部附属病院をはじめ、県内約30の病院（公立病院、赤十字病院、JA長野厚生連、その他病院等）にご協力いただき、6カ月6コース、150通りの臨床実習の選択肢が用意されます。1学年約120名の学生が自ら選択し、「1診療科1人ずつ」と「学生が最初に患者を診る」を基本に臨床実習を行います。教育協力病院では、大学病院ではあまり見ることのない一般的疾患（common disease）に数多く接することができるようになります。

2 形が変わる

医療チームの一員として「参加」します

これまでは、多くの日本の大学で採用している見学型（ポリクリ）、つまり見ているだけの臨床実習に多くの時間が割り当てられていました。2014年度からの本プログラムにより、信州大学医学部の臨床実習は診療参加型（クリニカルクラークシップ）に変わります。信州大学医学部附属病院および教育協力病院において、スチューデントドクター（学生医師）として医療チームの一員に加わり、患者の診療、カルテ記載、患者マネジメ時間が変わるなど、より高度な臨床実習を実現します。

3 時間が変わる

世界標準「72週」の実習時間

これまでの50週間の実習期間を、欧米の標準期間とされる72週間に拡大します。現在5年次生4月から行われている臨床実習を、4年次生9月からに変更。4年次生9月から5年次生7月までは信州大学医学部附属病院のすべての診療科を回って基本的な手技や知識、態度などを学びます。その後、5年次生9月から6年次生6月まで、附属病院および教育協力病院において各医療チームに参加。臨床実習開始時期が前倒しになることにより、主に3年次生4月から開始されていた医

学専門科目が2年次生からに変更されます。

4 サポートが変わる

大学教員が現場をサポートします

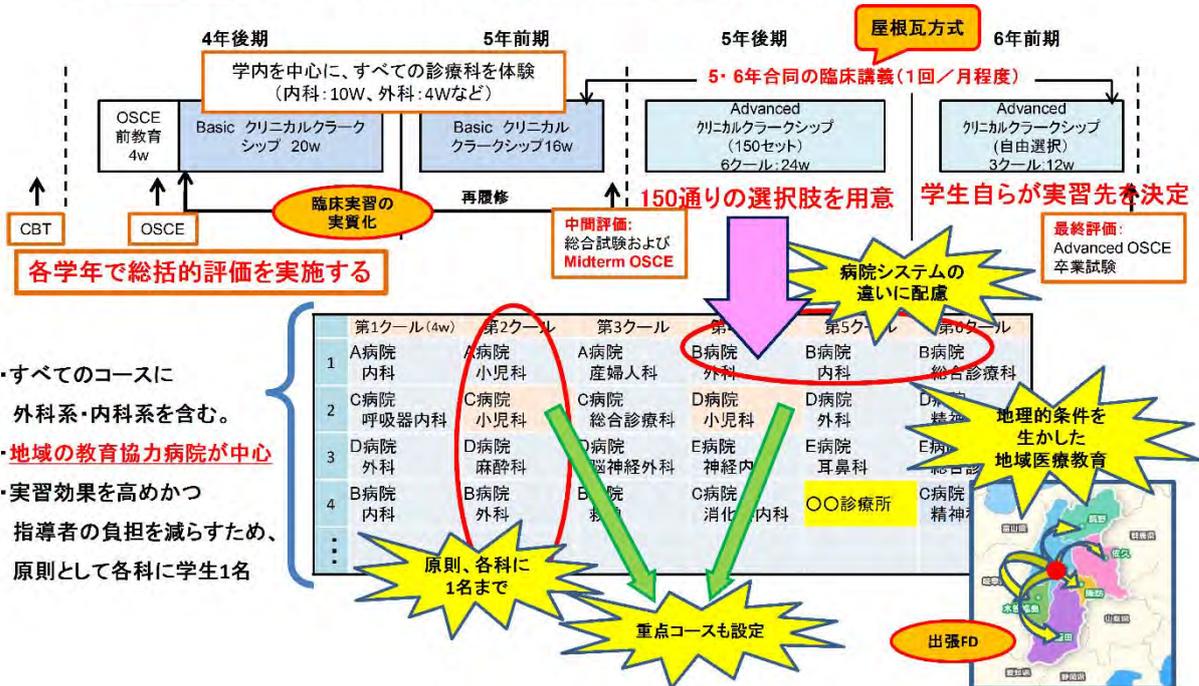
1 診療科 1 人ずつの配置，また医療チームに学生が参加する体制に向けて，信大医学部の医学教育センター教員が病院を巡回し，現状把握や助言等のサポートを行っていきます。これは，臨床実習の現場で多く見られる病院側と学生側との認識のずれを解消していくための試みです。現在，多田剛・医学教育センター長をはじめ教員は各病院に赴き，プロジェクトの目的や意義についての出張FDを行い，各病院との具体的・建設的な意見交換を進めています。

(出典：医学教育センターホームページ)

資料医 83 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成

150通りの選択肢からなる参加型臨床実習

- 大学病院および県内教育協力病院において、**世界標準**の臨床教育を行う環境を整備する。
- **地域に密着**した実習を行うことで、**地域医療に従事する医師が増加**する。



(出典：医学部作成)

臨床実習に必要な能力と態度の習得のため、平成26年度より臨床実習前集中講義を導入。(資料医84, 85)

資料医84 臨床実習前集中講義の一覧

平成27年度 臨床実習前集中講義 日程表

第1週

	8月24日(月)	8月25日(火)	8月26日(水)	8月27日(木)	8月28日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	ガイダンス 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授 基本的コミュニケーション技法(講義) 講義, ビデオ	自習	基本的臨床手技(講義) 手袋の扱い方・消毒液による手洗い 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授他	自習	基本的臨床手技(実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
2限 9:50 ～ 10:50	医療面接(講義) 全体の流れ 【第1臨床講堂】 医学教育センター	診療録の書き方① 【第2実習室】 医学教育センター教員	外科系処置(講義) 講義, ビデオ・デモンストレーション 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授他	処方箋の書き方 【第1臨床講堂】 薬剤部 神田 博仁 副部長	基本的臨床手技(実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
3限 11:00 ～ 12:00	医療面接(講義) 主訴のとり方 【第1臨床講堂】 講義, ビデオ, デモンストレーション 多田 剛 教授他	診療録の書き方② 【第2実習室】 医学教育センター教員	リスクマネジメント I (講義) 【第1臨床講堂】 医療安全管理室 長島 久 准教授	頭頸部診察法(講義) 講義, ビデオ, デモンストレーション 【第1臨床講堂】 駒津 光久 教授	基本的臨床手技(実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
4限 12:50 ～ 13:50	医療面接 I (実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	自習	医療者の感染の危険性とその予防・対処法を学ぶ (1) 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 城井 三奈 看護師長	頭頸部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	基本的臨床手技(実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
5限 14:00 ～ 15:00	医療面接 I (実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	自習	医療者の感染の危険性とその予防・対処法を学ぶ (2) 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 城井 三奈 看護師長	頭頸部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	基本的臨床手技(実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
6限 15:10 ～ 16:10	病院情報システム実習 Aグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授	自習	病院情報システム実習 Bグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授	病院情報システム実習 Cグループ 医療情報部 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授 診療録の書き方 Aグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	病院情報システム実習 Dグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授

(次頁に続く)

第2週

	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	呼吸器診察・バイタル測定 I-1(視診・打診・呼吸音・ラ音・血圧測定) 【第1臨床講堂】 花岡 正幸 教授	9:30～ 神経診断学 I 神経診断学 II	系統講義 第3回 医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授	系統講義 第4回 医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授	自習
2限 9:50 ～ 10:50	呼吸器診察・バイタル測定 I-2(視診・打診・呼吸音・ラ音・血圧測定) 【第1臨床講堂】 花岡 正幸 教授	【第1臨床講堂】 福島 和広 准教授	自習	腹部診断学 【第1臨床講堂】 田中 榮司 教授	自習
3限 11:00 ～ 12:00	呼吸器診察・バイタル測定 I 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 安尾 将法 講師	神経診察法(講義) 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 福島 和広 准教授	自習	腹部診察法(講義) 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 新倉 則和 准教授	系統講義 第5回医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授
4限 12:50 ～ 13:50	呼吸器診察・バイタル測定 I ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	神経診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	腹部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	医療面接II① 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他
5限 14:00 ～ 15:00	呼吸器診察・バイタル測定 I ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	神経診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	腹部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	医療面接II② 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他
6限 15:10 ～ 16:10	病院情報システム実習 Eグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授 診療録の書き方 Bグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Cグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Dグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Eグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	医療面接II③ 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他

(次頁に続く)

第3週

	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	医療面接のふり返り (デブリーフィング) 【第1臨床講堂】 医学教育センター 多田 剛 教授 黒川 由美 助教	自習	OSCE ガイダンス 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授	リスクマネーメン トII 「医療訴訟の実際」 【第1臨床講堂】 伊藤芳朗 (弁護士)	自習
2限 9:50 ～ 10:50	医療面接のふり返り (デブリーフィング) 【第1臨床講堂】 医学教育センター 多田 剛 教授 黒川 由美 助教	自習	循環器診察・バイタル 測定II (拍動・動 脈の触診, 心音・ 心雑音) 【第1臨床講堂】 池田 宇一 教授	葉害について 【第1臨床講堂】 山折 大 准教授	自習
3限 11:00 ～ 12:00	心肺蘇生法(講義) 講義, ビデオ, デモンスト レーション 【外来棟 4F 大会議室】 今村 浩 教授	自習	循環器診察・バイタル 測定II 講義, ビデオ, デ モンストラート ン 【第1臨床講堂】 小山 潤 准教授	UpToDate 講習会 【第1臨床講堂】 UpToDate 日本事務所講師	自習
4限 12:50 ～ 13:50	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ① 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	ツ反説明 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 13:20～ ツベルクリン反応 【外来棟 4F 研修室 6・7】	循環器診察・バイタル 測定II ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	ツベルクリン判定 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教	自習
5限 14:00 ～ 15:00	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ② 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	自習	循環器診察・バイタル 測定II ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	自習
6限 15:10 ～ 16:10	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ③ 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	自習	自習	自習	自習

(出典：医学部作成)

資料医85 臨床実習前集中講義の手引き

平成27年度 臨床実習前集中講義 実施要領

【対象学年】

4年次生 119名

【期間】

平成27年8月24日（月）～9月11日（金）

【実施方法】

- ① 講義とビデオによる各領域の学習の後、学生をグループに分け、全ての領域の
実地指導を行う。
- ② 評価＝OSCEにて習熟度を判定する。合格者が臨床実習の受講資格となる。
(医療面接, 頭頸部, 胸部, 腹部, 神経, 外科・救急)

【臨床実習前集中講義 連絡事項】

- ・集合場所は、授業によって第1臨床講堂・附属病院外来棟4F各研修室等、チュートリアルルーム・ミーティングルーム（基礎棟1～5F）・実習室等変更があるので注意してください。また、グループ授業が多いので、授業ごとにグループ分け表を確認してください。
- ・学生は診断学についての予習をし、清潔な白衣を着用し、出席票・聴診器・診断学テキスト・『診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習・評価項目』を持参すること。
- ・各手技の練習はスキルズラボ（基礎棟2F）・チュートリアルルーム12（旭総合研究棟）に8月28日より順次用意します。各自で最低3回は自習してください。
- ・OSCEの受験には全講義出席が条件となります。出席は出席表の認印にて確認します。都合で出席できなかった講義は医学教育センター教員の指示に従って補講を受けてください。
- ・診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVDは、e-ALPS「臨床実習前集中講義」に掲載してあります。また、学務第1係窓口でも貸出していますので、ご利用ください。

【試験】

9月20日（日） 共用試験OSCE（オスキー）
信州大学病院外来棟2・3・4 第1臨床講堂
※ 白衣着用・聴診器・筆記用具持参のこと

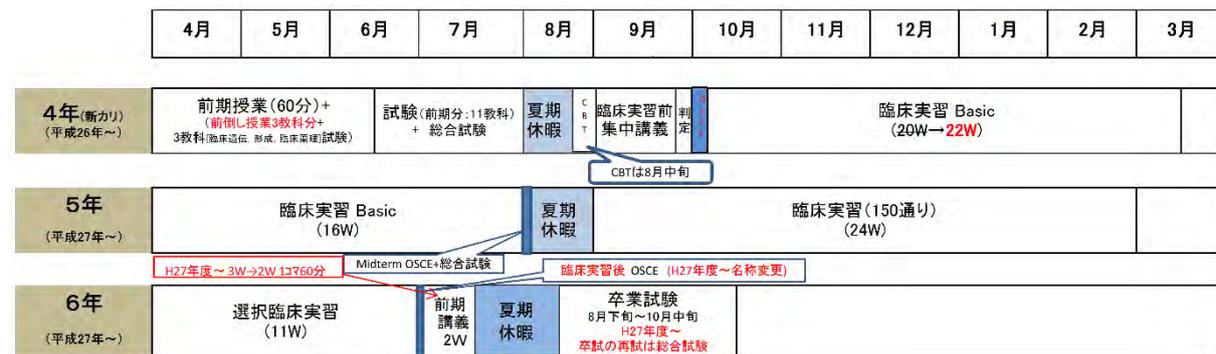
再試：9月25日（金）

（出典：医学部作成）

③-4 教育段階に応じたOSCEの導入

教育段階に応じた能力の習得を確認するため平成27年度から臨床実習の中間時点にOSCEを追加した。平成24年からは、6年次OSCEの合格を卒業要件とした。（資料医86,87）

資料医 86 教育段階に応じたOSCE

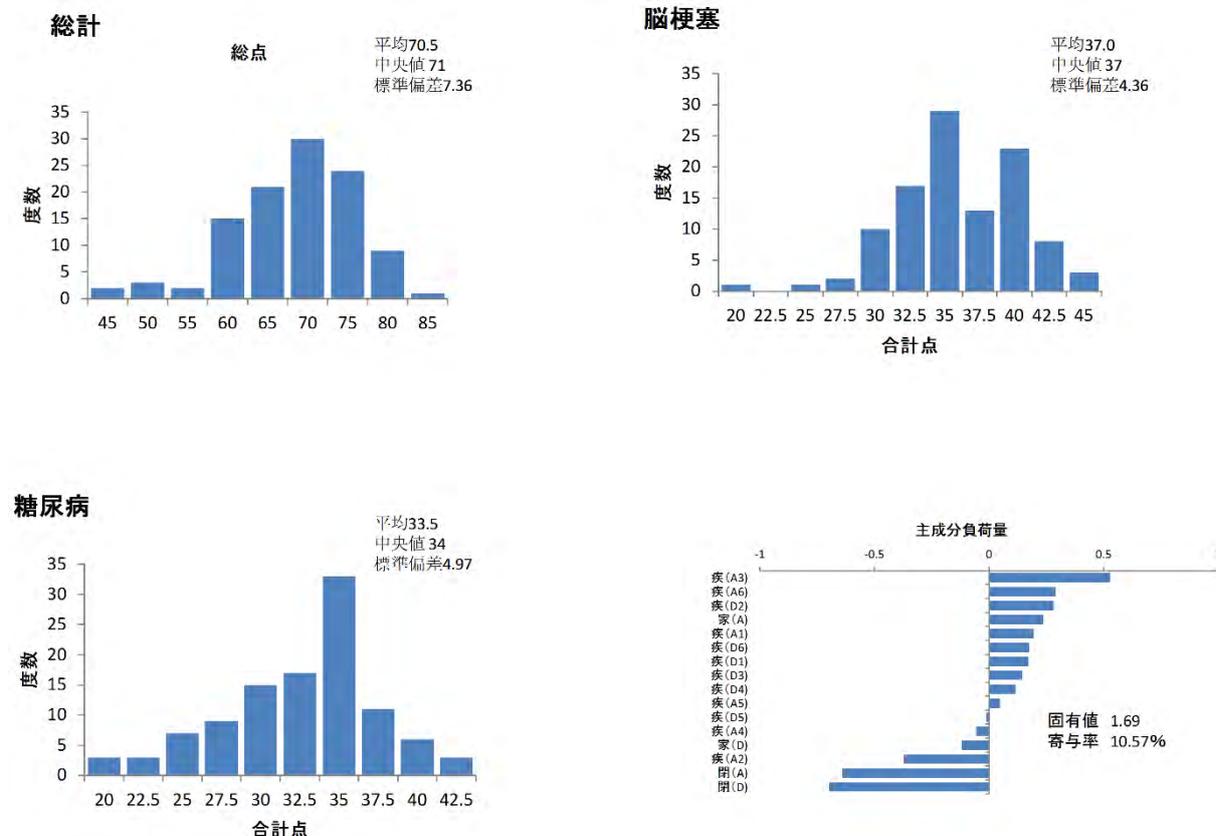


(出典：医学部作成)

資料医 87 臨床実習終了後OSCE (AdvancedOSCE)

本学のディプロマポリシーは「意欲・態度」「思考・判断」「コミュニケーション」「知識・技能」から構成されており、学生がディプロマポリシーに個別に記載されている能力を総合的に身に付けているかを、このOSCEを用いて評価している。具体的には、「研修医として臨床現場に出た時に最低限有しているべき実践的な臨床能力」を身に付けているかを評価する事を目的としており、一つ一つの能力を個別の評価するのではなく、模擬患者に対して、医療面接、診察、臨床推論、患者への説明等一連の医療行為を行う症例提示型の実技試験として課し、学生の能力を総合的に評価している。

(成績のヒストグラム)



(出典：医学部作成)

③-5 基礎と臨床教育を癒合させる教育課程の編成

(資料医88) のような授業を平成22年度から取り入れた。

資料医88 基礎と臨床を融合させた医学教育の例 (基礎医学TBL)

開講年度	2014年度	登録コード	M01015
科目名	基礎医学 TBL	題目 (副題)	Medical Science TBL (Team-based learning)
担当教員	多田 剛	教員連絡先内線	多田剛 (5820)
学年	2年次	講義期間	後期 曜日・時限 水2 水3
単位数	1.50単位	講義室	旭総合講義室 A B

授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。 ・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。 ・常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。 ・◎みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】 ・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 ・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】 ・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】 ・◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
授業のキーワード	基礎医学の知識と臨床医学の関連、TBL (Team-based learning), 自己学習, 問題抽出と解決, グループワーク (討論, product 作成), 発表, critical thinking
一般学習目標 GIO (期待される学習効果)	最前線の基礎医学研究を理解し臨床医学とのつながりを認識するために、臨床症例に潜む基礎的課題を抽出検討し基礎医学的観点から考える能力や様々な情報を総合的に判断する能力、最新の医療情報を収集する能力を、チーム学習を通して身に付ける。
個別行動目標 SBOS (授業の概要)	自己学習能力を高めることができる。 課題から、問題点の抽出ができる。 集めた情報に順位をつけ、取捨選択することができる。 集めた情報をもとに、自分なりの理論を組み立て、表現することができる。 教科書やインターネットを利用して、課題の解決に必要な知識や情報を収集できる。 グループで協力して成果をまとめることができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 プレゼンテーションに対して的確なディスカッションができる。
テキスト, 教材, 参考書	テーマ毎に事前に連絡する。
履修上の注意	〈オリエンテーション〉 9月24日(水) 5限(16:20)に講義室A, Bで行います。 〈毎回の準備〉 以下の準備をグループ内で責任をもって行うこと。 ①各グループ1台は必ずパソコンを持参する。 ②各グループは必要に応じてプロジェクターを医学教育センターに借りに

	行く。 ③図書などの資料は適宜チュートリアルルーム 12 に取りに行く。 (ミニテストと事前学習) 各テーマの冒頭にミニテストを行なう。事前学習すべき内容(教科書などの該当部分)は1週間前に e-ALPS に掲示する。該当テーマについての基礎知識を身につけるために必ず事前学習すること。
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	TBLとは、学生をいくつかのグループに分けて講義を行う形態です。自ら勉強して得られた知識をもとに、与えられた一定の課題に対し、討議を行いながら学習をしていくことになります。 学習には、ネット上の検索も必要になります。 また、各テーマの4回目講義時には、スライドを使用したプレゼンテーションを行ってもらいます。 毎回、始業時から5分間はミニテストを行ないます。遅刻しないよう注意して下さい。 ミニテストは前回の授業の内容から出題します。 詳しくは、オリエンテーション・手引きにて説明します。
成績評価の方法	形成的評価：各テーマの発表討論時に教員が成果物および発表について評価します。 総括的評価：出席、グループワークの相互評価、ミニテスト、期末テストを総合的に評価します。 再試験は行ないません。不可の場合には、総合試験で合格点を取ることが進級要件となります。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー(質問, 相談への対応)	基礎医学の知識が臨床医学の問題解決にどのように活きるのかを知る授業です。 積極的な自己学習によって、論理的思考過程を経験し、優れたコミュニケーション能力の修得をめざしてください。そのためにも、課題は、原則として授業時間内に課題を終了させてください。 課題に関する質問、相談は授業中に行ってください。 予習・復習で不明な点があれば、多田まで連絡してください。その都度、面会時間を相談して決めます。 内線 5820 外線 37-3113 E-mail:tadatsu@shinshu-u.ac.jp
【添付ファイル】	なし

(出典:医学部シラバス)

③-6 主な基礎医学研究に触れる授業の実施

平成24年度から1年次生に研究室訪問,平成25年度から2年次生に大学院研究内容の紹介を開始した。平成27年度からは臨床実習中の基礎教室配属が可能になった。(資料医89,90)

資料医89 150通り臨床実習「基礎コース」

150通りの臨床実習コース 計 150 コース

内科重点コース

コース	9月	10月	11月	12月	1月	2月
001	長野松代総合 呼内(総内)	大学3内 神	市立大町 (PC)	大学 泌尿器	須坂 内科	大学 産婦
002	佐久 神経内科	長野日赤 酒内	丸の内 内科	大学 麻酔	大学 産婦	信州上田 酒内
004	長野日赤 呼内	篠/井総合 酒内	中信松本 神内	松本医療センター 泌尿	大学 2外	諏訪日赤 酒内
009	諏訪日赤 神内	伊那中 酒内	飯田市立 総内	丸の内 内科	依田産 産婦	大学 産婦
015	大学4内	大学2内 腎	市立甲府 神内	大学 腫瘍	信州上田 泌尿	松本市立 産婦
021	諏訪日赤 酒内	諏訪日赤 神内	相澤 酒内	大学 放射線科	諏訪中央 (PC)	中信松本 外科
022	浅間総合 総内	信州上田 酒内	信州上田 酒内	大学3内 産	大学 麻酔	小諸高原 精神
024	大学 酒内	佐久 外科・放射線治療科	小諸厚生 神内	信州上田 呼内	大学 耳鼻	安曇野日赤 酒内

< 中略 >

基礎コース						
コース	9月	10月	11月	12月	1月	2月
150	大学 基礎	大学 基礎	大学 基礎	中信松本 神内	大学 酒内	須坂 呼吸器・感染症内科

(次頁に続く)

科目名	医学概論演習Ⅱ	題目(副題)	医学研究の歩みと未来を考える
担当教員、教員連絡先内線	福島 義光 他	森淳一郎 (医学教育センター)	内線5821
学年、講義期間、曜日・時限	一年次	後期	月曜, 3時限 月曜, 4時限
単位数、講義室	1. 50単位	旭総合講義室AB 医学科第2実習室 医学科第1講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。 ・医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。 ・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。 		
授業のキーワード	信州大学の基礎研究を知る 医学研究の歩みと未来を学ぶ		
一般学習目標GLO (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 未来の医学・医療についての展望を持つことにより、医学・医療の発展、研究へのとりくみの意欲を高める。 2) 信州大学で進められている基礎医学研究の内容を知ることにより、基礎医学研究への関心を高める。 		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 問題意識をもとに、みずから学習目標を立てることができる。 2) 現代の医学研究について説明できる。 3) 自分の学んだ内容や考えを明快に他者に伝えることができる。 4) 基礎医学の必要性について議論できる。 5) 議論をまとめることができる。 6) 簡潔で論旨の明快な発表ができる。 7) 的確な質問をすることができる。 		
テキスト, 教材, 参考書			
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本演習では他者の意見や資料の内容等を考慮して積極的に自分の意見を述べるとともに、グループとしてのまとまりを構築するように努力すること。 2) 基本的に教員は同席せず、学生だけで主体的にグループ学習を進める。演習担当教員は適宜巡回するが、その役割は討論進行に関する質問を受けることや、討論が行き詰まったときに簡単な助言をすることであり、各グループの討論内容に深く関与したり討論の牽引者になったりすることはない。 3) 理由のない欠席や遅刻は本人の不利益になるだけでなく同じグループの学生にも多大な迷惑を及ぼすので注意すること。チーム医療の重要性を学んだあとでもそのような態度をとる学生は、そもそも医師を日指して医学部で学ぶにふさわしくない。 <p>※講義期間：1年後期, 2～6年次 新学年ガイダンス, 看護体験実習, 地域医療</p>		
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	数人でグループワークを行うワークショップ型演習を行う。		
成績評価の方法	出席、自己学習レポート、および発表の内容により評価する。 ※1年後期, 2～6年次 新学年ガイダンス, 看護体験実習, 地域医療で評価する。		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問, 相談への対応)	本演習の内容, 自己学習・資料収集の進め方についてわからないこと, 聞きたいことがある場合は医学教育センター 森 jimori@shinshu-u.ac.jp まで質問してください, メールで質問する際は, 氏名, 学籍番号を必ず入れ, 質問内容をわかりやすく書いてください		

(次頁に続く)

平成 27 年度 医学科一年次生 医学概論演習 II

講座名	教授名	担当者名	外線番号	訪問可能時間
組織発生学	佐々木 克典	佐々木 克典	37-2589	13:00～
人体構造学	森泉 哲次	森泉 哲次	37-2591	15:00～16:30
生理学	沢村 達也	沢村 達也	37-2595	11月11日(水) 11:30～12:00
分子細胞生理学	田淵 克彦	田淵 克彦	37-3773	14:00～16:10
分子薬理学	山田 充彦	山田 充彦	37-2605	13:00～14:00
病理組織学	菅野 祐幸	菅野 祐幸	37-2608	13:00～
免疫・微生物学	竹下 敏一	竹下 敏一	37-2614	13:00～
免疫制御学	瀧 伸介	林 琢磨	37-2611 PHS:1488	11月13日(金) 17:00～
遺伝医学・予防医学	福嶋 義光	福嶋 義光	37-2618	13:00～15:00
衛生学公衆衛生学	野見山 哲生	野見山 哲生	37-2622(事務・宮澤)	13:00～
法医学	浅村 英樹	林 徳多郎	37-3218	13:00～
加齢生物学	樋口 京一	樋口 京一 森 政之	37-2691 37-2692	13:30～
神経可塑性学	鈴木 龍雄	鈴木 龍雄	メール連絡 suzukit@shinshu-u.ac.jp	13:00～
分子腫瘍学	谷口 俊一郎	谷口 俊一郎	37-2679	13:00～
分子病理学	中山 淳	中山 淳	37-3394	11月10日(火) 16:00～
代謝制御学	青山 俊文	田中 直樹	37-2851	14:00～
循環病態学	新藤 隆行	新藤 隆行	37-2578	11月11日(水) 17:00～
スポーツ医科学	能勢 博	能勢 博	37-2681	13:00～
神経難病学	山田 光則	山田 光則	37-3059	11月10日(火) 終日 必ず事前にアポイントをとること

※訪問可能時間：指定がないものについては、11月9日(月)に行う。

(次頁に続く)

平成 25 年度 基礎医学講座訪問発表会プログラム

医学科一年次生 医学概論演習 II

平成 25 年 12 月 2 日 (月) 13 : 15 ~ 旭総研 9 階 A・B 講義室

	時間	講座名
1	13 : 15	分子薬理学
2	13 : 20	分子細胞生理学
3	13 : 25	器官制御生理学
4	13 : 30	人体構造学
5	13 : 35	組織発生学
6	13 : 40	神経難病学
7	13 : 45	スポーツ医科学
8	13 : 50	循環病態学
9	13 : 55	分子病理学
10	14 : 10	分子腫瘍学
11	14 : 15	神経可塑性学
12	14 : 20	加齢生物学
13	14 : 25	法医学
14	14 : 30	衛生学公衆衛生学
15	14 : 35	遺伝医学・予防医学
16	14 : 40	免疫制御学
17	14 : 45	免疫・微生物学
18	14 : 50	病理組織学

概論の感想

- ・研究をシンプルにまとめていた
- ・発表方法の工夫
- ・研究の内容と「考える」という考えがうまく盛り込まれていた
- ・うまい具体例と説明がありすばらしい
- ・どこも工夫のあるスライドですばらしい
- ・各研究室の紹介は独自色が出ていたが、先生方からの言葉、教訓はどこの班も共通したことを伝えていたので、今後よく肝に銘じておこうと思う
- ・真剣に研究内容を調べてきたことが伝わった。研究委を目指す身として為になるプレゼンがあった
- ・わかりやすい研究内容と学生に伝えたいことが含まれていた。

- ・ 研究内容に興味をもてた。研究室に行ってみたくなった。
- ・ どの研究も普段は見聞きすることがあまりないものだったので、勉強になった。

(出典：医学部作成)

資料医90 疾患予防医科学概論 シラバス (抜粋)

科日名	疾患予防医科学概論	題目(副題)	
担当教員、教員連絡先内線	樋口 京一 他	5365	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 前期	月曜, 5時限 水曜, 2時限 水曜, 3時限 木曜, 4時限 木曜, 5時限 金曜, 4時限 金曜, 5時限	
単位数、講義室	1単位	医学科第2講義室 旭総合講義室A B	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。 ・ 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。 		
授業のキーワード	疾患予防医科学、病態の理解、最先端の医学研究、予防医療、早期診断、バイオマーカー研究マインドを持った医療人の育成		
一般学習目標GLO (期待される学習効果)	良質な医師を養成するためには、疾患の医学的、生物学的基礎を理解し、病態の究明や、治療法の開発を口指す探究心を育成する事が必須である。疾患の病態の解明による、健康の維持、疾患の早期発見、予防医療を目的とする疾患予防医科学について学習する。また学生が医学研究の重要性を理解し、研究の楽しさに触れる機会を与える。		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患予防医科学のコンセプトを理解するための講義 2. 疾患の基礎にある加齢現象についての講義 3. 心臓や血管の疾患についての講義 4. 糖鎖と疾患についての講義 5. がんとその予防、治療法についての講義 6. 脂質代謝と疾患についての講義 7. 運動生理学と予防医療についての講義 8. 神経生化学, 特に“シナプス学”についての講義 9. 最終テスト 		
テキスト, 教材, 参考書	特に指定するテキスト等は無い。		
履修上の注意	講義を受け身に聞くだけでなく、質問や議論を通して、基礎医学的研究の重要性や楽しさを理解してほしい。		
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	大学院医学系研究科疾患予防医科学専攻の7教室の教員による、疾患予防医科学の講義を行う(15時間)。また、神経生化学の講義(4時間)を行う。		
成績評価の方法	<p>最終試験(筆記)を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患予防医科学の概念の理解 2. 疾患病態の理解のためにどのような研究がなされて来たかの理解 3. 神経生化学, シナプス学の理解 4. 疾患病態の解明に基づいた予防医科学の理解 <p>について、評価する。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問, 相談への対応)	<p>代表者: 樋口へ質問や相談はメールをお願いします。</p> <p>その他の個々の授業の内容に関しては、各講師に連絡してください。</p>		

(次頁に続く)

授業日	第 1 回	4月 1日(水 3)	SB0s	疾患予防医学が目指す方向について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	疾患予防医学の概要の理解			
担当	樋口 (加齢生物学教室)			
授業日	第 2 回	4月 8日(水 2)	SB0s	循環病態の基礎について理解できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	循環病態学概論			
担当	新藤隆行 (循環病態学教室)			
授業日	第 3 回	4月 8日(水 3)	SB0s	循環病態学の最先端について理解できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	循環病態学の最先端			
担当	新藤隆行 (循環病態学教室)			
授業日	第 4 回	4月 15日(水 3)	SB0s	1. 老化のしくみを知り、加齢生物学について説明が出来る。 2. 老化を遅延する研究に関して理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	加齢生物学概論 (1)			
担当	樋口京一 (加齢生物学教室)			
授業日	第 5 回	4月 17日(金 1)	SB0s	1. 胃癌とピロリ菌の関連について説明できる。 2. 胃癌発生における糖鎖の役割について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	胃癌発生における糖鎖の役割			
担当	中山 淳 (分子病理学教室)			
授業日	第 6 回	4月 17日(金 5)	SB0s	1. 糖鎖の基礎的事項について説明できる。 2. がんの浸潤・転移における糖鎖の役割について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	がんの浸潤・転移における糖鎖の役割			
担当	中山 淳 (分子病理学教室)			
授業日	第 7 回	4月 22日(水 3)	SB0s	加齢生物学、加齢に伴う疾患(特にアミロイドーシス)、さらには治療、予防法に関する最近の知識について理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	加齢生物学概論 (2)			
担当	樋口京一 (加齢生物学教室)			
授業日	第 8 回	4月 23日(木 4)	SB0s	肝臓病に伴う代謝異常を説明できる。 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態を説明できる。 脂肪組織の役割を説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	肝臓病と代謝			
担当	口中直樹 (代謝病学教室)			
授業日	第 9 回	4月 23日(木 5)	SB0s	メタボロミクスを説明できる。 メタボロミクスを用いたバイオマーカー探索や病態解析の事例を理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	メタボロミクス			
担当	口中直樹 (代謝病学教室)			
授業日	第 10 回	4月 24日(金 4)	SB0s	腫瘍生物学の基礎医学的知識を理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	腫瘍生物学の基礎的理解			
担当	谷口 俊 郎 (分子腫瘍学教室)			

(次頁に続く)

授業日 講義室	第 11 回 医学部第 2 講義室	4月24日(金 5)	SB0s 腫瘍生物学の最先端の医学研究について理解する。
G10	腫瘍生物学の先端的研究		
担当	谷口 俊一郎 (分子腫瘍学教室)		
授業日 講義室	第 12 回 医学部第 2 講義室	5月7日(木 4)	SB0s 運動による予防医学の基礎について理解する。
G10	運動生理学の理解		
担当	徳勢 博 (スポーツ科学教室)		
授業日 講義室	第 13 回 医学部第 2 講義室	5月7日(木 5)	SB0s 運動処方による予防医学の実践について、理論と最先端の研究について理解する。
G10	予防医学における科学的運動処方		
担当	徳勢 博 (スポーツ科学教室)		
授業日 講義室	第 14 回 医学部第 2 講義室	5月13日(水 3)	SB0s 脳科学, 神経科学, シナプス学の序論。 脳科学研究, シナプス研究の歴史, 基礎的事項について理解する。
G10	神経生化学概論 (1)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 15 回 医学部第 2 講義室	5月20日(水 3)	SB0s シナプスの基礎知識。 シナプスの種類, 分子構築などについて基本的事項を理解する。
G10	神経生化学概論 (2)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 16 回 医学部第 2 講義室	5月27日(水 3)	SB0s シナプス領域の膜ラフト微小ドメインについて 膜ラフト (membrane raft) について基本的概念を理解する。 シナプスの膜ラフトについて考察する。
G10	神経生化学概論 (3)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 17 回 医学部第 2 講義室	6月1日(月 5)	SB0s シナプス機能と記憶の仕組み。 記憶の仕組みについて現在の説明を分子レベルで理解する。 シナプス機能の異常とそれに基づく疾患について。 上記について現状を理解する。
G10	神経生化学概論 (4)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 18 回 医学部第 2 講義室	6月3日(水 3)	SB0s 神経可塑性学講座の研究紹介。 神経の可塑性について、最新の研究について理解する。
G10	神経可塑性の先端的研究		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 19 回 総合体育館 5A11	6月17日(水 2)	SB0s 講義を担当した教官が出題・採点し、60点以上得点できたものに単位を与える。
G10	テスト (1)		
担当	沼口 (加齢生物学教室) その他		
授業日 講義室	第 20 回 総合体育館 5A11	6月17日(水 3)	SB0s 講義を担当した教官が出題・採点し、60点以上得点できたものに単位を与える。(テスト時間延長のための予備)
G10	テスト (2)		
担当	沼口 (加齢生物学教室) その他		

(出典：医学部シラバス)

③-7 地域医療人の育成

平成22年度より地域医療推進学講座が、長野県信州医師確保総合支援センター分室となり、地域医療を担う人材を行政と協力して育成。（資料医91,92）

資料医91 信州医師確保総合支援センター信州大学医学部分室について

平成23年10月26日に、長野県の医師確保等総合事業として信州医師確保総合支援センターが開設されました。このセンター設置は、地域医療を担う医師のキャリア形成を支援しながら、その確保・定着を図るとともに、総合的な医師確保対策を実施することにより医師の偏在解消を目指す、ことを目的としています。分室が長野県立病院機構と信州大学医学部に設けられ、それぞれに長野県より業務が委託されることになりました。平成24年度からは、これまでの信州大学医学部地域医療推進学講座（長野県寄附講座）の専属教員2名が引き続いて、長野県から委託される業務・活動を信州医師確保総合支援センター信州大学医学部分室にて行います。

これまで信州大学医学部地域医療推進学講座（長野県寄附講座）にて実施されてきた活動・業務のほとんどは平成24年度以降も継続の予定ですが、キャリア形成支援ならびに医師となった後の配置調整などの長野県の医学生修学資金貸与者（医学生，医師）に関わる委託業務が新たに加わります。

（出典：医学部地域医療推進学講座ホームページ）

資料医92 地域医療の授業（シラバス抜粋）

開講年度	2014年度	登録コード	M07002		
科目名	地域医療	題目（副題）	地域に根ざした医療の実践		
担当教員	福嶋 義光	教員連絡先 内線	5 8 9 2		
学年	3年次	講義期間	前期	曜日・時限	水4 水5 水6
単位数	0単位	講義室	医学科第2講義室		

授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。 ・ 医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。 ・ 患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。
授業のキーワード	地域医療，プライマリ・ケア，在宅医療，総合診療
一般学習目標 GIO（期待される学習効果）	地域に根ざした医療を実践している講師の講演を通じて、医療における地域の視点の重要性ならびに地域の医療が抱える問題点とその対策についての認識を深める。
個別行動目標 SB0s（授業の概要）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域を考慮した医療とは何か説明できる。 2) プライマリ・ケアと地域医療の定義について説明できる。 3) 在宅医療の重要性と問題点を説明できる。 4) 地域の医療が抱える問題点を挙げ、その解決手段としての取り組みを説明できる。

テキスト，教材，参考書	参考図書 1) 地域医療は再生する (医学書院) 2) プライマリ 地域へむかう医師のために (医学書院) 3) 地域医療テキスト (医学書院)
履修上の注意	
授業の形式，視聴覚機器等の活用	授業は，各回の講師によるプリント資料とPCプレゼンテーションを用いた講義，全体でのディスカッション，レポートの作成，からなる。
成績評価の方法	出席とレポートで総合的に評価 なお，本授業の成績は，医学概論演習Ⅱに組み込む
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問，相談への対応)	いくつかの参考書は地域医療推進学講座に用意してあります。また，講義内容に関連したセミナーならびに実習も実施する予定です。
【添付ファイル】	なし

(出典：シラバス)

③-8 臨床実習の学生による自己評価

各クール終了後に自己評価結果に対して教員がフィードバックを行っている。(資料医93)

資料医93 臨床実習の自己評価

臨床実習自己評価表 (実習先: _____)

学籍番号 _____ 名前 _____

この実習期間内に学んだ知識 (代表的なものを4つ記載する。)

- _____ ○ _____
○ _____ ○ _____

この実習期間内に行った代表的な手技 (手技を行った対象に○をつける。)

- _____ 患者・シミュレーター・その他 (_____ 回程度実施)
○ _____ 患者・シミュレーター・その他 (_____ 回程度実施)
○ _____ 患者・シミュレーター・その他 (_____ 回程度実施)
○ _____ 患者・シミュレーター・その他 (_____ 回程度実施)

この実習期間内の振り返り (よかったこと，悪かったこと，希望等)

指導医・研修医から学生へのアドバイス

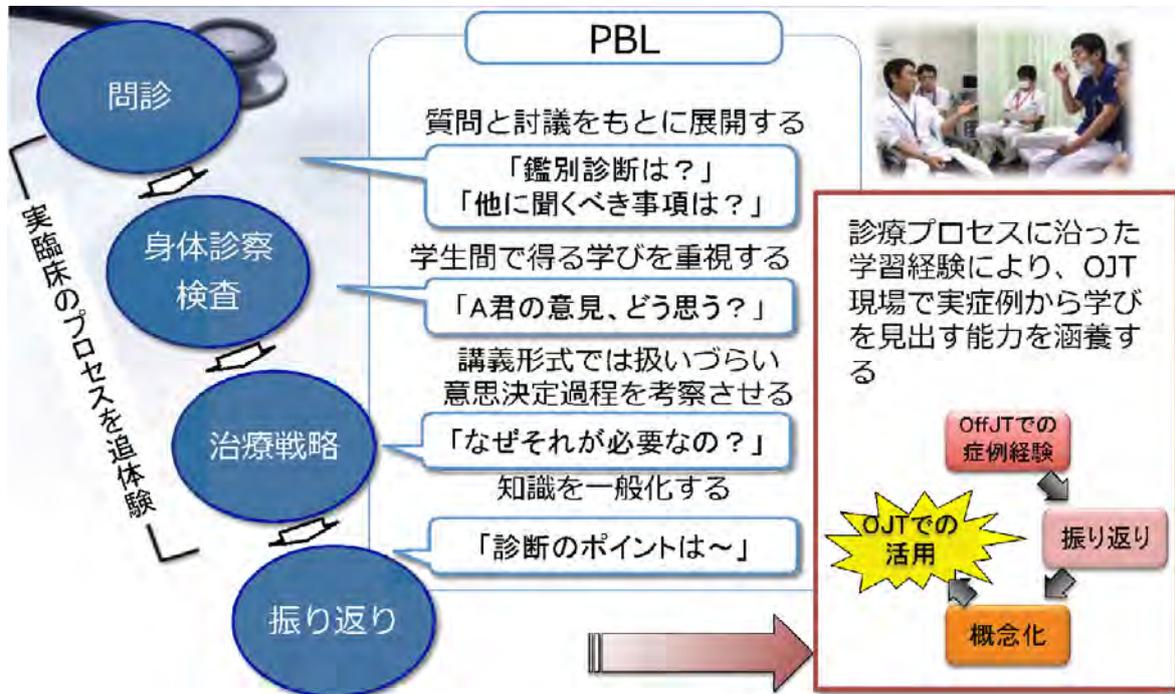
アドバイスをを行った者 (指導医・研修医・その他) 氏名 _____

最終評価者 (担当科教授) 氏名 _____

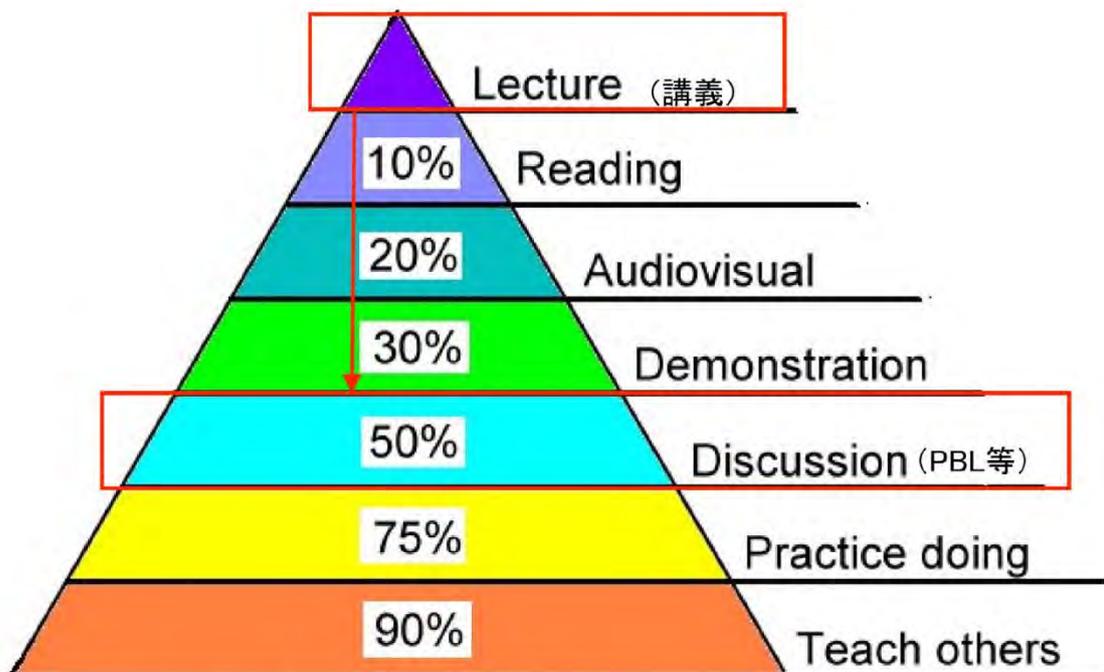
(出典：医学部作成)

③-9 課題基盤型学習を取り入れた臨床実習（資料医94）

資料医94 教育効果を高めるとされる臨床実習向けPBL（problem-based learning）プログラムを開発し内科系全教室で導入した。受講した学生のアンケートでは、73%が学習内容を理解できたと回答した。



方略ごとの学習定着度を示す「学習ピラミッド」



Source: National Training Laboratories, Bethel, Maine

(次頁に続く)

(内科学 (4) の事例)

現病歴

- 【現病歴】約1か月前から頭痛と視力障害が出現した。近医で血圧190/126 mmHgを指摘され、カルシウム拮抗薬投与でも改善しないため、精査加療目的で当科紹介となった。
- 【既往歴】特記事項無し
- 【家族歴】母：高血圧
- 【生活歴】喫煙：10本/日×10年(2年前から禁煙)
飲酒：機会飲酒 内服薬：特になし

この患者さんの診断をつけるために必要な診察項目を考えてください。

Q. このチュートリアルで扱った内容を理解できた。



(出典：医学部作成)

③-10 リサーチマインド養成に向けた自主研究演習

平成25年度より、夏季休暇を含む長期演習が選択可能となり、海外機関での実施が容易となった。(資料医 95, 96)

資料医95 自主研究演習

平成24年度 医学科学年曆

【3年生】

年月	週	日	月	火	水	木	金	土	
24	4	1	1	2	3	4	5	6	7
		2	8	9	10	11	12	13	14
		3	15	16	17	18	19	20	21
		4	22	23	24	25	26	27	28
5	5	5	6	7	8	9	10	11	12
		6	13	14	15	16	17	18	19
		7	20	21	22	23	24	25	26
		8	27	28	29	30	31		
6	6	9	3	4	5	6	7	8	9
		10	10	11	12	13	14	15	16
		11	17	18	19	20	21	22	23
		12	24	25	26	27	28	29	30
7	7	13	1	2	3	4	5	6	7
		14	8	9	10	11	12	13	14
		15	15	16	17	18	19	20	21
		16	22	23	24	25	26	27	28
8	8	17	29	30	31				
		18	5	6	7	8	9	10	11
		19	12	13	14	15	16	17	18
		20	19	20	21	22	23	24	25
9	9	21	26	27	28	29	30	31	
		22	2	3	4	5	6	7	8
		23	9	10	11	12	13	14	15
		24	16	17	18	19	20	21	22
10	10	25	23	24	25	26	27	28	29
		26	30						
		27	6	7	8	9	10	11	12
		28	13	14	15	16	17	18	19
11	11	29	20	21	22	23	24	25	26
		30	27	28	29	30	31		
		31	3	4	5	6	7	8	9
			10	11	12	13	14	15	16
12	12		17	18	19	20	21	22	23
			24	25	26	27	28	29	30
			31						
25	1		6	7	8	9	10	11	12
			13	14	15	16	17	18	19
			20	21	22	23	24	25	26
			27	28	29	30	31		
2	2		3	4	5	6	7	8	9
			10	11	12	13	14	15	16
			17	18	19	20	21	22	23
			24	25	26	27	28	29	30
3	3		3	4	5	6	7	8	9
			10	11	12	13	14	15	16
			17	18	19	20	21	22	23
			24	25	26	27	28	29	30

平成25年度 医学科学年曆

【3年生】

年月	週	日	月	火	水	木	金	土	
25	4	1	1	2	3	4	5	6	
		2	7	8	9	10	11	12	13
		3	14	15	16	17	18	19	20
		4	21	22	23	24	25	26	27
		5	28	29	30				
5	5	6	5	6	7	8	9	10	11
		7	12	13	14	15	16	17	18
		8	19	20	21	22	23	24	25
		9	26	27	28	29	30	31	
6	6	10	2	3	4	5	6	7	8
		11	9	10	11	12	13	14	15
		12	16	17	18	19	20	21	22
		13	23	24	25	26	27	28	29
7	7	14	1	2	3	4	5	6	7
		15	7	8	9	10	11	12	13
		16	14	15	16	17	18	19	20
		17	21	22	23	24	25	26	27
8	8	18	28	29	30	31			
		19	4	5	6	7	8	9	10
		20	11	12	13	14	15	16	17
		21	18	19	20	21	22	23	24
9	9	22	25	26	27	28	29	30	31
		23	1	2	3	4	5	6	7
		24	8	9	10	11	12	13	14
		25	15	16	17	18	19	20	21
10	10	26	22	23	24	25	26	27	28
		27	29	30					
		28	6	7	8	9	10	11	12
		29	13	14	15	16	17	18	19
11	11	30	20	21	22	23	24	25	26
		31	27	28	29	30	31		
			4	5	6	7	8	9	10
			11	12	13	14	15	16	17
12	12		18	19	20	21	22	23	24
			25	26	27	28	29	30	31
26	1		3	4	5	6	7	8	9
			10	11	12	13	14	15	16
			17	18	19	20	21	22	23
			24	25	26	27	28	29	30
2	2		31						
			7	8	9	10	11	12	13
			14	15	16	17	18	19	20
			21	22	23	24	25	26	27
3	3		28	29	30	31			
			4	5	6	7	8	9	10
			11	12	13	14	15	16	17
			18	19	20	21	22	23	24

(出典：医学部作成)

資料医 96 自主研究演習での海外派遣先・内容の一覧

自主研究演習(3年)

	カナダ トロント	タイ マヒドン	中国 青梅	インドネシア ディボネゴロ	アメリカ UCSD	スウェーデン カロリンスカ
H22 年度	3					
H23 年度	2					5
H24 年度	2					3
H25 年度	2				2	5
H26 年度	2	1				
H27 年度	1	3	1	1		

選択臨床実習(6年)

	トロント	ハワイ	ワシントン	Hannover(ドイツ)	シンガポール	ベルギー
H22 年度	1		1			
H23 年度	2					1
H24 年度	2					
H25 年度	1			1		
H26 年度	2	2				
H27 年度	1				2	

(出典：医学部作成)

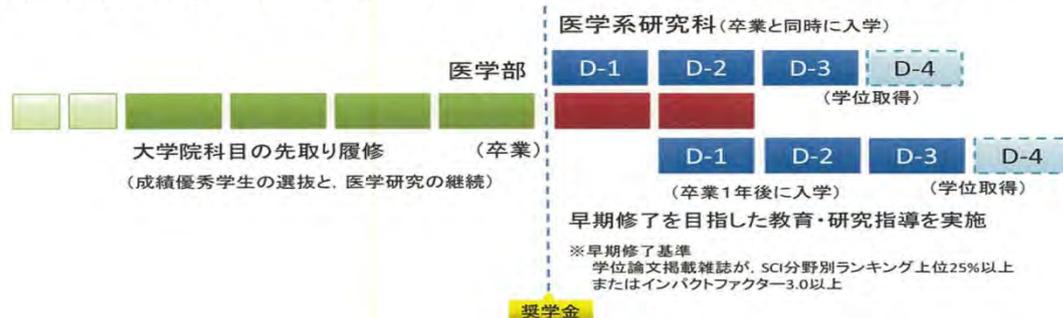
③-11 大学院教育早期履修システムの導入

平成26年度よりリサーチマインドを持った医師を養成するために e-MED プログラムを開始した。(資料医97, 98)

資料医 97 e-MED (Early enrolled and Multi program Education System for Basic Research Doctors) システムによる大学院教育・研究への早期履修システム

学部3年次から大学院授業科目を履修(在学中に10単位以内)が可能であり、修得した単位は、学部卒業後医学系研究科に入学した場合に限り、入学前に既修得単位として認定されるため、修了要件の30単位(医学系専攻)または32単位(疾患予防医科学専攻)のうちの一部の単位が修得済みとなり、研究に専念することができる。また、優れた研究業績を上げた場合は、3年の在学中で修了することも可能である。なお、平成27年度から卒業臨床研修中に医学系研究科(博士課程)へ入学した場合は助成金(入学金相当)が支給される。

早期参加複数コース制プログラム:eMED
(学部時代に大学院教育を開始 平成26年度より学部生履修開始)



(出典：医学部作成)

資料医 98 e-MED システムの履修実績

	H26	H27
履修者数	5	2
修了者数	—	—

(出典：医学部作成)

③-12 多様な領域の教育に対応する体制

緩和医療，漢方医療，法律，医学倫理の専門家を特任教員として採用し，多様な領域の教育を可能とした。（資料医99）

資料医99 多様な領域についての教育

科目名	系統講義（境界医学）	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛 森 淳一郎	5820	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 後期	月曜，4時限 月曜，5時限 水曜，5時限 金曜，1時限 金曜，2時限 金曜，3時限 金曜，4時限	
単位数、講義室	0.75単位	医学科第1臨床講堂 旭総合講義室AB 医学科第2実習室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。 ・ ◎みずからを他者や社会との関わりの中で捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】 ・ ◎人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】 ・ ◎世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 ・ ◎科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】 ・ ◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・ ◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】 ・ ◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】 ・ ◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】 		
授業のキーワード	陰陽、虚实、表裏、寒熱、気、血、水の概念 漢方薬、生薬、民間薬 臨床、研究における性差の視点		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>【東洋医学】 漢方薬を概説できる 東洋医学的思考を理解する</p> <p>【性差医学】 性差の視点を養うために、性差医学の概念や代表的な疾患における性差について学ぶ。性差の視点を、今後の学習や臨床実習においては将来の診療や研究のなかで役立てる。</p>		
個別行動目標SBOs（授業の概要）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学（漢方医学）の歴史と現代医療における役割。 2. 陰陽、虚实、表裏、寒熱、気血水などの東洋医学的概念を理解する。 3. 東洋医学診察法。（切診、望診、問診、問診） 4. 六病位概念と風邪の漢方を学ぶ。 5. 方剤学を学び漢方薬の構成を理解する。 6. アレルギーに対する漢方治療。 7. 痛みの漢方治療。 8. 冷え、婦人病に対する漢方治療。 9. 漢方薬と西洋薬の相互作用、副作用を学ぶ。 10. 性差医学の概念を理解し説明できる。 11. 脳の構造・昨日の性差について説明できる。 12. 精神および行動における性差について説明できる。 13. おもな疾患の疫学や病態における性差について説明できる。 14. 生殖内分泌学について説明できる。 		
テキスト、教材、参考書	<p>○入門漢方医学（日本東洋医学会編集）：南江堂 漢方医学：創元社 漢方治療のABC：医学書院</p> <p>参考書として以下を推薦する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Principles of Gender Specific Medicine Marianne J. Legato, M.D. 2004, ELSEVIER Academic Press 2) Harrison's Principles of Internal Medicine. 17th, Edition pp.28-32, 2008, McGraw Hill 3) 性差医学入門 貴邑富久子監修、荒木葉子翻訳編集代表（じほう出版） 4) 女性診療外来マニュアル 天野忠子他（じほう） 5) 女性における虚血性心疾患-成り立ちからホルモン補充療法まで- 天野 忠子他（医学書院） 6) 女の脳・男の脳 田中 富久子（日本放送出版協会） 		
履修上の注意	履修前にテキストを読み東洋医学の概念を理解しておく。 真摯な学習態度でのぞむことを期待します。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	プリント、スライド		
成績評価の方法	出席、試験（最低でも2/3以上の出席が試験受験の必要条件）		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問、相談への対応）	東洋医学を通じて、①医学を西洋医学とは異なった視点から眺め、広い視野で医学を考えること、②病態は絶えず変化することを認識し、それに対応するための心構えと東洋医学的方法論を学ぶことを期待する。 性差医学はまだ新しい概念です。この領域は、今後の臨床や研究において欠かせない視点のひとつです。自ら積極的に学ぶ姿勢を持って講義にのぞんでください。		

（出典：医学部シラバス）

教育内容	科目	単位数	看護必修	保健師コース必修	履修年次
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	○		3
	公衆衛生看護支援論Ⅰ	1	○		3
	公衆衛生看護支援論Ⅱ	2		○	3
	公衆衛生看護支援論Ⅲ	2		○	4
	公衆衛生看護アセスメント論	2		○	3
	公衆衛生看護管理論	1		○	4
	学校看護・産業看護	1		○	4
	看護管理論	1	○		4
	国際看護論	1	○		4
	小児の発達障害と看護	1	○		4
	疫学	公衆衛生学	2	○	
保健統計学	実践保健統計	1	○		2
	疫学・保健統計	1		○	4
保健医療福祉行政論	保健・医療・福祉行政論	2	○		2
公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習	5		○	4

- 保健師コース履修者の授業は3年生後期から開始する。3年次に開講する科目は1～2月、4年次に開講する科目は主に4～5月に集中講義形式で行う（一部科目は10月以降に実施）。

7. 実習について

- 長野県内の市町村および保健福祉事務所（保健所）、地域保健活動の関連施設にて実習を行う。
- 実習時期は4年次の6月～7月に目処に実施する。
- 実習期間は上記の時期内で5週間行う（別途、実習に伴う学内での学習時間が生じる）。

8. 就職について

- 就職先は、行政職（公務員）として市町村・都道府県の保健師、事業所に勤務する産業保健師、病院に勤務する保健師、養護教諭として学校に勤務（教育職）など多様である。また、看護師として就職・勤務後に保健師に転職している者もいる。
- これまでの卒業生の就職先（卒業時）を下記に示す。なお、保健師の募集は、看護師の募集と比較すると非常に少なく、高倍率の就職試験であることを念頭に置く必要がある。

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	計
都道府県	1	4	1	1	2	2	2	1	14
市町村	7	6	2	5	4	7	7	2	40
事業所等	1	1	1	1	0	0	0	1	5

9. その他

- 4年次に実施する公衆衛生看護実習までに必要な科目の中で、未修得科目がある場合、あるいは成績が著しく悪い場合には、保健師コースの履修の継続はできません。
- 授業開始後、継続が困難な学生は、保健師コースの履修を取りやめとなることがあります。
- 4年次に進む前に、面接で保健師コース履修継続の意思の確認を行います。
- 保健師コースの履修取りやめがあった場合でも人数の補充はありません。

（出典：医学部作成）

④-2 実習前評価としてのOSCE導入

専攻ごとにOSCEを取り入れ実習に活かしている（資料医101）。

資料医 101 実習前評価としての OSCE の導入（理学療法学専攻の例）

平成 26 年度 理学療法学専攻 OSCE 実施計画書

1. OSCE の目的

臨床実習前の 3 年生を対象として、態度や技能に関する実践能力の客観的な試験とその結果のフィードバックを行うことによって、実際の臨床現場で求められる医療面接や疾患別の理学療法評価等に関する実践的な臨床能力を育成すること。

2. OSCE の日程

表 1. OSCE の日程表

11/17 3・4・5 時限	①OSCE：脳血管障害片麻痺（バイタルサイン等） ②OSCE：小児疾患（運動発達） ③OSCE：超音波画像診断装置を用いた評価法	大平・三好 西沢・西川 Goh
12/ 1 3・4・5 時限	④OSCE：動作支援（移乗動作・歩行動作） ⑤OSCE：脳血管障害片麻痺（バランス）	百瀬・横川 Goh ・三好
12/ 8 3・4 時限	⑥OSCE：医療面接 ⑦OSCE：脳血管障害片麻痺（随意性等）	木村・齋藤 横川・百瀬
12/15 3 時限	全体フィードバック	木村

3. OSCE に向けての準備

OSCE における基本的な学習到達目標および評価のポイントは、pre OSCE practice phase で提示されてきた評価シートの内容と学習内容となりますので、それらを参考にして学習を進めてください。また、実技が必要な課題はお互いに模擬患者となり練習に努めて下さい。

（次頁に続く）

④保健学科の特色

④-1 質の高い保健師養成課程の設置

平成26年度より保健師資格の取得希望学生のうち20名を選抜する保健師コースを設置。(資料医100)

資料医100 保健師コース

平成27年1月22日

信州大学医学部保健学科看護学専攻保健師コース履修についてのガイダンス

1. 保健師コースの履修を希望する学生へ求めること

保健師コースの履修を希望する学生には次のようなことを期待します。

- ・ 保健師活動への興味・探究心を持つ。
- ・ 保健師活動を行う上での知識と技術を習得する為、積極的・主体的に学ぶ姿勢を持つ。
- ・ 地域で生活する「人々」に興味がある。
- ・ 保健師として就職・活躍したいという志がある。

2. 履修可能人数について

- ・ 履修可能人数は1学年20名です。この中に若干名の編入生を含む。
- ・ 助産師コースの履修が決定した者は、保健師コースの選考手続きを行う事はできない。

3. 選考申請について

- ・ 3年次の4月下旬～5月上旬に保健師コースの履修希望者を募る。
- ・ 申請締切は5月上旬頃を予定。申請には、大学の定める「保健師コース選択願」、「志願理由書」の提出が必要です。

4. 履修者の選択方法について

- ・ 1～2年次に取得した科目に関する「学業成績(200点)」、「志願理由書(30点)」、「面接(70点)」の結果を総合的に判断し、成績上位の者から順に履修者を決定する。
※「学業成績」として利用する科目は、共通教育科目および専門科目の必須科目。
- ・ 面接は5月中旬に行う。
- ・ 選考結果は個別に通知します。

5. 保健師コース選択に伴う費用について

- ・ 保健師コースの選択に伴う申請の費用は「無料」です。ただし、選択後の教科書・参考書の購入費用、実習に伴う交通費・雑費はすべて自己負担となる。(交通費は実習施設により異なり、12000円～35000円程度)

6. 選択後の教育カリキュラムについて

- ・ 保健師コースを履修する者は、保健師の国家試験を受験する為に必要な科目を履修する事ができ、国家試験合格後には「保健師」のライセンスを取得できる(看護師国家試験に合格が必須条件)
- ・ 養護教諭2種の免許を申請するには「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」に関する科目の履修が必要です(詳細は学生便覧を参照)。
- ・ 保健師の国家試験受験に必要な科目を履修するため、信州大学では下記に示すような科目が開講される。

4. OSCE 当日の進め方

- 1) 学生は控え室（131 講義室）に待機していて、時間が来たら所定のステーションに移動してください。
- 2) OSCE の時間は、課題を読む（2 分間）、模擬患者を対象として評価をする（8 分間）、教員からフィードバックを受ける（5 分間）の合計 15 分間となります。
- 3) ステーションに入ったら、学生用の椅子に着席し、教員の合図で試験を開始してください。
- 4) 試験開始の合図があったら、まずは、提示された課題シートの内容をよく読んでください（2 分間）。
- 5) 課題シートの内容を把握したら、評価者の合図とともに、医療面接や検査、測定等を開始してください。時間は 8 分間です。
- 6) 模擬患者への挨拶は、全てのステーションにおいて行いますが、医療面接では自己紹介まできちんと行い、他のステーションでは、「こんにちは、よろしくお願いします」という程度で結構です。
- 7) 評価者は患者役の教員も含めて 2 名の教員が担当しますが、緊張せずに、模擬患者を本当の患者さんであるとイメージして、評価を行ってください。
- 8) 8 分間経つと評価者の教員が試験終了の合図をしますので、医療面接や検査、測定等の試験を終了してください。
- 9) 試験終了後、教員の方からフィードバックを行いますので、その内容を自分でメモして、今後の学習に活かしてください（5 分間）。
- 10) 各ステーションでの試験が終了したら、ステーションの近くにいる次の学生に声をかけてください。
- 11) 次のステーションに向かうときには、開始時間の少し前にステーションの近くに移動しておいて、前の学生から声をかけられたら速やかに入室できるようにしてください。
- 12) ステーションへの移動のタイミングは、131 講義室に待機している担当教員の方から合図がありますので、それに従ってください。
- 13) 控え室においては、私語をせず静かに自習してください。また、試験の内容に関しても絶対に口外しないようにしてください。
- 14) 12 月 15 日の総合フィードバックが終了したところで、131 講義室において、アンケートを行いますので、ご協力をお願いします。

その他 各専攻のまとめ、評定表、アンケート用紙等の資料あり

（出典：医学部作成）

④-3 新入生合宿研修の取り組み

円滑な大学生活への導入を目的として、4月に研修（資料医102）を行い、学生間、学生と教員との交流を図っている。

資料医 102 新入生合宿研修での取り組み

平成27年度 医学部保健学科新入生合宿研修実施要項

I. 実施概要

■目的

課外での合宿研修により、教員と学生、学生相互の対話と交流を図り、人間的な触れ合いの中で相互理解を深めること。また、講演や専攻ミーティングを通じて大学生活へのスムーズな導入とこれから学んでいく上での心構えを再認識することを目的とし、次に掲げる項目を目標とする。

- ①学生相互、学生と教員の親睦を深める。
- ②信州で共に学ぶ者としての協調性と自立自学の志を高める。
- ③入学時の不安や学ぶことの意義と共に語り、今後の学生生活の過ごし方を考える機会とする。
- ④社会的な知識を身につける。

■期 日 平成27年4月18日(土)～19日(日)

■研修地 国立妙高青少年自然の家 新潟県妙高市大字関山6323-2 TEL 0255-82-4321

■参加者 学 生 145名
教職員 60名 計 約205名

■経 費 2,000円/学生1人あたり
(食費1,640円, シーツ代200円, 活動費・振込手数料等)

II. 日 程

4月18日(土)		4月19日(日)		
9:00	集合	大学体育館北側【時間厳守】 点呼【バス班長】	6:30	起床
9:15	出発		7:15	朝食(～8:30) (ダイニングホール銀河) 清掃・部屋の整理 看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用
9:55	休憩	焼捨SA(20分)	8:30	自然の家職員の点検【厚生委員・部屋班長立会い】
10:15	出発	点呼【バス班長】	9:00	宿泊棟引き渡し【時間厳守】
11:40	自然の家到着 オリエンテーション	荷物を持って玄関ホールへ 注意事項伝達(荷物は, 玄関ホール横の ミーティングルームに置いてもらい)	9:15	集合・出発 点呼【バス班長】
11:50	宿泊棟へ移動	部屋班長は, シーツ等を受領 避難経路確認, 荷物整理	10:00	休憩 小布施SA(30分)
12:25	昼食	看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用	10:30	出発 点呼【バス班長】
13:45	講演 ↓	運動着に着替えてから(運動靴持参) プレイホールへ集合 「大学生の社会生活への対応について」 講師: 宮原 則子氏(長野県金融広報委員会)	12:00	大学到着 解散
14:25			専攻ミーティングの場所 看護: 学習室1 検査: 学習室2 理学: 学習室3 作業: 実習室3(調理室) ※ 夕食後・専攻ミーティング後等に星空を眺めてみるのも 良いですよ	
14:30	団体活動 ↓	専攻別対抗長縄跳び選手権 (前後ストレッチ)		
17:00	宿泊棟へ移動			
17:30	夕食 (ダイニングホール銀河) ※星空観察	看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用		
19:00	専攻ミティング	場所は, 右表参照		
21:00	入浴(～22:30)	(17:20～19:00も入浴可能)		
22:30	消灯・就寝			

(出典: 医学部作成)

④-4 授業改善アンケートの教員コメントの公開

アンケート結果に担当教員がコメントし学生に公開することで授業改善への取り組みを明瞭にしている(資料医103)

資料医 103 授業改善アンケートの教員コメントの公開

平成27年度前期「授業改善アンケート」科目別集計表

授業科目:	
担当教員:	
集計人数:	

1)この授業で良かったと思う点を書いてください

ビデオがおもしろかった。
実際に体験した事例をたくさん話してくれて、理解も深まったし、意欲も沸いた。

2)この授業で良くなかったと思う点を書いてください

テストが午後にある場合はもう少し早く教えてほしいです。(1コマ目or2コマ目でやるとしていました。)

3)この授業をより良くするための意見・提案があれば書いてください

平成27年度前期「学生による授業改善アンケート」教員コメント記入表

登録コード	科目名	担当教員氏名

1, 数値結果に対するコメントを記入してください。

8割以上の方が良い評価をしてくださりありがとうございます。一方で予習復習に関してはあまり多くの課題を出さなかったこともあり4名の方があまりそう思わないと回答されているようです。今後予習復習についても熱心に取り組めるよう工夫していきたいと思ひます。

2, 自由記述欄に対するコメントを記入してください。

実体験をできるだけお話しするようにするよう努力している点が認めていただけてありがとうございます。試験日程に関しては何度か調整の案内をさせていただいておりましたが伝わらなかった方もいたようで残念です。

(出典：医学部作成)

④-5 地域住民対象の健康講座への学生の参加

平成26年度から地域公開講座を開講し、学生が地域支援について学習する機会としている（資料医104）。

資料医 104 地域公開健康講座への学生の参加

医学部地域保健推進センター 健康講座【シリーズ1】

健康寿命延伸を目指して

信州大学医学部地域保健推進センター(保健学科)では、このたび地域住民の皆様向けの健康講座を開催いたします。今回のシリーズは「健康寿命延伸を目指して」と題し、10回の講座で、健康に役立つ有益な情報をお伝えいたしますので、ぜひご近所の皆様をお誘いあわせてご参加ください。

日時 : 平成 26 年 9 - 12 月の火曜日 18 時-19 時
 場所 : 信州大学医学部保健学科 地域保健推進センター3階 多目的講義室
 (松本キャンパス北の女鳥羽川側:保健学科が耐震工事中のため足下にはご注意ください。)
 費用 : 無料 (車で来場の方は、大学正門をご利用ください。無料券を配布します)
 申し込み: 申し込みの必要はありません。直接会場へお越しください。
 参加者には受講書を発行します。希望の回のみでの参加も可能です。

プログラム:

回	日時(18時-19時)	講座タイトル	氏名	専攻(職種)
1	9月30日(火)	健康寿命の延伸と運動習慣	教授 木村 貞治	理学療法学 (理学療法士)
2	10月7日(火)	生活習慣病を予防する	教授 本郷 実	看護学 (医師)
3	10月14日(火)	食習慣と健康診断検査	准教授 日高 宏哉	検査技術科学 (検査技師)
4	10月21日(火)	脳血管障害のはなし	教授 高 昌基	検査技術科学 (医師)
5	10月28日(火)	肺の生活習慣病 COPD とはどんな病気?	教授 藤本 圭作	検査技術科学 (医師)
6	11月4日(火)	高齢者の健康と家族	准教授 牛田 貴子	看護学 (看護師)
7	11月11日(火)	認知症のはなし	教授 埴原 秋児	作業療法学 (医師)
8	11月18日(火)	安心して暮らすための住まいの整備	教授 上村 智子	作業療法学 (作業療法士)
9	11月25日(火)	地域における健康教室の取り組み	准教授 横川 吉晴	理学療法学 (理学療法士)
10	12月2日(火)	死別ケアと健康に生きるためのまちづくり	准教授 山崎 浩司	看護学 (社会学者)

1.性別

	人数
女性	412
男性	168
無回答	1
合計	581

2.職業

	人数
学生	139
会社員	59
主婦	182
無職	73
その他	127
無回答	1
合計	581

※その他
 会社役員 1
 農業者 19
 公務員 2
 県職員(教諭) 1
 県職員 1
 教員 22
 教員・職員 3
 大学教職員 10
 病院事務 1
 学内 1
 信大職員 1
 信大病院事務 1
 介護ヘルパー 1
 介護職 2
 パート 12
 OT 1
 リハビリ療法士 1
 医療従事者 1
 個人事業主 2
 団体職員 2
 自営業 3
 鍼灸マッサージ師 1

信州大学医学部 地域保健推進センター AED
 健康講座シリーズ 第2弾
 「災害と健康」

平成26年は豪雨による土砂災害、噴火、地震など様々な自然災害が長野県を襲いました。日ごろから、健康の側面からも災害に対して準備をしておくことが望まれます。災害が発生したときにあわてず対応できるように、この講座を企画しました。

皆さんの参加をお待ちしています。

場所 : 信州大学医学部保健学科
 地域保健推進センター3階 多目的講義室
 日時 : 5月9日~7月11日 10:00-11:30
 参加者: どなたでも、事前申し込み無し、参加費無料
 (第1回と第3回は体を動かすプログラムが含まれる場合がありますので、動きやすい服装でお出かけください。)

※車で来場の方は、正門から入場してください。無料駐車場をお知らせします。
 ※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/accss/>

プログラム

- 第1回【命を救う】 5月9日(土) 10:00-11:30
 1. 心臓が止まったら(AEDを使ってみよう)
 2. 外傷の応急手当てを覚えよう 深澤佳代子(保健学科看護学)
- 第2回【緊急災害援助隊(DMAT)の活動】 5月30日(土) 10:00-11:30
 秋田真代(高度救命救急センター-医師)
 松澤剛毅(高度救命救急センター-看護師)
- 第3回【災害後の体を守る(避難生活で起こること)】 6月20日(土) 10:00-11:30
 1. 集団生活で発生しやすい感染症から体を守る 奥野ひろみ(保健学科看護学)
 2. エコノミー症候群を予防しよう 大平雅美(保健学科理学療法学)
- 第4回【災害後の心を守る】 7月11日(土) 10:00-11:30
 1. PTSDや心の変化を知ろう 下里誠二(保健学科看護学)
 2. こどもの心に寄り添う 平林優子(保健学科看護学)



お問い合わせ: 保健科学第2係
 TEL: 0263-37-2356 E-mail: cchphoken@shinshu-u.ac.jp

Photo: http://www.jrc.or.jp/vers_1f/cas2.pdf, <http://www.hp.msd.shinshu-u.ac.jp/information/2011/03/post-71.php>

(次頁に続く)

1.性別

	人数
女性	113
男性	44
合計	157

2.職業

	人数
学生	79
主婦	23
無職	20
会社員	18
その他	17
合計	157

※その他
 教員
 保育士

信州大学医学部 地域保健推進センター
健康講座シリーズ 第3弾

「健康に暮らす4つの方法」



今回は、「食とこころ」にまつわる視点から健康とのつながりを考える講座を企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

場所：信州大学医学部保健学科
地域保健推進センター3階 多目的講義室
日時：9月～11月の全4回 いずれも18:15～19:15
お申込み・お問い合わせ先：
原則として、前日までにお申込みください(当日参加も可能)
医学部保健学科学務第2係 (受付時間 平日 8:30～17:15)
TEL: 0263-37-2356 FAX:0263-37-2370 E-mail: cchphoken@shinshu-u.ac.jp
参加費： 無料 **ご興味のあるプログラムのみのご参加も歓迎いたします**

※車でお越しの方は、医学部附属病院駐車場(有料)をご利用の上、大学正門からお入りください。
※**今回より大学構内は駐車できません。**当日は駐車場近辺にプラカードを持った案内係がおりますので、お尋ね下さい。
※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/access/>

プログラム

- 第1回【きのこを食べて健康に】 9月29日(火) 18:15-19:15
農学部 福田 正樹 教授
- 第2回【くちの健康と体の健康】 10月13日(火) 18:15-19:15
医学部 栗田 浩 教授
- 第3回【“快適”感をはかる】 10月27日(火) 18:15-19:15
繊維学部 上條 正義 教授
- 第4回【ポジティブに生きるための心理学】 11月10日(火) 18:15-19:15
人文学部 菊池 聡 教授

1.性別	
	人数
女性	96
男性	38
合計	134

2.ご職業	
	人数
学生	38
会社員	33
主婦	27
無職	11
その他	25
合計	134

※その他 パート
自営業
大学職員
介護職
教員
アルバイト
社会人大学院生

(出典：医学部作成)

④-6 実習委員会の設置による実習運営（看護学専攻）

(資料医105)

資料医 105 実習委員会の設置による実習運営（看護学専攻）

3 学年 7 領域にわたる大規模な実習について、看護学専攻では実習委員会を設置し専攻全体として進行を調整している。

平成26年度 看護学専攻実習委員会活動一覧

日時	回数	分類	議題、企画名称、その他
4月9日(水)	1	委員会	1. 平成26年度委員会活動と役割分担 2. 平成26年度看護学実習会議(4/16)の準備・議事の検討、病院への依頼文送付について 3. 平成26年度実習について:保健師コース選択の伴う学生配置表作成日程の検討 4. 平成26年度実習ガイドライン項目追加と修正案検討について 5. 平成26年度実習オリエンテーション日程決定 6. 平成27年度実習スケジュール、実習依頼について 7. 平成26年度実習委員会所掌事項確認および開催日程
4月14日(月)	-	準備	[印刷] 信州大学医学部附属病院との看護学実習会議資料
4月16日(水)	-	当日	[定例] 平成26年度信州大学医学部附属病院との看護学実習会議(於:附属病院外来棟4階大会議室)
5月21日(水)	2	委員会	1. 平成27年度臨地実習ローテーション案検討 2. 平成26年度後期～27年度領域別実習学生配置案作成について 3. 平成26年度統合実習要項の集約 4. 基礎看護学実習Ⅱ・老年看護学実習Ⅱ・領域別実習一斉オリエンテーション案検討:電子カルテ講習会、PW取得について、日程(7月16日) 5. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議の検討:日程、場所、講演講師等 6. 平成26年度実習ガイドラインの見直し 7. 予算案
6月4日(水)	-	企画当日	[定例] 電子カルテの講習会(対象:助産師コース編入生(3・4年)2名)
6月24日(火)	3	委員会	1. 平成26年度後期領域別実習グループ編成 2. 平成26年度実習ガイドライン改訂版の検討:災害時の対応 3. 平成26年度実習指導者連絡会議講演講師の検討 4. 平成26年度領域別実習オリエンテーションについて(基礎は授業時間内、老年は7月19日)
7月15日(火)	-	準備	[印刷] ガイドライン印刷 平成26年7月改訂版(1～4年生、編入生、教員、実習施設配布分)
7月16日(水)	-	企画当日	[定例] 臨地実習オリエンテーション(3年生対象)(於:地域保健推進センター3階多目的講義室)
7月23日(水)	-	企画当日	[定例] 基礎看護学実習Ⅱオリエンテーション(対象:2年生)
7月25日(金)	-	企画当日	[定例] 老年看護学実習Ⅰオリエンテーション(対象:2年生) [定例] 老年看護学実習Ⅱオリエンテーション(対象:3年生)
7月30日(水)	-	企画当日	[定例] 電子カルテの講習会(対象:2年生)
10月1日(水)	4	委員会	1. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議の検討:講師、講演テーマ等 2. 2・3年生の各実習進捗状況報告 3. 平成27年度統合実習学生配分について
10月27日(月)	5	委員会	1. 平成26年度実習指導者連絡会について:次第、講師、テーマ、当日の役割、準備物品、実習施設への案内状送付について、グループワークの配置等 2. 平成27年度実習ローテーション案
11月～1月	-	準備	学務担当者と実習指導者連絡会議出席施設への案内状、出席者確認の打ち合わせ
12月9日(火)	-	準備	平成26年度実習指導者連絡会議講師との打ち合わせ
12月18日(木)	6	委員会	1. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議進行及び準備について 2. 実習中の学生の状況について
H27.1月6日(火)	-	企画当日	[定例] 実習ガイドライン配布、実習誓約書 記入依頼、回収(対象:1年生)
1月20日(火)	-	準備	[印刷] 臨地実習指導者連絡会議資料
1月21日(水)	-	企画当日	[定例] 平成27年度臨地実習指導者連絡会議(於:附属病院外来棟4階大会議室)
2月10日(火)	7	委員会	1. 平成26年度臨地指導者連絡会議総括、報告書作成について 2. 実習の進捗状況 3. 平成26年度実習委員会まとめについて 4. 平成27年度実習施設案の集約
2月16日(月)	-	準備/配布	[印刷] 平成26年度臨地実習指導者会議報告書
3月23日(月)	8	委員会	1. 平成26年度 実習委員会活動報告の作成について 2. 平成27年度へ引き継ぐ事項等

(出典:医学部作成)

④-7 多施設，長期間の臨地・臨床実習の実施
(資料医106)

資料医 106 多施設，長期間の臨地実習の実施

(検査技術科学専攻の例)

臨地・臨床実習を充実させるため看護学専攻では約70施設で1年間，検査技術科学専攻では4施設で12週間，理学・作業療法学専攻では約70施設で21週間実習を実施している。

平成27年度検査技術科学専攻 臨地実習計画表(150508)

実習学生：4年次生(42名 内訳 女:28名、男:14名) 12グループ(3~4名/班)
 実習場所：信州大学医学部附属病院臨床検査部、輸血部、血液浄化療法部、内視鏡診療部、耳鼻咽喉科、眼科、
 薬剤部・臨床試験センター、相澤病院、松本市医師会医療センター、長野県立こども病院、保健学科
 実習期間：平成27年5月11日(月)~7月31日(金) 計12週間

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
場所	5/11(月) ~5/15(金)	5/18(月) ~5/22(金)	5/25(月) ~5/29(金)	6/1(月) ~6/5(金)	6/8(月) ~6/12(金)	6/15(月) ~6/19(金)	6/22(月) ~6/26(金)	6/29(月) ~7/3(金)	7/6(月) ~7/10(金)	7/13(月) ~7/17(金)	7/21(火) ~7/24(金)	7/27(月) ~7/31(金)
I 検体検査部門	1**・2・3			4・5・6			7・8・9			10・11・12		
II 遺伝子・染色体検査室	4*1	5*2	6	1*1,**	2*2	3	10*1	11*2	12	7*1	8*2	9
III 輸血部	5*1	6*2	4	2*1	3*2	1**	11*1	12*2	10	8*1	9*2	7
IV 尿・一般検査室 ¹⁾ 血液浄化療法部 ²⁾ 内視鏡診療部 ³⁾ 長野県立こども病院 ⁴⁾	6*1	4*2	5	3*1	1*2,**	2	12*1	10*2	11	9*1	7*2	8
V 病理検査室	7	8	9	10	11	12	1**	2	3	4	5	6
VI 細菌検査室	8	7	10	9	12	11	2	1**	4	3	6	5
VII 生理検査室 (眼科 ⁵⁾ ・耳鼻咽喉科 ⁶⁾ ・薬剤部 ⁷⁾)	9・10		11・12		7・8		3・4		5・6		1**・2	
VIII 相澤病院 検査科	11	12	7/8A	7/8B	9	10	5/6A	5/6B	1/2A*	1/2B	3/4A	3/4B
IX 松本市医師会 医療センター	12	11	7/8B	7/8A	10	9	5/6B	5/6A	1/2B	1/2A*	3/4B	3/4A

IV ¹⁾ 尿・一般検査室(検査部)	: 毎週(月)(水)(木、午後):1グループ
²⁾ 血液浄化療法部	: 毎週(火)午前、午後:1グループ
³⁾ 内視鏡診療部	: 毎週(木)午前 :1グループ
⁴⁾ 長野県立こども病院	: 毎週(金)午前、午後:1グループ
V ⁵⁾ 眼科	: 毎週(月)15:30~ :1グループ
⁶⁾ 耳鼻咽喉科	: 毎週(火)・(金)午前 :1グループ
⁷⁾ 薬剤部・臨床試験センター	: 毎週(木)午前 :1グループ

III 輸血部	*1: 第1、4、7、10週目の3班合同(水曜日13:00-14:00) 輸血部(下平先生)
IV 血液浄化療法部	*2: 第3、6、9、12週目の3班合同(火曜日15:00-16:00) 血液浄化療法部(上條先生)
II、III、IVの学生は、上記のIII 輸血部、IV 血液浄化療法部でのレクチャーの時間は、 合同でレクチャーを受けます。	

1**,1/2A*: 身体障害者を含む班(廊下等の移動は車いす、室内は杖を用品)

(出典：医学部作成)

④-8 実習指導者及び学生からのアンケート調査

以下（資料医107）のアンケートを実施し実習の改善に努めている。

資料医 107 臨地・臨床実習指導者及び学生からのアンケートの主な意見
（検査技術科学専攻の例）

Q1. この臨地実習がよりよくなるための提案、学内の授業で不足している内容について自由にお書きください。

1. 検体検査部門

- 授業で検査値（1人の患者）について見る機会が少ないように思います。

2. 病理検査室

- 特殊染色をもう少しやりたい。

3. 遺伝子・染色体検査室

- 部屋が暑かったです。

もう少し手を動かしたかった。

4. 輸血部

- 部屋が暑かったです
- 業務に関する説明や、変わった血液型の患者さんについてもう少し詳しく聞きたかった。
- いろいろと実習させていただいたが、まだ凝集の有無の判定があいまいなので、もっといろいろなタイプが見られたらいいと思う。

5. 細菌検査室

- とっても楽しかったです。
- 2週間ぐらいやりたかった。

6. 内視鏡診療部

- 先生がいなかったのが、実際におこなっているところを診れませんでした。見たかったです。
- 実際内視鏡を動かせる機会があればもっと良かったと思う。

7. 血液浄化療法部

- ドリップ式で出したコーヒーに牛乳を混ぜたものにしたほうがもっと違いが判るのではないかと思った
- コーヒー牛乳を使った透析では、透析前と後の液体を採取し、見比べると透析高価を実感しやすいと思います。
- 1週目のグループだったので、この実習はしませんでした。
- コーヒー牛乳の実習を楽しみにしていましたが、出来なかったのが残念でした。

8. 学内

- 寄生虫の勉強があったらいいな
- 下肢静脈エコーもやりたい

9. 生理検査室

- 筋電図について学内でもっとやるべき。

10. 薬剤部 臨床試験センター

- 治験センターでは実際に働いているところの見学があると良かったと思う。
- 時間的に薬剤部と治験センターを分けた方が良いと思いました。
- 治験に関しては学内で講義しておくべきだと思う。大変興味深かった。

11. 耳鼻咽喉科

- 聴覚検査は、オーディオメータを軽く授業で学んだけだったので、臨地実習でおこなった OAE とティンパノメトリーも少し触れてもらえたら理解しやすくなると思った。

12. 眼科

- 行っていません。
- もう少し説明を受けたい

13. 相澤病院

- 学生同士でおこなうのは腹部エコーだけでは飽きるのでは、心エコーや頸動脈エコーもできると充実した実習になるのではないかとと思う。
- もっと長いほうが良い
- 個人で希望のところに行った時に放置され続けました。ほかのところに行けばよかった。
- 忙しいとは思いますが、もう少し様子見に来てほしかった。

14. 松本市医師会医療センター

- もっと長いほうが良い

Q2. その他、ご意見があればお書きください。

1. 検体検査部門

- 血液分野では自習が多すぎる。課題を出すならば認定問題より国試対策を希望する。

2. 病理検査室

- 実習後、病理の点数が伸びました。

3. 遺伝子・染色体検査室

- わかりやすかったし、倫理的な面で勉強になった。

4. 輸血部
5. 細菌検査室
 - 学内実習では扱わないような菌を扱えて良かったです。
 - 自分たちで考えながら実習できるので、とても勉強になった。
6. 内視鏡診療部
 - 今となつてはほとんど記憶に残っていない。Ns が検体を扱うときのヒヤリハット、インシデントが勉強になった。
7. 血液浄化療法部
 - 検査を専攻する学生は漠然と医療を志したり、様々な理由でいる人もいます。幅を広げたり、今一度ほかの仕事をして自分の人生設計を変えることもあると思うのでやるべきだと思います。
 - 透析に使う水についてはあまり考えたことが無かったので良い機会になりました。
 - コーヒー牛乳についてはやりませんでした。やってみたかったです。実習中で唯一の患者さんとしっかり話す時間があって、普段できなかった分、興味深かった。
 - コーヒー牛乳は来年度以降も行うべきです。透析について考えるととても良い機会になった。
8. 学内
 - 毎日いっぱいいっぱいの中で、正直よい息抜きができる良い期間になった。
9. 生理検査室
 - 患者さんと技師が関わりがい、責任感が学べた。
10. 薬剤部 臨床試験センター
11. 耳鼻咽喉科
 - あまり検査などで今まで学習してこなかった検査について学べて良かった。
12. 眼科
 - 医師会で眼底検査の説明をすでに聞き操作を行ったので、同じことの繰り返しになったが、より詳しく説明が聞けたのは良かった。
13. 相澤病院
 - 午後ひたすらエコーは集中力がもたない。忙しいから仕方ないことだが。
14. 松本市医師会医療センター
 - クーラーの修理中で暑すぎて大変だった。自習時間は白衣を脱いでよいなどの対応が欲しかった
 - MTとして様々な働き方を学ぶうえでは良い機会になった。

(出典：医学部作成)

(3) 学生の国際性涵養の工夫

① 海外への派遣

①-1 医学科

臨床実習の一環で海外施設に実習生を派遣。(資料医 108, 109)

資料医 108 海外留学先 (再掲)



自主研究演習(3年)

	カナダ トロント	タイ マヒドン	中国 青梅	インドネシア ディボネゴロ	アメリカ UCSD	スウェーデン カロリンスカ
H22 年度	3					
H23 年度	2					5
H24 年度	2					3
H25 年度	2				2	5
H26 年度	2	1				
H27 年度	1	3	1	1		

選択臨床実習(6年)

	トロント	ハワイ	ワシントン	Hannover(ドイツ)	シンガポール	ベルギー
H22 年度	1		1			
H23 年度	2					1
H24 年度	2					
H25 年度	1			1		
H26 年度	2	2				
H27 年度	1				2	

(出典：医学部作成)

資料医 109 学部間交流協定 (海外大学との協定)

国	連携大学等	締結主体
インドネシア	ディボネゴロ大学医学部	医学部
中国	青海大学医学部	医学部
シンガポール	シンガポールヘルスサービス	医学部
タイ	マヒドン大学ラマティボディ病院医学部	医学部

(出典：医学部作成)

①-2 保健学科

従来の豪国短期留学に加え、平成26年度よりシンガポールへの短期留学と、ネパールでの保健医療活動への学生参加を開始。(資料医110,111)

資料医110 国際交流委員会と留学

Ⅲ. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要

1. プログラムによる育成人材像および達成目標

1. 他国の人々と協同して活動ができるように英語コミュニケーション力を高め、国際社会に貢献できる人材を育成する。
2. 英語による学習から、異文化交流の意義と魅力を体感する。
3. 異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
4. 卒前・卒後教育、臨床の機会を自ら国外にも求め、国際的に活躍できる医療従事者を育成する。
5. 海外への大学院留学や日本に留学した学生などと、英語を用いて共同研究ができる人材を育成する。

2. 国際交流プログラムの全体

1. 大学間学術交流協定に基づくオーストラリア・カーティン大学 (Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム
カーティン大学や医療機関での学習および現地ホームステイを中心とする体験プログラム
2. 信州大学—ネパール連邦民主共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
ネパール、カトマンズ他の地域においてNPO活動と現地住民との関わりを中心とする体験プログラム
3. 信州大学—シンガポール共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
シンガポールの主に医療機関でのレクチャーおよび見学を中心とする体験プログラム

(出典：国際交流事業夏期短期留学公式報告書)

資料医111 カーティン大，シンガポール，ネパール，ハワイの留学実績

Australia Curtin University 夏期海外単位認定プログラム

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
看護学	8	8	13	13	5	8
検査技術科学	4	3	4	1	6	0
理学療法学	3	3	4	6	2	8
作業療法学	4	3	1	1	4	2

Singapore General Hospital PTE LTD (Sing Health) 保健医療スタディプログラム

年度	H26	H27
看護学	4	7
検査技術科学	0	3
理学療法学	3	4
作業療法学	0	3

Nepal 保健医療スタディプログラム (※H27年度は大地震のため中止)

年度	H26	H27
看護学	4	
検査技術科学	0	

理学療法学	1	
作業療法学	0	
・看護学専攻4名 ・理学療法学専攻1名 計5名 夏期海外研修参加者総計：29名		

(出典：医学部作成)

①－3 学生支援（資料医112）

資料医112 日本学生支援機構の支援制度
 (医学科の例)

研修支援（独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）奨学金）

・平成26年度海外留学支援制度（短期派遣）に応募，採択され，参加学生17名のうち，審査基準に則り14名に7万円の奨学金が支給された。なお，残り3名については，信州大学平成26年度グローバル人材育成事業による海外活動支援に応募し採択され奨学金が支給された。

学校コード	大学等名	プログラム形態	No.	プログラム名
136010	信州大学	短期研修・研究型	2	医学生の自主研究演習・海外研修プログラム

No.	地域区分				派遣先・連携先機関			協定(合意)内容						
	No.	国名	派遣地域区分	都市名	派遣先大学等(高等教育機関)		派遣先大学等(高等教育機関)以外の連携機関	協定・合意文書	締結(更新)日	有効期限日	交換人数(派遣)	単位互換・単位認定	授業料不徴収・授業料免除	宿舎手配
					英語名称	日本語名称	英語名称							
1	501	カナダ	甲	トロント	The Hospital for Sick Children, The University of Tront	トロント大学小児病院		合意	2012/4/1	無期限	3名以内	無	無	無
2	735	スウェーデン	甲	ストックホルム	Karolinska Institute	カロリンスカ研究所	Karolinska Institute	合意	2012/4/1	無期限	5名以内	無	無	有
3	502	アメリカ	甲	サンディエゴ	University of California, San Diego	カリフォルニア大学サンディエゴ校		合意	2013/4	無期限	2名以内	無	無	無

プログラムの実施計画										プログラムの過去の実績								
派遣期間				派遣人数		派遣人月数				その他		H22		H23		H24		
派遣開始月	派遣終了月	日数	日数(31日以内)	総派遣計画人数	奨学金支援希望人数	総派遣人月数	奨学金支援希望人月数	奨学金支援希望人月数(H26年度)	奨学金支援希望人月数(H26年度)	本制度以外の学生への奨学金状況	プログラム参加費(日本円)	総派遣人数	奨学金支援人数	総派遣人数	奨学金支援人数	総派遣人数	奨学金支援人数	
H25.7	H25.8	42		2	2	4	4	4				1		2		2		
H25.7	H25.8	28	28	5	5	5	5	5				3		4		3		
H25.7	H25.8	28	28	1	1	1	1	1										
計				8	8	10	10	10				計	4		6		5	

(出典：医学部作成)

(4) 学生の主体的な学習を促すための取組

①環境の整備

以下のとおり学習環境を整備。(資料医113)

資料医113 学生の主体的な学習を促すための環境の整備状況(自習スペースの確保)

(医学科)

貸出教室	教室名	場所	予約	無線LAN
	AB講義室	旭9F	必要	○
	C講義室	旭9F		○
	修士講義室	旭9F		○
	第1講義室			○
	第2講義室			○
	第1実習室			○
	第2実習室			○
	チュートリアルルーム9	旭5F		
	チュートリアルルーム10	旭6F		
	チュートリアルルーム7	旭3F		
	チュートリアルルーム11	旭8F		
	チュートリアルルーム12	旭9F		
	チュートリアルルーム3	現在は貸出しなし		
	チュートリアルルーム4	現在は貸出しなし		

ミーティングルーム 基礎棟2F 不要 ○

6年対象 自習室 プレハブ

(保健学科)

～自習スペースについて～

- (1)保健学科内の学生自習室として、りんでん(北校舎1階)、図書閲覧室(南校舎1階)を解放している。
- (2)上記が満席の場合は111講義室(南校舎1階)も使用することも可能としている。
- (3)他の講義室での自習は遠慮いただいている。
- (4)保健学科外では、医学部基礎棟1階と2階の自習スペース、医学部図書館、中央図書館も自習スペースとして開放している。

(出典：医学部作成)

②GPA制度の導入

平成26年度入学者から導入。(資料医114)

資料医114 GPA

11. 信州大学のGPA制度について

信州大学では、学生が適切に履修計画をたて、自主的、意欲的に学習することを促すとともに、適切な修学指導に資することを目的として、平成26年度学部入学生から、学年進行で「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入します。

このGPAは、世界の大学で広く用いられている学生の成績評価方法です。会社に就職する、大学院に進学する、海外の大学に留学するような場合に応募先での採否の判断となるものです。

教員は、GPAを活用することにより成績不振学生を早期に発見し、適切な指導に繋げることができます。

I. GPAについて

「GPA」とは、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表した成績の単位数に、それぞれの科目のGP（Grade Point）を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、GPの平均値（Average）です。評語と評点とGPの関係を以下に示します。

評語	評点	GP
秀（S）	90-100	4
優（A）	80-89	3.33
良（B）	70-79	2.67
可（C）	60-69	2
不可（D）	50-59	1
不可（F）	0-49	0

※各科目の単位取得には、「可」以上が必要です。

II. GPAの計算式について

$$GPA = \frac{[\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}] \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数（不可（D・F）を含む）合計}}$$

1. 履修登録した科目のうち、GPAの計算式に入らない科目があります。

- ① 成績を「合格」・「不合格」で評価する科目
- ② 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目
- ③ 学部で指定する科目（所属学部毎にお知らせします。）
- ④ 履修取消をした科目

2. 「不可（D・F）」の科目を再履修して合格した場合、過去の「不可（D・F）」の成績はGPAの計算式に入りません。

- ・「不可」（D・F）と成績評価された科目を、再び履修登録して合格した場合は、「可」以上（GP＝2～4）の成績がGPAの計算式に入り、「不可」（GP＝0、1）の成績は合格した学期以降のGPA計算式から除外されます。

III. GPAの通知について

- ・学期毎に、キャンパス情報システム（Web）から、成績評価と、科目ごとのGP及び学期毎・在学中の通算のGPAが確認できます。
- ・学期毎及び在学中の通算GPAを確認することで、学習成果の指標としましょう。例えば、1年次前期のGPA値が2.0以下であった場合、1年次後期や2年次以降の学習に支障をきたす可能性が高いので、1年次前期の内容を復習すると同時に後期の勉強の準備をしっかりとしましょう。
- ・なお、GPAの値は担任との面談でも利用されます。

【GPA の計算例】

授業の成績	GP の計算
科目 A (2 単位) で C (可) を取った	$2.00 \times 2 = 4.00$
科目 B (2 単位) で A (優) を取った	$3.33 \times 2 = 6.66$
科目 C (4 単位) で D (不可) を取った	$1.00 \times 4 = 4.00$
科目 D (2 単位) で S (秀) を取った	$4.00 \times 2 = 8.00$
科目 E (2 単位) が F (不可) を取った	$0 \times 2 = 0$

$$\begin{aligned} \text{GPA} &= (4.00 + 6.66 + 4.00 + 8.00 + 0) \div (2 + 2 + 4 + 2 + 2) \\ &= 22.66 \div 12 \\ &= 1.89 \end{aligned}$$

GPA 制度導入に伴う GPA 対象外科目について

医学科専門科目

GPA 対象除外	授 業 科 目	備 考
○	医 学 概 論 演 習 I	
○	医 学 概 論 演 習 II	
	ヒ ト 生 物 学 I	
	ヒ ト 生 物 学 II	
	人 体 の 構 造 学	
	神 経 解 剖 学 I	
	解 剖 学 演 習 ・ 実 習 I	
	解 剖 学 演 習 ・ 実 習 II	
	生 理 学 (器 官 系) 演 習 ・ 実 習	
	生 理 学 (統 御 系) 演 習 ・ 実 習	
	発 生 学	
	生 化 学 演 習 ・ 実 習 I	
	生 化 学 演 習 ・ 実 習 II	
	薬 理 学 演 習 ・ 実 習	
	病 理 学 総 論 演 習 ・ 実 習	
	病 理 学 演 習 ・ 実 習 I	
	病 理 学 演 習 ・ 実 習 II	
	細 菌 ・ ウ イ ル ス 学 演 習 ・ 実 習	
	免 疫 学 演 習 ・ 実 習	
	医 動 物 学 演 習 ・ 実 習	
	遺 伝 医 学 ・ 予 防 医 学 演 習 ・ 実 習 I	
	衛 生 学 公 衆 衛 生 学 演 習 ・ 実 習 I	
	法 医 学 演 習 ・ 実 習	
	遺 伝 医 学 ・ 予 防 医 学 演 習 ・ 実 習 II	
	衛 生 学 公 衆 衛 生 学 演 習 ・ 実 習 II	
○	臨 床 医 学 入 門 I	
	臨 床 推 論 入 門	
○	臨 床 医 学 T B L	
	ユ ニ ッ ト 講 義	
	系 統 講 義	
○	臨 床 実 習	
○	自 主 研 究 演 習	
	疾 患 予 防 医 科 学 概 論	
○	基 礎 医 学 T B L	
	医 学 心 理 学 演 習	
	臨 床 外 科 学 入 門	
○	臨 床 実 習 前 集 中 講 義	

実習や経験することが求められる授業は、GPAから除外する。

(出典：医学部作成)

③TBLの積極的導入

以下(資料医115)のような自主的学習を促している。

資料医115 TBL (Team-Based Learning-Tutorial) の授業実施方法 (例: 基礎医学TBL)

1. 授業の準備と進め方(概要)

教員が行う事前の準備

以下のものを第1回実施日の1週間前までに

メールにて医学教育センター(yama_tsk@shinshu-u.ac.jp)に提出する。

ア) 事前学習用資料の提示

- 基礎医学的教科書を1冊決める。
- 最低限必要な予習をさせるためのページ(10ページ以内)を提示する。
- 最低限必要な範囲に絞る。

イ) ミニテストの作成

- 5枚択一問題を各回4題(第1回～第3回分・合計12題)作成する。
- 第1回は、事前学習範囲内から出題する。
- 第2～3回は、前回までの課題から出題する。

ウ) 第1～3回の資料の作成

- 一人の患者を設定する。(事前に医学教育センターで用意した患者を使用することもできる。10ページ参照)
- その患者に関連する課題を作成する。
 - ※列挙させる問題(○×を列挙せよ)を含む2～4題程度。
 - ※最終的に第9回にお話しいただく内容が理解しやすく、目つ、身近になるよう、課題を設定してください。
- 成果発表会用の最終課題(発表のテーマ)を作成する。(第3回前半に提示)
 - ※この患者において、○×が生じたメカニズムについて説明せよ等
 - ×については、別添のモデルコアカリキュラム「診療の基本」などを参照。

例: この患者において、発熱が生じたメカニズムについて説明せよ。
この患者において、意識障害が生じたメカニズムについて説明せよ。

授業の進め方

ア) 第1回～第3回

- 授業の冒頭にミニテスト(5分)を行う。遅刻者には配慮しない。
- ミニテスト終了後、各グループに資料を配布し、座を移動させる。
- 学生同士でミニテスト答え合わせをさせる。
- 学生の答えがまとまり、グループ解答表を提出したグループには正解を渡す。
- 各グループを一回以上巡回し、学生が課題に取り組み始めるよう誘導する。
- 第3回日の前半に発表課題を提示する。
- 第3回日の後半は第4回のプレゼン資料を作成する。

イ) 第4回(発表会)

- 10:40までに旭総合研究棟9階、AB講義室またはC講義室に入室。
- ※学生は各講義室6グループずつ。各講義室に1名ずつの教員が必要。
- 教員の司会のもと、成果発表会を行う。
- 各グループ8分で発表を行い、発表ごとに質疑応答を行う。
- ※基本的に学生間で質疑応答を行うが、低調であれば、教員が質問する。
- 残り時間に応じ、学生の発表で誤解や不足があった部分、ミニテストの要点、その他のトピックスなどを紹介する。
- 評価シートを用いて、学生に、日グループ以外の発表を評価させる。
- ※評価シートは、順位を付ける方式となっており、同順位は認めていない。
- 評価シートを回収し、学務第1係に提出する。

ウ) 第5回(講演会)

- 最前線の基礎医学研究についてや先生が基礎医学を志した動機などについてご講演下さい。

2. 日程

各講座におかれましては、第1回～3回は教員1名、第4回(発表会)は教員2名のご出席をお願いいたします。

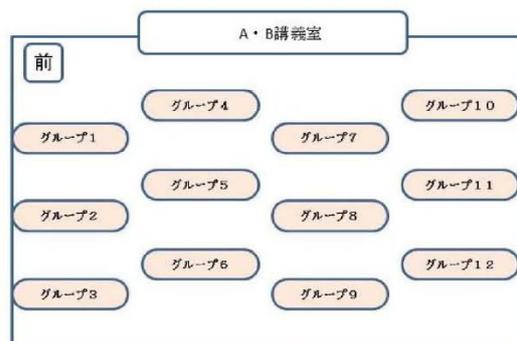
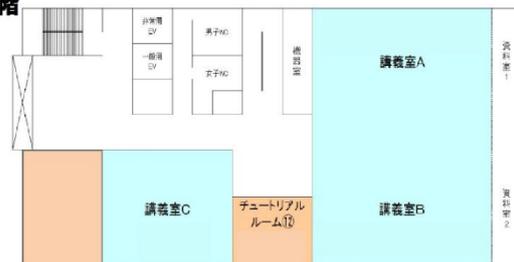
回数	月日	時限	担当教室	教室
	9月24日(水)	⑤	オリエンテーション 医学教育センター	講義室AB
1	10月1日(水)	② ③	テーマ1 分子薬理学教室	第1回
2	10月8日(水)	② ③		講義室AB
3	10月15日(水)	② ③		第3回
4	10月22日(水)	② ③	発表会	講義室AB,C
5	10月29日(水)	② ③	講義	講義室AB
6	11月12日(水)	② ③	テーマ2 免疫微生物学教室	第1回
7	11月19日(水)	② ③		第2回
8	11月26日(水)	② ③		第3回
9	12月3日(水)	② ③	発表会	講義室AB,C
10	12月10日(水)	② ③	講義	講義室AB
11	12月17日(水)	② ③	テーマ3 免疫制御学教室	第1回
12	12月24日(水)	② ③		第2回
13	1月7日(水)	② ③		第3回
14	1月14日(火)	② ③	発表会	講義室AB,C
15	1月21日(水)	② ③	講義	講義室AB
16	未定		テスト	

3. 教室配置図

グループ別学習は、講義室ABで行う。
なお、グループ発表(第4回、第9回、第14回)は下記の通り2教室に別れて行う。
・1～6グループ 講義室AB
・7～12グループ 講義室Cで行う。

旭総合研究棟

9階



TBL教育の増加

基礎医学TBL	臨床医学TBL	ヒト生物学 I, II	臨床推論入門
2年	4年(H26年度～ 3年後期～4年前期)	1年	3年
H22	11回(1回:90分)	21回(1回:90分)	
H23	11回(1回:90分)	21回(1回:90分)	
H24	15回(1回:60分×2回)	25回(1回:90分)	
H25	15回(1回:60分×2回)	26回(1回:90分)	
H26	15回(1回:60分×2回)	5回(1回:60分×2回)3年 20回(1回:60分×2回)4年	28回(1回:90分)

※試験は除く

(資料: 基礎医学TBL手引きから抜粋)

(次頁に続く)

(平成27年度 T B L 授業一覧)

科目名	学年・学期	コマ数×回数	のべ回数
基礎医学 T B L	2年後期	2コマ×9	18
臨床医学 T B L	3年後期～4年前期	2コマ×25	50
ヒト生物学 I	1年前期	15	15
ヒト生物学 II	1年後期	14	14
臨床推論入門	3年後期	26	26
発生学	2年後期	15	15
生化学演習・演習 II	2年後期	15	15
			計 153

(T B L 授業シラバスの例)

(次頁に続く)

科目名	基礎医学TBL	題目 (副題)	Medical Science TBL (Team-based learning)
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛 森 淳一郎	多田剛 (5820)	
学年、講義期間、曜日・時限	2年次	後期	月曜, 2時限 月曜, 3時限
単位数、講義室	1. 50単位	旭総合講義室A B 医学科第2実習室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。 ・常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯白らの学習課題を開拓し探求することができる。 ・◎みずからを他者や社会との関わりの中で捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】 ・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 ・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】 ・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数値的指標を用いて理解できる【普遍的・数値的理解力】 ・◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】 ・◎地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】 		
授業のキーワード	基礎医学の知識と臨床医学の関連、TBL (Team-based learning)、自己学習、問題抽出と解決、グループワーク (討論、product作成)、		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	最前線の基礎医学研究を理解し臨床医学とのつながりを認識するために、臨床症例に潜む基礎的課題を抽出検討し基礎医学的観点から考える能力や様々な情報を総合的に判断する能力、最新の医療情報を収集する能力を、チーム学習を通して身に付ける。		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	自己学習能力を高めることができる。 課題から、問題点の抽出ができる。 集めた情報をもとに、自分なりの理論を組み立て、表現することができる。 教科書やインターネットを利用して、課題の解決に必要な知識や情報を収集できる。 グループで協力して成果をまとめることができる。		
テキスト、教材、参考書	テーマ毎に事前に連絡する。		
履修上の注意	<p>(毎回の準備)</p> <p>指定された予習範囲を学習してくること。 図書などの資料は適宜チュートリアルルーム12に取りに行く。 (ミニテストと事前学習)</p> <p>各テーマの冒頭にミニテストを行なう。事前学習すべき内容(教科書などの該当部分)は1週間前にもe-ALPSに掲載する。該当テーマについての基礎知識を身につけるために必ず事前学習すること。</p>		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	<p>TBLとは、学生をいくつかのグループに分けて講義を行う形態です。 自ら勉強して得られた知識をもとに、与えられた一定の課題に対し、討議を行いながら学習をしていくこととなります。学習には、ネット上の検索も必要になります。</p> <p>～授業の流れ～</p> <p>ミニテスト：範囲はあらかじめ指定します。 グループ別ミニテストの答え合わせ：グループで相談し、ミニテストの回答を作成します。 課題1：3課題を45分かけてグループで検討します。 課題2：2課題を30分かけてグループで検討します。※課題数は授業ごとに変動します。 ミニテスト：当日の課題から出題されます。</p>		
成績評価の方法	<p>出席、ミニテスト、期末テストを総合的に評価します。</p> <p>(授業開始時のミニテスト2点、グループ回答1点、終了時のミニテスト3点) x 8回 = 48点、期末試験60点の合計108点中60点以上を合格とします。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問、相談への対応)	<p>基礎医学の知識が臨床医学の問題解決にどのように生きるのかを知る授業です。 積極的な自己学習によって、論理的思考過程を経験し、優れたコミュニケーション能力の修得をめざしてください。そのためにも、課題は授業時間内終了させてください。 課題に関する質問、相談は授業中に行ってください。 予習・復習で不明な点があれば、多田まで連絡してください。その都度、面会時間を相談して決めます。 内線5820 外線37-3113 E-mail:tadatsu@shinshu-u.ac.jp</p>		

(出典：医学部シラバス)

④ スキルズラボの設置

平成25年度より学生が日常的に使用できるスキルズラボを設置し、常時臨床手技の自主学習が可能になった。(資料医116)

資料医116 スキルズラボの概要
(医学科)

場所は、医学部基礎棟 東棟 2階に設置している。開設時間は、平日の9時から午後5時。事前に要望があれば、午後5時以降の対応も可能。利用手続きは、原則として事前予約が必要。医学部学務(基礎棟1階)にて利用手続きを行うか、Webページのフォームより予約を行う。設置機器の一覧はWebページより確認できる。具体的には下記のシミュレータが設置されている。

- (1) 呼吸音・心音聴診シミュレータ
- (2) ハートシムACLSトレーニングシステム
- (3) 耳診察シミュレータと耳鏡
- (4) 腰椎穿刺・麻酔シミュレータ
- (5) 男性導尿シミュレータ
- (6) 前立腺触診シミュレータ
- (7) 皮膚縫合セット
- (8) スペクトロプロ
- (9) 心電図
- (10) 聴診波形表示装置, コードレス聴診教育システム
- (11) レールダルSimMan
- (12) 眼底診察シミュレータと陰眼鏡
- (13) 採血・静注シミュレータ
- (14) 乳癌触診シミュレータ
- (15) 女性導尿・浣腸シミュレータ
- (16) 移動式手洗いユニット
- (17) 除細動器

(出典:

http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/medical_education/support/skillslab.php)

⑤ 成績優秀者への授業料免除

(資料医117)

資料医117 成績優秀者への授業料免除

成績優秀学生に対し授業料を免除している。

(医学科)

信州大学成績優秀学生の選考に関する医学部医学科申合せ(抜粋)

(選考基準等)

第3 成績優秀学生の選考学年及び配分数等は、次表のとおりとする。

対象学生	選考基準とする成績	配分数 (人)
4年生	3年累計成績と臨床総合試験の合計点上位者	2
5年生	4年臨床総合試験上位者	2
	C B T 上位者	1

(選考方法)

第4 成績優秀学生の選考方法は、次の各号に掲げる成績順位に人物評価を加味して選考する。

- 一 累計成績と臨床総合試験の合計点の成績による場合は、選考基準とする学年試験において再試験がある者を除き、成績上位者から選出する。
- 二 臨床総合試験の成績による場合は、選考基準とする学年試験において再試験がある者を除き、成績上位者から選抜する。また、選抜した成績上位者が同順位により配分数を超える場合には、累計成績順位の上位者から選出する。
- 三 CBTの成績による場合は、4年臨床総合試験の成績で選考した者を除き、成績上位者から選抜する。また、選抜した成績上位者が2人以上の場合は、4年臨床総合試験の成績順位の最上位者とする。

(保健学科)

信州大学成績優秀学生の選考に関する医学部保健学科申合せ（抜粋）

(選考人数)

第3 成績優秀学生の選考人数は、当分の間、次表のとおりとする。

専攻名 配分数(人)

看護学専攻 2人以内

検査技術科学専攻 1人以内

理学療法学専攻 1人以内

作業療法学専攻 1人以内

(選考方法)

第4 成績優秀学生の選考は、各専攻の4年次生から選考することとし、次条に規定する方法により算出された成績評価係数及び人物評価に基づき、保健学科厚生委員会が候補者を選考し、保健学科会議の議を経て行うものとする。

(成績評価係数)

第5 選考年度における当該学生の4月1日現在の1年次から3年次までの履修済授業科目の成績とし、次のとおり成績の評価係数を算出する。ただし、認定単位は含めないものとする

$$\frac{(\text{秀の単位数} \times 4) + (\text{優の単位数} \times 3) + (\text{良の単位数} \times 2) + (\text{可の単位数} \times 1)}{\text{総取得単位数}}$$

総取得単位数

(出典：医学部作成)

⑥学生への科目得点分布を含む成績の通知

医学科では、個々の学生の点数および全員の得点分布を配布し、学習結果の自己評価を可能にしている。(資料医118)

資料医118 試験結果の通知 (見本)

試験成績のお知らせ

【科目名】 4年生臨床医学 TBL

【学籍番号】 ××××

【氏名】 ○○○○

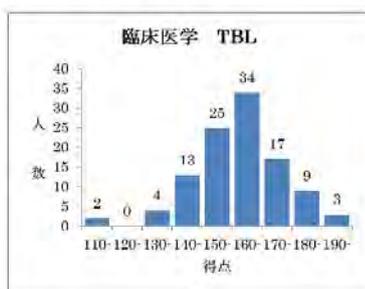
【得点】 146点

【順位】 91位

【平均点】 161.4点

120点以上を合格とする。

全受験者のヒストグラム



医学教育センター

多田 剛

(出典：医学部作成)

⑦退学勧告の導入

医学科では平成23年度から、同学年で2回留年した者に対し退学を勧告している。(資料医119)

資料医119 退学の勧告

(退学の勧告等)

第20条の2 学部長は、医学科の学生のうち学業成績の著しい不振が長期にわたり継続している者に対して、教授会の議を経て、文書により退学を勧告することができる。

2 前項に掲げる学業成績の著しい不振が長期にわたり継続している者とは、休学による場合を除き、2回にわたり医学科が定める各学年の進級要件を満たさなかったため、同学年に留まることとなった者をいう。

3 学部長は、第1項の勧告に従わなかった者が、さらに1回医学科が定める同学年の進級要件を満たさなかった場合、学則第63条第2号に定める除籍の理由に該当する者として、教授会の議を経て、学長に当該者の除籍を申し出ることができる。

(出典：医学部規程)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 多職種連携の基礎として実施している「新入生ゼミナール」では、1グループの人数を減らし、学生のより積極的な参加を促した。(資料医76(82頁)) また、4年次にチーム医療の重要性と具体的な進め方を、模擬症例をもとに各専攻の専門性を生かして議論することで学習する「チーム医療演習」を平成26年度から開始した。(資料医77(83頁)) これらの授業に限らず、双方向性かつ学生中心の授業を積極的に取り入れている。(資料医115(129頁))
- 学生の能力を総合的に評価できるよう、両学科ともに自主的なOSCEを実施している。(資料医86(95頁), 101(113頁))
- 両学科ともに海外短期研修プログラムを実施している。(資料医108(123頁)～112(125頁))
- 平成25年度よりスキルズラボを設置し、両学科におけるシミュレーション教育体制を充実させた。(資料医116(132頁))
- 医学科臨床実習では大学病院と37の教育協力病院が協力して少人数単位での実習を実施している。これにより学生は自分の望む環境での実習が可能になるとともに、ロールモデルとなる医師と共同で医療の一部を担いつつ、実践を通して段階的に習熟することが容易になっている。(資料医83(90頁)) また、指導・評価を均てん化するため、繰り返しFDを行っている。(資料医62(57頁), 63(58頁))
- 保健学科では、臨床能力の向上を目的として、4専攻ともに臨地・臨床実習の内容の向上に取り組んでいる。(資料医105(119頁)～107(121頁))
- 学部生が大学院授業受講を可能とするe-Medや基礎研究を長期間実施できる授業を実現し、学生のリサーチマインドを育成する体制となった。(資料医89(97頁), 96(109頁)～98(109頁))
- 保健師コースを設置したことにより少人数で密度の濃い演習等が可能になった。(資料医100(111頁))
- 地域住民を対象とした健康講座に学生を参加させ、地域に根差した保健活動の在り方を能動的に学ばせる教育体制を構築した。(資料医104(117頁))

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 履修・卒業状況から判断される学習成果の状況

①進級・卒業・休学・退学等の状況

進級・卒業・休学・退学の状況を以下に示す。(資料医120,121)

資料医 120 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率
(医学科)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	88.2%	87.5%	86.7%	89.0%	88.5%	92.0%	83.6%
標準修業年限内×1.5	100%	99.0%	98.0%	100%	97.9%	100%	99.1%

(保健学科)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	81.6%	79.2%	79.8%	84.6%	85.5%	87.3%	87.7%
標準修業年限内×1.5	93.0%	94.3%	90.8%	89.0%	97.5%	95.5%	96.9%

(出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

資料医 121 退学，休学率

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
退学率	1.4%	0.8%	0.5%	0.6%	0.3%	0.4	0.1
休学率	0.7%	0.8%	0.5%	1.8%	1.8%	0.8%	1.7%

※退学率は，該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

(2) 国家試験等の合格状況

①医学科のCBT，OSCEの成績 (資料医122)

資料医 122 CBT，OSCEの成績

①CBTの状況 ※平成24年度から判断基準を引き上げている。

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数	96	93	101	107	111	111	117
合格者数	96	93	99	105	106	104	111

(次頁に続く)

②問題携行別得点率およびコアカリ別得点率

平成26年CBT(本試)の結果(コアカリキュラム別)

正答率	問題数	コアカリ	内容	正答率	問題数	コアカリ	内容
55.0%	20	B-3-(3)	病因と病態-代謝障害	77.7%	663	D-2-(4)	腫瘍-診断
66.8%	564	B-1-(5)	個体の構成と機能-生体物質の代謝	78.1%	511	D-3	物理・化学的因子による疾患
67.6%	367	B-1-(4)	個体の構成と機能-個体の発生	78.2%	404	F-5	臨床研究と医療
67.8%	521	B-1-(3)	個体の構成と機能-個体の調節機構とホメオスタシス	78.6%	529	C-12	呼吸器系
70.0%	373	B-1-(2)	個体の構成と機能-組織・各臓器の構成、機能と位置関係	79.6%	201	D-6	人の死
70.2%	392	D-2-(5)	腫瘍-治療	79.6%	888	D-1	感染症
70.2%	94	B-2-(3)	個体の反応-生体と放射線・電磁波・超音波	79.7%	212	D-2-(1)	※腫瘍-病理・病態
70.7%	174	F-1	疫学と予防医学	79.9%	523	C-6	耳鼻・咽喉・口腔系
71.4%	381	B-2-(4)	個体の反応-生体と薬物	80.0%	451	C-4	内分泌・栄養・代謝系
72.6%	515	B-1-(1)	個体の構成と機能-細胞の基本構造と機能	80.2%	525	C-3	
72.7%	183	B-3-(5)	病因と病態-炎症と創傷治癒	80.2%	480	C-8	神経系
72.7%	33	F-6	診療情報	80.2%	1255	C-2	妊娠と分娩
73.8%	324	B-1-(6)	個体の構成と機能-遺伝と遺伝子	80.3%	442	C-13	消化器系
73.9%	479	B-2-(1)	個体の反応-生体と微生物	80.7%	618	F-3	保健、医療、福祉と介護の制度
74.9%	343	C-9	皮膚系	81.2%	437	C-1	血液・造血器・リンパ系
75.0%	120	C-11	循環器系	81.4%	377	D-4	成長と発達
75.2%	258	C-10	運動器(筋骨格)系	83.3%	48	F-7	臨床研究と医療
75.2%	315	B-2-(2)	個体の反応-免疫と生体防御	83.4%	277	D-5	加齢と老化
75.7%	111	B-3-(2)	病因と病態-細胞傷害・変性と細胞死	84.5%	277	F-2	生活習慣と疾病
75.9%	170	D-7	死と法	84.7%	261	A-2	医療における安全性確保
76.0%	225	D-2-(3)	腫瘍-症候	84.7%	222	F-4	診療情報
76.1%	1059	C-5	眼・視覚系	85.0%	240	D-8	基本的診療知識
76.2%	1435	E-2	社会・環境と健康	85.1%	368	A-1	医の原則
76.2%	341	E-3	地域医療	85.2%	142	B-3-(1)	病因と病態-遺伝子異常と疾患・発生発達異常
76.3%	579	C-15	生殖機能	85.3%	197	A-3	コミュニケーションとチーム医療
76.5%	51	B-3-(4)	病因と病態-循環障害	90.3%	62	A-4	課題探究・解決能力
77.4%	545	C-7	精神系	0	0	D-2-(6)	免疫・アレルギー疾患
77.5%	284	D-2-(2)	腫瘍-発生病因・疫学・予防	0	0	E-1	基本的診療技能
77.6%	446	C-14	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)				

平成26年CBT(本試)の結果

出題ブロック別正答状況									
	1	2	3	4	小計	5	6	小計	合計
	五肢択一	五肢択一	五肢択一	五肢択一		多肢択一	連続問題		
正答数	3927	4180	4152	4208	16467	2583	2146	4729	21196
出題数	5328	5328	5328	5328	21312	3108	3108	6216	27528
正答率	73.7%	78.5%	77.9%	79.0%	77.3%	83.1%	69.0%	76.1%	77.0%

問題タイプ別正答状況				
	五肢択一	多肢択一	連続問題	合計
正答数	16467	2583	2146	21196
出題数	21312	3108	3108	27528
正答率	77.3%	83.1%	69.0%	77.0%

コアカリ別正答状況							
	基本事項	医学・医療と社会	医学一般	人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療	診療の基本	合計
正答数	758	3169	6275	3487	1354	1424	16467
出題数	888	4440	7992	4440	1776	1776	21312
正答率	85.4%	71.4%	78.5%	78.5%	76.2%	80.2%	77.3%

※得点率は授業内容の見直しに利用している。

③OSCEの状況

OSCE

H25年度までは4年次末、H26年度以降は4年次前期末に実施

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数	99	93	100	106	115	111	114
合格者数	99	93	100	106	115	111	114

(次頁に続く)

MidtermOSCE

5年次前期末に実施

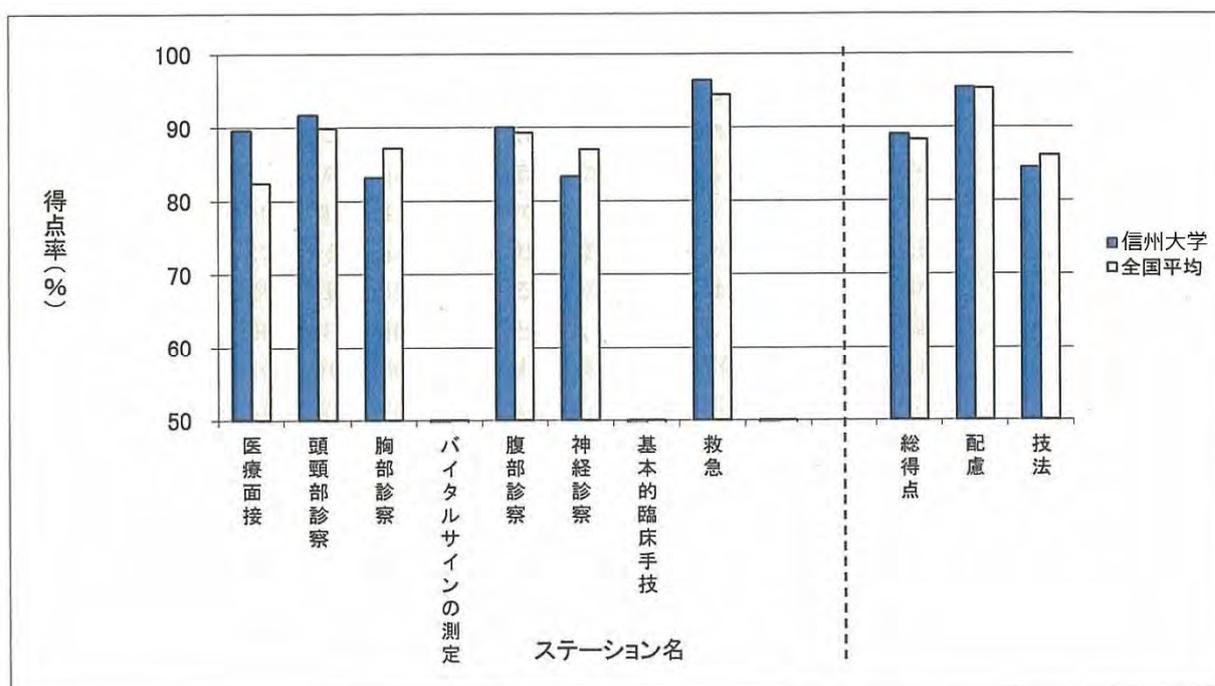
年度	H27
受験者数	102
合格者数	102

AdvancedOSCE

6年次前期末に実施

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数		99	100	92	98	107	118
合格者数		99	100	92	98	107	118

2015年度共用試験医学系OSCEの成績

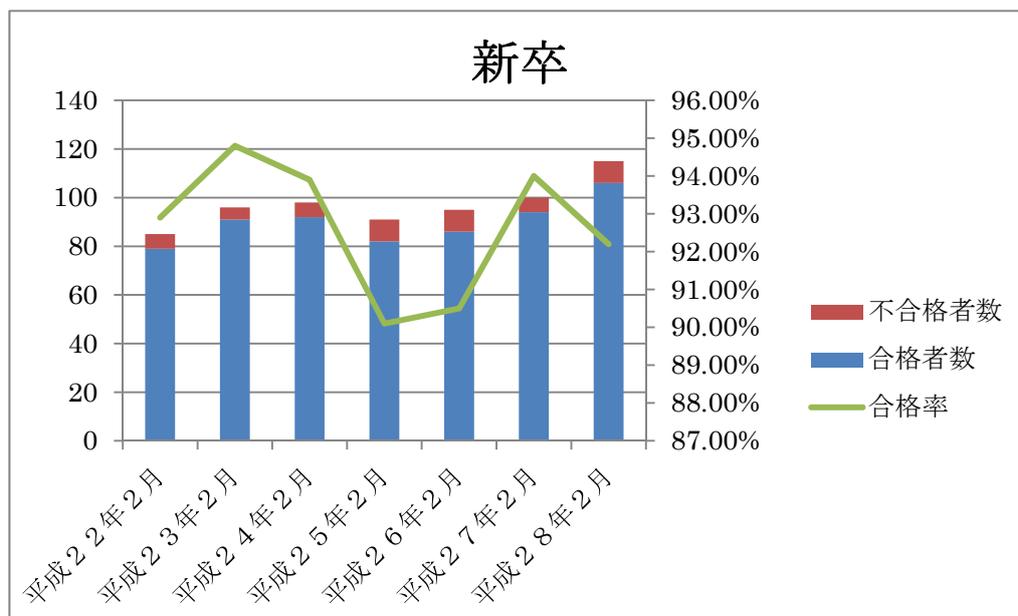
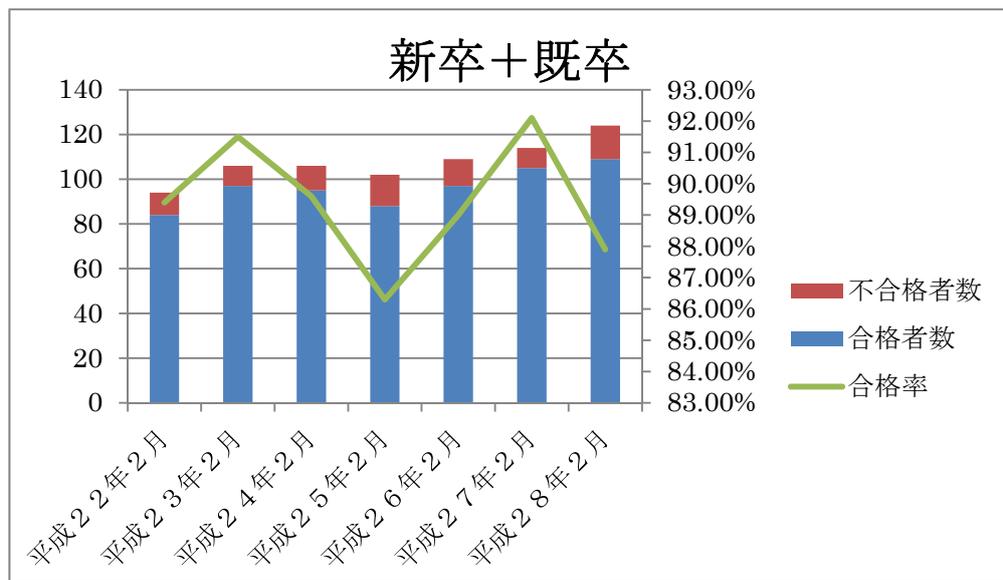


(出典：医学部作成)

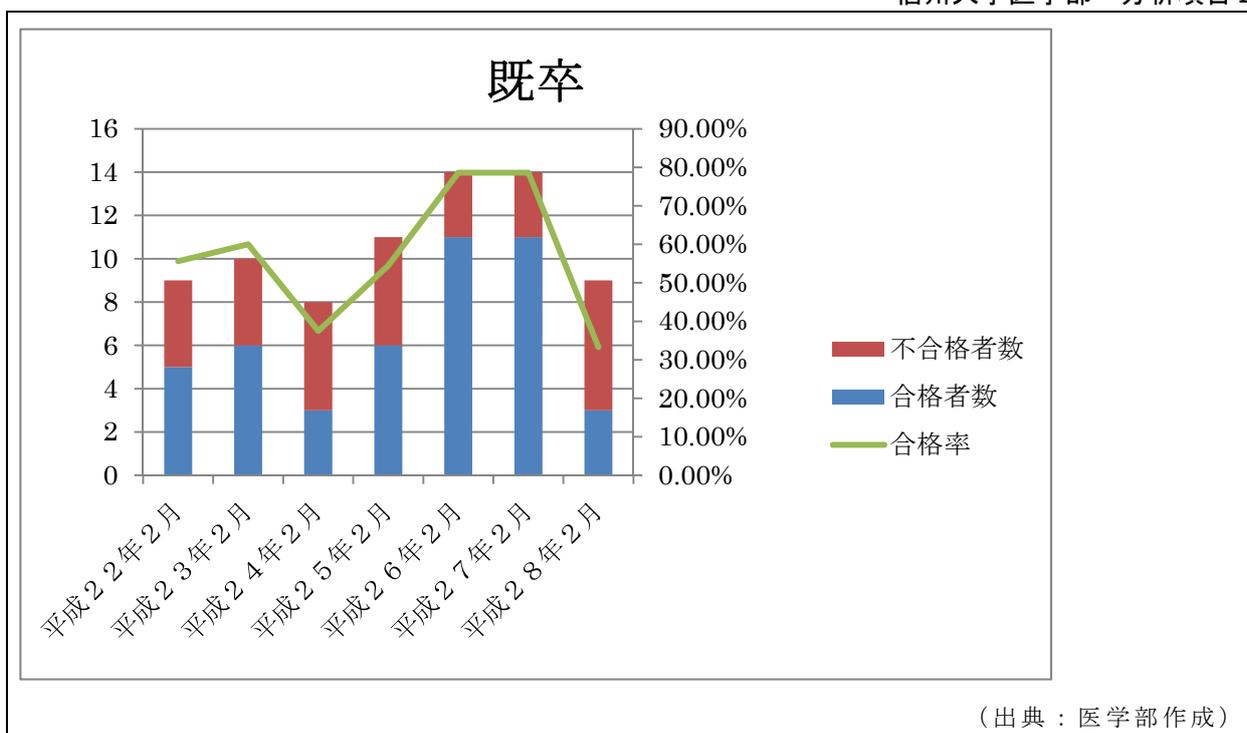
②医師国家試験合格率

(資料医123)

資料医123 医師国家試験合格率の推移



(次頁に続く)



③看護師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士，助産師，保健師の国家試験合格率（資料医124）

資料医124 看護師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士，助産師，保健師国家試験合格率

年度別国家試験合格状況 【信州大学医学部保健学科】

専攻	卒業年度 国家試験種別	平成21年度 (平成22年3月卒業)		平成22年度 (平成23年3月卒業)		平成23年度 (平成24年3月卒業)		平成24年度 (平成25年3月卒業)		平成25年度 (平成26年3月卒業)		平成26年度 (平成27年3月卒業)		平成27年度 (平成28年3月卒業)	
		志願者数	合格者数												
看護学専攻	看護師	志願者数	63	志願者数	68	志願者数	64	志願者数	75	志願者数	70	志願者数	71	志願者数	70
		受験者数	63	受験者数	68	受験者数	64	受験者数	75	受験者数	70	受験者数	71	受験者数	70
		合格者数	63	合格者数	68	合格者数	63	合格者数	72	合格者数	68	合格者数	69	合格者数	69
		合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	98.4%	合格率	96.0%	合格率	97.1%	合格率	97.2%	合格率	98.6%
	全国平均合格率	89.9%		91.8%		90.1%		88.8%		89.6%		90.0%		89.4%	
	保健師	志願者数	71	志願者数	78	志願者数	71	志願者数	81	志願者数	81	志願者数	82	志願者数	24
受験者数		71	受験者数	78	受験者数	71	受験者数	80	受験者数	81	受験者数	82	受験者数	24	
合格者数		71	合格者数	77	合格者数	69	合格者数	80	合格者数	75	合格者数	82	合格者数	24	
合格率		100.0%	合格率	98.7%	合格率	97.2%	合格率	100.0%	合格率	92.6%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	
全国平均合格率	86.6%		86.3%		86.0%		96.0%		86.5%		88.4%		89.8%		
助産師	志願者数	21	志願者数	18	志願者数	19	志願者数	19	志願者数	19	志願者数	20	志願者数	19	
	受験者数	21	受験者数	18	受験者数	19	受験者数	19	受験者数	19	受験者数	20	受験者数	19	
	合格者数	20	合格者数	18	合格者数	19	合格者数	19	合格者数	19	合格者数	20	合格者数	19	
	合格率	95.2%	合格率	100.0%											
全国平均合格率	83.1%		98.2%		95.0%		98.1%		96.9%		99.9%		99.9%		
科検査技師専攻	臨床検査技師	志願者数	40	志願者数	32	志願者数	33	志願者数	35	志願者数	30	志願者数	37	志願者数	41
		受験者数	40	受験者数	32	受験者数	33	受験者数	35	受験者数	39	受験者数	37	受験者数	41
		合格者数	36	合格者数	32	合格者数	33	合格者数	35	合格者数	38	合格者数	37	合格者数	41
		合格率	90.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	97.4%	合格率	100.0%	合格率	100.0%
全国平均合格率	67.0%		67.0%		75.4%		77.2%		81.2%		82.1%		87.4%		
理学療法士専攻	理学療法士	志願者数	21	志願者数	15	志願者数	18	志願者数	21	志願者数	16	志願者数	21	志願者数	17
		受験者数	21	受験者数	15	受験者数	18	受験者数	21	受験者数	16	受験者数	21	受験者数	17
		合格者数	19	合格者数	15	合格者数	18	合格者数	21	合格者数	16	合格者数	21	合格者数	17
		合格率	90.5%	合格率	100.0%										
全国平均合格率	92.6%		74.3%		82.4%		88.6%		83.7%		82.7%		74.1%		
作業療法士専攻	作業療法士	志願者数	17	志願者数	17	志願者数	19	志願者数	17	志願者数	21	志願者数	20	志願者数	17
		受験者数	17	受験者数	17	受験者数	19	受験者数	17	受験者数	21	受験者数	20	受験者数	17
		合格者数	17	合格者数	17	合格者数	18	合格者数	17	合格者数	21	合格者数	20	合格者数	17
		合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	94.7%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%
全国平均合格率	82.2%		71.0%		79.7%		77.3%		86.6%		77.5%		87.6%		
合計	志願者数	233	志願者数	228	志願者数	224	志願者数	248	志願者数	246	志願者数	251	志願者数	188	
	受験者数	233	受験者数	228	受験者数	224	受験者数	247	受験者数	246	受験者数	251	受験者数	188	
	合格者数	226	合格者数	227	合格者数	220	合格者数	244	合格者数	237	合格者数	249	合格者数	187	
	合格率	97.0%	合格率	99.6%	合格率	98.2%	合格率	98.8%	合格率	96.3%	合格率	99.2%	合格率	99.5%	

(出典：医学部作成)

(3) 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果

① 医学科

①-1 卒業時の学生アンケート調査（平成27年度）

結果を医学教育研修センター医学教育会議及び教授会に報告し、教育活動全般についての検証に利用。（資料医125）

資料医125 学生アンケート調査
平成27年度（抜粋）

H27 医学教育についてのアンケート 6年

Q1. 講義は満足の中のものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	22	19%
b. おおむね満足	74	65%
c. やや不満足	14	12%
d. 不満足	4	4%
	114	100%

- ・ 循内のように教科書をつくるべきだと思う。
- ・ スライドが見にくかった。スクリーン of 文字を大きくするか、プロジェクターの質を上げてほしい。
- ・ ユニット講義，系統講義に関しては，国試を意識した内容も取り入れ始めていて良かったが，研究内容に絞った講義は意義を感じなかった。また，基礎系の科目に関しては特に顕著だった。
- ・ 卒試直前の授業は良かった。
- ・ もう少し卒試に沿った内容が良かったな，とおもった科がいくつかあった。
- ・ 教科書的な内容から先進的な内容まで(国試以上の内容まで)学ぶことができた。できれば，先ず国試までの内容を一通り科目勉強して試験をし，その後，さらに上積みの勉強をするように2段階に講義を分けてほしい。
- ・ 授業スライドがよくまとまっているものもあった。
- ・ この時期に網羅的に知識を深め，すぐ試験でアウトプットできたので，非常に効率よく勉強できたと思う。
- ・ 卒試前にただ過去の国家試験の解説をするだけの授業は止めていただきたい。
- ・ レジュメのどこを覚えていいのかわからない。
- ・ 内容が充実している科としていない科に差があった。
- ・ プリント(スライド)は医局側で準備して下さい。
- ・ 先生にもよりますが，講義資料の印刷が金額的に負担になる，アップロードが授業直前のところもあり不便，という点から，なるべく資料は配布してほしいと思いました。
- ・ 何がわかるかわからなかったので，自己学習はできつつも，一回中間テストをしてその結果で面談をするようにすればいいと思います。落ちるときは落ちるけど，自分のやり方がしっかりできる環境がいいです。
- ・ もう少しポイントを絞ってほしかった。
- ・ 概ね国試か卒試に有用でしたが，系統だった講義になるようにより周知してもらいたいです。

Q2. 選択臨床実習は満足のゆくのものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	34	30%
b. おおむね満足	74	65%
c. やや不満足	5	4%
d. 不満足	1	1%
	114	100%

- ・ 私達の実習，内容，期間ともに，だいたい満足であったが，1つ下の学年のようにむやみに実習期間を増やしても意味がないと思う。
- ・ 希望する実習先に行けないこともあった。
- ・ 行きたい科に行くことができて良かった。
- ・ 指導医の教える気，やる気が異なるために，質問しても響かない先生がいる。
- ・ 学外は交通費がいる。学内で全員実習できるようにすべき。
- ・ ただ見学しても身に入らない。やれることを与えてほしくはあります。あと，質問に対してなにが問題か考えさせてください。目的を持たない学生は時間の無駄づかいして，勉強時間が無くなります。
- ・ もっといろいろと手技や診察などをやらせてもらいたい。

Q3. 臨床実習終了後 OSCE は満足のゆくものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	25	22%
b. おおむね満足	65	57%
c. やや不満足	20	18%
d. 不満足	4	4%
	114	100%

- ・ もっと増やしてほしい。
- ・ どのような備品があるのか具体的に提示してほしい。試験中は緊張しているので，目の前にある舌圧子すら気づきませんでした。臨床に出る前の最終チェックとしてよかった。
- ・ 評価点がわからず，練習が無く，また，当日やり忘れてしまうことが多かった。
- ・ 具体的な例，採点項目等を説明していただきかたかった。
- ・ 落ちるべき人が落ちていない。実習で現場の先生方に不満を言われている人がいた。
- ・ 実習の前準備の機会としてよかった。
- ・ 1回でも講義が有ればよかった。
- ・ 将来良い医師になるためにどこが悪かったのかを指摘してほしかったです。
- ・ 本番で道具の置いてある位置くらいは事前情報としてほしかったです。
- ・ 試験がどのようなものか詳しく説明してほしかった。
- ・ 簡単すぎる。
- ・ 4年次の OSCE と比較して試験情報が圧倒的に少なかった。アドクリ期間中，学生が大学に集まる機会が少なかったので，説明する時間があまりなく，仕方なかったのかもしれないが。
- ・ 時期として，卒試が全て終わった後の方が知識が整理されてより勉強するのではないかと，思った。
- ・ 採点基準の例を見せてほしかった。

Q4.外病院の実習で感じたこと、ご意見はありますか。

- ・ 個別指導していただけるのでとても有意義だった。各病院の負担は大きいと思うが、ポリクリの時から回れるといいと思った。
- ・ 交通費の補助か、平等になるような仕組みがあると良い。
- ・ 外病院は大学病院よりも忙しいと感じた。
- ・ 同じ科の実習で行っても、学生でやれることに差があるのは問題。ただ、概ね実習内容は満足している。
- ・ 実践的なことができた。チームとしての関わりができた。
- ・ 場所が遠すぎるところは適切ではない。
- ・ 車がないと行きづらい病院は大変だった。
- ・ 外病院は多くの手技が経験できてよかった。
- ・ 雪の時期に行かせるのは危険だと思う。
- ・ 大学病院と違った雰囲気刺激になった。
- ・ 先生方が丁寧で良かった。
- ・ 研修医、医学生向けの勉強会が頻繁に行われている病院があり、それが研修医、医学生の立場に落とし込んだ内容でもあったので、非常に面白く、モチベーションが上がった。
- ・ 指導医の先生方には丁寧に教えていただき、勉強になった。先生と食事をする機会も多く、よくしていただいた。
- ・ 真冬の運転は事故の危険性も高いので往復は負担となる。
- ・ とても充実していた。
- ・ 大学と違う雰囲気でおもしろかった。
- ・ 大学の実習より良かった。
- ・ 良くしていただいて大変感謝している。

Q5.勉強する意欲を感じる時はどんな時ですか。(複数回答)

	回答数	%
a. 試験合格に必要と感じたとき	98	36%
b. 科目・領域に興味を持った時	65	24%
c. 担当教員の人柄に共鳴した時	31	11%
d. 興味深い症例の時	24	9%
e. 理解できない症例・病態に出会った時	21	8%
f. 同級生の理解度が明らかに自分より進んでいる時	34	12%
g. その他	3	1%
	276	100%

「g.その他」の記載。

- ・ ドラマとかを観たとき。

Q6.ベストティーチャー賞を与えるとすればどなたを選びますか。

氏名	教室名	票数	理由
花岡先生	内科学第一	6	アドクリ時に大変お世話になった。学生教育にとっても熱心な先生だと思った。 教授になられてからも熱心に学生の指導をして下さる。 丁寧で優しくかった。憧れる。 ポリクリで丁寧に教えていただいた。 臨床実習の指導が熱心。
角谷先生	画像医学	5	好きだから。 学生一人一人の名前を覚えてくれる。 講義がわかりやすかった。
多田先生	医学教育学	5	教育の中心となって指導して下さいました。 医学教育でお世話になった。 6年間お世話になりました。 しょうもない学生も見放さず育てようとしてくださる寛大さ。
小池先生	小児医学	4	質問をいっぱいしていただいて、勉強になった。 他の先生と違う熱意を感じたから。 熱心に指導して下さいました。 授業がわかり易い。熱意が伝わってきて、やる気が起きた。
加藤先生	運動機能学	4	実習で大変お世話になった。 直前授業が良かった。(同意見有) 卒試前授業が神憑っていた。
駒津先生	第四内科	3	わかり易い授業と説明。患者の気持ちに沿った言葉遣い。 疫学、病態生理、症状、さらには大規模臨床研究の結果の解釈まで、非常にわかり易く聴きやすいスピードで話して下さいました。そればかりでなく、職場目線に立ったDM患者教育の大切さなどのお話も交え、心躍るレクチャーでした。
池田先生	内科学第五	3	試験の難易度が適切。 回診やレクチャーがわかりやすかった。
村田先生	眼科学	3	試験は難しかったが、授業は大切なことを覚えることができた。 内容がわかりやすく、学生に当てたりして勉強になった。
上田先生	画像医学	3	画像の読み方を理論的に学習できた。 自分の頭で考える授業だった。
鷲塚先生	精神学	2	わかり易い授業と説明。患者の気持ちに沿った言葉遣い。 学生の自主性を大切にして下さいました。
川眞田先生	麻酔蘇生学	2	医学の基礎知識に加え、医療の将来像まで考えさせられる講義だった。
横田先生	第四内科	1	実習でお世話になった。
杠先生	形成再建外科学	1	アドクリで大変お世話になった。
上條先生	(教室無記入)	1	1回の授業で理解度を確認しながら進めてくれるので良かった。

佐々木先生	組織発生学	1	アドクリで組織発生学を選んだとき、自主性を重んじてもらえた。必要な解剖学的知識を親切に教えていただき、勉強になった。
漆畑先生	内科学第一	1	おもしろくて、確実な先生だから。
田中榮司先生	内科学第二	1	熱意のあるご指導。
塩沢先生	産科婦人科学	1	
細田先生	第一外科	1	すごく丁寧に面倒を見てくれて、糸結びもすごく教えてくださった。
高橋先生	画像医学	1	お世話になりました。
宮川先生	第一外科	1	かっこよかった。
杉山先生	麻酔蘇生学	1	生理学から丁寧に指導いただくことができた。麻酔科に興味を持つことができた。
上田和彦先生	画像医学	1	
黒川先生	医学教育	1	よく話かけてくださる。
竹下先生	免疫・微生物学	1	
奥山先生	皮膚科学	1	話がとてもおもしろかった。

Q7.信州大学をよりよくする上で、どのようにすればよいか提言はありますか。

- ・ 1年生で英語の教科書を読むのに、その後、一切英語の本を読む機会が無いのはもったいない。
- ・ 成績の悪い学生は強制的に親に連絡するようにすればモチベーションが保たれるかもしれない。親のため、と思えば、頑張れるものだと実感している。
- ・ 基礎(研究)で何をしているのかもっと触れる機会を、講義などにも盛り込むと良いと思う。
- ・ 6年生の試験が移行期にあると思うので、学生の意見を反映しつつ、前年度とどのように変わったのかを周知する必要があると思う。進級に関わるような大学の決定は、学生が理不尽に感じないように十分に理にかなった説明をしてほしいと思う。
- ・ レジュメのどこを覚えていいかわからない。印かなにかつけてほしい。レジュメの最後にその分野の問題、Q&Aをつけるのも良いかもしれない。基礎医学でもネット講座を推奨してはどうか。
- ・ 全ての科目で試験に関する問題と解答を提示するべき。学生が不十分な理解をして、間違った知識を得ている。
- ・ フォーマット化できるものは全てすべき。例えば、ソフトバンクではプレゼンのパワーポイントのフォーマットが存在し、強調すべき点や流れが決まっており、時間短縮や効率化に力を発揮している。なので、臨床実習のプレゼン、レポートなどのフォーマットを作成すると思う。
- ・ 卒試には卒試の勉強を必要とし、必然的に国試への対策の移行が遅れる。卒試の期間を縮めたり、国試対策の時間として時間をとったりしてはいかがか。
- ・ 追試験がないのは厳しいです。
- ・ 低学年における基礎科目の負担を減らす。記述試験はじめ、国家試験、一般的業務の医師の範囲を逸脱した負荷と進級問題があり、モチベーションが削がれます。
- ・ 国試とかけ離れた難易度、内容の卒試を行う科は直した方がいいと思う。

- ・ テストをもっと国試に沿ったものにすべき。テスト期間よりも実習期間を伸ばした方が良い。
- ・ 模試を進級判定の要素に取り入れたりすれば、国試の合格率が上がる。
- ・ グループで使える自習室があっても良いと思う。卒試前講義は良かった。大学で模試をやってくれるのも勉強の良い機会となった。各試験の合否判定がやや甘い。もう少し厳しくしてもいい。部活動をもっと多彩に。学内の中心に駐車場があり、路上駐車があるのもおかし
- い。
- ・ 試験問題を回収するのは良いが、せめて医局から模範解答を示してほしい。理解している問題は合うかもしれないが、間違いはそのままになり意味がない。間違いを指摘されるとそこから自己学習が可能になると思う。
- ・ 実習の時間を17時までとしてほしい。卒試の期間をもっと短く。他大学は1ヶ月が多いと聞く。国試の勉強にはQBやTECOMが必要。しかし卒試はQBやTECOMでは解けない。このギャップを何とかしてほしい。
- ・ テストの公式解答の見直しは、より理解を深めるために必要だと思う。
- ・ 6年生の自習室をもっときれいにしてください。
- ・ 統計の授業を受けられるようにしてほしい。
- ・ 病態生理などを結局、国試の勉強にて初めて知ることが多かった。教育の一体感を作れると良い気がする。
- ・ もっと、他大学が勉強を頑張っている様子を教えるべきだと思う。
- ・ 部活動を頑張っている人をもう少し認めてほしい。
- ・ もっと自由な教育を。
- ・ とても良い大学生活を送ることができたが、メリハリをつけたカリキュラムを望みます。
- ・ 進級はそんなに厳しくしなくていいと思います。
- ・ 長期のテストは賛成。理由は1科目ごとにじっくりと復習できるから。
- ・ 臨床の授業はもっと学生を当てるようにすると退屈にもならないし、思考力も身につくのではないかと思う。
- ・ 5年次進級に、国試108回を一通り勉強できたのは良かった。国試にもっと早くから取り組める機会があるといいかもしれない。
- ・ 語学系の授業、専門の授業が不足しているような気がする。
- ・ 結局勉強もすごくしなきゃだけど、それと同時に学生時代を思い返して残るのは勉強以外で頑張ったこと。これがなかったら、自分は医師の時も頑張れないと思う。自分の場合は部活ですが、勉強と頑張れる何かを得られるカリキュラムにしてください。

以上

(出典：医学部作成)

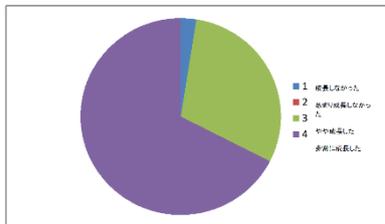
①-2 父母会開催時に実施した保護者アンケート調査
(資料医126)

資料医126 保護者アンケート調査

平成26年度の6年次生保護者に対するアンケート調査結果を示す。

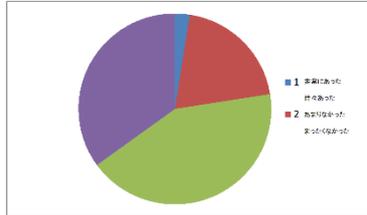
卒業予定者の父母に対するアンケート調査

○あなたのお子さんは人間的に成長したと思いますか。



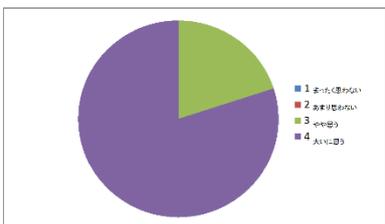
(ご意見)
 ・とても成長させて頂きました。
 ・読書量が増えました。
 ・たくましくなりました。
 ・進歩等いろいろ経験したようです。
 ・友人関係を大切にできた。職責を離れ自己責任でなんでもできたと思います。
 ・1人で生活する能力が身に付いたと思います。
 ・沢山の先生方、仲間を支えられ大きく成長できたと思います。

○信州大学在学中に、お子さんの人間関係で心配することはありましたか。



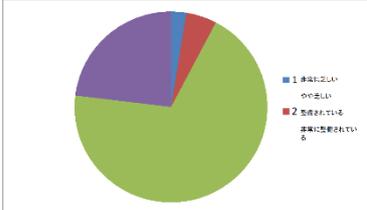
(ご意見)
 ・(人間関係)とても良かったです。これからの宝物になるでしょう。
 ・少ない人数の中で孤立感を良く味わったようです。
 ・1年の時から友達が出来て良かった。
 ・とても楽しい1年間だったと喜んでおります。
 ・クラブでの上下関係
 ・父母会があったおかげで親も改めて大学の進かきを感じさせていただけました。これからは長年の、日本の医療にお役にたてる様に成長していかれることを祈っております。大変ありがとうございました。
 ・ほとんどのことが上手に。今への努力が実ったので、でも変わらず、悩んでいる様子もなかったことは良かったのでしよう。

○あなたのお子さんの成長に、信州大学は良い影響を与えたと思いますか。



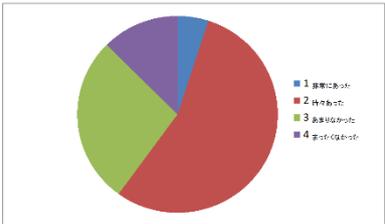
(ご意見)
 ・一人暮らし、友人関係
 ・良い点悪い点を含め、人生の勉強になったと思います。
 ・自然がいっぱいで良かったです。
 ・お友達、先生、自然環境。
 ・信大はとても良かったいです！

○信州大学の設備面に対する印象はいかがですか。



(ご意見)
 ・よくわかりません。(2件)
 ・よくわかりませんが、病院が新しくなり整備されていると思います。
 ・入学後、新しくなりラッキーでした。
 ・図書館が貧弱。
 ・24時間問題の図書館が有難かったです。

○信州大学在学中に、お子さんの生活面で心配することはありましたか。



(ご意見)
 ・1年生の時に心配していた。
 ・いきなりの1人暮らしは親として非常に心配でした。
 ・1人で生活しているので、食事面が心配でした。
 ・2年の時に1度
 ・新型インフルエンザが流行ったとき、タミフルの服用、1人で表でなければならぬ等心配でした。
 ・ほとんど話をしないので色々あったのかも知れませんが、問題を起こすこともなく過ごせたように思います。
 ・健康面

○その他、ご意見がございましたらご記入ください

- ・6年間ありがとうございました。信州大学で学ばせていただき、とても感謝しています。
- ・6年間大変お世話になりました。(2件)
- ・勝手に国に受かりました！お世話になりました。今後ともよろしくお願ひします。松本城や美術館や色々観光地をまわり楽しく観るもふるとに帰って来た気分になりました。ありがとうございました。
- ・自立して、実習した学生生活を送ることができました。有難うございました。
- ・ありがとうございました。
- ・信大の6年間は親としても大変感謝です。
- ・地方大学の良い面をたくさん持っている大学だと思っています。
- ・大変お世話になりました。息子は信州と他のマッピングで悩まされた。良い所です、よく立ち寄りた所良かったです。
- ・父母会があったことで大変助かりました。皆様と楽しくでき、良かったです。今後ともよろしくお願ひ致します。
- ・父母会と1学期始まる1学期ありがとうございました。信州に来る機会を助けて下さり、皆様のお話を聞いてとても勉強になりました。
- ・大変お世話になりました。
- ・素晴らしい長寿の奥であり、地域医療が充実している信州大学で学べたことは本当に良かったと思っています。又、父母会のある大学は他にはあまり無いことがなく、入学当初より見学させて頂き、内容が分かりやすく感謝しています。ありがとうございました。
- ・楽しい16年間を過ごした大学生活でした。良い思い出が沢山あります。良い大学です。大学らしい大学であると思います。
- ・先生方の国際社会標準向上、病院の個性化への取り組みは素晴らしいと思いました。これからはもっとお願ひ致します。
- ・父母会で大学の先生から直接説明を聞くことというところが良かったと感じられました。この上なくご多忙中、時間を割いていただき本当に有難うございました。
- ・大変お世話になりました。私にも子供にも感謝の気持ちです。ありがとうございました。
- ・バテバテの警戒などすめられ、大変感謝したいと思います。
- ・いろいろと親方を助けていただきましたが、信州大学として自然に育てられ、成長する姿は嬉しいです。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・6年間ありがとうございました。のびのびと過ごせた様ですが、親としてはもう少し国試対策を充実させて欲しいです。
- ・保護者会が1年の集まりでした。これで皆様とお会いできなくなるのが残念です。

(出典：医学部作成)

①-3 模擬患者ボランティアの学生評価

ここ数年，学生のコミュニケーション能力や態度の点で顕著な向上がみられる。（資料医127, 128）

資料医127 ボランティア（SP）からの学生評価

医療面接 模擬患者用

A.患者さんへの配慮	H25 106名	H26 111名	H27 114名
1 マナーや態度は、適切でしたか？			
はい	88	103	107
その中間	18	8	7
いいえ	0	0	0
2 服装や頭髪は清潔感がありましたか？			
はい	96	102	104
その中間	9	9	10
いいえ	1	0	0
3 話をよく聴いてもらったと思いますか？			
はい	58	57	85
その中間	42	52	29
いいえ	6	2	0
4 あなたの話は正確に理解されたと思いますか？			
はい	63	66	81
その中間	42	42	32
いいえ	1	3	1
5 わかりやすい言葉づかいでしたか？			
はい	85	101	104
その中間	21	10	10
いいえ	0	0	0
概略評価			
6	5	15	15
5	61	53	84
4	34	35	14
3	6	2	1
2	0	0	0
1	0	0	0

（出典：医学部作成）

資料医128 ボランティアのアンケート調査（主な意見）

SP 研究会(OSCE 反省会)

日時：平成 26 年 9 月 29 日（月）15:00～16:00
 場所：附属病院外来棟 5F ソレイユ
 出席：信州 SP 研究会 17 名
 医学教育センター(多田・森・黒川・清水)

SP 会員からの意見

- ・ 先生方の指導が生かされていたと思う。
- ・ 学生が良く勉強して臨んだと感じた。
- ・ 「1日の生活時間を教えてください」と質問され、回答に困った。
- ・ 「運動はしていますか?」、「きっかけは何だと思えますか?」の質問がなく残念だった。
- ・ 「5W1H」に関する質問が少なく、残念だった。
- ・ 男子学生はテンポも速く聞き取りやすかった、女子学生は質問が例年より多い、と感じた。
- ・ シナリオ通りの学生はもちろん素晴らしいが、シナリオに関係ないことでも、親身になっていろいろな角度から質問する学生がいて、将来が楽しみだ。こういう学生を評価する方法がなく残念に思う。
- ・ Advanced OSCE の時は、1人で続け何人もの学生を相手にするが、OSCE は休憩時間もあり、余裕をもってできる。
- ・ SP 会員個人個人のレベルを一定に保つことと、SP 自身の自己学習も大事だと感じた。

来年度の検討点

- ・ SP 控室と学生控室が隣であったため、SP 同士の打ち合わせがしづらかった。控室は離してほしい。
- ・ カメラを用意して、控室でモニタリングできるようにすれば、SP1名分のスペースが減らせるのではないか。
- ・ 模擬の時に同じメンバーの組み合わせが続くと馴れ合いになってしまう。違うメンバーの組み合わせとなるようにした方がよい。
- ・ 来年以降は、Advanced OSCE が7月で、OSCE が9月となる。7月が終わり次第、すぐに9月の練習ができるように準備したい。

以上

(出典：医学部作成)

②保健学科

②-1 卒業時点での教育内容・教育環境に関する満足度調査

全専攻卒業時に調査（資料医129）を行い、教育内容の改善に活かしている。看護学専攻においては、同時に看護実践能力の到達度調査（資料医130,131）を実施。

資料医129 学生による卒業時満足度調査

	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
配付数	82	37	23	20	162
回収数	80	34	21	20	155
回収率	97.6%	91.9%	91.3%	100.0%	95.7%

対象:医学部保健学科4年生

実施時期:平成27年3月

①それぞれの専攻における専門教育の授業は、総合的にみて、満足のいくものでしたか	5.満足	4.概ね満足	3.どちらともいえない	2.やや不満足	1.不満足	計
看護学専攻	18 22.78%	54 68.35%	7 8.86%	0 0.00%	0 0.00%	79 100.00%
検査技術科学専攻	15 44.12%	16 47.06%	3 8.82%	0 0.00%	0 0.00%	34 100.00%
理学療法学専攻	11 52.38%	9 42.86%	1 4.76%	0 0.00%	0 0.00%	21 100.00%
作業療法学専攻	6 30.00%	14 70.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	20 100.00%

無回答1

※2.1の方は、その理由を、次に具体的に記入してください

- ・学びを深めることができた
- ・実習の際、役立った (4.5の感想)

②4年間の教育を振り返って、提言がありましたら自由に記入してください

- ・1.2年で詰め込みすぎ
- ・授業の教え方にバラつきがあった
- ・当日の朝に「本日5限があります」とメールで急に連絡されたり、試験の1時間前に講義室の変更があったりしたので、できるだけ早く連絡してほしい
- ・もっと有意義なテスト勉強をしたかった。忙しすぎた
- ・実習がすごく実習していて座学では得られないものを得ることができた
- ・忙しかった！！
- ・専門的な領域について、楽しく学ぶことができたと思う
- ・実習終了から研究までの期間が短すぎるように感じた
- ・新入生ゼミ、4年次の医学科合同ゼミは失敗だったのではないかと思います
- ・実習中に車が使用できないと非常に不便でした
- ・ディスカッションの時間ももっとあってもいいと思いました
- ・実習と就活がかなり、少し忙しい時があった。そのあたりのカリキュラムを考えていただけるとありがたいです。
- ・実技練習の機会が増えると良いと思われる
- ・研究スペースや器械がもう少しあると良い
- ・実習中における車の使用は医学科では認められている以上、保健学科でも許可しても良いのではないかと考えます
- ・実習が長くつらかった
- ・“大学レベルの授業”ということで論理的な授業が多かったと思うが、もっと実践的な授業をしてほしかった
- ・座学だけでなく、実習科目を通して学ぶことがとても多かったです。解剖実習は養成校でもやっていない学校も多いのでできてよかった
- ・1.2年の間は臨床の場に触れる経験が少なく、リアリティにかけると感じる授業もありました。現在は見学実習を行っているとはいえ、実際に1人1人のOTについてまわる経験ができればより授業への意欲が向上すると思います
- ・基礎的な知識から応用的な知識まで幅広い授業を受けることができ、とても良かったと思います。ただ、実習等、もっと対象者に関わる機会があれば良かったと思います。
- ・学年が上がるにつれて、勉強が大変だったが、有意義に過ごせたと思う
- ・教員の確保やカリキュラムの都合のこともありますが、3年次に実施する評価学実習の回数や期間を多くとももらいたかったです(数少ない実習しかこなしておらず、長期実習へ行くので不安が大きかったです)
- ・テストは国試形式の方が良い
- ・医用工学がムズカしかったです

(次頁に続く)

③学習環境(設備・施設を含む)は、満足のものでしたか	5.満足	4.概ね満足	3.どちらともいえない	2.やや不満足	1.不満足	計
看護学専攻	7 8.97%	38 48.72%	23 29.49%	9 11.54%	1 1.28%	78 100.00%
検査技術科学専攻	9 26.47%	18 52.94%	5 14.71%	1 2.94%	1 2.94%	34 100.00%
理学療法学専攻	0 0.00%	8 38.10%	8 38.10%	5 23.81%	0 0.00%	21 100.00%
作業療法学専攻	3 15.00%	10 50.00%	5 25.00%	2 10.00%	0 0.00%	20 100.00%

無回答2

※2.1の方はその理由を、次に具体的に記入してください

- ・自習施設がほしい(9)
- ・キャスター付の机の中に、ストッパーがかけにくいorかからないものがあります
- ・授業中に動く大変なので、よろしくお願いします
- ・医学部図書館の空調が悪い、パソコン台数が少ない
- ・設備が古い
- ・医学部図書館内での私語が多い人がいる。勉強に集中できなかった。談話室を設置するか、注意喚起徹底してほしい
- ・工事で自主学習スペースが限られていた
- ・古い。医図書を1年生でも24時間使えるようにしてほしい
- ・医図書の席取禁止を強化、夏虫が入ってこないよう工夫などしてほしい
- ・図書館(中央)が使えない時期があっかわる勉強場所がなかった
- ・教室が狭かった。もう少し広い方がゆったり勉強できたと思う
- ・建て替え等で移動が少々大変でした
- ・保健学科棟が21時以降使用できないこと
- ・診断訓練実習で自主学習をしていると、全く話をしていなくても作業療法学専攻の先生に出るよう促されたことが残念でした
- ・保健学科用の自習室がなくなってしまったため、勉強スペースがなくなってしまった
- ・土、日、祝日にも校舎をあけてほしい
- ・4年次に学習室が改修中だったので少し困りました
- ・自習室として使用できる教室が少ない
- ・図書館等の自己学習スペースが不足している
- ・保健学科図書館が途中で無くなったのが不便であった
- ・耐震
- ・工事中の所(図書館)

④信州大学医学部保健学科をより良くする上で、提言があれば自由に記入してください

- ・物品が古い
- ・臨床経験豊富な先生に教わりたい
- ・レジュメで授業テストを行うのに、不要な本の強制購入はやめてほしい(10万くらい無駄になりました)
- ・校舎が建てなおして使えず、すごく不便だった。配慮してほしい
- ・建てかえの時期だったのでなかなか騒音がすごかったですが、快適でした
- ・保健学科なのに、更衣室やりんでん、教室がきたない
- ・自習室の充実
- ・21:00までしか校舎を利用できないことを改善してほしい
- ・校舎に入れる時間を増やしてほしい(特に夜間)
- ・りんでんの営業時間の拡大
- ・カリキュラムの変更があり、先輩方からあまり情報がきけなくて大変なこともありました
- ・他の専攻の学生たちと関われる機会がチーム医療以外でもっとあればと思います
- ・自販機が南校舎にもあったら良い
- ・りんでんと教室との間に壁がほしいです(つい立)。311で授業中にりんでんで話し合いをしていたら注意されてしまったので、壁があれば少しは防音になると思います。外につながる自動ドアが開くと寒い(冬は)のも少しはましになると思います

(出典：医学部作成)

資料医 130 卒業時到達度調査（看護学専攻）

報告書から抜粋

IV. 方法**1. 調査月日**

平成 26 (2014)年 12 月 9 日～平成 26(2014)年 12 月 22 日

2. 調査場所

旭研究棟 8 階講義室

3. 調査対象

看護学専攻 4 年生のうち、編入生を除く卒業見込みの学生 72 名

4. 調査方法

無記名自記式調査を実施した。

到達目標ワーキンググループメンバー（以下、WG）が、調査の趣旨、方法、倫理的配慮について、調査依頼文「看護実践能力到達度に関する調査への協力をお願い」を用いて口頭で説明し、調査用紙を一斉に配布した。

調査用紙の回収は、調査の説明を行った教室内に設置した回収箱に投函するよう依頼した。また当日投函できない場合は、学務第 2 係前のレポートボックスへの投函を依頼した。

5. 倫理的配慮

調査依頼時に、口頭および文書により、本調査が卒業時の実践能力到達度を評価し今後の教育の資料とする目的であること、調査への参加は自由意志であり、調査の協力は成績等個人の評価に一切関係しないこと、回収は回収箱への個別投函であることを説明した。

6. 調査内容と分析方法**1) 調査項目**

調査用紙は、平成 21 年度より改訂カリキュラム内容を反映した、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」の「卒業時の到達目標」（5 群、到達目標 20 項目、学習成果 202 項目）を参考として作成した（資料 1、出典：日本看護系大学協議会 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」）。

調査項目については、学生が意図を誤って解釈する可能性のある表現について、ワーキングメンバーで検討し、昨年度のⅡ群 4) ⑤『健康に関連した事象を説明するために基本的な疫学や保健統計資料を活用できる』の修正に加え、今年度は「査定(Assessment)」と表現している項目について、(Assessment)を削除し、「査定」として統一した。

2) 回答形式

各質問項目について、調査現在の状態について「よくできる」「まあまあできる」「あまりできない」「できない」の 4 件法により回答を求めた。

3) 分析方法

回答について「よくできる」4 点、「まあまあできる」3 点、「あまりできない」2 点、「できない」1 点と数値化し、学習成果 202 項目の回答の分布、平均得点、標準偏差を算出し、到達目標 20 項目、5 群各群についても平均点を算出した。

資料医 131 看護実践力到達度に関する調査

資料 1 看護実践能力到達度に関する調査 2014 年度

下表に示した卒業時の到達目標について、あなたは現時点でどの程度できますか。
 目標ごとに示した学習成果について、4(よくできる)、3(まあまあできる)、2(あまりできない)、1(できない)の中から、最も近いものを1つ選んで○を記載してください。

卒業時の到達目標	学習成果	4 で よ く で き る	3 で ま あ ま あ で き る	2 で あ ま り で き な い	1 で き な い
I 群: ヒューマンケアの基本に関する実践能力					
1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	①看護の視点から人間について総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	②人間のライフサイクルと発達について説明できる。	4	3	2	1
	③健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	④社会と健康、文化と健康の関連を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	⑤多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。	4	3	2	1
	⑥基本的人権の尊重、患者の権利及び権利擁護について説明できる。	4	3	2	1
	⑦患者の権利、プライバシーや情報の保護に配慮した看護の在り方を説明できる。	4	3	2	1
	⑧看護職の倫理規定や看護実践に関わる倫理の原則を理解し、遵守できる。	4	3	2	1
	⑨看護の対象となる人々の権利を尊重し、その擁護に向けた行動をとることができる。	4	3	2	1
	⑩看護行為によって看護の対象となる人々の生命を脅かす危険性があることを説明できる。	4	3	2	1
	⑪守秘義務について理解し、遵守できる。	4	3	2	1
2) 実施する看護について説明し同意を得る能力	①医療における自己決定権と看護職の説明責任について説明できる。	4	3	2	1
	②インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明できる。	4	3	2	1
	③実施する治療や看護に関する選択権について説明できる。	4	3	2	1
	④実施する看護を説明する方法とその意義について説明できる。	4	3	2	1
	⑤看護の対象となる人々が意思決定するために必要な情報を提供することができる。	4	3	2	1
	⑥看護の対象となる人々の意思決定を指導のもとで支援することができる。	4	3	2	1
	⑦実施する看護について指導の下で説明し、同意を得ることができる。	4	3	2	1
	⑧相手の理解力にあわせた説明をすることができる。	4	3	2	1
3) 援助的関係を形成する能力	①自己を分析し自己理解できる。	4	3	2	1
	②コミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。	4	3	2	1
	③看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。	4	3	2	1
	④プロセスレコードなどを活用して、援助的関係を分析できる。	4	3	2	1
	⑤カウンセリングの基本的な方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑥援助的関係におけるケアリングの考え方について説明できる。	4	3	2	1
	⑦援助的関係形成の過程を理解し、援助的関係を形成できる。	4	3	2	1
	⑧リーダーシップの考え方について説明できる。	4	3	2	1
	⑨集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。	4	3	2	1
	⑩グループを形成する方法とそれを支援する方法について説明できる。	4	3	2	1
II 群: 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力					
4) 根拠に基づいた看護を提供する能力	①根拠に基づいた看護を提供することの必要性を説明できる。	4	3	2	1
	②根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、活用できる。	4	3	2	1
	③文献や研究成果を比較し、批判的に吟味することができる。	4	3	2	1
	④基本的な看護研究方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑤健康に関連した事象を説明するために基本的な疫学や保健統計資料を活用できる。	4	3	2	1
	⑥主要な看護理論について説明できる。	4	3	2	1
	⑦看護を展開する際に、理論や概念を活用する意義と方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑧看護に必要な根拠を探索し、看護実践に活用できる。	4	3	2	1

(次頁に続く)

表1. 看護実践能力の到達目標および群の平均得点

看護実践能力	平均(max-min)	群 平均	25 年度	24 年度
I. ヒューマンケアの基本に関する実践能力				
1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	3.39(3.79-3.02)	3.26	3.42	3.29
2)実施する看護について説明し同意を得る能力	3.35(3.61-3.23)			
3)援助的関係を形成する能力	3.05(3.29-2.74)			
II. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力				
4)根拠に基づいた看護を提供する能力	3.02(3.58-2.61)	3.08	3.26	3.13
5)計画的に看護を実践する能力	3.24(3.44-2.92)			
6)健康レベルを成長発達に応じ査定する能力	2.88(3.18-2.62)			
7)個人と家族の生活を査定する能力	3.26(3.38-3.11)			
8)地域の特性と健康課題を査定する能力	2.87(3.03-2.70)			
9)看護援助技術を適切に実施する能力	3.17(3.61-2.79)			
III. 特定の健康課題に対する実践能力				
10)健康の保持増進と疾病を予防する能力	3.03(3.59-2.65)	3.00	3.22	3.14
11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	2.85(3.08-2.52)			
12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	3.04(3.33-2.85)			
13)終末期にある人々を援助する能力	3.16(3.52-2.97)			
IV. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力				
14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	2.94(3.11-2.74)	3.08	3.19	3.18
15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	2.99(3.14-2.82)			
16)安全なケア環境を提供する能力	3.35(3.76-3.02)			
17)保健医療福祉における協働と連携をする能力	3.23(3.50-2.97)			
18)社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	2.84(3.12-2.58)			
V. 専門職として研鑽し続ける基本能力				
19)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	3.18(3.32-2.98)	3.13	3.19	3.22
20)看護専門職としての価値と専門性を発揮させる能力	3.06(3.23-2.86)			

(出典：医学部作成)

②-2 卒業生の就職先からみた学業の成果および就業状況に関するアンケート調査（資料医132）

資料医132 卒業生の就職先からみた学業の成果および就業状況に関するアンケート調査（平成26年度）

	看護	検査	理学	作業	不明	合計
専攻	8	5	4	2	3	22
設問1	生命の尊厳を深く理解し、人間性豊かな医療陣として全人的医療を担う能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	17	2	1	0	
	22					
設問2	科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	16	4	0	0	
	22					
設問3	基本的実践能力を習得し、それらを応用できる能力を有している					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	14	6	0	0	
	22					
設問4	チーム医療の一員として高度先進医療や地域医療に積極的に貢献できる能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	12	6	2	0	
	22					
設問5	医療・保健に関して国際的に活躍できる基礎能力を身に付けている。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	不明
	0	7	10	3	0	無回答
	1					
設問6	学際的知識を有し、自主性、自立性を身に付け、将来広い分野で活躍できる能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	11	8	0	0	
	22					

信州大学医学部保健学科の教育及び卒業生に関するご意見をお聞かせください。

勉強については積極的に知識を修得しようと努力しています。協調性もあり、チームの一員とし自覚をもった対応ができています。
出身県での臨地実習を行われたらいかがでしょうか？ 今後も優秀な人材を検査科へ送り出して下さることを願っております。 職場では絶対に泣かない！と自分を律し、厳しい指導やきつい言動に対しても自分の力に変えるべく前向きに努力をしていた。また、自分の毎月の目標を意識しながら、学習面、行動面でも取り組んでいた。
就職2週間で上記を評価するのは、困難と思われる。
ほとんど研修が入職時から入っており設問に対する評価は、現時点では難しいです。
あいさつをしっかりし、ハキハキして頼もしいと思います。災害に興味があるとのことで育成していきたいと思います。
当院に就職していただいた貴大学の卒業生に関しては、能力が高だけでなく人間性の豊かな技師が入職しています。評価4とさせていただきますのは、評価5=完璧(完璧の評価が困難)という判断のもとです。
総じて基礎能力は、高いように思います。
現在卒業生は、6名就職して働いています。6年目～新人まで様々ですが基礎教育がきちんとされており各職場で活躍されています。
対象者が少なく、上記内容を判断するところまではできません。
2年目なので期待を込め、評価いたしました。 ・優秀な方が多いと思います。 ・向上心を常に持ち、素直です。

(出典：医学部作成)

(4) 学生の受賞状況から判断される学修成果の状況

学会等での学生の受賞・表彰。(資料医 133)

資料医 133 学会等における受賞状況

第 47 回日本医学教育学会大会で学生発表が優秀演題賞を受賞しました

2015 年 07 月 27 日トピックス

7 月 24～25 日に開催された第 47 回日本医学教育学会大会(新潟市)において、医学科 5 年生町田はるかさん、清水郁夫当センター助教、今村浩救急救急集中医学教室教授らの発表演題「学生サークルによる、医療系学生のための病院前救護処置ワークショップ」が学生セッション優秀演題賞を受賞しました。

この発表は、「医療系学生が自ら実践できる病院前救護法を学ぶ」ことを目標に医療系サークル「SALTs」が本年 3 月に実施したワークショップの成果を検証したもので、学生が互いに教え合う試みや多職種での相互理解を目指す姿勢が高く評価されました。

また、同学会の関連企画として開催された「メディカル・シミュレーション・オリンピック(シムリンピック)2015」に、本学チーム「ALPS」が出場しました。これは全国の医学生が臨床能力を 3 人 1 チームで力試しする競技会で、シミュレーション機材を取り入れた 6 つの課題で臨床実技と診断力を競いました。本学チームは「肺音聴診と呼吸器疾患」の種目で 1 位になるなどし、総合 5 位に入賞しました。

(出典：医学部医学教育センターホームページから)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- ・ 国家試験の過去7年間の平均合格率は医学科92.6%，さらに保健学科は98.3%と全国平均85.7%と比較して高い。(資料医123(139頁), 124(140頁)) また、保健学科で行っている卒業生の就職先を対象としたアンケート調査では、臨床能力および豊かな人間性の醸成が高く評価されている。(資料医132(155頁)) 医学科においては、患者の立場に近い模擬患者からの評価がここ数年向上していることから総合的に能力の高い医療者を育成できている。(資料医127(148頁))
- ・ 学生の満足度は医学科の実習では95%講義では84%と高く、保健学科においても95%以上が授業に対しておおむね満足あるいは満足と回答しており、学生・保護者の期待に答えている。(資料医125(141頁), 126(147頁), 129(150頁))

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

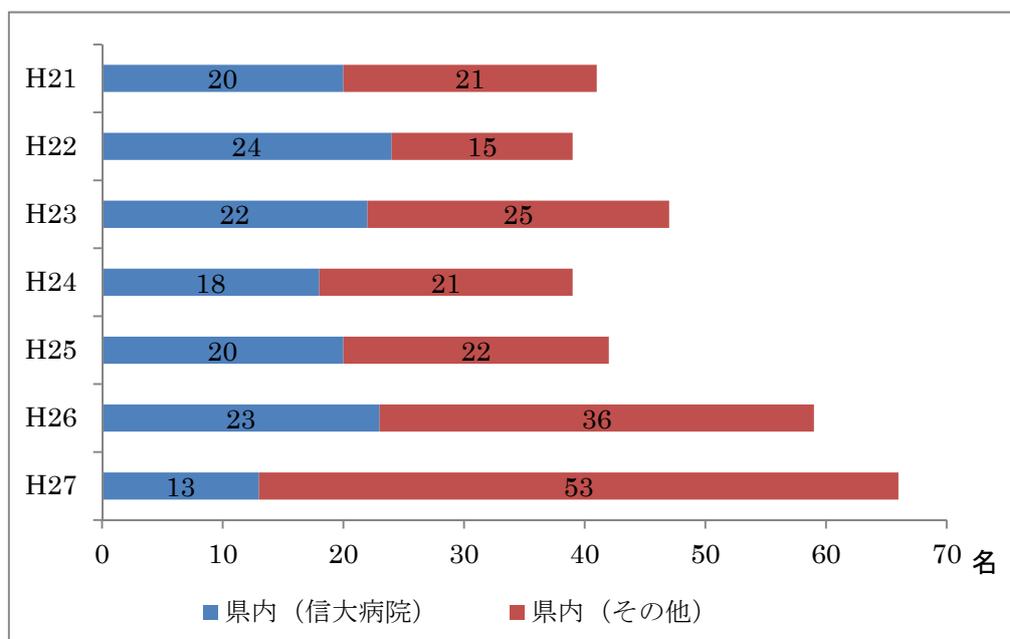
(1) 進路・就職状況

①医学科

臨床実習で広く県内病院を利用しており、本学附属病院を含む長野県内の病院を研修先として選択する卒業生の割合が増加傾向にある。(資料医 17(15頁), 134)

資料医134 医学科卒業生の進路

○卒業年度別 県内施設において卒後臨床研修を行う者の数



信州大学医学部6年生進路についてのアンケート 2015.11施行 回収115名 【抜粋】

		出身地		研修病院					
		全体	長野県	他都道府県	信大	県内病院	他大学	県外病院	無回答
研修先決定の情報源	病院実習	73	20	53	17	30	6	7	13
	病院見学	61	12	49	8	19	8	17	9
	ネット	22	2	20	0	4	5	7	6
	書籍	4	2	2	1	2	1	0	0
	レジナビ	30	7	23	5	7	4	10	4
	e レジ	2	0	2	0	1	0	0	1
	都道府県説明会	2	0	2	0	1	0	0	1
	病院団体説明会	1	0	1	0	1	0	0	0
	高校の先輩	8	0	8	2	3	0	2	1
	大学の先輩	30	9	21	5	13	5	4	3
	両親親族	13	2	11	4	1	1	5	2
	同級生	21	3	18	6	7	1	4	3
	その他	4	1	3	2	0	1	1	0

(出典：医学部作成)

②保健学科

卒業生の進路は、検査技術科学専攻では大学院への進学が比較的多く他の専攻では、ほとんどが就職している。（資料医135～137）

資料医135 保健学科の就職の状況

就職率と就職先

平成21年度(平成22年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	72	42	21	17	152
就職希望者	71	34	21	17	143
就職者	県内	41	10	5	62
	県外	30	22	16	79
就職率	100.0%	94.1%	100.0%	100.0%	98.6%
進学者	県内	0	5	0	5
	県外	1	3	0	4
未定者・その他	0	2	0	0	2

平成25年度(平成26年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	81	40	16	21	158
就職希望者	80	33	13	21	147
就職者	県内	39	6	5	16
	県外	38	26	8	5
就職率	96.3%	97.0%	100.0%	100.0%	97.3%
進学者	県内	0	5	2	0
	県外	1	1	1	0
未定者・その他	3	2	0	0	5

平成22年度(平成23年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	78	35	15	17	145
就職希望者	77	26	15	17	135
就職者	県内	35	7	4	8
	県外	41	19	11	9
就職率	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
進学者	県内	0	6	0	0
	県外	1	3	0	0
未定者・その他	1	0	0	0	1

平成26年度(平成27年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	82	37	21	20	160
就職希望者	77	29	19	20	145
就職者	県内	44	4	3	13
	県外	31	25	16	7
就職率	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%
進学者	県内	0	7	0	0
	県外	3	0	2	0
その他	4	1	0	0	5

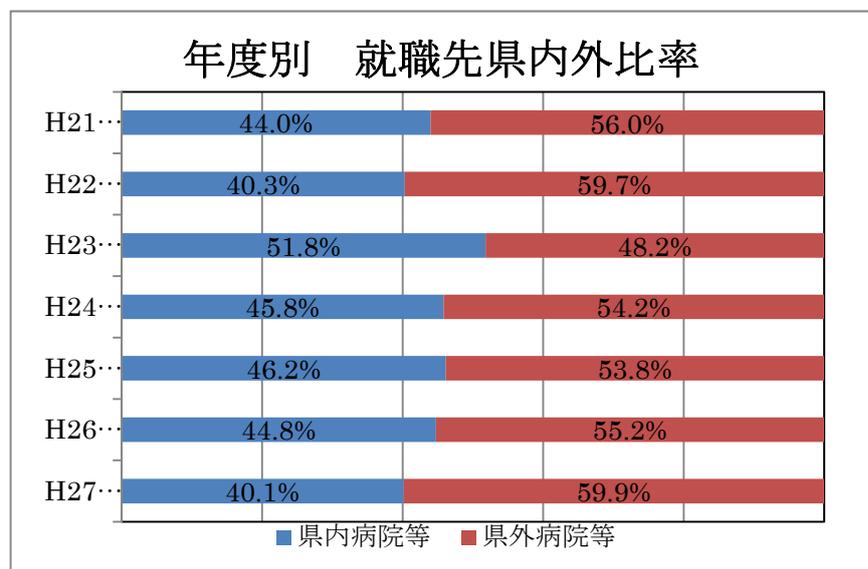
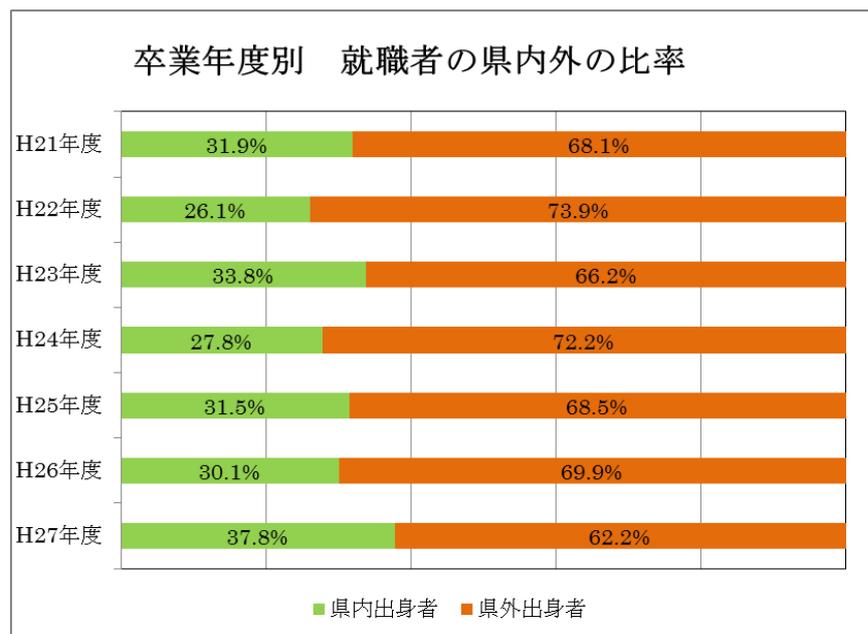
平成23年度(平成24年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	72	35	18	19	144
就職希望者	71	31	18	19	139
就職者	県内	44	10	8	10
	県外	27	21	10	9
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学者	県内	0	4	0	0
	県外	0	0	0	0
未定者・その他	1	0	0	0	1

平成27年度(平成28年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	80	43	17	17	157
就職希望者	77	35	15	15	142
就職者	県内	33	12	4	8
	県外	44	23	11	7
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学者	県内	1	4	0	1
	県外	2	2	1	0
その他	0	2	1	1	4

平成24年度(平成25年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	82	37	21	17	157
就職希望者	82	30	20	17	149
就職者	県内	43	9	6	8
	県外	35	21	13	9
就職率	95.1%	100.0%	95.0%	100.0%	96.6%
進学者	県内	0	6	1	0
	県外	0	1	0	0
未定者・その他	4	0	1	0	5

(出典：医学部作成)

資料医 136 県内・外出身者の比率と県内・外就職比率（保健学科）



(出典：医学部作成)

資料医 137 保健学科卒業生に対する求人数および求人倍率

専攻別求人数、求人数

卒業年度	看護学専攻					検査技術科学専攻					理学療法学専攻					作業療法学専攻				
	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求人 数	求人 数 倍率
H21年度	72	667	9.3	15840	220.0	42	118	2.8	184	4.4	21	251	12.0	1356	64.6	17	272	16.0	1530	90.0
H22年度	78	715	9.2	17829	228.6	35	208	5.9	254	7.3	15	425	28.3	1825	121.7	17	461	27.1	2012	118.4
H23年度	72	710	9.9	17704	245.9	35	287	8.2	350	10.0	18	480	26.7	2060	114.4	19	522	27.5	2278	119.9
H24年度	82	654	8.0			37	312	8.4			21	533	25.4			17	599	35.2		
H25年度	81	647	8.0			40	297	7.4			16	501	31.3			21	611	29.1		
H26年度	82	404	4.9			37	354	9.6			21	655	31.2			20	767	38.4		
H27年度	80	435	5.4			43	345	8.0			17	609	35.8			17	771	45.4		

※平成24年度以降は、求人数倍率を算出していません。

(出典：医学部作成)

(2) 進路に関する相談・支援体制

①卒業生を迎えての懇談会（資料医138）

資料医138 卒業生を迎えての懇談会

（医学科の状況）

学生に具体的な卒後キャリア像を示し、また、カリキュラム改革にあたり卒業生の立場からの意見を参考にするために、平成25年6月28日に卒後10年目の卒業生6名を迎えて懇談会を実施した。臨床においては卒業生が県内の遠隔地でも十分な質の医療を提供していることを本学の教育と関連付けて肯定する発言や、また同期生間や本学関係者間の強固なつながりが維持されていることが卒業後に有益に作用しているとの発言があった。また在学生の質問に答える形で、コミュニケーション力を磨くことの重要性や主体的な臨床学習環境を構築する提案を得た。



（保健学科の状況）

保健学科では平成25年から隔年で専攻ごとに「卒業生を迎えての懇談会」を実施し在校生には卒業後のイメージができるよう、また卒業生からの意見を教育に反映させるよう努めている。

（以下、懇談会概要）

平成27年度「信州大学医学部保健学科卒業生を迎えての懇談会」検査技術科学専攻

1. 日時：平成27年10月14日（水） 13:30～15:45

2. 場所：第1部 保健学科北校舎1階311講義室
第2部 保健学科中校舎4階会議演習室Ⅱ

3. 参加者

- ・卒業生：松本市立病院勤務 臨床検査技師1名（平成20年3月卒業）
諏訪赤十字病院勤務 臨床検査技師1名（平成21年3月卒業）

信州大学医学部附属病院 臨床研究コーディネーター
臨床研究支援センター勤務（臨床検査技師）1名（平成23年3月卒業）

- ・在校生：46名（3年生，2年生）
- ・検査技術科学専攻教員10名

4. 懇談会の内容

1) 第1部

保健学科検査技術科学専攻の卒業生計3名が、一人15分程度で、以下の点につきパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った後、3名が前方に並んで座り、教員の司会の下に在生との質疑応答を行った。

卒業生のプレゼン内容

- ・現在の施設紹介，業務内容と仕事のやりがい

患者や臨床医とのコミュニケーションを通じて、仕事のやり甲斐を感じ、また日々の努力への励みとなっているとの前向きな姿勢が示された。

- ・自分にとって最も役立っている考える講義・実習データ解析，レポートや卒業研究など，思考力を鍛える内容が卒業後にも多いに生きているとの意見が共通していた。
- ・学生時代にやっておいて良かったと思う事柄
- ・在学生へのメッセージ（学習の要点，臨床実習に向けて等）

在学生からの質問

上記の点に関連し，具体的な業務内容，就職活動の進め方，国家試験対策，等についての質問があった。

2) 第2部

卒業生3名と教員10名が懇談し，本専攻の教育課程についての意見交換を行った。

卒業生からの意見としては，患者への接遇マナーにつき，講習会や演習を通じ，より一層のトレーニングの必要性などについての意見が出された。

5. 在校生および教員の意見

在学生のアンケート結果からは卒後の将来像が描け，モチベーションが高まったといった意見が多く，満足度の高い内容であったことが示された。また，大学院進学者からの話も聞きたいとの希望が寄せられた。卒業生との懇談会を今後も継続的に実施していく必要性和有用性が示された。

(出典：信州大学ホームページ)

②医学科

4年次以上の学生に進路に関する情報提供を行うとともに、推薦入学者を対象とする研修会も実施し、キャリア形成を考える場を提供している。（資料医139,140）

資料医139 推薦入試入学者への支援

平成27年度推薦入学学生研修会実施要項

目的： 将来、長野県の医療を支える医師となることを決意し推薦入試を受検して入学した学生に対して、キャリア形成を考える場を提供するとともに、研修の機会やグループワークなどを通じて相互の親睦を図ることを目的とする。

日程：平成27年11月13日（金） 午後18：45～21：10

場所：松本東急REIホテル 3階 クリスタルルーム

内容：18：20 病院第2駐車場横 出発（送迎バス）

18：45 講演会

講師：がん・感染症センター 都立駒込病院

名誉院長 森 武生 先生

演題「私の大腸癌治療40年の歴史」

19：50 懇親会

21：10 終了

21：20 ホテル発（送迎バス）

参加人数 70人

（出典：医学部作成）

資料医140 医学教育センターの支援

- ・長野県の医学生修学資金受給の有無に限らず、広く学生の希望に応じて県内外の施設に関する情報提供を行うとともに、学生個々の特長を生かした推薦状作成等を行っている。
- ・信州大学医学部附属病院及び長野県臨床研修病院等合同説明会を行っている。

医学科5年生・6年生の皆さんへ

信州大学医学部附属病院

卒後臨床研修プログラムと
その後の専門研修説明会

日時：6月12日（金）14：40～17：55

場所：外来棟4階 大会議室

☆18：00～ ソレイユにて懇親会を開催します。参加無料！



進化を続ける信大プログラムを
是非ご体感ください。..*:+☆

卒後臨床研修センター長・各科の先生方による
プレゼンテーションにて、研修の内容・魅力を
余すところなくお伝えします！

他大学の方向けに院内見学会も企画します♪



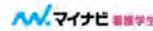
（出典：医学部作成）

③保健学科の就職支援

3年次生に就職セミナー（資料医141），マナー研修（資料医142）を行い，就職の準備を行っている。また各専攻で就職担当を置いて就職支援にあたっている。

資料医 141 就職セミナー

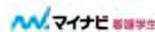
2014年7月16日（水）



**医療系学生のための
就職活動準備講座**
～卒業後のキャリアを今から考えていこう～

株式会社 マイナビ
就職情報事業本部 キャリアサポート課
西東京/長野統括マネージャー
吉田 優太（信州大学OB）

自分の将来を考えてみよう！



For Planning Sheet

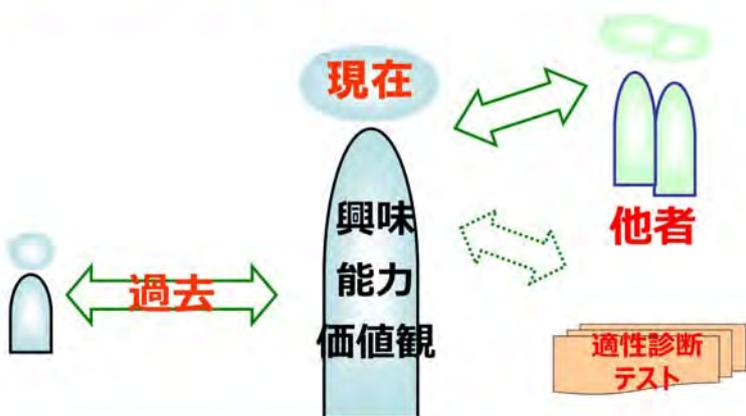
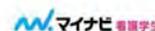
氏名	
学号	
学部	
専攻	
学年	
希望職種	
希望勤務地	
希望勤務形態	
希望勤務時間	
希望給与	
希望休日	
希望退職金	
希望退職年齢	
希望退職理由	
希望退職時期	
希望退職金額	
希望退職理由	
希望退職時期	
希望退職金額	
希望退職理由	
希望退職時期	
希望退職金額	

【記入のポイント】
入職してから5年ぐらいを想定して、記入しましょう。

生活面・仕事面で項目を設けて「自分の将来像」をみていきます。仕事面だけでなく「自分はどのような生き方をしたいのか」という視点で考えてみましょう。

現時点で自分が考えている正直な将来像を書いてください。

自己分析の進め方



（出典：医学部作成）

資料医 142 マナー研修

平成27年4月15日

学 生 各 位

教 務 委 員 長

特別講演について(お知らせ)

このことについて、下記のとおり実施いたします。
特別講演への出席は、専攻毎に定められた授業科目の出席と読替えま
す。出欠を取りますので必ず参加してください。

記

1 日 時 平成27年5月27日(水) 13:00～15:00

2 講 師 鋼林株式会社医薬事業部
マナーインストラクター 川窪 一恵 氏

3 演 題 「医療現場のコミュニケーションマナー
～実習生の立場から～」

4 場 所 医学部保健学科 311講義室

5 対 象 医学部保健学科全専攻3年次生
医学部保健学科教員・一般聴講者

6 読替授業科目

看護学専攻 :成人看護学実習
検査技術科学専攻 :臨床検査管理学
理学療法学専攻 :理学療法治療法実習
作業療法学専攻 :作業療法評価学実習

(出典：医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 保健学科は県内出身者の比率に比して、高い県内就職率を維持している。また、医学科で県内に医師として就職する学生は、平成21年度の41名に対し平成27年度には66名と急激に増加しており地域の期待に応えている。(資料医17(15頁), 134(157頁)～136(159頁))
- 保健学科では、全ての専攻で多数の求人があり極めて高い就職率を維持しており、資格取得を目的として入学している学生・保護者の期待に応えている。(資料医137(159頁))

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- 平成25年度より新カリキュラムを導入し実践的な臨床実習を通じて、臨床能力に加え、自主性や協調性が高いレベルで教育できる体制となった。(資料医 82(89頁), 83(90頁))
- 平成22年度より、課題追求・問題解決型の教育および臨床実習を充実し、判断能力や問題解決能力を育成する教育体制となった。(資料医 88(96頁), 94(106頁), 115(129頁))
- 両学科の合同授業として、従来行ってきた1年前期の新生ゼミナールに加え、平成26年度より4年次後期のチーム医療演習を開始し、両学科の全ての学生がチーム医療を展開するためのマインドとスキルを段階的に学習できる教育体制となった。(資料医 76(82頁), 77(83頁))
- 平成25年度より医学教育に関する会議に学生も参加し、学生の意見を取り入れて教育内容の見直しを行うようにした。(資料医 34(29頁), 35(30頁))
- 平成25年度よりスキルズラボを設置し、両学科におけるシミュレーション教育体制を充実させた。(資料医 116(132頁))
- 平成26年度より、高度な基礎医学研究に触れる機会としてe-MEDを導入し、学生のリサーチマインドを育成する体制となった。(資料医 97(109頁), 98(109頁))
- 医学科は平成25年度より(資料医 96(109頁), 108(123頁))、保健学科は平成26年度より、新たな海外短期研修プログラムを開始した。(資料医 110(124頁), 111(124頁))
- 保健師コースを平成26年度に設置し少人数で質の高い保健師教育が可能になった。(資料医 100(111頁))
- 平成26年度に設置された医学部地域保健推進センター主催の地域住民を対象とした健康講座に学部生を参加させ、地域に根差した保健活動の在り方を能動的に学ばせる教育体制を構築した。(資料医 104(117頁))
- 平成24年度より両学科に学生相談室を設置し、総合健康安全センターおよび学生相談センターとの連携に基づいた学生相談体制を開始した。(資料医 41(36頁), 42(38頁))

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- 保健学科は高い国家試験合格率を維持している。(資料医 124(140頁))
- 保健学科は県内出身者の比率に比して、高い県内就職率を維持している。また、県内に医師として就職する学生の数は、平成21年度の41名に対し平成27年度は66名と急増している。(資料医 134(157頁)~136(159頁))

9. 医学系研究科

- I 医学研究科の教育目的と特徴 9-2
- II 「教育の水準」の分析・判定 9-14
 - 分析項目 I 教育活動の状況 9-14
 - 分析項目 II 教育成果の状況 9-55
- III 「質の向上度」の分析 9-67

I 医学系研究科の教育目的と特徴

1 教育目的

(1) 設置の理念及び目的

本研究科は専攻毎に設置の理念を掲げるとともに、目的を信州大学大学院医学系研究科規程（以下「研究科規程」）第1条の2に定めている（資料医院1、2）。

資料医院1 設置の理念

修士課程

医科学専攻

心とからだを結ぶヒューマンサイエンスを機軸にした新しいネットワークをつくり多彩な人材を養成することにより、社会への総合的な貢献をはかる。

保健学専攻（博士前期課程）【2年制】

保健・医療・福祉に関する専門的知識・技術、科学的根拠に基づいた臨床問題解決能力や国際的な視野を持ち、常に人間を全人的な存在としてとらえて健康保持と疾病や障害の予防・治療、医療安全において社会に貢献できる高度専門保健医療職者を育成する。

博士課程

医学系専攻

人類の福祉と医学の発展をたえず視点におき、医科学の真理の深奥を究め、基礎・臨床医学の枠を超えた医学研究を行い、世界を先導するような創造的研究・トランスレーショナルリサーチを実施する医学研究者及び移植医療、再生医療、遺伝子医療など先端医療を科学的基盤に基づいて実践する医学研究者及び高度医療職業人を育成する。

疾患予防医科学系専攻（独立専攻）

ヒト生命の本質を把握すべく遺伝子（ゲノム）レベルから個体、社会レベルまで総合的解析を行い、ヒトの基礎的生命現象と疾病機序の理解に基づいて、疾病予防および制御と健康づくりを目指す包括的予防医科学領域を開拓する。

保健学専攻（博士後期課程）【3年制】

医療に直接関係する学問だけでなく、社会学、倫理学などの学問との結びつきを通して、個人並びに集団の健康を学際的な保健学の領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康と福祉に貢献する。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・設置の理念」）

資料医院2 信州大学大学院医学系研究科規程

(目的)

第1条の2 研究科の各専攻の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 医科学専攻は、心とからだを結ぶヒューマンサイエンスを機軸にした新しいネットワークをつくり多彩な人材を養成することにより、社会への総合的な貢献を図ることを目的とする。
- (2) 医学系専攻は、人類の福祉と医学の発展をたえず視点におき、医科学の真理の深奥を究め、基礎・臨床医学の枠を超えた医学研究を行い、世界を先導するような創造的研究・トランスレーショナルリサーチを実施する医学研究者、移植医療、再生医療、遺伝子医療など先端医療を科学的基盤に基づいて実践する医学研究者及び高度医療職業人を育成することを目的とする。
- (3) 疾患予防医科学系専攻は、ヒト生命の本質を把握すべく遺伝子（ゲノム）レベルから個体、社会レベルまで総合的解析を行い、ヒトの基礎的生命現象と疾病機序の理解に基づいて、疾病予防及び制御と健康づくりを目指す包括的予防医科学領域を開拓することを目的とする。
- (4) 保健学専攻（博士前期課程）は、高い倫理観と豊かな人間性を有し、高度な専門知識・技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力、国際的な視野を持つ高度専門保健医療職者を育成することを基本理念とし、精神的・身体的・社会的な側面から人間を全人的な存在としてとらえ、保健・医療・福祉に関する教育及び研究の成果を社会に還元することにより、健康保持と疾病や障害の予防・治療・医療安全に広く貢献し、人類の幸福と福祉の向上に寄与する保健学を構築することを目的とする。

する。

(5) 保健学専攻(博士後期課程)は、博士前期課程等における教育及び研究を通して養われた知識や技術による高度の専門能力を更に高め、創造的な研究能力を有する教育者、研究者及び高度専門保健医療職者を養成することを目的とする。

(出典：信州大学大学院医学系研究科規程)

(2) 三つの方針(DP、CP、AP)

本研究科は、学位授与の方針(以下「DP」)と入学者受入の方針(以下「AP」)を定め、信州大学が定めた教育課程編成・実施の方針(以下「CP」)に準じて教育を行っている(資料医院3～5)。

資料医院3 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

- ・修士課程にあっては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあっては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあっては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

信州大学大学院医学系研究科学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科の各課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. 医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。
2. 自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。
3. 医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。

医科学専攻修士課程学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科医科学専攻の修士課程を修了し、次に該当する者に修士(医科学)の学位を授与する。

1. 基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。
2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、国内外に自らの成果を発信できる。
3. 生涯にわたって課題を探究し、自らの能力・専門性を高めることができる。
4. 幅広い知識を基盤とし、最新情報を収集・分析することにより、社会のニーズに適応した行動をとることができる。

(出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・ディプロマポリシー」)

医学系専攻学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科医学系専攻の博士課程を修了し、次に該当する者に博士(医学)の学位を授与する。

1. 基礎・臨床医学における深い学識と高度な情報収集能力・分析能力および研究技術を備えている。
2. その学識・能力・技術を基盤に、自ら課題を見出し、それを解決・展開できる。

3. その成果を、欧文論文として発表するグローバルな情報発信能力を有する。
4. 科学的基盤に基づいて先端医療を理解または実践することができる。
5. 医学研究に対する深い理解に基づいた高度な倫理性を身につけている。
6. 医学研究を通して人類の繁栄と福祉に貢献することができる。

疾患予防医科学系専攻学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院医学系研究科疾患予防医科学系専攻の博士課程を修了し、次に該当する者に博士（医学）の学位を授与する。

1. ヒト発生・発達・老化などの基礎的生命現象および諸疾病の先端的知見を理解し基礎研究を遂行する能力、学力、技術等々を有する。
2. 新規予防あるいは疾病治療の創出と、研究成果を医療そして社会へ還元する能力、学力、技術等々を有する。
3. 健康推進事業や健康科学啓発をする能力、学力、技術等々を有する。
4. 予防医療・疾病治療あるいは基礎生命科学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する。
5. 予防医療・疾病治療あるいは基礎生命科学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。

保健学専攻学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士前期課程を修了し、次に該当するものに修士（看護学もしくは保健学）の学位を授与する。

1. 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。
2. 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。
3. 国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。
4. 地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士後期課程を修了し、次に該当するものに博士（保健学）の学位を授与する。

1. 保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。
2. 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。
3. 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。
4. 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・ディプロマポリシー」）

資料医院4 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針」)

資料医院 5 入学者受入の方針 (アドミッション・ポリシー)

信州大学大学院入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院入学者受入方針」)

医科学専攻 (修士課程)

医科学専攻では、本専攻の目的を達成するために、

1. 21世紀の医学を支える研究者
2. 高度の専門性を有する医療職業人
3. 医療・福祉・介護・看護分野の行政官
4. 健康教育を担う教育者

を目指し、それにふさわしい情熱と基礎学力を持つ人

を求めています。

保健学専攻 (博士前期課程) 【2年制】

保健学専攻 (博士前期課程) では、本専攻の目的を達成するために、

1. 高い倫理観と豊かな人間性を有し、人類の幸福と福祉の向上に熱意ある人
2. 科学的思考による問題解決能力を有し、国際的視野でものごとを考えることが出来る人
3. 高度専門職業人として、地域社会の保健医療に貢献する意欲のある人
4. 保健・医療・福祉において、指導的役割を担う意欲のある人
5. 将来の保健学における教育者・研究者を志望する基礎学力と熱意のある人

を求めています。

医学系専攻（博士課程）

医学系専攻では、本専攻の目的の下に、

1. 医学の基礎的あるいは臨床的研究に情熱をもって取り組む人
2. 世界をリードする最先端の研究を目指す意欲をもっている人
3. 医学研究のための広汎で高い基礎学力、見識を身につけた社会人を求めています。

疾患予防医科学系専攻（博士課程）

疾患予防医科学系専攻では、本専攻の目的の下に、

1. ヒトの発生・発達・老化などの基礎的生命現象に基づいた諸疾患の病態と予防について先端的知見、俯瞰的理解とそれらの応用に興味を有する人
2. 基礎生命科学・疾患病態学・予防医科学分野の研究を遂行するための情報収集・分析能力と実験技術を習得する意欲と基礎力を有し、研究成果のグローバルな発信に興味を有する人を求めています。

保健学専攻（博士後期課程）【3年制】

保健学専攻（博士後期課程）では、本専攻の目的を達成するために、

1. 保健学の領域において、科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
2. 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
3. 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことに意欲のある人
4. 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することに意欲のある人を求めています。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・アドミッションポリシー」）

2 組織の特徴や特色

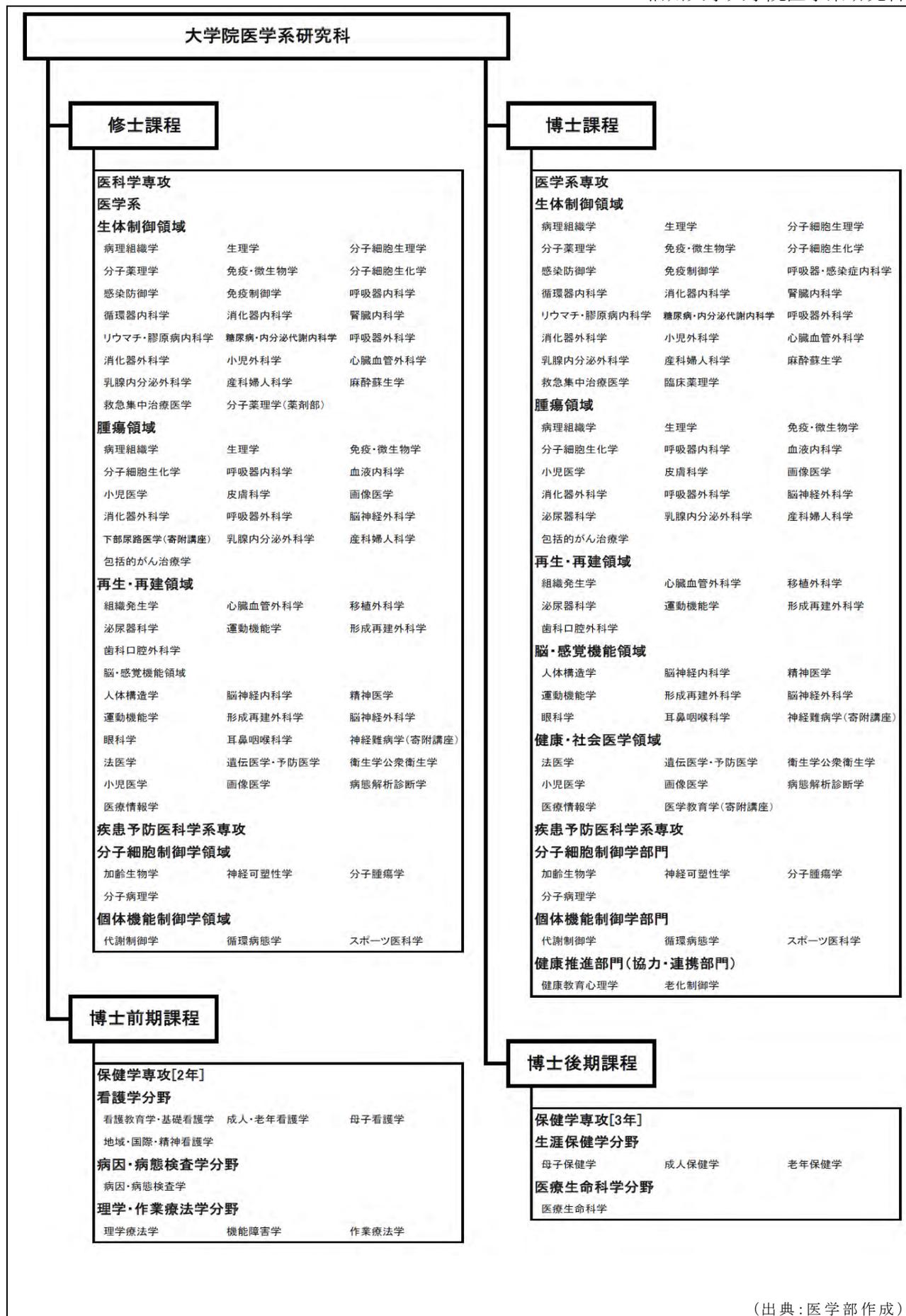
(1) 組織の概要

豊かな自然と我国有数の健康長寿を特徴とする長野県唯一の総合大学医学系大学院であり、修士課程、博士課程で構成されている（資料医院6）。

資料医院6 医学系研究科の構成

課程	専攻	
修士課程	医科学専攻	医学系、疾患予防医科学系
博士前期課程	保健学専攻	看護学分野、検査技術科学分野、理学・作業療法学分野
博士課程	医学系専攻	生体制御領域、腫瘍領域、再生・再建領域、脳・感覚機能領域、健康・社会医学領域
	疾患予防医科学系専攻	
博士後期課程	保健学専攻	生涯保健学分野、医療生命科学分野

（出典：信州大学大学院医学系研究科規程別表第1）



(出典:医学部作成)

各専攻の概要は資料医院7のとおりである。

資料医院7 各専攻の概要

医科学専攻【修士課程】

本課程はヒューマンサイエンスに裏付けられた、高度に専門化した知識と技術が融合した医科学分野の研究・教育者並びに高度医療職業人を養成することを目的としています。

本課程には様々な学部を卒業された方々が入学してきます。それらの方々の各専門分野の知識、技術を基盤として医学の基礎、臨床分野の知識や技術を組み合わせることにより、これからの医学/医療の発展、新たな領域への展開、新規医療機器開発や産業の育成にリーダーシップを発揮できるような研究者、博士課程の進学も含めて高度医療専門家の育成に務めています。

こうした教育理念のもと、基礎医学、臨床医学について、社会に広く貢献できる可能性を秘めた研究を展開しています。

保健学専攻【博士前期課程】

本課程は、科学的根拠に基づいた保健・医療・福祉分野の専門的知識・技術の確立と、高い倫理観のもとにこれらを提供できる高度専門保健医療職者の育成を目指して、3つの分野で構成されています。

1. 看護学分野：看護教育、母子看護、地域・在宅看護、国際看護の教育研究が行われ、看護理論の追求と看護実践ができる人材を育成します。さらに母子看護、在宅看護では専門看護師（CNS）の養成コースが開設されています。
2. 検査技術科学分野：分子レベルから臓器レベルまでの高度な知識と技術をもとに、生体や生体を取り巻く環境に由来する病因病態の新たな検査技術、医療機器、医薬品の開発にも役立つ教育研究が進んでいます。
3. 理学・作業療法学分野：理学療法、作業療法領域及び両者の基盤となる機能障害領域で基礎から臨床にわたる教育・研究が行われています。また各分野で国際的に活躍できる人材の育成も目指しています。

医学系専攻【博士課程】

本専攻は、1) 国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い医科学研究を遂行、指導できる教育・研究指導者を養成すること、並びに、2) 高度な医科学を修め、優れた臨床診療能力と研究能力を兼ね備えた地域医療リーダーを養成することを目的とします。本専攻では、この目的を達成するために、本専攻に備わる基礎医学的・臨床医学的教育資源を存分に活用し、multidisciplinaryな研究を推進します。また本専攻は、広汎な医学領域全般で、高度な創造的研究のみならず、医科学を疾患の予防・診断・治療に応用するトランスレーショナルリサーチも推進します。

疾患予防医科学系専攻【博士課程】

高齢社会における包括的予防・医療の充実と進展は時代の要請であり、包括的で広範な学問領域の研究を行います。研究目標は「分子細胞機能やヒト高次機能の可塑性、すなわち、先天的形質の後天的制御によって、健康を増進させる為の遺伝子・環境要因を解明する事」であります。分子レベルでは核酸から蛋白質、脂質、糖鎖、病態面では加齢病態、脳神経病態、腫瘍、肝臓などの代謝系、循環呼吸器系、消化器病態、骨筋肉系病態を対象とします。また、スポーツ医科学を中心とする予防医学実践チームを軸とし、熟年体育大学、先端予防医療センターとの連携プロジェクトが推進されます。

具体的には、分子細胞制御学、個体機能制御学、そして健康促進学部門（長寿医療研究センター；信州大教育学部による連携・協力）のそれぞれが、種々の疾患（アミロイドーシス、神経疾患、腫瘍、糖尿病、メタボリックシンドローム、内分泌疾患、肥満、認知症、骨代謝病、循環障害等）に対して分子・個体レベルでの理解を深め、治療の開発を目指します。特に、スポーツ医科学分野による運動処方での研究で、新規予防処方箋の創出とQOLの増進を追及します。また、連携・協力部門では老化制御や教育心理の研究で“高齢者医療とからだ”と“こころ”の健康を俯瞰的視野を持って追求します。

保健学専攻【博士後期課程】

本課程では、人々の健康の維持・増進、疾病・障害の予防について、人の出生から老年期に至るまでのライフステージに対応した保健学研究を展開することによって、人の生涯にわたる保健を支援することを目的とした生涯保健学としての学問・研究基盤の確立を目指しています。

本課程は生涯保健学分野（3領域）と医療生命科学分野（1領域）の2分野4領域で構成されており、これらが共通目標を掲げて連携・協働することにより、保健学研究の発展を目指すことを特徴としています。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・研究内容の概要」）

(2) 附属施設 (資料医院 8)

資料医院 8 医学系研究科の教育に活用する附属施設一覧	
(大学の施設)	所在地
医学部附属病院	松本キャンパス内
信州地域技術メディカル展開センター	松本キャンパス内
信州大学ヒト環境科学研究支援センター(H28.4 基盤研究支援センターに改組)	松本キャンパス内
信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所 (学部・病院内センター)	松本キャンパス内
医学部図書館	松本キャンパス内
臨床研究推進センター	松本キャンパス内
小児環境保健疫学研究センター	松本キャンパス内
地域保健推進センター	松本キャンパス内
信州医学会	松本キャンパス内

(出典：大学概要抜粋)

(3) 他大学、研究機関等との連携協定 (資料医院 9)

資料医院 9 医学系研究科の教育に関する連携協定一覧		
(国内大学との協定)		
連携大学	締結主体	
早稲田大学大学院スポーツ科学研究科	医学系研究科	
関西大学人間健康学部	医学系研究科	
東京医科歯科大学、福島県立医科大学、北里大学、上智大学、 沖縄科学技術大学院大学、全国医学部長病院長会議、 社団法人日本医師会日本医学会、独立行政法人宇宙航空研究開発 機構、全国遺伝子医療部門連絡会議	医学系研究科	
(海外大学との協定)		
国	連携大学等	締結主体
インドネシア	ディポネゴロ大学医学部、 ウダヤナ大学医学部	医学部
中国	青海大学医学部、河北医科大学、 蘇州大学医学部	医学部
シンガポール	シンガポールヘルスサービス	医学部
タイ	マヒドン大学ラマティボディ病院医学部、 コンケン大学医学部	医学部
ドイツ	ライプツィヒ大学医学部	医学部
ブラジル	ロドリーナ州立大学医学部	医学部
(自治体、研究機関、その他)		
連携機関	締結主体	
国立長寿医療研究センター	大学	
JA 長野県グループ	バイオメディカル 研究所・医学部・ 医学部附属病院	
長野県	医学部附属病院	

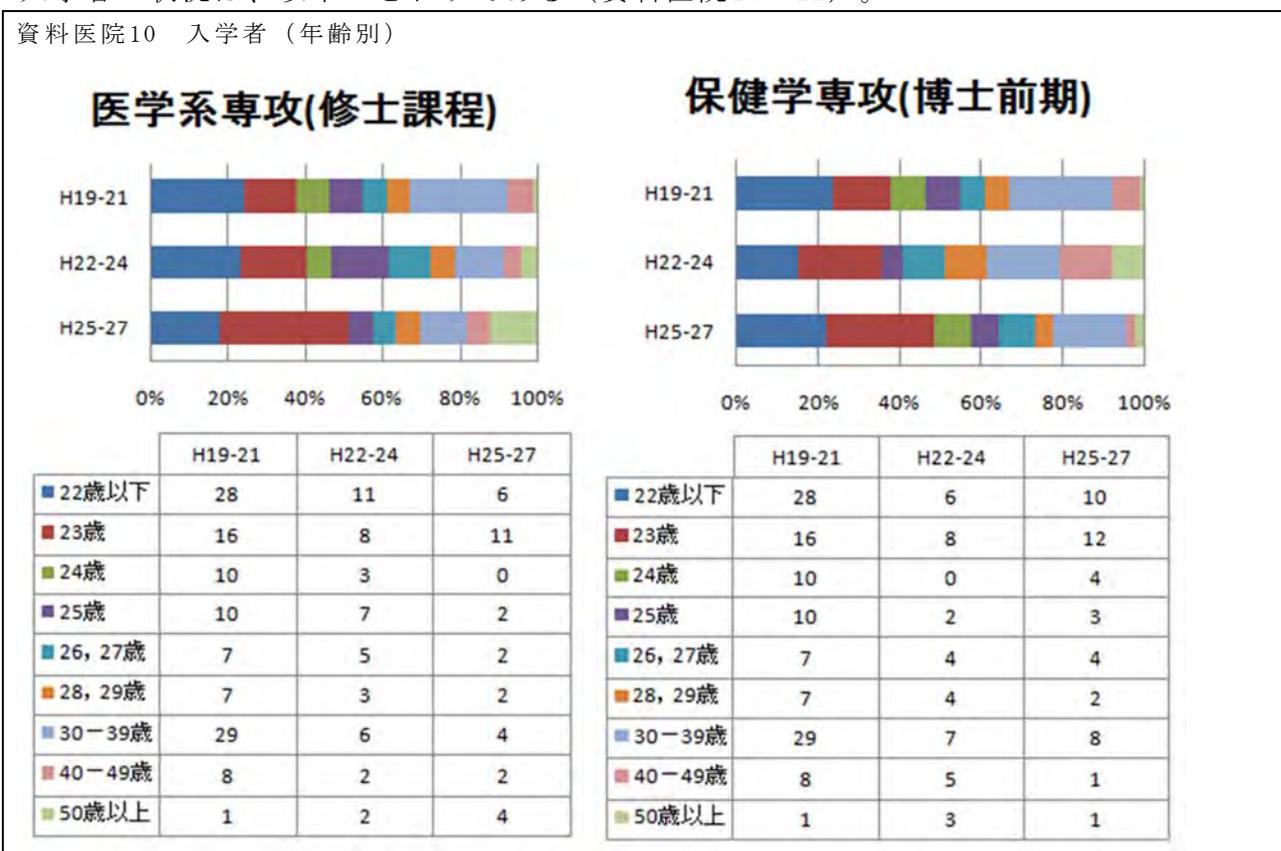
長野県、国立病院機構長野病院、上田地域広域連合、 上田市・東御市、長和町・青木村・坂城町	医学部附属病院
国立病院機構長野病院	医学部附属病院
長野県、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、辰野総合病院、 上伊那広域連合、伊那中央行政組合、伊南行政組合、辰野町	医学部附属病院
松川村	医学部附属病院
ナカシマメディカル（株）	医学部
塩尻市・塩筑医師会・塩筑歯科医師会	医学部
上田地域広域連合・上田市・東御市・青木村・長和町・坂城町・ 独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター	医学部附属病院
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院・三才山病 院	医学部附属病院
諏訪赤十字病院	医学部附属病院
松本市中央図書館	医学部附属病院
（医社）敬人会桔梗ヶ原病院	医学部附属病院
市立大町総合病院	医学部附属病院
長野県立こども病院	医学部附属病院
（医）抱生会丸の内病院	医学部附属病院

（出典：大学概要抜粋、信州大学ホームページ「連携協定」）

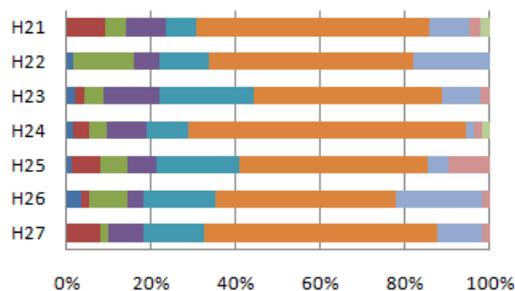
3 入学者の状況

入学者の状況は、以下のとおりである（資料医院10～12）。

資料医院10 入学者（年齢別）

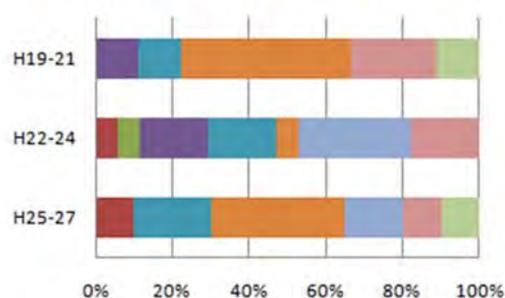


医科学専攻(博士課程)



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 24歳以下	0	1	1	1	1	2	0
■ 25歳	4	0	1	2	4	1	4
■ 26歳	2	7	2	2	4	5	1
■ 27歳	4	3	6	5	4	2	4
■ 28, 29歳	3	6	10	5	12	9	7
■ 30-34歳	23	24	20	34	27	23	27
■ 35-39歳	4	9	4	1	3	11	5
■ 40-49歳	1	0	1	1	6	1	1
■ 50歳以上	1	0	0	1	0	0	0

保健学専攻(博士後期)

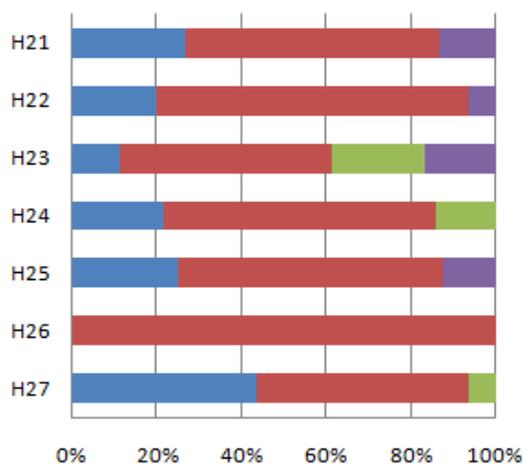


	H19-21	H22-24	H25-27
■ 22歳以下	0	0	0
■ 23歳	0	1	2
■ 24歳	0	1	0
■ 25歳	1	3	0
■ 26, 27歳	1	3	4
■ 28, 29歳	4	1	7
■ 30-39歳	0	5	3
■ 40-49歳	2	3	2
■ 50歳以上	1	0	2

(出典:学校基本調査のデータを元に経営企画課作成)

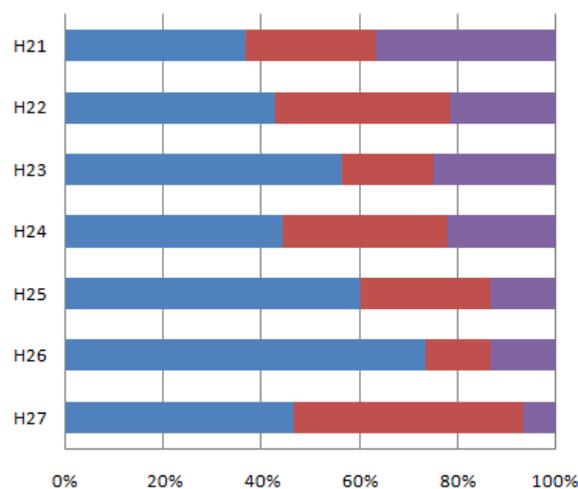
資料医院11 入学者 (出身学校種別)

医学系専攻(修士課程) 入学者の内訳(出身学校別)

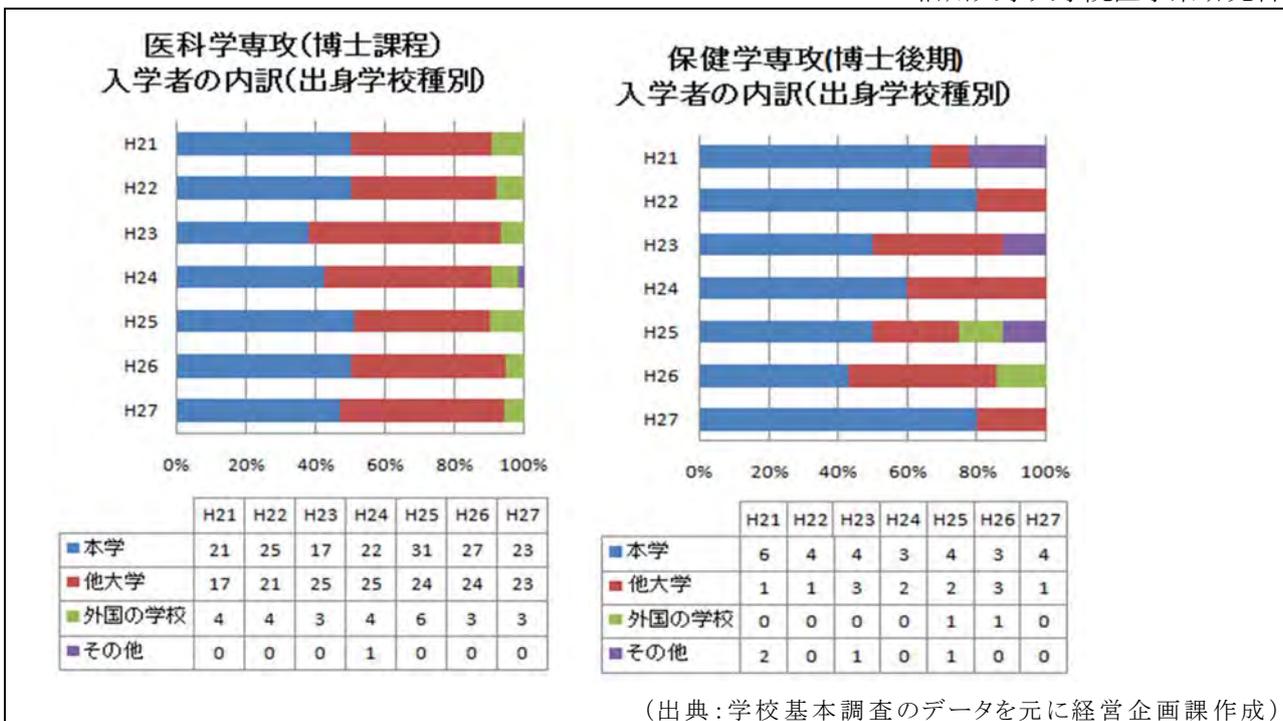


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	4	3	2	3	2	0	7
■ 他大学	9	11	9	9	5	9	8
■ 外国の学校	0	0	4	2	0	0	1
■ その他	2	1	3	0	1	0	0

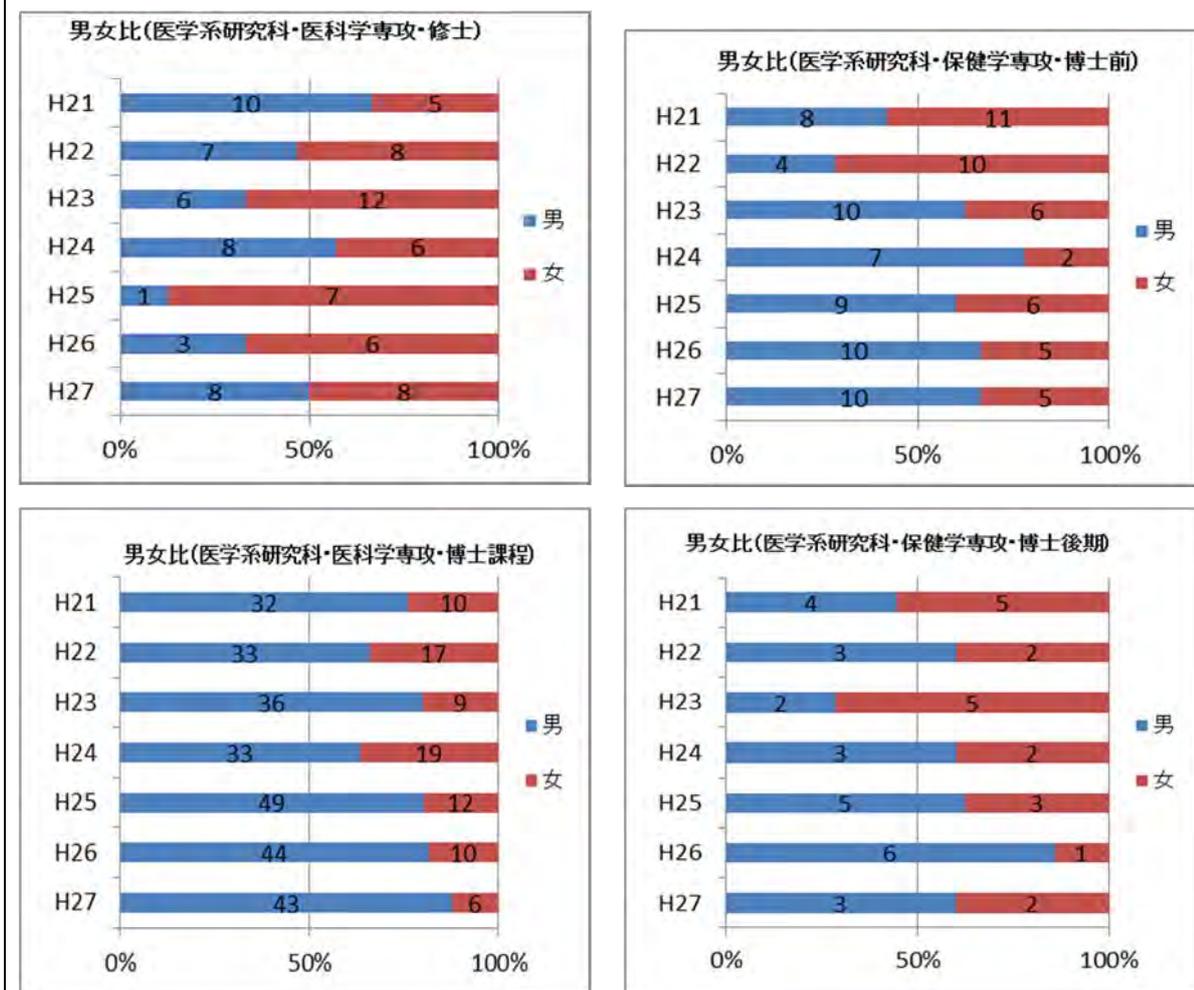
保健学専攻(博士前期) 入学者の内訳(出身学校別)



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	7	6	9	4	9	11	7
■ 他大学	5	5	3	3	4	2	7
■ 外国の学校	0	0	0	0	0	0	0
■ その他	7	3	4	2	2	2	1



資料医院12 入学者 (男女比)



○入学者選抜方法等

入学者選抜は以下のとおり行っており、博士課程では秋季入学（10月）を実施している（資料医院13、14）。

資料医院13 入学者選抜方法等

専攻	入学定員 (募集人員)	試験科目		
		小論文	外国語（英語）	面接
医科学専攻（修士課程）	12	○	○	○
保健学専攻（博士前期課程）	14		○	○
医学系専攻（博士課程）	40		○	○
疾患予防医科学系専攻 （博士課程）	8		○	○
保健学専攻（博士後期課程）	4		○	○

（出典：学生募集要項を基に医学部作成）

資料医院14 秋季入学の状況

専攻	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
医学系専攻	0	0	0	2	1	1
疾患予防医科学系専攻			1	1	2	0
臓器移植細胞工学医科学系 専攻	1	0				
加齢適応医科学系専攻	1	1				

（出典：医学部作成）

4 想定する関係者とその期待

(1) 院生・修了者

○長野県唯一の医学系大学院教育・研究機関で修学することにより、医学系諸科学における学識と情報収集・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの関連分野における諸課題を解決でき、地域医療に貢献し、国内外で活躍できる人材に育成されることが期待されている。

○教育、学位取得の方針が明瞭であり、明確な基準に基づいて、標準修業年限内に学位取得できることが期待されている。

○時代の要請に対応した組織や教育制度の改革及び、高い研究倫理観、リサーチマインドを持った医療人養成のための教育の実施体制の整備が期待されている。

(2) 医療機関

広い視野とリサーチマインドを持った医療人を育成し、各種医療機関へ供給することが期待されている。

(3) 研究機関

リサーチマインドを持った医師や医療従事者、創造的な研究能力を有する研究者、研究機関での研究を指導できる人材の育成が期待されている。

(4) 地域社会・国際社会

医療、保健行政の指導者となる医療人を地域社会へ輩出することが期待されている。グローバル化に対応した視野を持った医療人を国際社会へ輩出することが期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育の実施体制

(観点に係る状況)

1 基本的組織の編成

○学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した (資料医院 15)。

資料医院 15 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター (拠点形成型の外部資金プロジェクト) において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究 (支援) センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：大学概要、経営企画課修正)

2 教員の配置状況

研究指導教員及び研究指導補助教員を専攻毎に配置し、教育・研究分野を構成している（資料医院16、17）。

専攻	医学系研究科				大学院設置基準			
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
医科学専攻（修士課程）	43	43	33	76	6	—	6	12
保健学専攻（博士前期課程）	34	26	11	45	6	4	6	12
医学系専攻（博士課程）	36	36	76	112	30	—	30	60
疾患予防医学系専攻（博士課程）	9	9	5	14				
保健学専攻（博士後期課程）	28	21	2	30	6	4	6	12

（出典：経営企画課にて作成）

修士課程		博士課程	
専攻	分野等	専攻	分野等
医科学専攻	病理組織学 生理学 分子細胞生理学 分子薬理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 感染防御学 免疫制御学 呼吸器内科学 循環器内科学 消化器内科学 腎臓内科学 リウマチ・膠原病内科学 糖尿病・内分泌代謝内科学 呼吸器外科学 消化器外科学 小児外科学 心臓血管外科学 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 麻酔蘇生学 救急集中治療医学 分子薬理学（薬剤部）	医学系	病理組織学 生理学 分子細胞生理学 分子薬理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 感染防御学 免疫制御学 呼吸器・感染症内科学 循環器内科学 消化器内科学 腎臓内科学 リウマチ・膠原病内科学 糖尿病・内分泌代謝内科学 呼吸器外科学 消化器外科学 小児外科学 心臓血管外科学 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 麻酔蘇生学 救急集中治療医学 臨床薬理学

		病理組織学 生理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 呼吸器内科学 血液内科学 小児医学 皮膚科学 画像医学 消化器外科学 呼吸器外科学 脳神経外科学 下部尿路医学（寄附講座） 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 包括的がん治療学 組織発生学 心臓血管外科学 移植外科学 泌尿器科学 運動機能学 形成再建外科学 歯科口腔外科学 人体構造学 脳神経内科学 精神医学 運動機能学 形成再建外科学 脳神経外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 神経難病学（寄附講座） 法医学 遺伝医学・予防医学 衛生学公衆衛生学 小児医学 画像医学 病態解析診断学 医療情報学		腫瘍領域	病理組織学 生理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 呼吸器内科学 血液内科学 小児医学 皮膚科学 画像医学 消化器外科学 呼吸器外科学 脳神経外科学 泌尿器科学 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 包括的がん治療学
		再生・再建領域		組織発生学 心臓血管外科学 移植外科学 泌尿器科学 運動機能学 形成再建外科学 歯科口腔外科学	
		脳・感覚機能領域		人体構造学 脳神経内科学 精神医学 運動機能学 形成再建外科学 脳神経外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 神経難病学（寄附講座）	
		健康・社会医学領域		法医学 遺伝医学・予防医学 衛生学公衆衛生学 小児医学 画像医学 病態解析診断学 医療情報学 医学教育学（寄附講座）	
疾患予防医科学系	加齢生物学 神経可塑性学 分子腫瘍学 分子病理学 代謝制御学 循環病態学 スポーツ医科学	専攻 疾患予防医科学系		加齢生物学 神経可塑性学 分子腫瘍学 分子病理学 代謝制御学 循環病態学 スポーツ医科学 健康教育心理学 老化制御学	

博士前期課程			博士後期課程		
専攻	分野等		専攻	分野等	
保健学専攻	看護学	看護教育学・基礎看護学 成人・老年看護学 母子看護学 地域・国際・精神看護学	保健学専攻	生涯保健学	母子保健学 成人保健学 老年保健学

検査技術科学	病因・病態検査学		
理学・作業療法学	理学療法学 機能障害学 作業療法学	医療生命科学	医療生命科学

(出典：医学系研究科ホームページ「専攻案内」、医学系研究科入学案内2015)

3 教育課程の運営体制

研究科長の下に小委員会を設置し、定期的に教育・研究活動に関する審議を行っている(資料医院18、19)。

各組織が連携しながら教育を実施し、定常的にPDCAサイクルによる点検を行っている。

資料医院 18 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科規程、信州大学大学院医学系研究科委員会規程

信州大学大学院学則(抜粋)

(研究科長)

第9条 本大学院の各研究科(法曹法務研究科を除く。)に研究科長を置き、次のとおり、信州大学学術研究院の学系長をもって充てる。

(略)
医学系研究科長 医学系長
(略)

2 (略)

3 前項の研究科長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

4 研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

(大学院研究科委員会)

第11条 各研究科に、教育課程の編成、学生の入学及び退学その他の当該研究科における重要事項(教員人事マネジメント、研究マネジメント及び予算決算に関する事項は除く。)を審議するため、大学院研究科委員会(法曹法務研究科にあつては、研究科教授会。以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

信州大学大学院医学系研究科規程(抜粋)

(研究科委員会)

第3条 研究科に、大学院学則第11条第1項の定めるところにより研究科長及び研究科に属する教授をもって構成する信州大学大学院医学系研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。ただし、必要により研究科に属する准教授又は講師を加えることができる。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

信州大学大学院医学系研究科委員会規程(抜粋)

(審議事項)

第3条 委員会は、研究科に関する次の事項を審議する。

- (1) 学科課程に関すること。
- (2) 学生に関すること。
- (3) 学位論文の審査及び認定に関すること。
- (4) 試験に関すること。
- (5) その他研究科に関する重要な事項

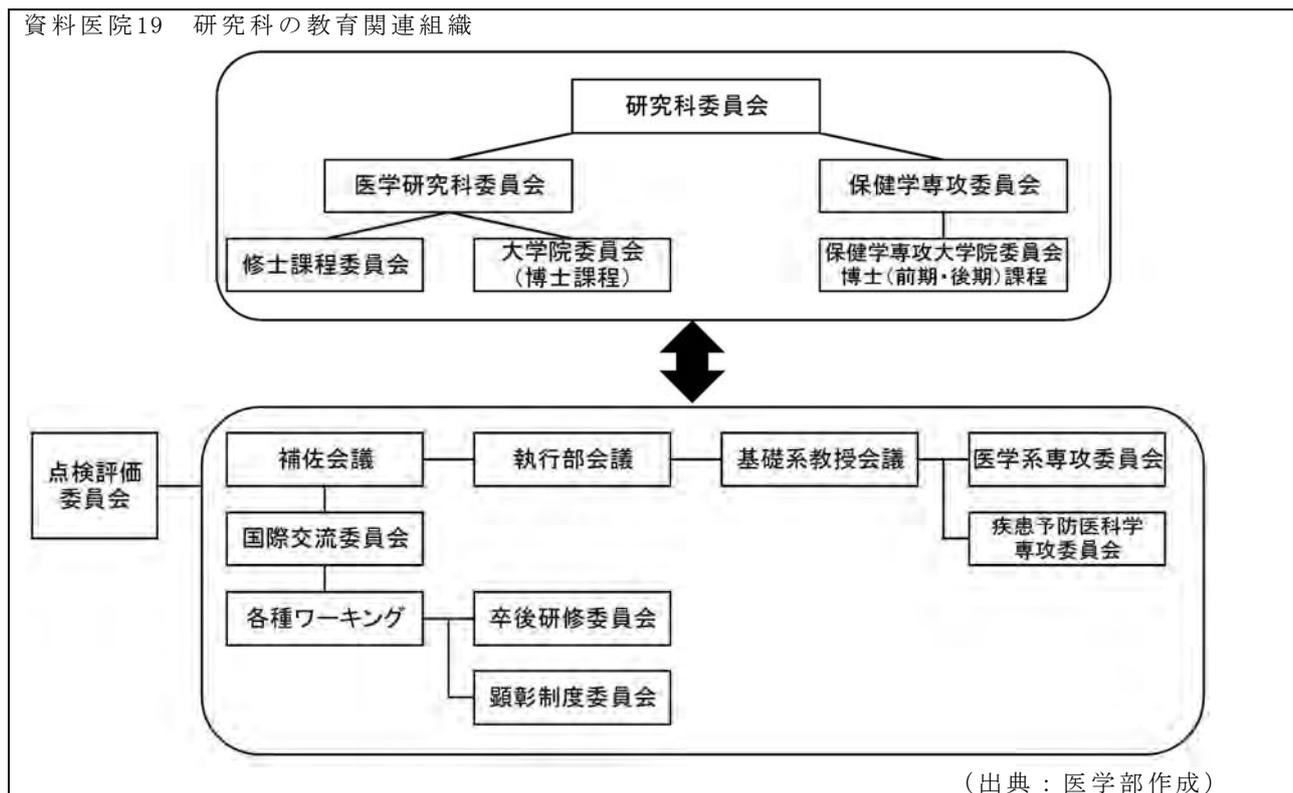
(小委員会)

第7条 委員会の円滑な運営を図るために、医科学専攻、医学系専攻及び疾患予防医科学系専攻に属する委員で組織する医学研究科委員会及び保健学専攻に属する委員で組織する保健学専攻委員会を置く。

2 委員会は、委員会が医学研究科委員会及び保健学専攻委員会に委任した事項について、医学研究科委員会及び保健学専攻委員会の議決をもって委員会の議決とすることができる。

3 医学研究科委員会及び保健学専攻委員会の組織及び運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院学則、医学系研究科規程、医学系研究科委員会規程抜粋)



在学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを各委員会がアンケートや意見聴取などに基づいて把握に努めている（資料医院 20）。

資料医院 20 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	実施組織	目的・利用方法
新入生	大学院教育に関する満足度調査	修士課程委員会	大学院教育・学習環境の改善
在学生	翌年度修了予定者進路アンケート	修士課程委員会	在学生の希望進路の把握、就職支援
修了生	修了後の進路について	修士課程委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
在学生	大学院教育に関する満足度調査	大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	博士課程修了者に関する満足度調査	大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	修了後/単位取得退学後の進路について	大学院委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
在学生	大学院教育に関する満足度調査（博士前期課程・博士後期課程）	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	修了後の進路について	保健学専攻大学院委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
修了者	博士後期課程に関する調査	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
雇用主等	博士後期課程に関する調査	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善

(出典：医学部作成)

4 第2期中期目標期間における改組等

① 医科学専攻（修士課程）

平成24年度から、よりきめ細やかな教育を徹底するため、入学定員を20人から12人に変更した。既存の健康指導コーディネーターコース、遺伝カウンセリングコースに加えて人工内耳コースを設置した（資料医院21）。

資料医院21 人工内耳コースの新設

人工内耳コースのカリキュラム

(1) 人工内耳特論

人工内耳装用に関する支援のためには、手術や聴力検査手法の原理、機器の管理といった医学面、言葉のトレーニング、言語発達評価などの教育面、人工内耳装用前後でのカウンセリングなどの心理的支援といった広範な専門知識が必要とされるため、人工内耳特論では、医療・教育の両面から必要な支援内容について学びます。

Section 1 人工内耳の医療・療育的背景 ① 人工内耳開発の歴史・技術的発展 ② 聴覚障害児教育の方法論の変遷と小児人工内耳 ③ 小児人工内耳手術に関する倫理的問題 他	Section 6 人工内耳装用児の言語獲得② ① 親指導の目的と方策（遊び方・話しかけ方、他） ② 中期の聴能言語指導法（語彙の獲得、文章の獲得）
Section 2 人工内耳医療 ① 人工内耳の原理（構造・機種他） ② 人工内耳手術の実際・小児人工内耳の適応基準	Section 7 人工内耳装用児の言語獲得③ ① 後期の聴能言語指導法（会話・文字の理解）
Section 3 早期発見・早期診断・早期補聴 ① 新生児聴覚スクリーニング（目的～関係機関との連携） ② 乳児・幼児の聴力検査の方法（ABR, OAE, VROA, BOA, COR） ③ 親への早期指導・カウンセリング支援	Section 8 装用児の言語評価 ① 親子関係評価 ② 聴能言語評価
Section 4 マッピングと条件付け ① 音入れとマッピング（条件付けの方法） ② 初期の聴性行動の観察・評価	Section 9 装用児の言語発達段階と社会心理的課題 ① 総合的言語力の獲得（聴く力・話す力・読む力・書く力） ② 人工内耳装用児と「9歳レベルの壁」 ③ 装用児の青年期の課題・情報保障
Section 5 人工内耳装用児の言語獲得① ① 難聴児の聴こえを通じた言語獲得の原理 ② 聴覚学習の段階（検知・弁別・同定・理解） ③ 初期の聴能言語指導法（聴覚—発語ループの獲得）	Section10 人工内耳の今後 ① 人工内耳の可能性と限界 ② 今後の人工内耳装用の医療・リハビリ課題 ③ 遺伝子診断、脳機能検査、人工内耳の両耳装用 他

(2) 人工内耳臨床実習

人工内耳臨床実習は、特論で学習した聴力検査・マップの管理・カウンセリング支援・(リ)ハビリテーション・言語発達等の評価に関する実習を行います。信州大学附属病院人工内耳センターで行われるカウンセリング・(リ)ハビリテーションに参加し、どのような方法でどのような指導が行われているのかについて学びます。

実習① 各種の聴力検査法の実習	実習⑤ 聴能言語指導②（小児）
実習② カウンセリング実習	実習⑥ 聴能言語指導③（成人）
実習③ マッピング実習・条件付け	実習⑦ 発達評価・言語評価
実習④ 聴覚言語指導①（幼児期）	



(3) 海外研修

人工内耳装用者支援の先進国であるオーストラリア・アメリカなどの人工内耳専門の療育機関を訪問し、人工内耳機器、(リ)ハビリテーションに関する研修を行います。

(4) 学会・研究会等への参加および発表

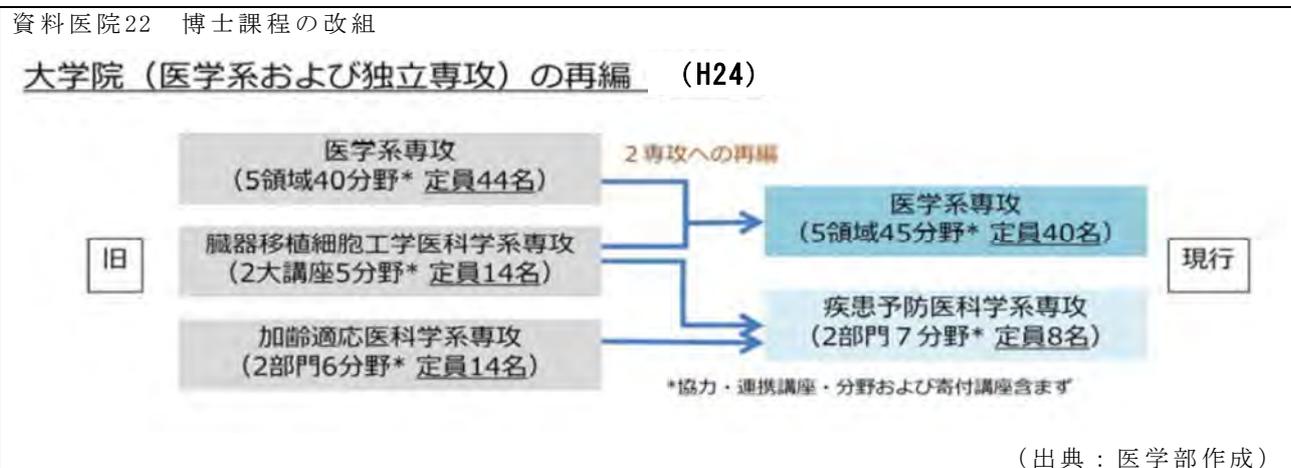
学会やセミナーは、人工内耳全般の基礎を学ぶと共に、さまざまな領域の現状を知る機会となり、多くの関係者との意見交換・情報交換の場となることから、多くの学会・研究会等の参加を勧めています。またこれらの学会等で発表することは、他者からの意見や助言により、さらに理解を深めることができるため積極的に奨励しています。

聴覚医学会、耳鼻咽喉科学会、耳科学会・・・

（出典：医学部作成）

② 医学系専攻、疾患予防医科学系専攻（博士課程）

平成24年度より、近未来のニーズに適合する医学教育・研究体制への転換を図るため、3専攻（医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻）から2専攻（医学系専攻、疾患予防医科学系専攻）に改組した（資料医院22）。



修士課程：医科学専攻と保健学専攻（博士前期課程）の年度別の入学数は、資料医院23に示した。保健学専攻（博士前期課程）は、平成24年度を除いて定数を満たす院生が入学している。

博士課程：医学系専攻、疾患予防医科学系専攻を合わせた年度別入学者は平均24年度から上昇に転じ、充足率も高い状態で推移している。保健学専攻（博士後期課程）も定数を満たす院生が入学している（資料医院23）。

○各専攻の定員、入学者数の推移（資料医院23）

資料医院23 医学系研究科の入学者数

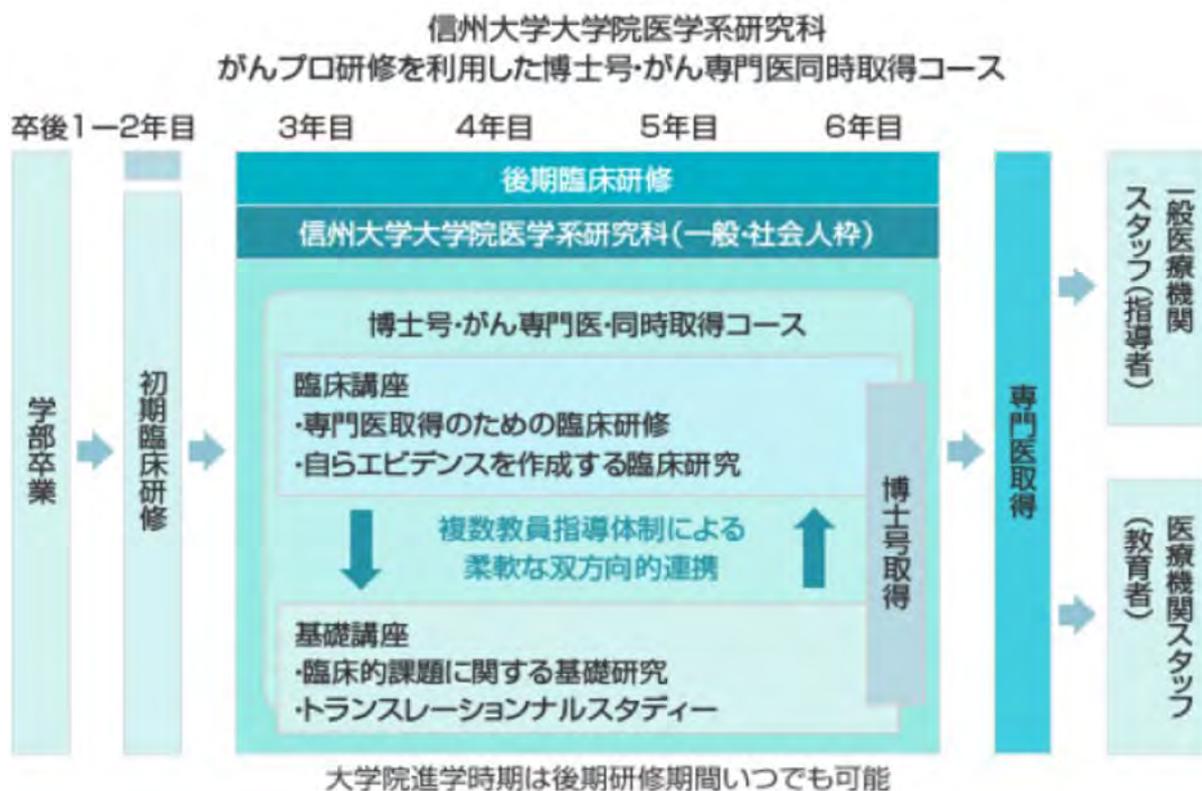
医学系研究科の入学者数等状況

年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		定員	入学者数	定員充足率																		
修士課程	医科学専攻	20	15	75.0	20	15	75.0	20	18	90.0	12	14	116.7	12	8	66.7	12	9	75.0	12	16	133.3
博士前期課程	保健学専攻	14	19	135.7	14	14	100.0	14	16	114.3	14	9	64.3	14	15	107.1	14	15	107.1	14	15	107.1
博士課程	医学系専攻	44	31	70.5	44	40	90.9	44	35	79.5	40	44	110.0	40	51	127.5	40	46	115.0	40	44	110.0
	臓器移植細胞工学医科学系専攻	14	7	50.0	14	6	42.9	14	6	42.9												
	加齢適応医科学系専攻	14	5	35.7	14	6	42.9	14	5	35.7												
	疾患予防医科学系専攻											8	9	112.5	8	13	162.5	8	8	100.0	8	5
博士後期課程	保健学専攻	4	9	225.0	4	5	125.0	4	7	175.0	4	5	125.0	4	8	200.0	4	7	175.0	4	5	125.0

(出典：医学部作成)

平成24年度からは博士課程に進む院生が同時にがんに関する専門医の資格も取れる「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（以下「がんプロ」）」を設置した（資料医院24）。

資料医院24 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン



がんプロ養成基盤推進プランにおける大学生の教育プラン
(信州大学医学部医学研究科)

基礎系コース

基礎研究	包括的がん治療学講座(臨床研修)	自由選択
------	------------------	------

臨床系コース

臨床研修	包括的がん治療学講座(臨床研修)	自由選択
------	------------------	------

大学1院年目 2年目 3年目 4年目

本来所属する講座および研究テーマは直接的指導者との相談。
3～4年目の臨床研修期間はおよび自由選択の時期について他の選択肢として
本来所属する臨床系診療科での多がん種の臨床、放射線治療、緩和医療などを研修する

(出典：医学部作成)

③ e-MEDシステムによる大学院教育・研究への早期履修制度の導入

e-MEDは平成26年度より開始された大学院授業早期履修制度で、すでに7人（平成26年度5人、平成27年度2人）が履修を開始しており、リサーチマインドを持った医師をより多く養成することを目指している（資料医院25）。

資料医院25 e-MEDシステムによる大学院教育・研究への早期履修システム

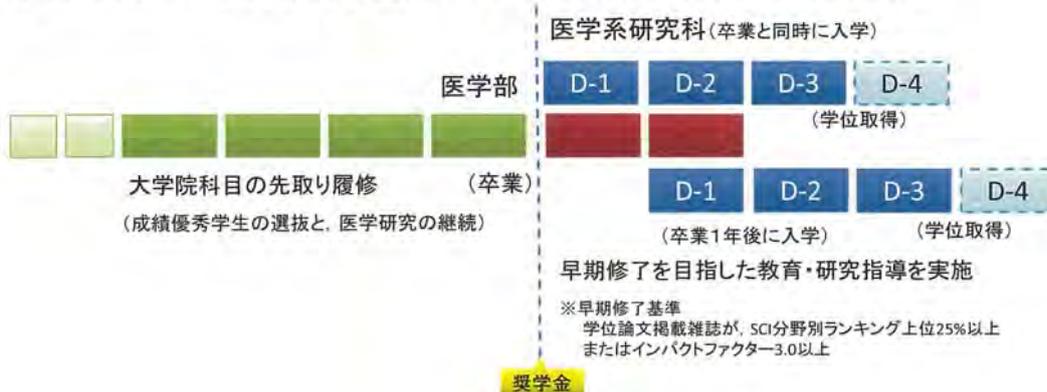
学部卒業後、臨床研修と博士課程を並行して履修

(初期研修医の大学院入学制度 平成26年度より開始)



早期参加複数コース制プログラム:eMED

(学部時代に大学院教育を開始 平成26年度より学部生履修開始)



年度	平成 26 年度	平成 27 年度
e-MED 履修学生	5 人	2 人

(出典：医学部作成)

④ 初期臨床研修と大学院を同時に履修できる制度の導入

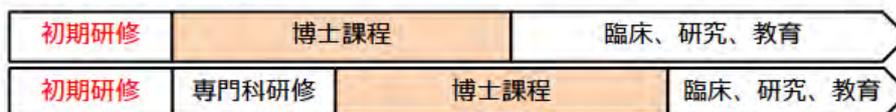
博士課程では、平成26年度から初期臨床研修と大学院を同時に履修できる制度を開始して院生の選択肢の増加を図っている。平成26年度には3人が入学した(資料医院26)。

資料医院 26 初期研修と大学院を同時に履修できるシステム

リサーチマインドを持った臨床医のキャリア形成



●現状での一般的な大学院進学時期



●新しく導入された卒後臨床研修医の大学院進学コース



履修者数

年度	平成 26 年度	平成 27 年度
受入人数	3 人	0 人

(出典：医学部作成)

⑤ 先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所設置に伴う教員の配置

平成 26 年 3 月より新たな融合研究領域を創造する「先鋭領域融合研究群」の 1 研究所として、「バイオメディカル研究所」が設置され、大学院教育は医学系研究科で行っている。

5 教育サポート体制

① 全学的な教育サポート体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている（資料医院 27、28）。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を配置している（資料医院 29）。

② 医学系研究科のサポート体制

医学系研究科では新入生ガイダンスにて履修案の他にハラスメントの問題について啓発すると共に、職員 25 名を学生向け相談窓口配置した。また、医学部にイスラム圏からの留学生のための礼拝室を設置し、時間的、精神的なサポートを行った（資料医院 30）。

資料医院 27 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。

- (4) 学生関係職員の SD (スタッフ・デベロップメント) に係る企画・立案及びその実施に関すること。
 - (5) 全学 (本法人が設置する信州大学大学院 (以下「大学院」という。) を除く。) の教務に関すること。
 - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
 - (7) 学位の授与に関すること。
 - (8) 教育課程 (大学院を除く。) に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
 - (9) 他の大学等との単位の互換 (大学院を除く。) に関すること。
 - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
 - (11) 出前講座に関すること。
 - (12) 諸会議 (国立大学法人信州大学戦略企画会議規程 (平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号) 第 6 条に定める大学院戦略会議 (以下「大学院戦略会議」という。) 及び信州大学大学院教務委員会を除く。) の連絡調整に関すること。
 - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
 - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
 - (2) 共通教育の教務に関すること。
 - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
 - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
 - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
 - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 省略
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
 - (3) 学生募集に関すること。
 - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
 - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学業務執行組織規程)

資料医院 28 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

学務課		学生支援課		国際交流課
うち大学院室		うちキャリアサポートセンター		
37	5	20	6	10

注：左記職員数には、非常勤職員が含まれています。なお、学務課所属の e-Learning センター担当職員は含まれていません。

(出典：経営企画課作成資料)

医学部国際交流室の教職員数

専任教員	事務職員	国際交流委員
1	4	13

(出典：医学部作成)

資料医院 29 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館 ^{注3}	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
松本キャンパス	36 (22)	8 (4)	5 (4) ^{注4}	3 (1)

注1：()内の数字は、専門的知識技能等を有する職員数を表す。
 注2：上記職員数には、非常勤職員が含まれています。
 注3：なお、附属図書館時間外開館で雇用する職員は含まれていません。
 注4：医学部附属病院担当者4名は含まれていません。 (出典：経営企画課作成資料)

資料医院30 礼拝室

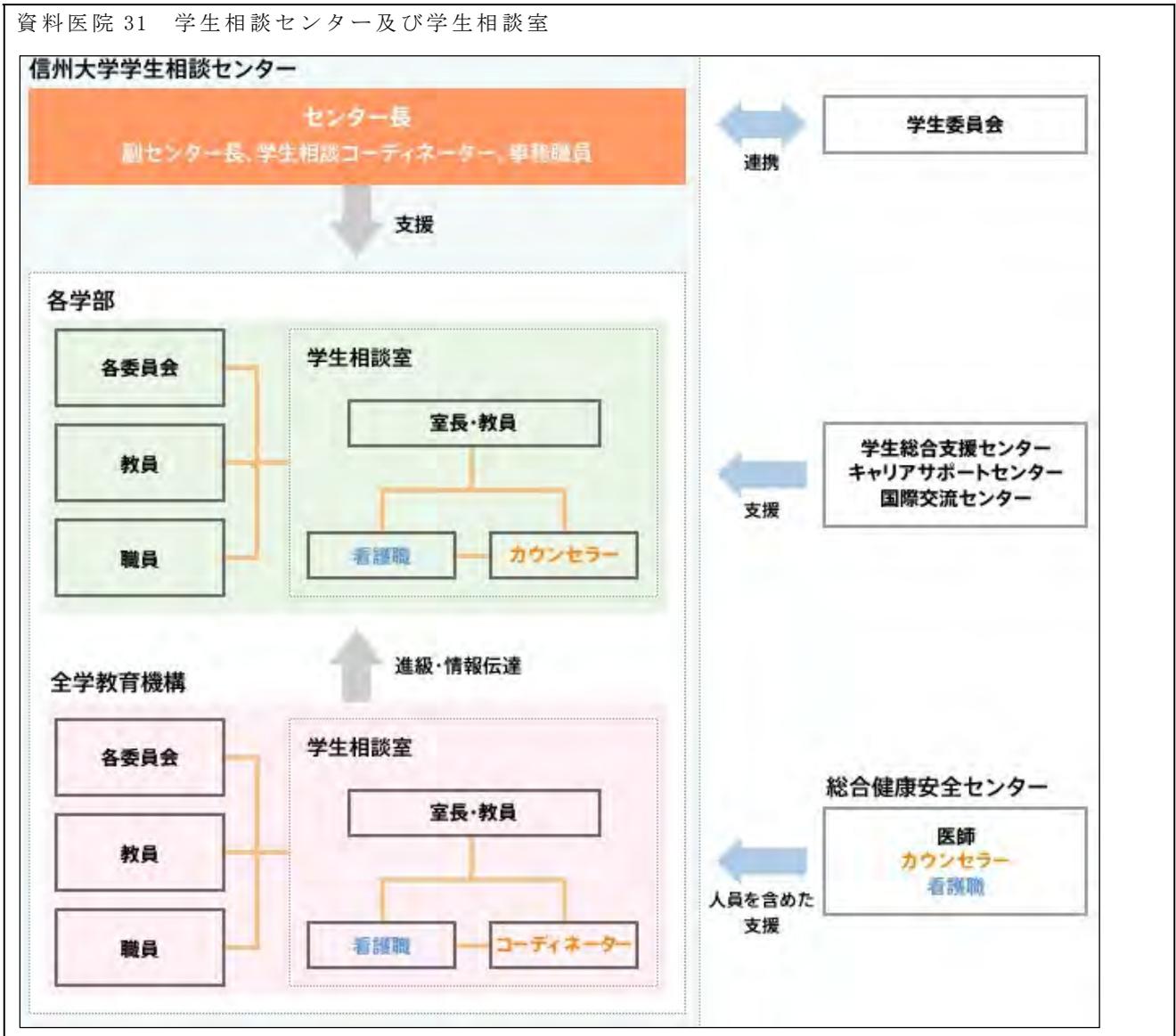



(出典：医学部作成)

② 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部の学生相談室を設置した。また、院生のメンタル面に対するサポートを円滑に展開するための FD を継続的に実施した（資料医院 31～33）。

資料医院 31 学生相談センター及び学生相談室



専門窓口と連携し対応します。

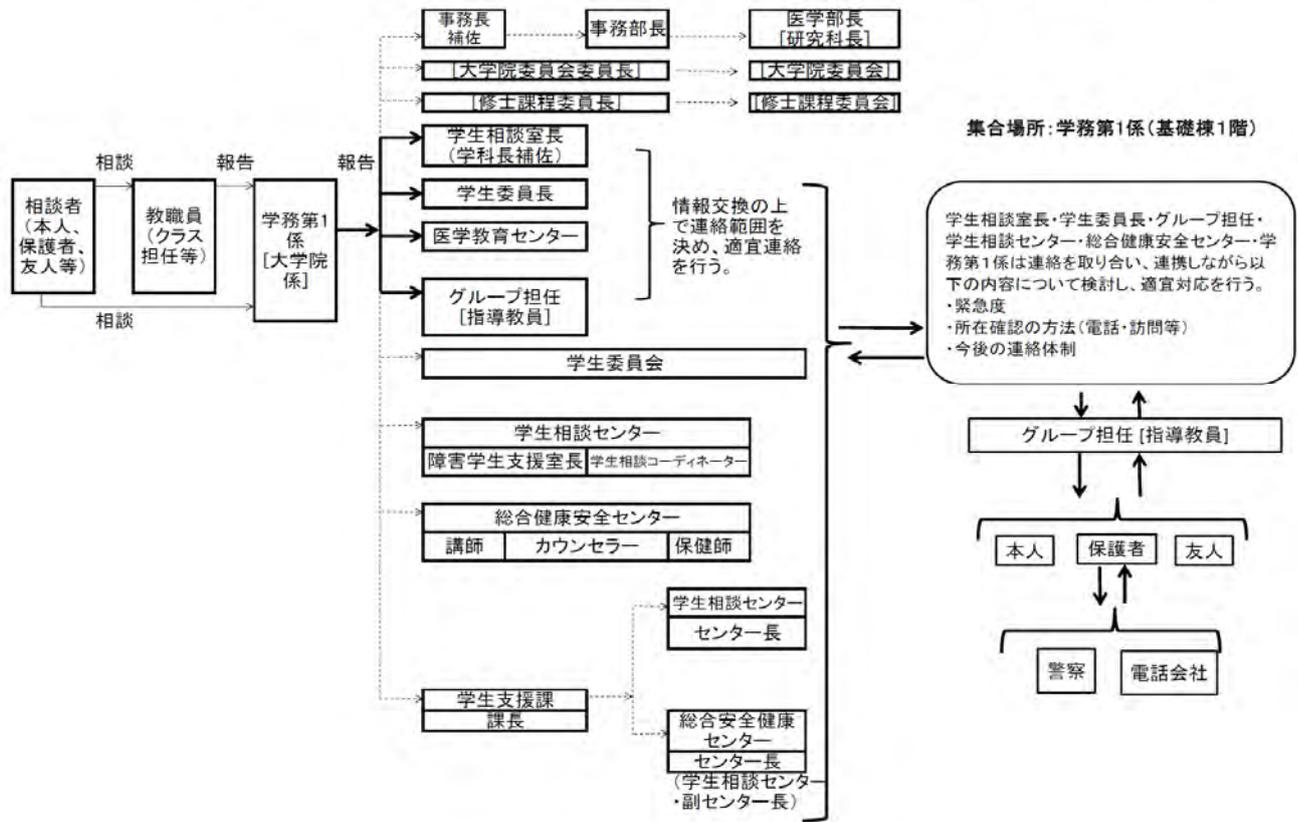
相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



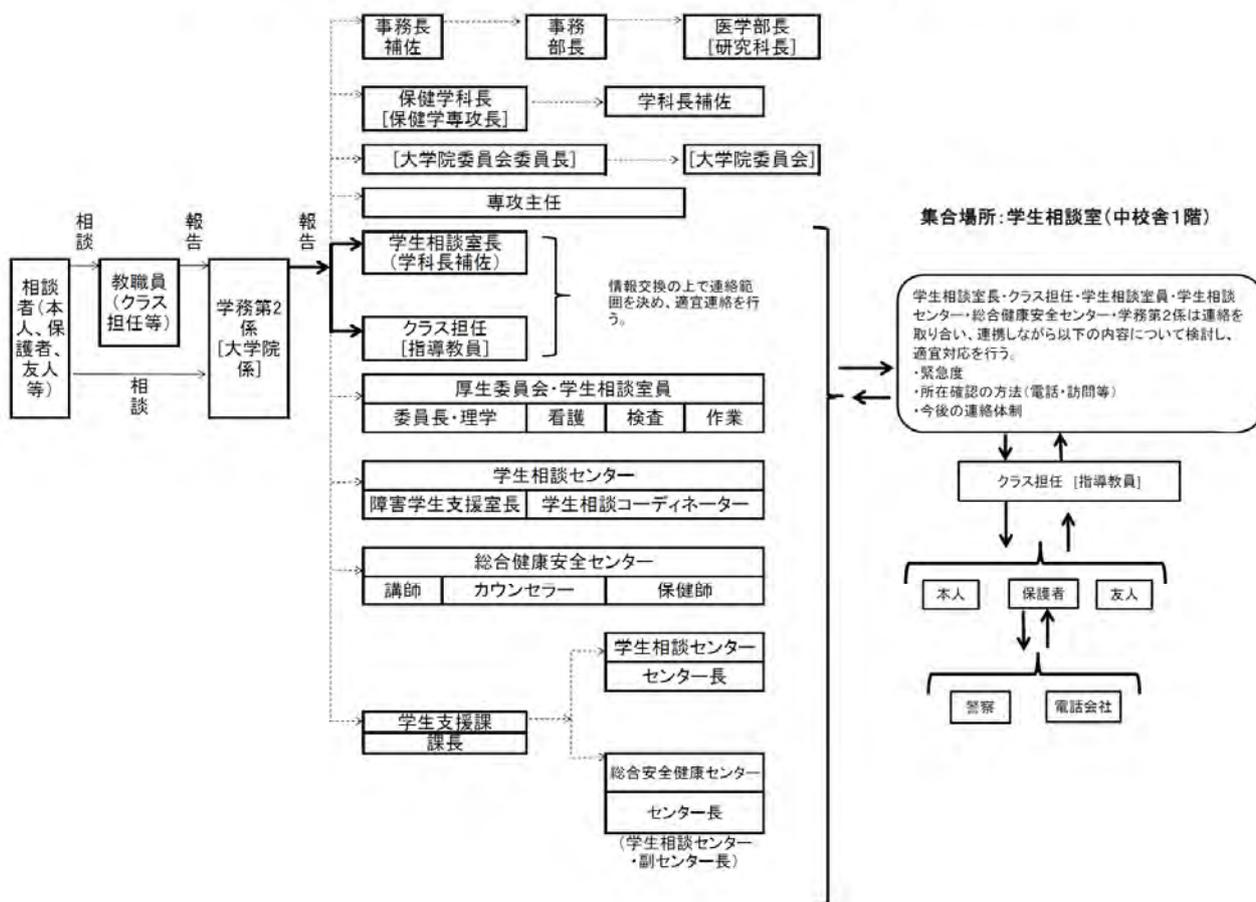
(出典：信州大学学生相談センターホームページ)

資料医院 32 学生相談の状況

医学(学部・大学院)「学生相談室」としての緊急連絡体制



保健学(学部・大学院)「学生相談室」としての緊急連絡体制



(出典：医学部作成)

資料医院33 学生支援に関するFD研修会

平成25年度FD研修会

日時：平成25年9月4日(水) 16時～17時30分

場所：医学部講義棟1階 第1講義室

演題：「学生相談の進め方」

講師：東京大学学生相談ネットワーク本部

精神保健支援室室長、コミュニケーション・サポートルーム室長
准教授 渡邊 慶一郎 先生

平成26年度FD研修会

日時：平成26年12月17日(水) 16時～17時30分

場所：地域保健推進センター3階 多目的講義室

演題：「学生への支援－教員としての葛藤－」

講師：信州大学教育学部教育カウンセリング課程

教授 上村 恵津子 先生

保健学専攻の全教員に対して大学院教育に関するFDを開催、平成24年度にはカーティン大学より教員を招きFD研修会を実施し、平成25、26年度には上記のFD研修会を実施した。

(出典：第2回学生相談委員会資料No. 3-1、医学部作成)

③ 副指導教授体制

博士課程（医学系専攻）では、平成24年度より基礎医学、臨床医学担当の教員、それぞれ1人に指導を受ける副指導教授体制（資料医院34）を導入した。これによって、基礎医学、臨床医学両面からの視点を持ち合わせる医学研究者、医療技術者の養成を図っている。

保健学専攻でも、博士前期・後期課程ともに、指導教員以外の教員を交えた3人の審査委員による学位論文審査委員会での審査を通して、研究内容に対する客観的な視点からの指導を実施している。

資料医院34 副指導教授について

○医学系専攻履修要件

授業科目		単位数
研究科共通科目 I		6単位以上
研究科共通科目 II		6単位
専攻開設科目	分野別開設科目	10単位以上
	研究特論	8単位
合計		30単位以上

※分野別開設科目は、主及び副指導教授(注)の指導の下、主指導教授の分野が担当する個別科目の外に、副指導教授の分野が担当する科目を含めて合計10単位以上を履修しなければならない。

(注)副指導教授について

主指導教授との相談により、以下を参考に主指導教授とは異なるクランから1名の副指導教授を選ぶ。例えば、主指導教授が臨床系クランに属している場合、副指導教授は基礎系クランから選ぶ。同じクランから2人の指導教授を指名することはできない。(ただし両クランに同一分野がある場合、異なる教授を選ぶこと。)

4月中に副指導教授を決定し、指導教授届及び履修届を大学院係まで提出すること。

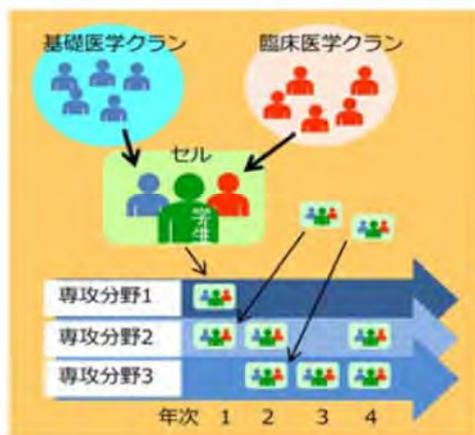
【基礎系クラン】

分野名	分野名
組織発生学	遺伝医学・予防医学
人体構造学	衛生学公衆衛生学
病理組織学	医学教育学(医療情報)
感染防御学	法医学
器官制御生理学	神経難病学(寄附講座)
分子細胞生理学	内科学(5)
分子薬理学(薬理)	外科学(2)
免疫・微生物学	麻酔蘇生学
免疫制御学	包括的がん治療学
分子細胞生化学	

【臨床系クラン】

分野名	分野名
分子薬理学(薬剤)	運動機能学
内科学(1)	形成再建外科学
内科学(2)	歯科口腔外科学
内科学(3)	麻酔蘇生学
内科学(4)	精神医学
内科学(5)	脳神経外科学
小児医学	眼科学
皮膚科学	耳鼻咽喉科学
画像医学	病態解析診断学
外科学(1)	救急集中治療医学
外科学(2)	包括的がん治療学
産科婦人科学	神経難病学(寄附講座)
泌尿器科学	

臨床的視点と基礎研究的視点をとともに兼ね備えている研究者・医師の養成システムへの再編



大学院教育体制の効率化・集約化と、学生定員の絞り込み（72→48名）による複数指導教官制の実質化

↓
医学研究後継者の育成・最先端医学リテラシーを持つ医療人の輩出

- ・教員を大きく2つのグループに大別、各大学院生は、各クランから1名ずつ指導教員を選び、学生と教員2名からなる大学院教育における基本単位である「セル」を構成する
- ・各教員は複数の「セル」に関与、「セル」教員の組み合わせは各「セル」によって異なる。
- ・本システムは従来のような「研究室」中心ではなく、「大学院生」を中心に、その周囲に教員間ネットワークを配置されている。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

④ 長期にわたる教育課程の履修、教育方法の特例、早期修了

職業を有している学生には、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにするとともに、土日及び夕方に開講するなどの措置を講じている。平成24年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした。早期修了制度を実施し、院生の学習・研究意欲の向上を図っている（資料医院 35～37）。

資料医院 35 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科規程

（長期にわたる教育課程の履修）

第38条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第16条に定める在学期間を超えることはできない。（教育課程の計画的な履修の特例）

第38条の2 各研究科（修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。）は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定（研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。）に基づく留学により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生（標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。）が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3年を超えることはできない。（教育方法の特例）

第39条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（修士課程又は博士前期課程の修了要件）

第40条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上（第15条第2項にあっては1年以上）在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（博士課程（博士前期課程を除く。）の修了要件）

第41条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

第42条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学す

れば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(教育方法の特例)

第 18 条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

2 前項に規定する授業及び研究指導は、博士課程において行うことができる。

3 前 2 項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

(出典：医学系研究科規程)

資料医院 36 長期にわたる教育課程の履修者数

事項	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
長期にわたる教育課程の履修	29	33	30	28	32	35

(出典：医学部作成)

資料医院 37 教育方法の特例による授業開講状況

【修士課程（医科学専攻）選択必修科目の開講状況】

○選択必修科目(医科学研究方法論演習 I～VI) 日程表

	1	2	3	4	5	6	7
医科学研究 方法論演習 I	5月 8日(木) 6・7時限	5月15日(木) 6・7時限	5月19日(月) 6・7時限	5月22日(木) 6・7時限	5月26日(月) 6・7時限	—	—
医科学研究 方法論演習 II	5月 7日(水) 6・7時限	5月 9日(金) 6・7時限	5月12日(月) 6・7時限	5月13日(火) 6・7時限	5月14日(水) 6・7時限	5月20日(火) 6・7時限	5月27日(火) 6・7時限
医科学研究 方法論演習 III	5月21日(水) 6・7時限	5月23日(金) 6・7時限	5月28日(水) 6・7時限	5月29日(木) 6・7時限	6月 2日(月) 6・7時限	6月 5日(木) 6・7時限	—
医科学研究 方法論演習 IV	9月 1日(月) 6・7時限	9月 6日(土) 1～3時限	9月 8日(月) 6・7時限	9月11日(木) 6・7時限	9月13日(土) 1～3時限	9月18日(木) 6・7時限	—
医科学研究 方法論演習 V	6月 9日(月) 6・7時限	6月10日(火) 6・7時限	6月11日(水) 6・7時限	6月13日(金) 6・7時限	6月18日(水) 6・7時限	—	—
医科学研究 方法論演習 VI	5月 2日(金) 6・7時限	5月30日(金) 6・7時限	6月 4日(水) 6・7時限	6月 6日(金) 6・7時限	6月19日(木) 6・7時限	—	—

(6 時限=18:00~19:30、7 時限=19:40~21:10)

・授業の無い時限は原則として各教室に配属となり、指導教授の指示に従う。

・2 年次は、各教室に配属となり医科学研究特論(8 単位)を履修し、修士論文を作成する。

【博士課程（医学系専攻、疾患予防医学系専攻）の研究科共通科目 I・II の開講状況】

○研究科共通科目 I・II 日程表

	1	2	3	4	5	6	7
形態学研究 方法特論	5月 8日(木) 6・7時限	5月15日(木) 6・7時限	5月19日(月) 6・7時限	5月22日(木) 6・7時限	5月26日(月) 6・7時限	—	—
免疫学研究 方法特論	5月 7日(水) 6・7時限	5月 9日(金) 6・7時限	5月12日(月) 6・7時限	5月13日(火) 6・7時限	5月14日(水) 6・7時限	5月20日(火) 6・7時限	5月27日(火) 6・7時限
生化学・分子生物学 研究方法特論	5月21日(水) 6・7時限	5月23日(金) 6・7時限	5月28日(水) 6・7時限	5月29日(木) 6・7時限	6月 2日(月) 6・7時限	6月 5日(木) 6・7時限	—
人類遺伝学 研究方法特論	9月 1日(月) 6・7時限	9月 6日(土) 1～3時限	9月 8日(月) 6・7時限	9月11日(木) 6・7時限	9月13日(土) 1～3時限	9月18日(木) 6・7時限	—
組織・器官機能 研究方法特論	6月 9日(月) 6・7時限	6月10日(火) 6・7時限	6月11日(水) 6・7時限	6月13日(金) 6・7時限	6月18日(水) 6・7時限	—	—
神経科学 研究方法特論	5月 2日(金) 6・7時限	5月30日(金) 6・7時限	6月 4日(水) 6・7時限	6月 6日(金) 6・7時限	6月19日(木) 6・7時限	—	—
腫瘍学 研究方法特論	9月 9日(火) 6・7時限	9月10日(水) 6・7時限	9月12日(金) 6・7時限	9月16日(火) 6・7時限	9月17日(水) 6・7時限	—	—
医科学研究 遠行特論	4月 7日(月) 6・7時限	4月 8日(火) 6・7時限	4月 9日(水) 6・7時限	4月10日(木) 6・7時限	4月11日(金) 6・7時限	—	—
実用医用統計学 特論	7月22日(火) 6・7時限	7月23日(水) 6・7時限	7月24日(木) 6・7時限	7月25日(金) 6・7時限	—	—	—
生命倫理学	6月30日(月) 6・7時限	7月 5日(土) 1～5時限	—	—	—	—	—

○授業時間

1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50
6時限	18:00~19:30
7時限	19:40~21:10

○平成27年度の夜間及び土曜日の授業開講状況

区分	6時限	7時限	6・7時限	土曜日
	18:00~19:30	19:40~21:10	18:00~21:10	
修士課程			6	
博士前期課程	22	11	7	4
博士課程			9	1
博士後期課程				3

(出典：医学系研究科修士課程シラバス、医学系研究科博士課程シラバス)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者：

修士課程と博士課程に新たな専門コース（人工内耳コースとがんプロ）が設置され、学生の多様な期待に応じる体制が整備された（資料医院21、24）。大学院の再編に伴い、基礎と臨床の複数の指導教授からの直接的な指導が可能となる制度が導入された（資料医院34）。e-MEDの導入や臨床研修1年目からの大学院入学制度によって選択肢の増加と学部在学中からの大学院教育への参加によるリサーチマインドを持つ医師育成が図られた（資料医院25、26）。保健学専攻では、教員が院生におけるメンタル面での問題が懸念された場合のゲートキーパーとしての相談の進め方や関連部局への繋ぎ方について理解を深めるためのFDの継続的实施や、学生相談に対応できる制度の充実が図られた（資料医院32、33）。また、優れた成績をあげた学生には早期修了を可能とし、優秀な人材の育成促進のため制度の充実が行われた（資料医院35）。

② 医療機関：

職業を有しながら大学院に進学する学生に対し、夕方以降の授業や長期にわたる履修が可能な体制が確立された（資料医院35～37）。

③ 研究機関：

副指導教授体制の実施により、創造的、多角的な研究能力を有する研究者の輩出する体制が整備された（資料医院34）。

④ 地域社会、国際社会：

国際交流室を設置し、必要な人員を配置し、国際的視野を持った医療人の育成が行われた（資料医院28）。また、留学生の多様な文化的・宗教的背景に対応するために礼拝室の設置が行われた（資料医院30）。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 体系的な教育課程の編成

① 学位授与の方針 (DP) に基づく教育課程の編成

本研究科は、DPに基づいた教育課程を展開している。また、DPの各項目と授業との関係をCPマップ及びシラバスにて公開している (資料医院38、39)。

資料医院38 学位授与の方針に基づいたカリキュラムマップ

コード	授業名	医学系諸科学における	自らの得た成果を世界	医学、保健学および関	高い倫理観と専門的知	保健・医療・福祉の現	国際的な諸問題に積極	地域保健・医療・福祉	コード	授業名	医学系諸科学における	自らの得た成果を世界	医学、保健学および関	保健学の学問体系の確	保健・医療・福祉の分	保健・医療・福祉の現	保健・医療・福祉の現	保健医療職者に対して
MA724300	成人看護学特別研究	○		○					MA810700	母子保健学特別研究				○				
MA724301	成人看護学特別研究			○	○			○	MA810703	母子保健学特別研究	○		○				○	
MA726301	老年看護学特別研究	○	○	○		○			MA810704	母子保健学特別研究	○			○				
MA730500	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究					○			MA821103	成人保健学特別研究			○	○	○	○	○	
MA730501	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究	○		○		○			MA821104	成人保健学特別研究			○	○	○	○	○	
MA730502	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究			○	○				MA821106	成人保健学特別研究					○			
MA732300	子ども・女性・家族支援実習							○	MA830900	老年保健学特別研究						○	○	○
MA732400	子ども・女性・家族支援課題研究							○	MA840903	医療生命科学特別研究				○				
MA740500	地域・国際看護学特別研究			○				○	MA840904	医療生命科学特別研究		○	○	○	○	○		
MA742500	在宅看護学実習							○	MA840905	医療生命科学特別研究	○						○	
MA742600	在宅看護学課題研究					○			MA840906	医療生命科学特別研究				○				
MA751200	病因・病態検査学特別研究(病態)	○			○				MA840909	医療生命科学特別研究							○	
MA751201	病因・病態検査学特別研究(生体)			○			○	○	MA840910	医療生命科学特別研究	○	○	○	○	○			○
MA751203	病因・病態検査学特別研究(組織)	○				○			MA840912	医療生命科学特別研究	○			○				
MA751211	病因・病態検査学特別研究(生体)					○			MA800100	保健・医療・福祉連携論							○	○
MA751212	病因・病態検査学特別研究(感染)						○		MA800200	生涯保健学研究法			○					○
MA751214	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸)	○	○	○	○				MA810100	母子保健学特講								○
MA770500	機能障害学特別研究						○		MA820100	成人保健学特講	○							
MA770502	機能障害学特別研究	○	○	○	○	○	○		MA830100	老年保健学特講						○		○
MA780600	作業療法学特別研究			○	○	○			MA840100	医療生命科学特講				○				
MA780601	作業療法学特別研究					○			MA810300	母子保健学演習A							○	○
MA780602	作業療法学特別研究					○			MA811100	母子保健学演習D	○							
MA700100	医療倫理学				○				MA811300	母子保健学演習E	○							○
MA700200	研究方法論				○				MA820700	成人保健学演習C			○	○	○	○	○	○
MA700300	医療情報処理学				○				MA820900	成人保健学演習D			○	○				○
MA700400	臨床判断解析学Ⅰ(内科系)	○	○	○	○				MA821000	成人保健学演習E								○
MA700500	臨床判断解析学Ⅱ(外科系)					○	○		MA830300	老年保健学演習A							○	○
MA700600	国際保健論		○					○	MA840300	医療生命科学演習A	○	○	○					○
MA700700	保健医療福祉システム論						○	○	MA840500	医療生命科学演習B		○	○				○	○
MA700800	社会システム論			○					MA840700	医療生命科学演習C	○							○
MA710200	看護研究				○	○												

(出典：「学位授与の方針」マップ)

資料医院39 シラバス

開講年度	2014年度	登録コード	MA810100
科目名	母子保健学特講	授業科目区分	必修科目
担当教員	坂口 けさみ 他 市川 元基, 寺田 克, 金井 誠, 玉井 真理子		
対象専攻/学年	母子保健学領域 / 1年次	講義期間	前期 曜日・時限 月5月6
単位数	2単位	講義室	保健学科212講義室
※科目の履修(履修要)が変更される場合は履修要が変更された科目の履修要を参照してください。			
授業で得られる 「学位授与の方針」要素 / ◎:全 学共通	《保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。》 専門職としての立場から研究課題を導くことができる。		
授業概要	《保健医療職者に対して、根拠に基づく実践(Evidence-based Practice)の概念に関わったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。》 研究課題に対して、エビデンスを構築するために必要な研究手法を理解できる。		
一般学習目標 GLO(期待される 学習効果)	母子保健学領域における最新の保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を幅広く理解するとともに、研究課題を深めていくための研究手法について学ぶ。		
SEOs(行動目 標)	1 母子保健に関する研究課題および倫理的課題について述べる事が出来る。 2 親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に、根拠に基づいた助産ケアについて述べる事が出来る。 3 生活習慣病の発生メカニズムと胎児期・新生児期・乳児期の重要性について述べる事が出来る。 4 産科医不足がもたらす産科医療へ及ぼす影響と地域医療ネットワークの重要性について述べる事が出来る。 5 生体の感染防御システムである免疫系の役割について述べる事が出来る。 6 生体肝移植の意義並びに様々な諸問題について理解する事が出来る。		
授業計画	第1回～第3回(4/7, 14, 21): (坂口けさみ) 周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズムや児に対するスキンシップ、カンガルーケアの意義並びに出産後の女性のライフステージにおける臨床的排せ機能に焦点を当て、その概観を理解するとともに、研究手法を学ぶ。 第4回～第6回(4/28, 5/8, 12): 研究課題に対するプレゼンテーション 第7回～第8回(5/18, 26): (市川元基) 小児期における疾患の発症と予防について、成長・発達との関連を免疫学・神経学の観点から理解を深め、新生児期を含めた小児期の健康管理について論議する。 第9回～第10回(6/2, 9): (寺田克) 胆道閉鎖症や肝移植など、小児期に外科手術を受け成人期を迎えた女性における諸問題について、妊娠・出産の観点を中心に教授する。また男子不妊症の原因の一つである停留嚢丸の発症原因と、嚢丸下降のメカニズムについて論議する。 第11回～第12回(6/16, 6/23): (金井誠) 最近の産科医不足がもたらす産科医療の問題と、産科医師不足に対する医療連携体制の構築について論議するとともに、早産や妊娠高血圧症候群などハイリスク妊娠に対する産科管理と重症化予防について学ぶ。 第13回～第15回(6/30, 7/7, 14): (玉井真理子) 歴史および文化的文脈から性と生殖の健康と権利の概念を多角的に検討しつつ、女性・子ども・家族の生涯にわたる健康問題を概観し、生命倫理的な観点から論議する。 第16回 7/28 までの		
授業の進め方	講義を中心に進めます。		
テキスト、教材、 参考書	【テキスト】 特に指定しないが、適宜紹介する。 【参考書・参考資料等】 Klaus & Kennell, Parent-Infant Bonding, Mosby, 1982. 周産期医学: 母子相互作用, 13(12), 1993. 玉井真理子, 他: 新生児医療現場の生命倫理, MGメディア出版(2006) など		
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題調査や発表内容、レポート等を総合的に判断して評価する。		

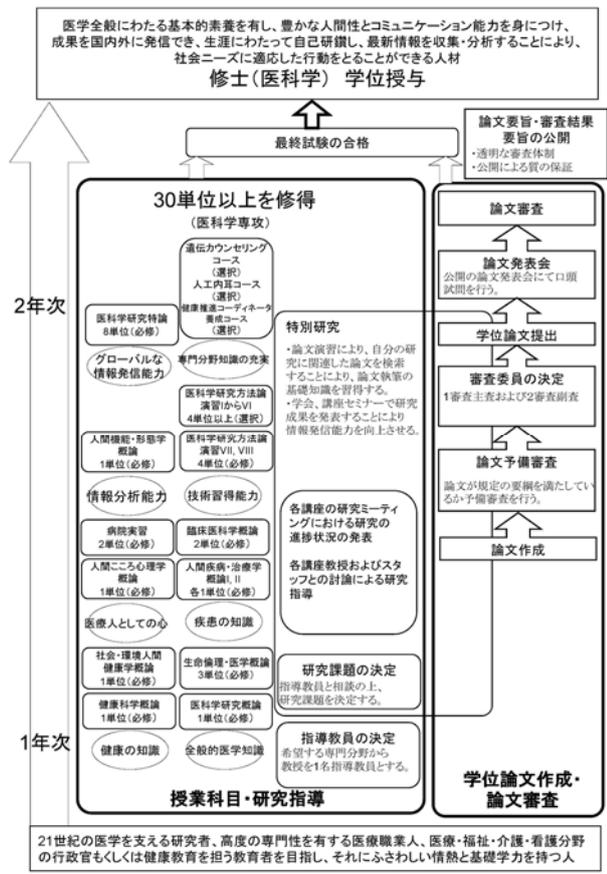
(出典：医学系研究科保健学専攻シラバス)

② カリキュラムの概要

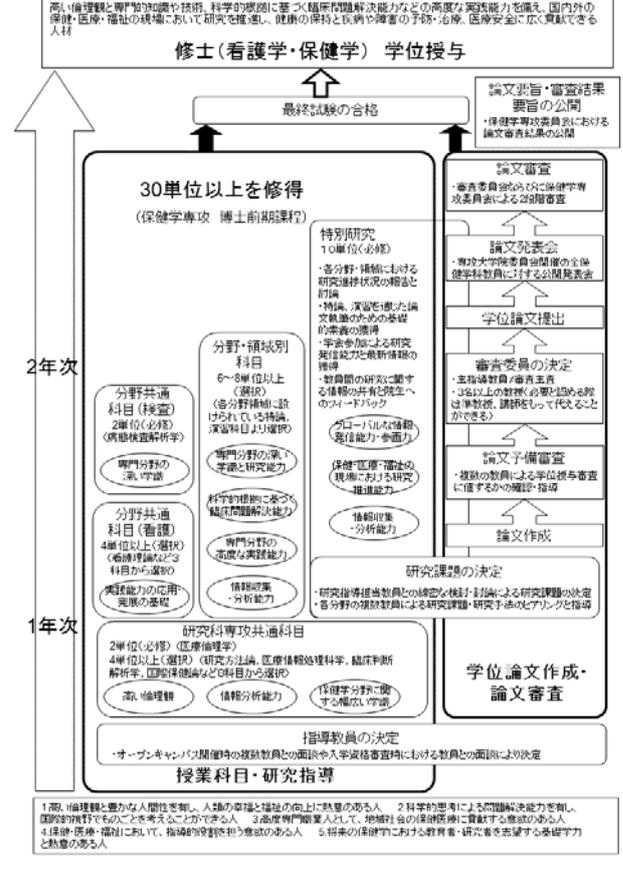
入学時からのコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査に至るまで教育体系を履修プロセス概念図により表し、シラバスに掲載し院生に明示している（資料医院40）。

資料 医院40 履修プロセス概念図

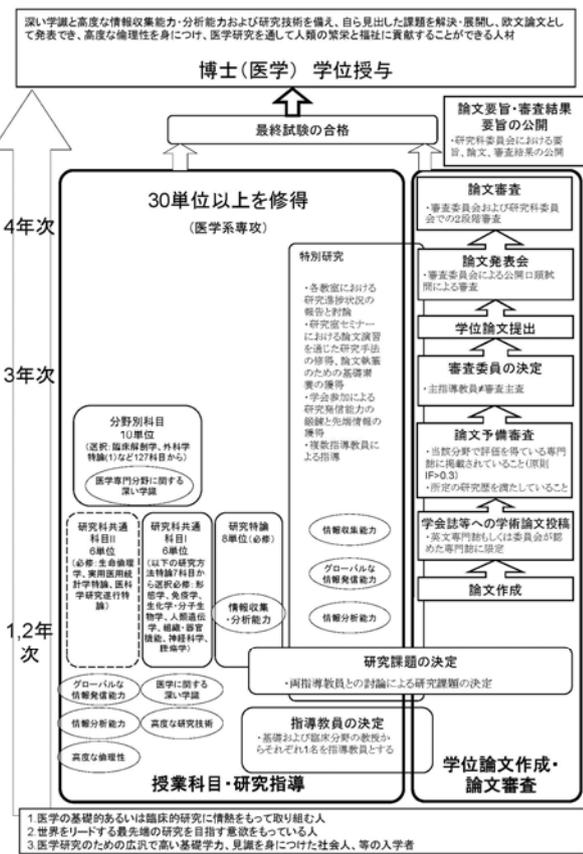
【医科学専攻（修士課程）】



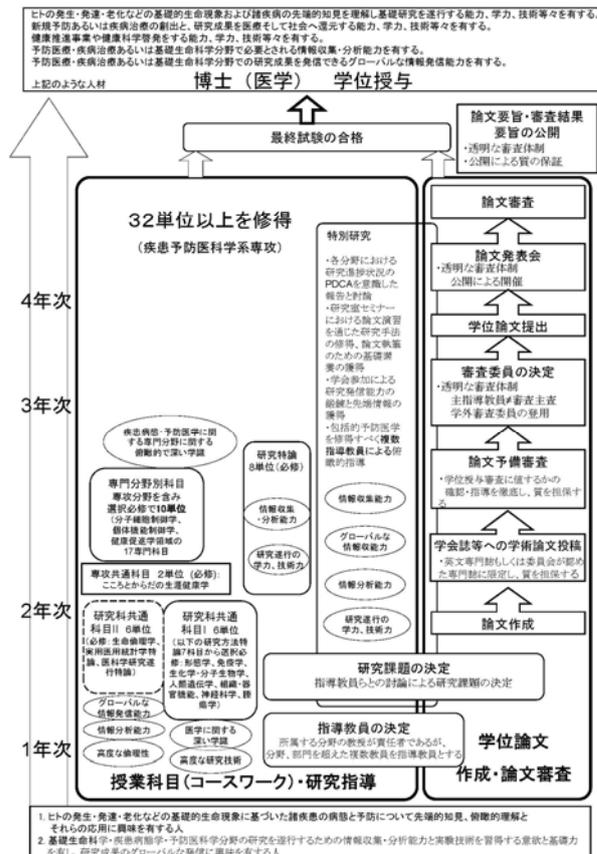
【保健学専攻（博士前期課程）】



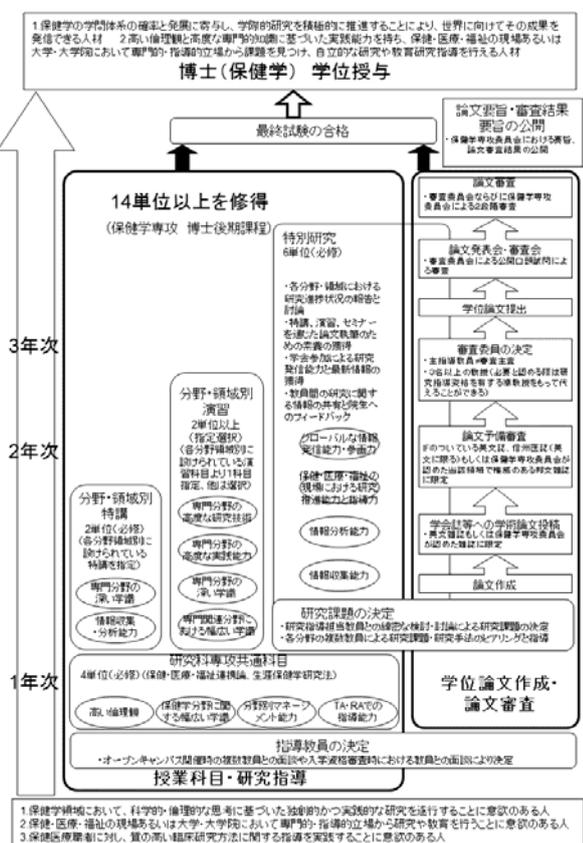
【医学系専攻（博士課程）】



【疾患予防医科学系専攻（博士課程）】



【保健学専攻（博士後期課程）】



(出典：医学系研究科シラバス)

③ 医科学専攻（修士課程）のコース制

医科学専攻では、専門職養成のための3つのコースを特別に設けている（前掲19頁、資料医院41）。

資料医院41 医科学専攻カリキュラム

履修要件	授業科目	単位数
1年次必修	医科学研究概論	1
	生命倫理・医学概論	3
	健康科学概論	1
	人間機能・形態学概論	1
	人間こころ心理学概論	1
	人間疾病・治療学概論Ⅰ	1
	人間疾病・治療学概論Ⅱ	1
	社会・環境人間健康学概論	1
	臨床医科学概論	2
	病院実習	2
4単位以上選択必修	医科学研究方法論演習Ⅰ（形態学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅱ（免疫学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅲ（生化学・分子生物学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅳ（人類遺伝学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅴ（組織・器官機能研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅵ（神経科学研究方法特論）	2
必修	医科学研究方法論演習Ⅶ（全学セミナー）	2
	医科学研究方法論演習Ⅷ（講座セミナー）	2
2年次必修	医科学研究特論	8

上記授業科目を合計30単位以上履修する。

履修要件	授業科目	単位数
選択	ライフサイエンス知的財産概論	2
	Introduction to Medical Science in Shinshu University Graduate School of Medicine	3
遺伝カウンセリングコース	基礎人類遺伝学	4
	遺伝医学	2
	染色体検査実習	1
	遺伝カウンセリングロールプレイ	2
	臨床遺伝学	1
	遺伝医療と生命倫理	1
	遺伝医療と社会	2
	遺伝医学論文実習	1
	遺伝カウンセリング特論	3
	遺伝カウンセリング実習	6
人工内耳コース	人工内耳特論	2
	人工内耳実習	2

健康推進コーディネーターコース	運動構造機能学	2
	運動生理学	4
	トレーニング学	4
	リハビリテーション医学	2
	地域社会福祉学	2
	加齢病態学	2
	加齢遺伝学	2
	医科学研究特論	8
	スポーツ栄養学	4
	こころの医学	2
	スポーツリハビリテーション	2
	健康管理情報学	2
	健康機器開発工学	2
	遺伝疫学	2

(出典：医学系研究科ホームページ「修士課程カリキュラム」)

④ 論文評価基準の明確化

学位論文審査および最終試験の評価基準を明確化した（資料医院42～44）。

資料医院42 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士前期課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士前期課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文の評価基準

1. [関連資料・文献] 研究主題の探究に際して利用した関連資料・文献について、精確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。
2. [実験・調査] 研究主題の探究に際して実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行われているか。またその分析は精確で、解釈や結果が妥当であるか。
3. [論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法] 問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。
4. [独創性と意義] 論証の方法や結論と成果は、先行研究との関連あるいは研究史に照らして十分な独創性と意義を有するか。
5. [表現の的確性と表現力] 日本語もしくは使用外国語について、語句や文章表現は的確で、かつ表現力に優れているか。
6. [論文の体裁と完成度] 本文、章立て、注記、参考書目あるいは図表等、部分的かつ全体の構成において、論文としての体裁が整っており、その完成度は高いか。
7. [総合的評価] 総合的に評価して修士論文に値するか。

(但し書き)

- 1) 図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・文献」と表記した。
- 2) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 3) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

最終試験の評価基準

最終試験は口頭試問により行い、以下の基準により評価する。

1. 研究の目的・方法・結果・考察・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
3. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

(出典：医学系研究科保健学専攻シラバス)

資料医院43 信州大学大学院医学系研究科（博士課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、審査委員会が学位論文の審査及び最終試験を行い、医学研究科委員会の協議によって最終的な可否を決定する。

学位論文の認定基準

1. 原則として、学位論文申請者の英文原著論文であり、印刷公表されたものであること。
2. 学位論文申請者が、筆頭著者あるいは筆頭著者相当であること。ただし、共著論文の場合は、研究及び論文作成の中心的役割を果たしたことが指導者により証明され、共著者により同意されたものでなければならない。
3. 学位論文を掲載する雑誌としては、以下のものを認める。
 - (1) インパクトファクター0.3以上の国際的雑誌
 - (2) 信州医学雑誌（ただし英語論文に限る。）
 - (3) その他、研究科委員会が認めた雑誌

最終試験の評価基準

- 最終試験は公開の口頭試問により行い、以下の基準により評価する。
1. 研究の目的・方法・結果・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
 2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
 3. 研究の将来展望について論述できること。
 4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
 5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

資料医院44 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士後期課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文の認定基準

学位論文は、申請者単独の著作であって、当該研究領域で権威ある邦文又は欧文雑誌に印刷公表又は受理（掲載許可）されたものとする。

ただし、次の要件をすべて満たす場合には共著論文を学位論文とすることができる。

- (1) 当該研究領域で権威ある邦文又は欧文雑誌に印刷公表又は受理（掲載許可）された論文であり、申請者が筆頭著者であること。
- (2) 研究及び論文作成の中心的役割を果たしたことが指導教員により証明され、共著者により同意されたものであること。

なお、「権威ある邦文又は欧文雑誌」とは以下のものとする。

- (1) IF (Impact Factor) がついている英文雑誌
- (2) 信州医学雑誌（ただし英文論文に限る。）
- (3) その他、保健学専攻委員会が認めた雑誌

最終試験の評価基準

- 最終試験は公開の口頭試問により行い、以下の基準により評価する。
1. 研究の目的・方法・結果・考察・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
 2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
 3. 研究の将来展望について論述できること。
 4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
 5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

2 教育方法・学習支援の工夫

① 履修方法等

修了要件等は、学則及び研究科規程に定めている。履修にあたっては、指導教授の指導に基づき授業科目を決め受講している（資料医院45～47）。

資料医院 45 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科

（修士課程又は博士前期課程の修了要件）

第40条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は

特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程(博士前期課程を除く。)の修了要件)

第41条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

第42条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(履修方法等)

第7条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 研究科長は、各学生ごとに大学院学則第8条第4項に定める研究指導を担当する教授又は准教授(以下「指導教授」という。)を決定するものとする。

3 学生は、修士課程及び博士課程並びに博士前期課程にあつては30単位以上を、博士後期課程にあつては14単位以上を修得するものとし、履修方法については、別に定める。

4 学生は、指導教授の指導により履修しようとする授業科目を決定し、入学後速やかに所定の履修届を提出しなければならない。

5 研究科の授業科目を履修した学生に対しては考査を行い、合格者には単位を与える。

6 考査は、試験又は研究報告により行う。

7 病気その他の理由により試験を受けることができなかつた者については、願い出により追試験を行うことができる。

(出典：医学系研究科規程)

資料医院46 博士前期課程保健学専攻看護分野履修単位一覧

科目	修士論文 コース	専門看護師(CNS) コース
専攻共通科目	6単位以上	6単位以上
分野共通科目	4単位以上	4単位以上
領域専門科目	8単位以上	8単位以上
特別研究	10単位	
実習		6単位
特定の課題研究		4単位

専門看護師(CNS)コース

看護学分野には母子看護学領域にリプロダクティブヘルス看護学、地域・国際・精神看護学領域に在宅看護学の専門看護師(CNS)コースがあり、資格取得まで指導を行う。

(出典：医学系研究科ホームページ「博士前期課程カリキュラム」)

資料医院47 履修届

(履修方法等)

第7条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 研究科長は、各学生ごとに大学院学則第8条第4項に定める研究指導を担当する教授又は准教授(以下「指導教授」という。)を決定するものとする。

3 学生は、修士課程及び博士課程並びに博士前期課程にあつては30単位以上を、博士後期課程にあつては14単位以上を修得するものとし、履修方法については、別に定める。

4 学生は、指導教授の指導により履修しようとする授業科目を決定し、入学後速やかに所定の履修届を提出しなければならない。

(出典：医学系研究科規程抜粋)

平成27年度 医学系専攻 履修届

平成 年 月 日

信州大学大学院医学系研究科長 殿

学籍番号 _____

教室名 _____

氏名 _____

指導教授 _____ 印

履修科目 選択欄	授業科目名	単位数
共通科目 I (3科目以上 選択必修)	形態学研究方法特論	2
	免疫学研究方法特論	2
	生化学・分子生物学研究方法特論	2
	人類遺伝学研究方法特論	2
	組織・器官機能研究方法特論	2
	神経科学研究方法特論	2
	腫瘍学研究方法特論	2
共通科目 II (3科目必修)	<input type="radio"/> 医科学研究遂行特論	2
	<input type="radio"/> 実用医用統計学特論	2
	<input type="radio"/> 生命倫理学	2
専攻開設科目 開設科目 (10単位以上)		
研究特論 卒業論文(2年次)	<input type="radio"/>	8

〔注〕履修する科目の選択欄に○を付けて下さい。専攻開設科目については、選択した科目の名称等も記入して下さい。提出先：大学院係 提出期限：4月30日（木）

平成27年度 博士後期課程 保健学専攻 履修届

平成 年 月 日

信州大学大学院医学系研究科長 殿

学籍番号 _____

領域 _____

氏名 _____

指導教員 _____ 印

履修科目 選択欄	授業科目名	単位数	備考	
共通科目	<input type="radio"/> 保健・医療・福祉連携論	2	専攻必修科目	
	<input type="radio"/> 生涯保健学研究法	2	専攻必修科目	
生涯保健学分野	母子保健学領域	母子保健学特講	2	母子保健学必修
		母子保健学演習A	2	
		母子保健学演習B	2	
		母子保健学演習C	2	
		母子保健学演習D	2	
		母子保健学特別研究	6	母子保健学必修
	成人保健学領域	成人保健学特講	2	成人保健学必修
		成人保健学演習A	2	
		成人保健学演習B	2	
		成人保健学演習C	2	
老年保健学領域	成人保健学演習D	2		
	成人保健学特別研究	6	成人保健学必修	
	老年保健学特講	2	老年保健学必修	
	老年保健学演習A	2		
医療生命科学分野	老年保健学演習B	2		
	老年保健学演習C	2		
	老年保健学特別研究	6	老年保健学必修	
	医療生命科学特講	2	医療生命科学必修	
	医療生命科学演習A	2		
	医療生命科学演習B	2		
	医療生命科学演習C	2		
	医療生命科学特別研究	6	医療生命科学必修	

〔注〕履修する科目の選択欄に○を付けてください。提出期限：4月10日（金）提出先：大学院係

(出典：医学部作成)

② Web会議システム

保健学専攻（博士前期・後期課程）では、平成26年度からWeb会議システムを活用し、県外の遠隔地にいる院生との個別ゼミ、前期・後期課程全体の合同ゼミなどを実施している（資料医院48）。

資料医院48 会議システムの活用状況

平成26年度 Web会議システム利用実績(大学院)

利用代表者	利用者内訳	人数	利用目的/利用日	月	利用回数	利用時間
木村 貞治	みまき温泉診療所2名、身体教育医学研究所1名	3	1)東御市を中心とした地域保健・地域リハビリテーションに関する情報交換 2)大学院生の研究協力依頼6/2	6月	13回	42.75時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	5	ゼミ6/2			
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院の個別ゼミ6/6			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	5	遠隔地の学生を含めての大学院の授業を開催するため。6/6			
上村 智子	博士後期課程2名、博士前期課程1名	3	大学院ゼミ(学会の予演会)6/7			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	20	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。6/9.16.23.30			
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業6/13.20.27			
木村 貞治	博士後期課程1名、公益財団法人身体教育医学研究所1名、みまき温泉診療所1名	3	1)東御市を中心とした地域保健・地域リハビリテーションに関する情報交換 2)大学院生の研究協力依頼6/18	7月	8回	29時間
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業7/4.11.18,			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	25	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。7/7.14.23.24.28			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。8/4.7.11.18.19.25.28	8月	9回	29.5時間
上村 智子	博士後期課程3名、博士前期課程1名	4	大学院ゼミ8/9			
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院ゼミ8/20	9月	15回	47時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	50	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。 9/1.4.8.11.16.17.22.25.29.30			
木村 貞治	博士後期課程1名	2	大学院ゼミのため9/4.17			
上村 智子	博士後期課程1名	3	博士論文の指導9/5.12.16	10月	14回	39.75時間
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	140	大学院生の授業10/3.10.17.24.31			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	30	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。10/6.14.20.27.28.31			
木村 貞治	博士後期課程1名	2	大学院ゼミのため10/15.16.			
上村 智子	博士後期課程1名	1	博士論文の指導10/30	11月	10回	36時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	30	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。11/5.10.12.17.19.26.			
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	112	大学院生の授業11/7.14.21.28	12月	11回	39時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。12/1.4.8.12.15.22.25			
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業12/5.19.26			
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院ゼミのため12/18	1月	7回	28時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。1/5.9.14.16.19.26.30			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	40	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。2/2.5.9.12.16.19.23.26	2月	8回	32時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	45	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。 3/2.5.9.12.16.19.23.26.30			
		883		合計	104回	359時間

(出典：医学部作成)

③ e-Learning教材を用いた研究倫理教育 (CITIプログラム)

修士課程では「生命倫理・医学概論」、博士課程では「生命倫理」、博士前期課程では「医療倫理学」、博士後期課程では「生涯保健学研究法」の授業において、研究倫理教材であるCITIプログラム (以下「CITI」) (資料医院49) の履修を平成25年度から義務づけている。これらの授業では、e-Learning教材による学習やスモールグループディスカッションを通じて、医学研究倫理の重要性が理解されるように工夫している。

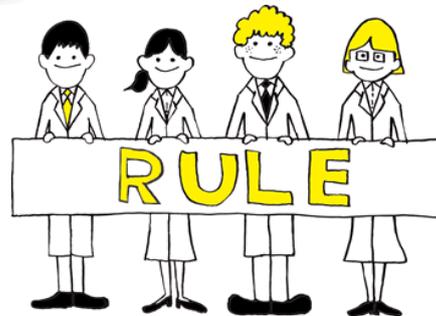
資料医院49 CITIプログラムの概要

信州大学が中心となって平成24年9月にスタートした『文部科学省・大学間連携共同教育推進事業・「研究者育成の為に行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開」(略称;CITI Japan プロジェクト)』では、国際標準を満たした研究倫理e-learning教材を研究者コミュニティのガバナンスを確保した上で作成し、広く利用を呼びかけている。平成26年7月1日現在、68大学等の20,438人の教職員・学生が利用している。

PROPOSAL 01 研究者のミスコンダクトを行動規範教育で解消



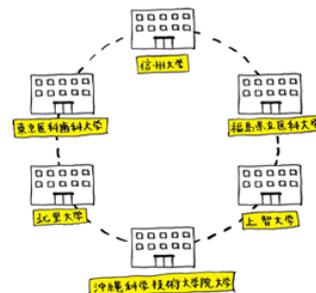
PROPOSAL 02 グローバルな研究成果は、国際基準を満たすルール(倫理基準)から



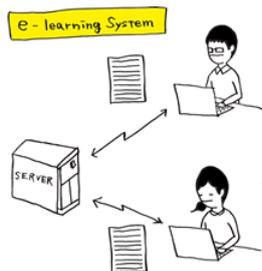
PROPOSAL 03 米国 CITI Programとの共同開発



PROPOSAL 04 6大学、専門機関の連携による客観性と最新知識の確保



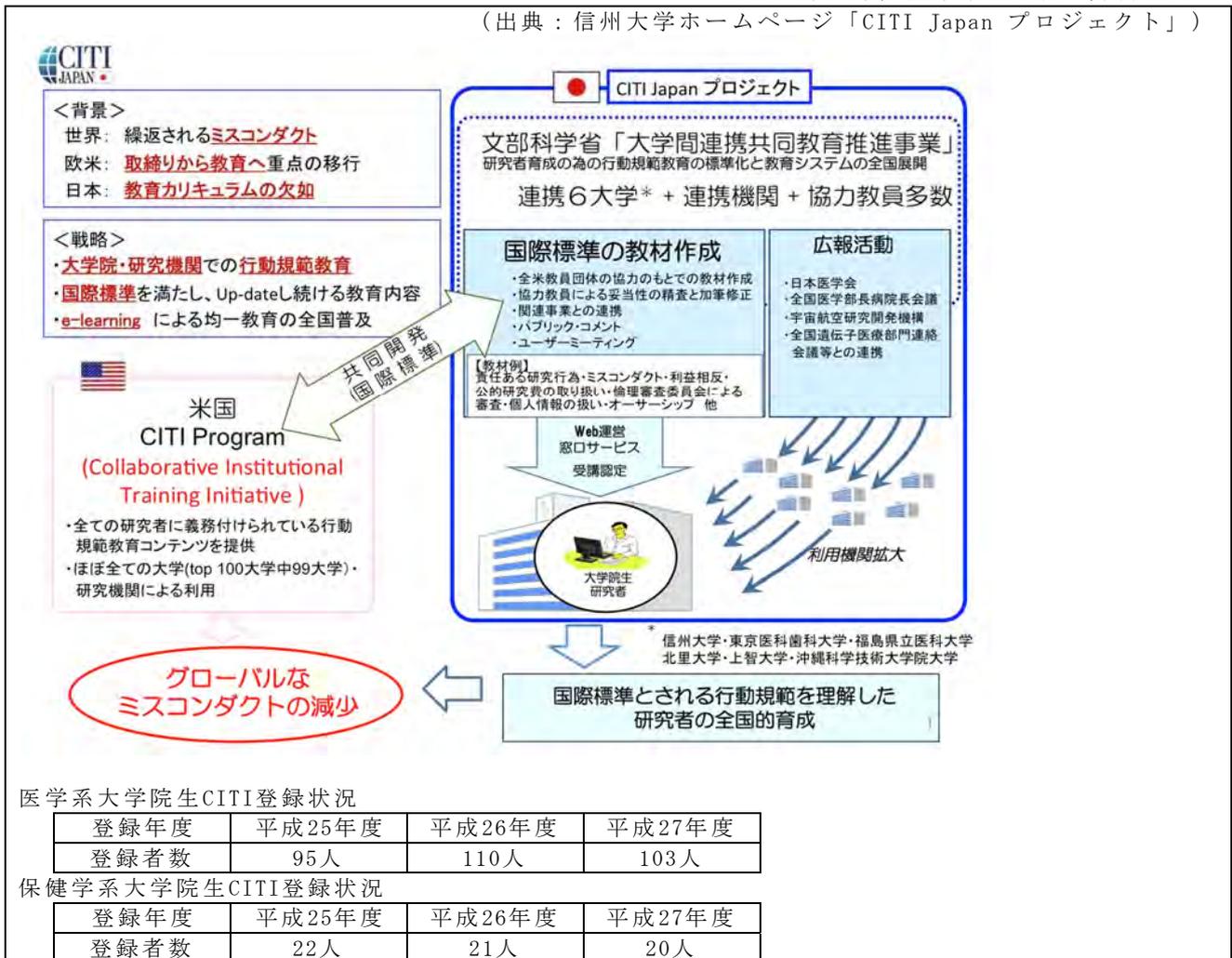
PROPOSAL 05 「e-learning」ならではの時と場所を選ばない学習スタイルの提案



PROPOSAL 06 JAXAや沖縄科学技術大学院大学が必須教材として採用



(出典：信州大学ホームページ「CITI Japan プロジェクト」)



医学系大学院生CITI登録状況

登録年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録者数	95人	110人	103人

保健学系大学院生CITI登録状況

登録年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録者数	22人	21人	20人

平成27年度医学系研究者標準コース対象科目

領域	単元 単元) (*:英語版提供)	
責任ある研究行為 (生命医学)	責任ある研究行為について*	必須
	研究における不正行為*	必須
	データの扱い*	必須
	共同研究のルール*	必須
	利益相反	必須
	オーサーシップ*	必須
	盗用*	必須
	社会への情報発信	オプション
	ピア・レビュー	必須
	メンタリング	必須
人を対象とした研究 :基盤編	公的研究資金の取り扱い*	必須
	生命倫理学の歴史と原則、そしてルール作りへ	必須
	研究倫理審査委員会による審査	必須
	研究における個人に関わる情報の取り扱い	必須
	人を対象としたゲノム・遺伝子解析研究	オプション
	研究で生じる集団の被害	オプション
	研究におけるインフォームド・コンセント	必須
	特別な配慮を要する研究対象者	必須
	カルテ等の診療記録を用いた研究	オプション
	生命医学研究者のための 社会科学・行動科学	オプション
	国際研究	オプション
	多能性幹細胞研究の倫理 I・II	オプション
研究倫理審査委員会の委員に就任する際に 知っておくべきこと	オプション	
研究の安全性	実験安全の基本(2015)	オプション
	化学物質を使った実験(2015)	オプション
	放射性物質の取り扱い(2015)	オプション
	遺伝子組換え(Recombinant DNA)(2015)	オプション
	バイオセーフティ コース概略(2015)	オプション
	OSHA血液由来病原体への対策	オプション
	研究室関連感染とバイオハザードのリスク評価(2015)	オプション
リスク管理—緊急時および飛散時の対応	オプション	
バイオサンプルの発送と受取	オプション	
実験動物の取り扱い (ACU)	単元1:動物実験の基礎知識	オプション
	単元2:動物実験の実施にあたり配慮すべきこと	オプション
米国臨床試験実施基準(GCP)に関する教材	臨床試験の実施に関する基準(GCP)についての CITI学習コース	オプション
	新薬開発の概要	オプション
	日米EU医薬品規制調和国際会議(ICH):GCPの要件	オプション
	米国食品医薬品局(FDA)による研究の規制管理	オプション
	日米EU医薬品規制調和国際会議(ICH)、治験責任医師のためのICH	オプション
	研究者主導型治験を米国食品医薬品局(FDA)規制とGCPに則って実 施するために	オプション
	FDA規制下での治験における治験責任医師の責務	オプション
	GCP下における治験薬の管理	オプション
	医療機器治験の実施	オプション
	インフォームド・コンセント	オプション
	有害事象の察知と評価	オプション
	重篤有害事象の報告	オプション
	臨床試験の監査と査察	オプション
	治験依頼者(企業)による臨床試験のモニタリング	オプション
	CITI GCPコースを終えるに当たって	オプション
米国被験者保護局 (OHRP)教材	被験者保護局	オプション
	インフォームド・コンセントのチェック・リスト	オプション
	機密性証明書に関するガイダンス	オプション
	英語を話さない被験者のインフォームド・コンセント の取得と記録	オプション
	継続審査に関するガイダンス	オプション
国内IRBの米国OHRP への登録手続き案内	OPRR報告	オプション
	日本からの米国保健福祉省(HHS)被験者保護局(OHRP)への施設内 倫理審査委員会(IRB)登録の手順	オプション

(出典：医学部作成)

④ 合同ゼミナール

保健学専攻（博士前期・後期課程）では、理学療法関係の院生を対象として、定期的に院生全員による合同ゼミナールを実施し、院生同士の活発な質疑応答を通して主体的な学習を促進するように努めている（資料医院50）。

資料医院 50 合同ゼミナール開催状況



繊維学部トッドパタキ先生をお招きして、保健学専攻博士前期課程および博士後期課程の大学院生による合同ゼミナールを開催した。

（出典：医学部作成）

⑤ 次世代の医学研究者養成のための工夫

修士課程において、博士課程との授業の共通化による単位相互認定、博士課程へ進学した際の優遇策を実施して博士課程への進学を奨励している。

博士課程では院生をリサーチアシスタントとして採用し、研究への積極的な参画を促進している（資料医院51）。

資料医院51 次世代の医学研究者養成のための工夫

- ・ 修士課程（博士前期課程）から引き続き、博士課程または博士後期課程に進学する場合は入学検定料と入学料が不要。
- ・ 修士課程の学生は選択必修として、博士課程の共通科目を履修する。博士課程に進学した場合は10単位まで既修得単位として申請できる。
- ・ リサーチアシスタントの採用
若手研究者の養成・確保を促進するため、医学部が行う研究プロジェクト等に優れた博士課程在学者を研究補助者として採用する。

3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 英語による授業の実施

留学生及びグローバル化に対応するため、英語の授業を実施している。英語授業は平成22年度以前に設定されたが、修士課程は平成24年度、博士前期課程は平成25年度に初めて開講された（資料医院52）。

修士課程の英語授業は修業期間内に必ず受講できるようにカリキュラムを整備している。また、日本語で授業を行う場合でも使用するスライドは、平成25年度から全ての授業で英語での記述が義務化されている。

資料医院52 英語による授業

【修士課程医科学専攻】

Subject	Introduction to Medical Science in Shinshu University Graduate School of Medicine	Credit	3
The person in charge	Keiichi Higuchi (Organizer) Department of Aging Biology (Ext. #: 5365, E-mail keiichih@shinshu-u.ac.jp)		
Room	Master Course Lecture Room, 9th floor, Asahi Life Science Research Building		
Date	Lesson 1-15, in the second semester 2014 (Dates will be announced later.)		
Aim	To introduce scientific advances in basic and clinical medicine of Shinshu University School of Medicine		
Outline	Refer to subjects of lecturers		
Textbook			
Lesson Style	Lecture, Discussion and Report		
Certifying credit	Reports		

【保健学専攻】

登録コード: MA700600	授業科目区分	選択科目
科目名	国際保健論 International Health	
担当教員	奥野 ひろみ 他 ゴウ アーチェン	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通/1年次	前期 水曜、5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科212講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通	◎の項の授業要素に当てはまる「グローバルな専門知識の習得」要素/◎:全学共通 国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参加できる能力を有する。	
授業概要	This course will examine global health issues and international collaboration of health professionals. Following introductory lectures, students will choose themes of their own interests. They search for information through the Web and published literature, find differences and commonalities in health problems, health delivery systems or health professional roles among countries, and discuss further improvements for each of these issues. This course also explores examples of international collaboration and career development in the international society. Students can also get this course credit by attending the exchange program with Curtin University (Postgraduate course).	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> - To understand concurrent global health issues. - To realize diversity and universality of health problems, health systems and health professional roles in the world. - To identify themes of international collaboration in medical and health fields 	
SDGs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> - To identify needs of international collaboration in students' own specialties. - To analyze health situations and related factors in selected health problems. - To identify obstacles and discuss possible solutions. - To explore examples of international collaborations and discuss applications in students' own fields. - To identify merits of international collaborations and discuss how each student will develop their careers in the international society. 	
授業計画	<Course work> 1 (4/9) Orientation, Introduction to international health 2 (4/16) International collaboration in developing countries (problem-based) 3 (4/23) International collaboration among health professional (profession-based) 4-7(4/30 5/14, 21, 28) Group tutorials 8 (6/4) Plenary session; group presentations 9-12(6/11, 18, 25, 7/2) Group tutorials 13(7/9) Plenary session; group presentations 14 (7/16) Career development in international society 15(7/23) Course summary <Exchange program> Curtin University exchange program (August-September, three weeks) Week 1: Orientation and English language studies Week 2: Professional studies Week 3: Visits to hospitals, nursing homes and clinical institutions.	
授業の進め方	Group discussions Presentations Reports	
テキスト、教材、参考書	Will be introduced during the course.	
成績評価の方法	Lectures Group tutorials Presentations	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	Students are encouraged to turn their eyes from their own place and settings to international and cross-cultural settings, examining familiar health issues from global points of views. We also encourage students to develop visions of their own career development in the international society related to their own professions.	

(出典:医学系研究科保健学専攻シラバス)

② 留学生の状況

国際交流室の専任教員の配置に加えて国際交流委員会を組織して、留学生の生活及び研究、勉学のサポートを行うチューターの増員及びResearch Assistantへの留学生の優先採用を行った。取組みの結果、留学生が平成22年度26人から27年度には30人へと増加した(資料医院53、54)。

資料医院53 留学生チューター

	平成 21年度		平成 22年度		平成 23年度		平成 24年度		平成 25年度		平成 26年度		平成 27年度	
	前期	後期												
日本人 チューター	2	3	0	2	2	3	2	2	2	4	3	5	3	2
留学生 チューター	1	0	0	3	6	5	7	8	5	5	2	3	4	5

(出典：医学部作成)

資料医院54 留学生在籍状況の年度別推移

年度	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
研究生	5		3		4		3		4		4	
学部生	0		0		0		1		1		1	
修士	0		2		3		2		0		0	
博士	21		23		22		25		23		25	
合計	26		28		29		31		28		30	
内訳	中国	21	中国	23	中国	24	中国	25	中国	23	中国	23
	イラク	1	イラク	1	イラク	1	韓国	1	韓国	1	韓国	1
	インドネシア	1	インドネシア	1	ネパール	2	タンザニア	1	インドネシア	1	インドネシア	1
	ネパール	1	ネパール	1	バングラデシュ	1	ネパール	2	タンザニア	1	エジプト	2
	バングラデシュ	2	バングラデシュ	1	ベトナム	1	バングラデシュ	1	ネパール	1	タンザニア	1
			ベトナム	1			ベトナム	1	ベトナム	1	ベトナム	1
											ミャンマー	1

(出典：5.1現在留学生調査より)

4 学生の主体的な学習を促すための取組

① 修士課程及び博士前期・後期課程公開論文発表会

修士課程及び博士前期・後期課程では、論文発表会を公開して実施している。また、修士課程の発表会の運営は、在学生が主体となって行っている（資料医院55）。

資料医院55 論文発表会の開催状況



平成26年度 修士論文発表会プログラム

2月5日(木) 9:00～

発表順	発表時間 (発表7分、質疑3分)	発表者	論文題目	番号
1	9:00～9:10	13MS006C 高津 香奈絵	精神科的薬物治療中の急死とLQT 遺伝子の関連性	1
2	9:10～9:20	13MS001B 奥島 菜々子	遺伝性疾患が疑われる小児患者における遺伝学的検査実施状況	2
3	9:20～9:30	13MS004G 近藤 由佳	18トリソミーをもつ子どもの親の思いに関する研究 —長野県立こども病院において新生児医療を受けた子どもへの親へのアンケートから—	3
4	9:30～9:40	13MS005E 櫻井 和徳	2型糖尿病患者における血糖自己測定に基づいた夜間最低血糖値の予測	4
休憩(9:40～9:50)				
5	9:50～10:00	13MS007A 仲江 真理	還元型コエンザイム Q10(CoQ10)摂取による高齢者の運動トレーニング実施率改善効果	5
6	10:00～10:10	13MS002A 加藤 理子	人工内耳装用児の聴性行動および認知・発達に関する研究	6
7	10:10～10:20	13MS008K 永田 富士子	iPS 細胞を用いた心筋再生に分化時期が及ぼす影響の調査	7
8	10:20～10:30	13MS003J 小島 恵美	神経障害性疼痛における過分極誘発性環状ヌクレオチド活性化(HCN)チャネルの役割の検討	8

平成26年度
医科学専攻
修士論文発表会
論文内容の要旨集



平成27年 2月5日(木) 9:00～

旭総合研究棟 9階 講義室A・B

信州大学大学院医学系研究科

平成 26 年度 学位論文発表会プログラム

(発表順 1~13 : 修士論文, 14 : 博士論文)

2月3日(火) 9:30~

平成 26 年度
 博士・修士
学位論文発表会
 論文内容の要旨集



平成 27 年 2 月 3 日(火) 9:30~
 地域保健推進センター3階 多目的講義室

信州大学大学院医学系研究科
 保健学専攻

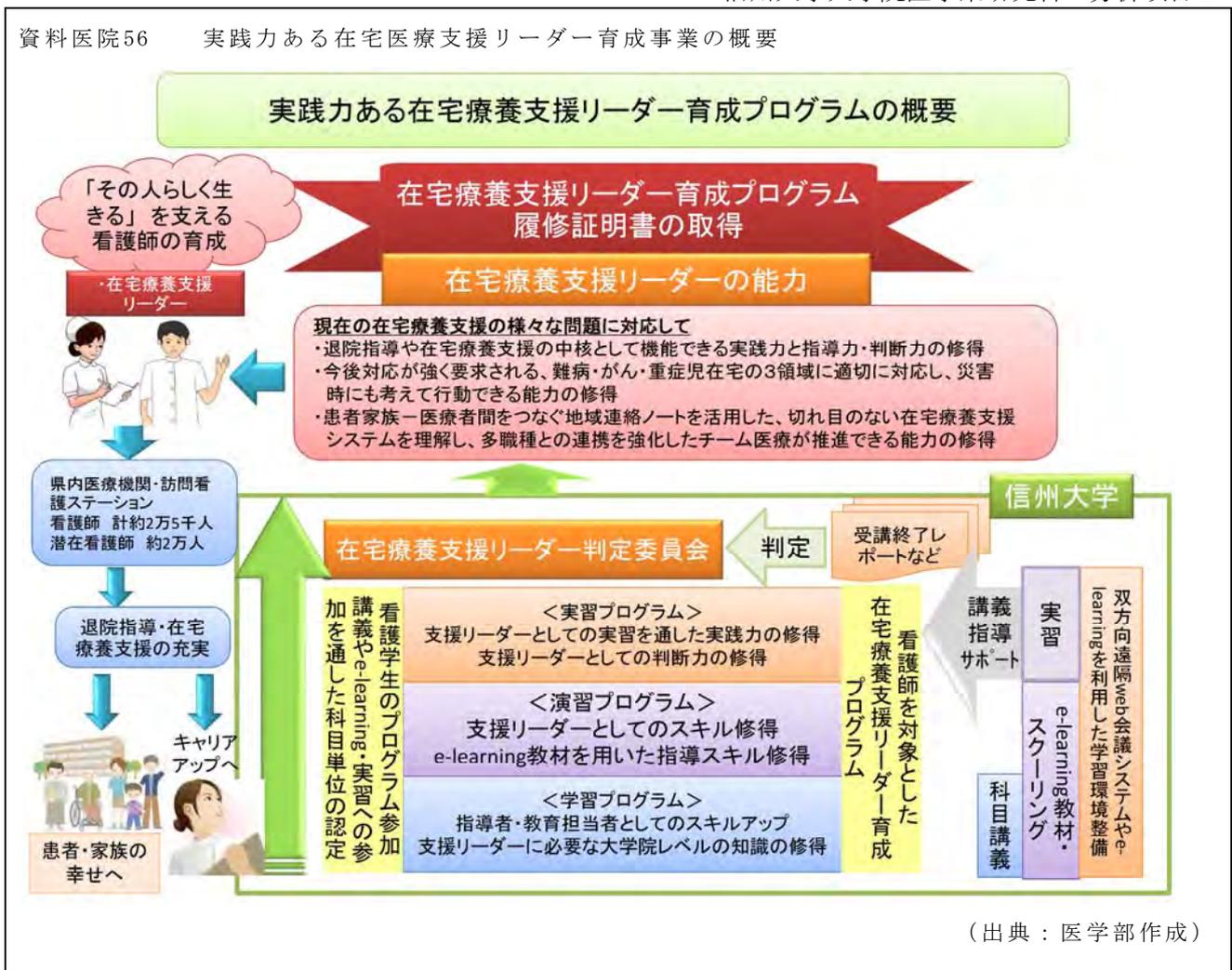
発表順	発表時間 (発表 10 分 質疑 5 分)	発表者	論文題目	ページ
1	9:30~9:45	12M2009K 山鹿 隆義	聴覚刺激によるブレイン-コンピュータ-インタフェース (Brain-Computer Interface) 開発に向けた刺激条件の検討	1
2	9:45~10:00	13M2004B 池田 み奈美	リコンビナントフィブリノゲン γ Thr305Ala, γ Asn308Lys, γ Phe322Ser におけるフィブリン重合能異常の比較検討	2
3	10:00~10:15	13M2006J 岩下 千奈美	低酸素環境下での IL-1 β による肺の線維化誘導	3
4	10:15~10:30	13M2007G 太田 悠介	臨床検体より分離された Bacterial Small-Colony Variants を対象とした表現型解析とその発生機構の解明	4
5	10:30~10:45	13M2008E 木戸口 周平	MALDI-TOF MS を用いた気管支肺胞洗浄液中リン脂質の分析	5
休 憩 (10:45~11:00)				
6	11:00~11:15	13M2013A 黒部 恭史	立ち上がりの動作速度が筋のサポートモーメントの角力積に及ぼす影響	6
7	11:15~11:30	13M2014K 桑原 麻里	変形性膝関節症患者を対象とした杖の使用状況の違いにおける主観的・客観的な歩行状態の比較	7
お昼休憩 (11:30~13:00)				
8	13:00~13:15	13M2005A 伊藤 彰洋	Basic and hydrophobic residues in the N-terminal of phactr3 are responsible for its localization to the plasma membrane and nucleus : The molecular basis for understanding the involvement of phactr family in human diseases. (Phactr3 の N 末の塩基性および疎水性アミノ酸残基は細胞膜および核分布に関与する phactr ファミリーの病因病態解析のための分子基盤)	8
9	13:15~13:30	13M2011E 山口 大	細胞増殖マーカーを用いた免疫二重染色法による子宮内膜の細胞増殖動態の解析	9
10	13:30~13:45	11M2001A 清沢 京子	認知症グループホームに勤務する看護師がやりがいを見出しているプロセスの研究	10
11	13:45~14:00	12M2001D 林本 久美子	老々介護家族のレジリエンスと特性的自己効力感およびソーシャルサポート感の関連性の検討-通所系サービスを利用する老々介護家族に着目して-	11
12	14:00~14:15	13M2010G 西島 史恵	新生児・乳幼児における質量分析法による血清中脂肪酸の分析	12
休 憩 (14:15~14:30)				
13	14:30~14:45	13M2009C 小林 邦俊	Ameliorating Effects of Dimethyl Fumarate on Theiler's Murine Encephalomyelitis Virus (TMEV)-Induced Demyelinating Disease. (フマル酸ジメチルはタイラーウイルス誘導による免疫性脱髄疾患を抑制する)	13
14	14:45~15:00	12M2005B 滝沢 章	Role of the Programmed Death-1 (PD-1) pathway in regulation of Theiler's murine encephalomyelitis virus-induced demyelinating disease (タイラーマウス脳脊髄炎ウイルス誘導による免疫性脱髄疾患における PD-1 pathway を介した炎症制御機構)	14

(出典 : 医学部作成)

② 地域保健推進センター

平成26年度に、保健分野に関する地域保健活動の強化・改革を目的として「地域保健推進センター」を設置した。同センターが中核となって平成26年度に採択された『文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業・「実践力ある在宅医療支援リーダー育成事業 (H26~30)」』を推進している(資料医院56)。保健学専攻博士前期課程看護学分野では、この事業にカリキュラムの一部を連動させ、在宅医療の質的向上を目的とした教育・研究を展開している。

資料医院56 実践力ある在宅医療支援リーダー育成事業の概要



③ 公開健康講座

地域保健推進センターが、長寿県長野の地域住民の健康寿命延伸を目的として開講している「公開健康講座」や、東御市との地域保健に関する合同ミーティングなどに、院生を参加させることにより、院生自身が地域に存在する健康問題を把握し、それらを題材とした研究活動を展開できるよう配慮している（資料医院57）。

信州大学医学部 地域保健推進センター **AED**
 健康講座シリーズ 第2弾
「災害と健康」

平成26年は豪雨による土砂災害、噴火、地震など様々な自然災害が長野県を襲いました。日ごろから、健康の側面からも災害に対して準備をしておくことが望めます。災害が発生したときにあわてず対応できるように、この講座を企画しました。皆さんの参加をお待ちしています。

場所 : 信州大学医学部保健学科
 地域保健推進センター3階 多目的講義室
 日時 : 5月9日~7月11日 10:00 - 11:30
 参加者 : どなたでも、事前申し込み無し、参加費無料
 (第1回と第3回は体を動かすプログラムが含まれる場合がありますので、動きやすい服装でお出かけください。)

※車でお越しの方は、正門から入構してください。無料駐車券をお渡しします。
 ※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/access/>

プログラム

- 第1回【命を救う】** 5月9日(土) 10:00-11:30
 1.心臓が止まったら(AEDを使ってみよう)
 2.外傷の応急手当てを覚えよう
 深澤佳代子(保健学科看護学)
- 第2回【緊急災害援助隊(DMAT)の活動】** 5月30日(土) 10:00-11:30
 秋田真代(高度救命救急センター医師)
 松澤剛毅(高度救命救急センター 看護師)
- 第3回【災害後の体を守る(避難生活で起こること)】** 6月20日(土) 10:00-11:30
 1.集団生活で発生しやすい感染症から体を守る
 2.エコノミー症候群を予防しよう
 奥野ひろみ(保健学科看護学)
 大平雅美(保健学科理学療法学)
- 第4回【災害後の心を守る】** 7月11日(土) 10:00-11:30
 1.PTSDや心の変化を知ろう
 2.こどもの心に寄り添う
 下里誠二(保健学科看護学)
 平林優子(保健学科看護学)



お問い合わせ: 保健学科学務第2係
 TEL: 0263-37-2356 E-mail: cchphoken@shinshu-u.ac.jp

Photo: http://www.jrc.or.jp/vcms_1f/care2.pdf, <http://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/information/2011/03/post-71.php>

(出典: 医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者：

AP、DP、学位論文の評価基準が明文化されたために、学位取得までの道筋の理解が得やすくなった。特に、CITIの履修の義務化によって、医学研究倫理の重要性の理解が徹底された（資料医院40～44、49）。

修士課程と保健学専攻博士前期・後期課程では学位論文の公開発表会が実施され、院生の主体的な学習の促進が図られた（資料医院55）。英語での授業やスライドの英語化、チューターの増員により院生のグローバル化が図られている。保健学専攻ではWeb会議システムを活用し、遠隔地にいる院生の利便性増加が図られた（資料医院48）。

② 医療機関：

CITIの義務化により、高い倫理観を持った医療人の育成への期待に対応している。医療機関で働きながら大学院での教育を受ける院生のために授業時間の工夫や、遠隔授業が実施され、リサーチマインドを持った医療人育成の要請への対応が図られている（資料医院37、48～49）。

③ 研究機関：

CITIの義務化により、高い倫理観を持つ、将来指導的立場になる研究者の養成が図られている（資料医院49）。

④ 地域社会、国際社会：

地域保健推進センターの設置により、地域社会が求める人材の養成への対応がなされた（資料医院57）。留学生の数を増やし、院生の国際交流の機会の増加が図られた（資料医院53、54）。英語のみで行う授業を実施し、授業のスライドの英語での記述を義務化した（資料医院52）。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学の状況

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである(資料医院58、59)。

資料医院58 標準修業年限内修了率及び「標準修了年限内×1.5」年内修了率

【修士課程(医科学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	48%	100%	87%	78%	93%	100%	100%
標準修業年限内×1.5	48%	100%	87%	78%	93%	100%	100%

【博士前期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	87%	53%	64%	63%	67%	67%	73%
標準修業年限内×1.5	96%	53%	79%	76%	83%	75%	80%

【博士課程(医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	49%	81%	68%	26%	77%	74%	34%
標準修業年限内×1.5	55%	91%	74%	28%	81%	77%	34%

【博士後期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内			33%	33%	29%	20%	25%
標準修業年限内×1.5			33%	40%	33%	20%	25%

(出典：医学部作成)

資料医院59 退学、休学率

【修士課程(医科学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	0%	3%	0%	9%	4%	5%	0%
休学率	0%	3%	3%	9%	8%	11%	0%

【博士前期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	3%	0%	3%	3%	0%	0%	0%
休学率	3%	3%	3%	9%	7%	6%	6%

【博士課程(医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	6%	5%	5%	4%	6%	8%	12%
休学率	7%	8%	10%	10%	12%	11%	9%

【博士後期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
休学率	0%	0%	0%	4%	4%	25%	20%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。
 ※休学率は、該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：医学部作成)

2 学位取得状況

学位取得状況は以下のとおりである（資料医院60）。

資料医院60 学位取得状況

修士

授与年度	学位授与数						
	修士(医科学)			修士(看護学・保健学)			
	医科学	うち 社会人学生	うち 留学生	看護学	保健学	うち 社会人学生	うち 留学生
平成22年度	16	9		4	8	6	
平成23年度	13	6		2	13	10	
平成24年度	14	5	1	2	15	13	
平成25年度	13	3	2	1	10	10	
平成26年度	8	4		2	11	6	
平成27年度	10	8		1	13	6	
		35	3			51	

博士

授与年度	学位授与数					
	博士(医学)			博士(保健学)		
		うち 社会人学生	うち 留学生		うち 社会人学生	うち 留学生
平成22年度	32	26	2	—	—	—
平成23年度	52	43	7	3	3	—
平成24年度	26	17	5	3	3	—
平成25年度	42	36	4	3	3	—
平成26年度	34	26	5	1	1	—
平成27年度	32	29	3	4	4	—
		177	26		14	

(出典：医学部作成)

3 博士課程における論文の評価

① 学位取得論文掲載雑誌のIF

博士課程では、学位取得論文におけるIF 3.0以上の雑誌への掲載比率が増加してきている（資料医院61）。

資料医院61 学位取得論文における優秀論文（掲載する雑誌のIF 3.0以上）の比率

	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	医科 学	疾患 予防	合計															
IF>3.0	4	0	4	12	1	13	8	5	13	10	6	16	6	5	11	12	1	13
Total	23	9	32	34	18	52	16	10	26	30	12	42	20	14	34	27	5	32
%	17%	0%	13%	35%	6%	25%	50%	50%	50%	33%	50%	38%	30%	36%	32%	44%	20%	40%

(出典：医学部作成)

② 院生が在学中に行った研究を発表した論文

掲載雑誌のIF 3.0以上が36本、5.0以上が20本、10.0以上が8本である（医学研究では長期的な研究期間が必要なことから、院生が在学中に実施した研究で修了後すぐに筆頭著者として発表した論文も含まれている）。

学会での受賞件数が41件である（資料医院62、63）。

資料医院62 学会等における受賞状況

年度	受賞学会
平成22年度	日本基礎老化学会 第33回大会若手奨励賞受賞
	第109回日本皮膚科学会総会ポスター賞受賞
	第17回肝血流動態イメージ研究会 板井悠二賞 受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 Poster Award 受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 YIA 受賞
	日本基礎老化学会第33回大会若手奨励賞受賞 受賞
	The 8th Korea-Japan Joint Symposium on Vascular Biology Nature Medicine Vascular Award 受賞
	The 8th Korea-Japan Joint Symposium on Vascular Biology 優秀演題賞
	日本心脈管作動物質学会 YIA 受賞
平成23年度	Society for Glycobiology Travel Award 受賞
	日本排尿機能学会河邊賞 受賞
	日本内分泌学会 YIA 受賞
	内分泌代謝学サマーセミナー 演題優秀賞受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 YIA 受賞
	第49回癌治療学会優秀ポスター賞 受賞
平成24年度	第48回日本医学放射線学会秋季臨床大会 教育展示優秀賞 受賞
	Society for Glycobiology Travel Award 受賞
	日本動脈硬化学会 優秀ポスター賞 受賞
	日本高血圧学会 YIA 受賞
	日本心脈管作動物質学会 YIA 受賞
平成25年度	AHA Funded Resercher 受賞
	ESGAR 2013 Certificate of Merit 受賞
	第10回日本病理学会カンファレンス最優秀ポスター賞 受賞
	平成25年度日本関節病学会優秀論文賞 受賞
	2013年度アメリカ骨代謝学会President's Poster Competition Awards 受賞
	平成25年度信州大学医学部医学科顕彰学術奨励賞 受賞
	International Symposium of Aldosterone and Related Substances in hypertension 2013 YIA 受賞
	臨床ストレス応答学会 YIA 受賞
日本心血管内分泌代謝学会 Y I A 受賞	
平成26年度	日本病理学会100周年記念病理学研究新人賞 受賞
	日本内分泌学会 YIA 受賞
	日本リンパ学会 学会奨励賞(西賞) 受賞
	日本炎症・再生医学会 優秀演題賞 受賞

年度	受賞学会
平成26年度	日本臨床微生物学会総会・学術集会 日本臨床微生物学会日本ペクトン・ディッキンソン賞 受賞
	パゾプレシン研究会 研究奨励賞 受賞
	日本脈管学会総会 JCAA基礎部門最優秀賞 受賞
	日本動脈硬化化学会 若手研究者奨励賞最優秀賞 受賞
平成27年度	日本区域麻酔学会 第1回学術集会 優秀演題賞 受賞
	日本心血管内分泌代謝学会学術総会 若手研究奨励賞(YIA) 最優秀賞 受賞
	国際コエンザイムQ10協会カンファレンス Young Participant Award 受賞
	DIALYSIS ACCESS SYMPOSIUM 2015 best abstract award 受賞
	日本神経麻酔集中治療学会 学術賞(臨床部門) 受賞

(出典：医学部作成)

資料医院63 Journal (IF=10以上) に掲載された論文

年度	著者	論文タイトル	雑誌名	IF	巻	ページ	発行年
平成22年度	Joshita S, Umemura T, Yoshizawa K, Katsuyama Y, Tanaka E, Nakamura M, Ishibashi H, Ota M; Shinshu PBC Study Group.	Association analysis of cytotoxic T-lymphocyte antigen 4 gene polymorphisms with primary biliary cirrhosis in Japanese	J Hepatol	10.4	53	537-541	2010
	Nagaya T, Tanaka N, Suzuki T, Sano K, Horiuchi A, Komatsu M, Nakajima T, Nishizawa T, Joshita S, Umemura T, Ichijo T, Matsumoto A, Yoshizawa K, Nakayama J, Tanaka E, Aoyama T.	Down-regulation of SREBP-1c is associated with the development of burned-out NASH	J Hepatol	10.4	53	724-731	2010
平成23年度	Hara K, Aoki K, Usui Y, Shimizu M, Narita N, Ogihara N, Nakamura K, Ishigaki N, Sano K, Haniu H, Kato H, Nishimura N, Kim Y A, Taruta S, Naoto Saito N.	Evaluation of CNT toxicity by comparison to tattoo ink	Mater Today	10.9	14	434-440	2011
	Kawaguchi M, Takahashi M, Hata T, Kashima Y, Usui F, Morimoto H, Izawa A, Takahashi Y, Masumoto J, Koyama J, Hongo M, Noda T, Nakayama J, Sagara J, Taniguchi S, Ikeda U.	Inflammasome activation of cardiac fibroblasts is essential for myocardial ischemia/reperfusion injury.	Circulation	15.0	123	594-604	2011
平成24年度	Shimizu M, Kobayashi Y, Mizoguchi T, Nakamura H, Kawahara I, Narita N, Usui Y, Aoki K, Hara K, Haniu H, Ogihara N, Ishigaki N, Nakamura K, Kato H, Kawakubo M, Dohi Y, Taruta S, Kim YA, Endo M, Ozawa H, Udagawa N, Takahashi N, Saito N.	Carbon nanotubes induce bone calcification by bidirectional interaction with osteoblasts.	Adv Mater.	15.4	24	2176-2185	2012
	Karasawa F, Shiota A, Goso Y, Kobayashi M, Sato Y, Masumoto J, Fujiwara M, Yokosawa S, Muraki T, Miyagawa S, Ueda M, Fukuda MN, Fukuda M, Ishihara K, Nakayama J.	Essential role of gastric gland mucin in preventing gastric cancer in mice.	J Clin Invest	13.8	122	923-934	2012
平成25年度	Koyama T, Ochoa-Callejero L, Sakurai T, Kamiyoshi A, Ichikawa-Shindo Y, Iinuma N, Arai T, Yoshizawa T, Iesato Y, Lei Y, Uetake R, Okimura A, Yamauchi A, Tanaka M, Igarashi K, Toriyama Y, Kawate H, Adams RH, Kawakami H, Mochizuki N, Martfnez A, Shindo T.	Vascular endothelial adrenomedullin-RAMP2 system is essential for vascular integrity and organ homeostasis	Circulation	15.3	127	842-53	2013

平成26年度	-	-	-	-	-	-	-
平成27年度	Shinsuke Kobayashi, Shuji Tsuruoka, Yuki Usui, Hisao Haniu, Kaoru Aoki, Seiji Takanashi, Masanori Okamoto, Hiroki Nomura, Manabu Tanaka, Shigetoshi Aiso, Misae Saito, Hiroyuki Kato and Naoto Saito	An advanced in situ imaging method using heavy metal-doped hollow tubes to evaluate the biokinetics of carbon nanotubes in vivo	NPG Asia Materials	10.1	7	e203	2015

(出典：医学部作成)

③ 早期修了の状況

優れた研究業績を上げたと認められ早期修了した者は、次のとおりである(資料医院64)。

資料医院64 早期修了者の状況

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2	0	1	3	0	1

(出典：医学部作成)

④ 満足度調査結果

修了生及び在学生への満足度調査によると、満足度の平均値は年々増加している。満足度の上昇した項目では「社会人院生への配慮」や「医学系研究科の目的の適合性」、「実施した研究の意義や内容研究」の項目が顕著であった(資料医院65)。

資料医院65 博士課程及び博士後期課程修了生の満足度調査の年次推移
(医学系)

大学院医学系研究科 博士課程修了者 満足度調査

設問	そう思う、どちらかというと思うの割合						
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
博士課程の教育・研究組織は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	64%	72%	64%	85%	86%	91%	77%
博士課程の教員配置は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	61%	68%	52%	73%	83%	80%	70%
博士課程での勉強や研究の指導は十分でしたか	64%	63%	58%	85%	83%	86%	73%
指導教員は、あなたの研究学習上の相談に真摯に対応してくれましたか	91%	81%	76%	95%	96%	94%	89%
博士課程の複数教員指導体制は、機能していたと思いますか	51%	57%	29%	61%	83%	58%	57%
所属以外の研究者との交流はありましたか	52%	72%	70%	63%	53%	72%	64%
外国の研究者との交流はありましたか	23%	31%	41%	39%	30%	48%	35%
博士課程の設備は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	76%	68%	70%	78%	80%	78%	75%
課程の講義カリキュラムは、医学研究者または高度医療職業人の養成に十分なものであったと思いますか	61%	40%	52%	58%	80%	69%	60%
博士課程のシラバスは、よく整備されていましたか	50%	45%	47%	51%	70%	69%	55%
博士課程では、e-learningシステムなど自学自習を促す取組が十分でしたか	14%	13%	35%	31%	50%	52%	33%
社会人大学院生の方に伺います。博士課程は、社会人大学院生の利便を考慮したものだったと思いますか	58%	46%	90%	81%	83%	84%	74%
博士課程の飛び級制度は、あなたの勉強や研究の意欲を高めましたか	35%	19%	37%	30%	27%	44%	32%
博士課程で、TAやRAの制度は有益であったと思いますか	40%	33%	47%	31%	24%	40%	36%
博士課程で、学位授与の基準が明確であったと思いますか	66%	66%	81%	73%	78%	75%	73%
博士課程で、学位論文審査会が公開されていることに意義を感じますか	64%	47%	70%	75%	82%	80%	70%
博士課程では、あなたの望む勉強や研究ができましたか	67%	71%	82%	82%	86%	86%	79%
博士課程での勉強や研究は、あなたの知識や教養を高めましたか	91%	85%	88%	95%	89%	94%	90%
博士課程での勉強や研究は、あなたの論理的思考能力を高めましたか	85%	71%	82%	90%	93%	88%	85%
博士課程での勉強や研究は、あなたの語学力を高めましたか	64%	47%	58%	73%	69%	72%	64%
博士課程での勉強や研究は、あなたの職業人としての能力を高めましたか	64%	66%	82%	85%	79%	88%	77%
博士課程で勉強・研究した内容は、あなたの今後にとって有益なものになると思われませんか	82%	77%	94%	95%	86%	97%	89%
あなたの博士課程での研究は、医学・医療の発展に寄与すると思いますか	64%	63%	64%	90%	80%	80%	74%
博士課程での勉強や研究を、今後も何らかの形で発展させていきたいと考えていますか	82%	68%	76%	87%	86%	94%	82%
後輩に、信州大学医学系研究科への入学を勧めますか	52%	50%	52%	59%	83%	72%	61%
	60.8%	56.8%	63.9%	70.6%	73.6%	75.6%	

(保健学)

大学院医学系研究科 博士後期課程修了生 満足度調査

設問	そう思う、どちらかというと思うの割合				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
教育課程は専攻の目的に適したものである	100%	100%	100%	100%	67%
教育・研究組織は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか？	100%	67%	100%	100%	100%
研究の指導は十分でしたか？	67%	100%	100%	100%	100%
指導教員は、あなたの研究学習上の相談に真摯に対応してくれましたか？	67%	100%	100%	100%	100%
所属以外の研究者との交流はありましたか？	100%	67%	33%	100%	100%
外国の研究者との交流はありましたか？	0%	0%	33%	0%	33%
本学の設備は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか？	67%	33%	100%	100%	67%
講義カリキュラムは、教育・研究者や高度専門保健医療職者の養成に十分なものであったと思いますか？	100%	67%	100%	0%	67%
シラバスは、よく整備されていましたか？	67%	67%	100%	100%	67%
社会人大学院生の利便を考慮したものだったと思いますか？	100%	100%	67%	100%	67%
学位授与の基準が明確であったと思いますか？	100%	100%	67%	100%	33%
学位論文審査会が公開されていることに意義を感じますか？	67%	33%	100%	0%	67%
あなたの望む学習や研究ができましたか？	67%	100%	100%	0%	67%
この課程での学習や研究は、あなたの知識を増やしましたか？	100%	100%	100%	100%	100%
この課程での学習や研究は、あなたの論理的思考能力を高めましたか？	100%	100%	100%	100%	67%
この課程での学習や研究で、あなたの語学力が高まりましたか？	67%	33%	100%	100%	67%
この課程での学習や研究は、あなたの保健医療職者としての能力を高めましたか？	100%	67%	100%	0%	67%
この課程で学習・研究した内容は、あなたの今後にとって有益なものになると思われますか？	100%	100%	100%	100%	100%
この課程でのあなたの研究は、保健・医療・福祉の発展に寄与すると思いますか？	100%	100%	100%	0%	67%
この課程での学習や研究を、今後も何らかの形で発展させていきたいと考えていますか？	100%	100%	100%	100%	67%
後輩に、信州大学大学院医学系研究科保健学専攻への入学を勧めますか？	67%	100%	100%	100%	67%

(出典：医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者:

どの専攻においても、退学者および休学者は平均10%以下である。修士課程と博士前期課程は、標準修業年限内×1.5年内の学位取得率が53%から100%である(資料医院58、59)。IF 3.0以上の学位取得論文の比率の増大や、IF 10以上の質の高い論文、多数の学会賞受賞者などの成果を上げることができている(資料医院61~63)。院生や修了者への満足度調査の結果、高い満足度が得られている。保健学専攻博士前期・後期課程でも、研究指導を含めた教育課程全体に対する高い満足度が得られている(資料医院65)。

② 医療機関:

職業を持ちながら大学院へ通う社会人院生への配慮に対し、高い満足度が寄せられている(資料医院65)。

③ 研究機関:

IF 3.0以上の雑誌に掲載された学位論文や多数の学会賞受賞者から、高い研究能力を有する研究者を育成できたことが認められる(資料医院61~63)。

④ 地域社会、国際社会:

多くの人材(社会人院生277人、留学生29人)を育成し、長野県周辺地域や国際社会へと送り出したことで、期待に応じたと認められる(資料医60)。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 修了後の進路の状況

過去7年間の進路状況は、資料医院66～68のとおりである。修士課程、博士課程、保健学専攻博士前期・後期課程共に国立大学平均と同等か、より高い就職率を維持している。

資料医院66 医科学専攻（修士課程）及び保健学専攻（博士前期課程）の進路状況

研究科	修了年度	区分	修了者 A	進学者		就職者		の専 学 校 等 入 学 者 外 国	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左記以外の者		不 詳 ・ 死 亡 の 者	
				人 (B)	率 (B/A)	人 (C)	率 (C/A-B)			人 (D)	率 (D/A)		
医学系研究科 (修士課程・博士前期課程)	H21	全体	6,047	919	15.20%	4,612	89.94%	17	45	370	6.12%	84	
		国立	2,883	661	22.93%	1,985	89.33%	8	17	184	6.38%	28	
		本学	計	31	13	41.94%	17	94.44%	0	0	1	3.23%	0
			男	14	9	64.29%	5	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	17	4	23.53%	12	92.31%	0	0	1	5.88%	0
	H22	全体	6,197	856	13.81%	4,868	91.14%	16	24	334	5.39%	99	
		国立	2,821	593	21.02%	2,018	90.57%	7	6	159	5.64%	38	
		本学	計	28	8	28.57%	18	90.00%	0	0	2	7.14%	0
			男	13	6	46.15%	6	85.71%	0	0	1	7.69%	0
			女	15	2	13.33%	12	92.31%	0	0	1	6.67%	0
	H23	全体	4,687	819	17.47%	3,377	87.31%	21	46	374	7.98%	50	
		国立	2,423	588	24.27%	1,607	87.57%	12	14	174	7.18%	28	
		本学	計	28	5	17.86%	21	91.30%	0	0	0	0.00%	0
			男	13	3	23.08%	10	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	15	2	13.33%	11	84.62%	0	0	2	13.33%	0
	H24	全体	4,746	790	16.65%	3,436	86.86%	24	52	396	8.34%	48	
		国立	2,404	568	23.63%	1,601	87.20%	8	17	189	7.86%	21	
		本学	計	31	11	35.48%	19	95.00%	0	0	1	3.23%	0
			男	14	5	35.71%	9	100.00%	0	0	1	7.14%	0
			女	17	6	35.29%	10	90.91%	0	0	—	0.00%	0
	H25	全体	4,625	777	16.80%	3,385	87.97%	27	42	355	7.68%	39	
		国立	2,469	576	23.33%	1,657	87.53%	14	14	185	7.49%	23	
		本学	計	24	5	20.83%	16	84.21%	0	0	3	12.50%	0
			男	15	4	26.67%	10	90.91%	0	0	1	6.67%	0
			女	9	1	11.11%	6	75.00%	0	0	2	22.22%	0
	H26	全体	4,738	732	15.45%	3,587	89.54%	16	58	314	6.63%	31	
		国立	2,489	544	21.86%	1,736	89.25%	13	21	152	6.11%	23	
本学		計	21	2	9.52%	16	84.21%	1	0	2	9.52%	0	
		男	8	2	25.00%	5	83.33%	1	0	0	0.00%	0	
		女	13	0	0.00%	11	84.62%	0	0	2	15.38%	0	
H27	全体												
	国立												
	本学計	24	1	4.17%	21	91.30%	0	0	2	8.33%	0		

	男	13	1	7.69%	12	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	11	0	0.00%	9	81.82%	0	0	2	18.18%	0

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

(出典：学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

研究科	修了年度	区分	修了者			進学者		就職者		の専修学校等入学者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者		不詳・死亡の者
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)	率(D/A)					
医学系研究科（博士課程）	H21	全体	3,377	40	1.18%	2,675	80.16%	39	68	404	11.96%	150		
		国立	2,286	12	0.52%	1,731	76.12%	26	62	338	14.79%	116		
		本学	計	40	0	0.00%	36	90.00%	1	0	3	7.50%	0	
			男	27	0	0.00%	25	92.59%	1	0	1	3.70%	0	
			女	13	0	0.00%	11	84.62%	0	0	2	15.38%	0	
	H22	全体	3,354	11	0.33%	2,837	84.86%	48	93	292	8.71%	73		
		国立	2,273	10	0.44%	1,893	83.65%	37	78	222	9.77%	33		
		本学	計	65	0	0.00%	62	95.38%	0	0	3	4.62%	0	
			男	43	0	0.00%	41	95.35%	0	0	2	4.65%	0	
			女	22	0	0.00%	21	95.45%	0	0	1	4.55%	0	
	H23	全体	3,480	16	0.46%	2,950	85.16%	52	86	276	7.93%	98		
		国立	2,327	11	0.47%	1,937	83.64%	48	78	216	9.28%	37		
		本学	計	41	0	0.00%	37	90.24%	1	2	1	2.44%	0	
			男	33	0	0.00%	33	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
			女	8	0	0.00%	4	50.00%	1	2	1	12.50%	0	
	H24	全体	3,452	44	1.27%	2,864	84.04%	28	88	318	9.21%	109		
		国立	2,252	37	1.64%	1,821	82.21%	19	68	256	11.37%	50		
		本学	計	40	0	0.00%	36	90.00%	0	0	0	0.00%	0	
			男	30	0	0.00%	29	96.67%	0	0	0	0.00%	0	
			女	10	0	0.00%	7	70.00%	0	0	0	0.00%	0	
	H25	全体	3,535	60	1.70%	2,915	83.88%	28	128	278	7.86%	125		
		国立	2,360	56	2.37%	1,886	81.86%	17	109	211	8.94%	80		
		本学	計	52	0	0.00%	45	86.54%	0	0	7	13.46%	0	
			男	40	0	0.00%	37	92.50%	0	0	3	7.50%	0	
			女	12	0	0.00%	8	66.67%	0	0	4	33.33%	0	
H26	全体	3,454	32	0.93%	2,902	84.80%	28	123	266	7.70%	103			
	国立	2,252	31	1.38%	1,835	82.62%	21	101	208	9.24%	56			
	本学	計	41	0	0.00%	38	92.68%	0	0	3	7.32%	0		
		男	29	0	0.00%	26	89.66%	0	0	3	10.34%	0		
		女	12	0	0.00%	12	100.00%	0	0	0	0.00%	0		
H27	全体													
	国立													
	本学	計	50	0	0.00%	42	84.00%	0	0	8	16.00%	0		
		男	32	0	0.00%	29	90.63%	0	0	3	9.38%	0		
女	18	0	0.00%	13	72.22%	0	0	5	27.78%	0				

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開
 (出典:学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

資料医院68 保健学専攻(博士後期課程)の進路状況

研究科	修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		専修学校・外国 の学校等入学者	一時的な仕事に 就いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者	
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
医学系研究科 (博士後期課程)	H23	全体	703	1	0.14%	569	81.05%	6	34	76	10.81%	17	
		国立	501	1	0.20%	391	78.20%	6	30	58	11.58%	15	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	H24	全体	745	6	0.81%	613	82.95%	5	19	83	11.14%	19	
		国立	535	3	0.56%	428	80.45%	5	16	69	12.90%	14	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	0	0	0.00%	0	0.00%	0	0	0	0.00%	0
	H25	全体	788	3	0.38%	654	83.31%	4	29	70	8.88%	28	
		国立	573	—	0.00%	468	81.68%	3	25	54	9.42%	23	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	H26	全体	763	8	1.05%	592	78.41%	9	28	98	12.84%	28	
		国立	542	4	0.74%	406	75.46%	9	26	79	14.58%	18	
		本学	計	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	0	0	0.00%	0	0.00%	0	0	0	0.00%	0
H27	全体	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	国立	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	本学	計	4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
		男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
		女	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0	

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開
 (出典:学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

2 就職状況の詳細

修士課程では、医療・福祉施設職員、企業の研究室などの会社員、法人・団体職員と大学院進学が主な就職先である（資料医院69）。

資料医院69 修士課程医科学系専攻の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		18	14	14	13	8	10	
大学院等進学者数		6 ※1	2	5 ※2	2		1	
修士課程	就職者数	建設業			1			
		製造業	3	1	4	2	1	
		卸売業、小売業						1
		学術研究、専門・技術サービス業		2				
		宿泊業、飲食サービス業	1					
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業			2	2	1	1
		医療、福祉	11	7	4	4	2	4
		公務					1	
その他			1	1	2	2	2	

※1 大学院等進学者4名は、就職者数にも含まれる。

※2 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。

（出典：信州大学概要）

博士課程では、80%程度が医療・福祉施設の職に就くが、教員や研究者に就く人材も存在する（資料医院70）。全体として37人が研究者、教員としての職を得た。

資料医院70 博士課程修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		65	41	40	52	41	50	
大学院等進学者数								
博士課程	就職者数	建設業						
		製造業	2	2	1		1	
		学術研究、専門・技術サービス業	2	1			1	
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業	5	3	6	4		2
		医療、福祉	53	31	32	39	36	39
		公務			1	2		
		その他			3		7	3

（出典：信州大学概要）

保健学専攻博士前期課程では、地域（長野県）で職業を持つ院生が多く、ほとんどが医療・福祉分野や教育・人材育成分野へ就職（元の職場への復帰を含む）するか、博士後期課程へ進学している（資料医院71）。

保健学専攻博士後期課程では、平成23年度から15人の修了者を輩出しており、13人が医療・福祉職（臨床検査技師、理学療法士、作業療法士）に就き、2人が大学の教員に採用されている（資料医院72）。

資料医院71 博士前期課程（保健学専攻）修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		10	14	17	11	13	14	
大学院等進学者数		2 ※1	3 ※2	6 ※3	3 ※4	3 ※5	3 ※6	
博士前期課程	就職者数	建設業						
		製造業			2	1	1	
		学術研究、専門・技術サービス業		2				
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業				1		
		教育、学習支援業	2	4	2		1	1
		医療、福祉	7	8	12	8	10	11
		公務						1
		その他				1		

※1 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。
 ※2 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。
 ※3 大学院等進学者5名は、就職者数にも含まれる。
 ※4 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。
 ※5 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。
 ※6 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。

(出典：信州大学概要)

資料医院72 博士後期課程（保健学専攻）修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数			3	3	3	2	4	
大学院等進学者数								
博士後期課程	就職者数	建設業						
		製造業						
		学術研究、専門・技術サービス業					1	
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業			1			1
		医療、福祉		3	2	3	1	3
		公務						
その他								

(出典：信州大学概要)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者：

修士課程及び博士前期課程では全国平均に匹敵する高い就職率が維持されている（資料医院66）。博士課程修了者の約8割は病院等医療関連の職に就いている。

② 医療機関：

保健学専攻博士前期・後期課程では、すでに長野県内の医療機関において保健医療専門職者として勤務している院生が多く、大学院で修得した「根拠に基づいた実践（Evidence-based Practice、EBP）」の能力を活かして、各医療機関における質の向上の期待に対応していると判断される（前掲資料医院3、資料医院71、72）。

③ 地域社会、国際社会：

地域社会に多くの修了者を輩出することができたこと、また、多くの留学生が課程を修了することができたことから地域社会、国際社会への貢献が認められる（前掲資料医院60）。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ① 医学系研究科では平成24年度に組織改革・再編が行われ、修士課程と博士課程では充足率が平成21年度75%、70.5%から平成26・27年度平均104%、112.5%へと上昇した（資料医院22、23）。
- ② 修士課程と博士課程での大学院定員の適正化を伴う再編成（平成24年度）や副指導教授体制の義務化（平成24年度）を行った（資料医院22、23、34）。
- ③ 全国に先駆けて本学を中心に編成されたCITIを平成25年度から必修化した（資料医院49）。
- ④ 修士課程、博士課程に新たな専門コースを平成24年度に設置し、院生の多様な期待に対応した（資料医院24）。
- ⑤ リサーチマインドを持った医師を養成するためのe-MED（平成26年度から7人受講）と、初期臨床研修と博士課程を同時に履修する制度（平成26年度から3人入学）が整備された（資料医院25、26）。
- ⑥ 学生相談室の設置（平成24年度）や緊急連絡体制の整備（平成27年度）、継続的なFDの実施によって、院生のメンタル面に対するサポートの円滑な展開が認められた（資料医院31～33）。
- ⑦ AP、DP、学位取得までの道筋、学位論文の評価基準を平成23年度に定めて、学位論文審査の公開や発表会を実施したことは評価できる（資料医院40、42～44、55）。
- ⑧ 保健学専攻では平成26年度からWeb会議システムを導入・活用し、遠隔地にいる院生の利便性が図られた（資料医院48）。
- ⑨ 英語での授業や講義スライドの英語化（平成25年度）はグローバル化への対応と評価できる（資料医院52）。
- ⑩ 地域保健推進センターが平成26年度に開設され、院生自身が長寿県長野の地域に存在する健康問題を把握し、それらを題材とした教育、研究活動を展開できる体制の充実が認められた（資料医院57）。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ① 保健学専攻博士後期課程を修了した院生を平成23年度に初めて送り出すことができた（資料医院60）。
- ② 第1期から継続する低い休学、退学率と、全国平均に匹敵する高い就職率を維持することができた（資料医院66～68）。